

# 元総社蒼海遺跡群(28)

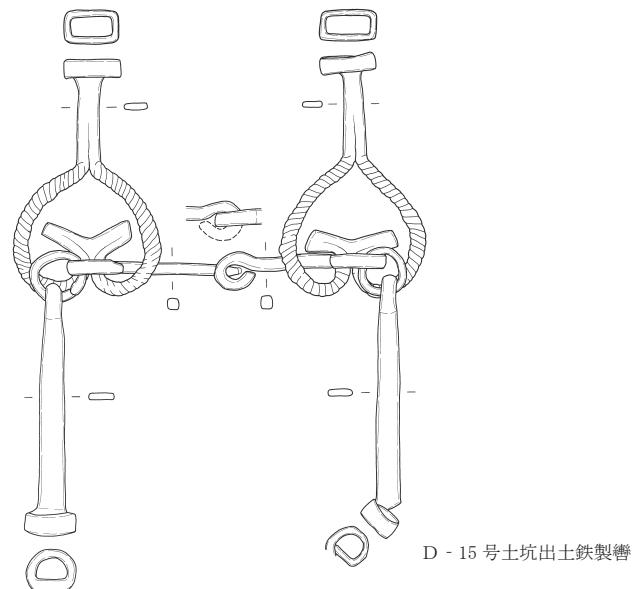
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

# 元総社蒼海遺跡群(28)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

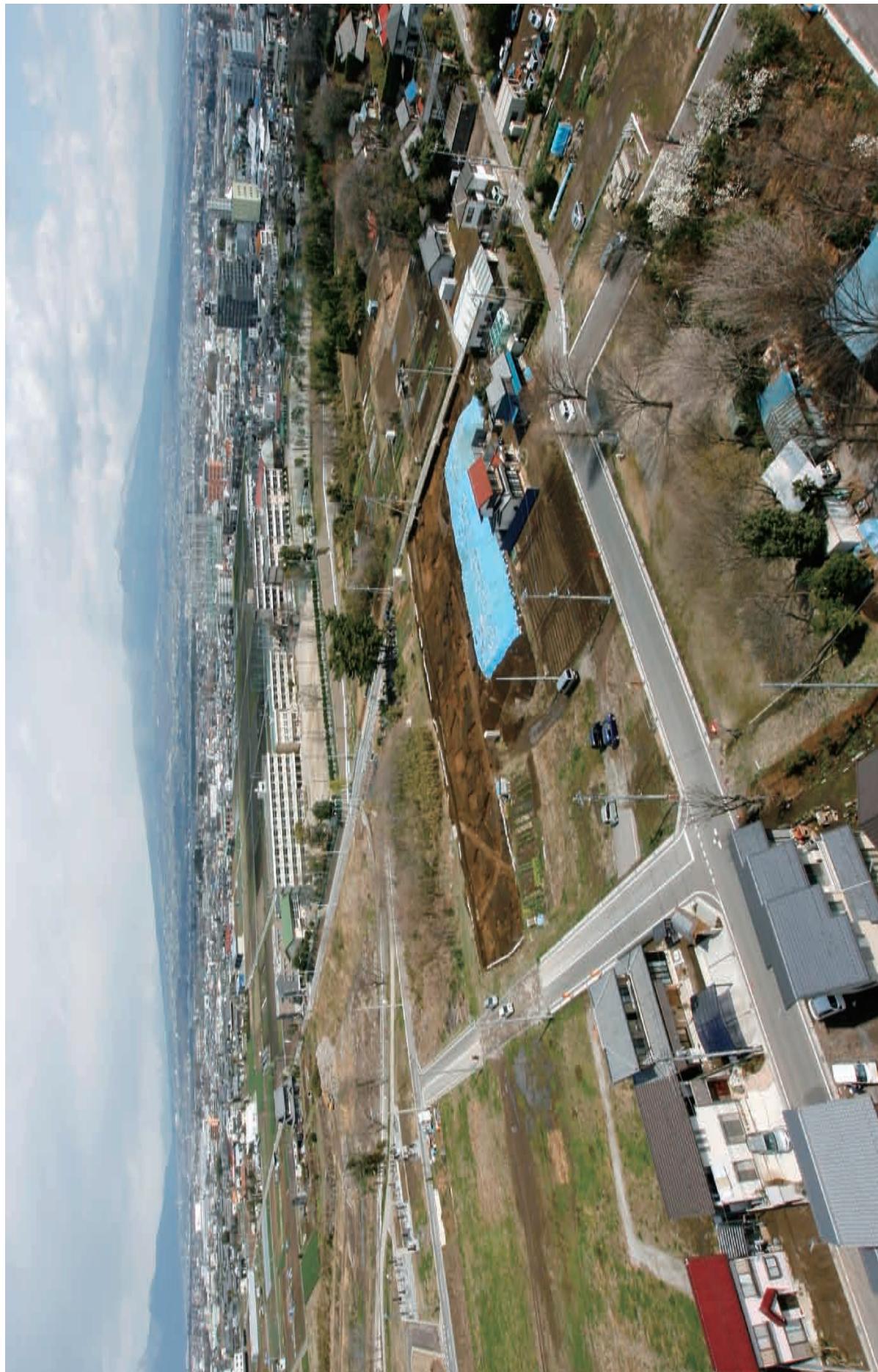


D - 15 号土坑出土鉄製鈸

2 0 1 0 . 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

口絵写真 1



元総社蒼海遺跡群（28）全景（南西から）

口絵写真 2



元総社蒼海遺跡群（28）全景（上が北）



D-15号土坑出土馬具

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる鷹橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（28）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳・平安時代の多くの竪穴住居跡や中世蒼海城の堀跡を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成22年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長 戸塚 良明

## 例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（28）発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所	群馬県前橋市元総社町 1817- 1番、1814- 3番、1814- 4番
遺　　跡　　コ　　一　　ド	21 A 130-28
発　　掘　　調　　査　　期　　間	平成 21 年 11 月 24 日～平成 22 年 1 月 29 日
整理・報告書作成期間	平成 22 年 2 月 1 日～平成 22 年 3 月 12 日
発　　掘　　・　　整　　理　　担　　当　　者	日沖剛史・有山径世・（有限会社毛野考古学研究所）

4. 本遺跡に関わる遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
5. 本書の編集は日沖（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆は I を神宮 聰（前橋市教育委員会）、他を日沖が担当した。なお、出土遺物の実測・観察表作成・写真撮影は土井道昭（石器・石製品）・山本千春（古墳時代）・柴田洋孝（平安時代、その他）（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】秋間直人・井口ヒロ子・一場友香里・内山久男・奥野末廣・笠原基徳・狩野友好・川嶋祥子  
川島隆好・小関泰洋・斎藤清一・鈴木若葉・住谷孝子・竹生正明・勅使川原幸枝・友永 茂・永井述史  
西山勝久・萩原秀子・橋元裕児・村磯光子・森山恵子・森山孝男

【整理作業】有田真紋・石原理久子・一場友香里・内田恵美子・大塚規子・尾堤小春・樺沢美枝・合田幸子  
武士久美子・竹中美保子・永井祐二・永島美和子・伴場りく・深谷道子・真下弘美・山口昌子・渡辺博子

7. 発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
8. 以下の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）  
安生素明・井浦 崇・大木紳一郎・小川卓也・熊谷 満・坂口 一・佐野良平・鈴木徳雄・早田 勉  
都木真澄・田口一郎・中島直樹・中村岳彦・三浦京子・水谷貴之・三宅敦氣・向出博之・茂木孝行  
山口逸弘・山崎一男・吉田有里・元総社町自治会・山下工業株式会社・J・T 空撮

## 凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載し、挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1 ~ 1 / 6 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
3. 遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。

	灰釉		緑釉		赤彩		黒色処理		溶解物
--	----	--	----	--	----	--	------	--	-----

4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。  
H : 住居跡 W : 溝跡 D : 土坑 P : ピット T : 壇穴状遺構
5. 遺構及び土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

# 目 次

口絵写真

はじめに

例言・凡例

目次・図版目次・表目次・写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	3
III	調査方針と経過	8
1	調査方針	8
2	調査経過	8
IV	標準堆積土層	9
V	遺構と遺物	9
1	遺跡の概要	9
2	住居跡	10
3	溝	29
4	土坑	34
5	ピット	35
6	竪穴状遺構	35
7	遺構外出土遺物	36
VI	まとめ	128

写真図版

抄録

奥付

## 図版目次

Fig. 1 調査区域図	1	Fig. 42 遺構実測図 (36)	72
Fig. 2 元総社蒼海遺跡群位置図	2	Fig. 43 遺構実測図 (37)	73
Fig. 3 遺跡分布図	4	Fig. 44 遺構実測図 (38)	74
Fig. 4 蒼海城縄張り図	6	Fig. 45 遺構実測図 (39)	75
Fig. 5 標準堆積土層	9	Fig. 46 遺構実測図 (40)	76
Fig. 6 全体図	11	Fig. 47 遺構実測図 (41)	77
Fig. 7 遺構実測図 (1)	37	Fig. 48 遺構実測図 (42)	78
Fig. 8 遺構実測図 (2)	38	Fig. 49 遺構実測図 (43)	79
Fig. 9 遺構実測図 (3)	39	Fig. 50 遺物実測図 (1)	80
Fig. 10 遺構実測図 (4)	40	Fig. 51 遺物実測図 (2)	81
Fig. 11 遺構実測図 (5)	41	Fig. 52 遺物実測図 (3)	82
Fig. 12 遺構実測図 (6)	42	Fig. 53 遺物実測図 (4)	83
Fig. 13 遺構実測図 (7)	43	Fig. 54 遺物実測図 (5)	84
Fig. 14 遺構実測図 (8)	44	Fig. 55 遺物実測図 (6)	85
Fig. 15 遺構実測図 (9)	45	Fig. 56 遺物実測図 (7)	86
Fig. 16 遺構実測図 (10)	46	Fig. 57 遺物実測図 (8)	87
Fig. 17 遺構実測図 (11)	47	Fig. 58 遺物実測図 (9)	88
Fig. 18 遺構実測図 (12)	48	Fig. 59 遺物実測図 (10)	89
Fig. 19 遺構実測図 (13)	49	Fig. 60 遺物実測図 (11)	90
Fig. 20 遺構実測図 (14)	50	Fig. 61 遺物実測図 (12)	91
Fig. 21 遺構実測図 (15)	51	Fig. 62 遺物実測図 (13)	92
Fig. 22 遺構実測図 (16)	52	Fig. 63 遺物実測図 (14)	93
Fig. 23 遺構実測図 (17)	53	Fig. 64 遺物実測図 (15)	94
Fig. 24 遺構実測図 (18)	54	Fig. 65 遺物実測図 (16)	95
Fig. 25 遺構実測図 (19)	55	Fig. 66 遺物実測図 (17)	96
Fig. 26 遺構実測図 (20)	56	Fig. 67 遺物実測図 (18)	97
Fig. 27 遺構実測図 (21)	57	Fig. 68 遺物実測図 (19)	98
Fig. 28 遺構実測図 (22)	58	Fig. 69 遺物実測図 (20)	99
Fig. 29 遺構実測図 (23)	59	Fig. 70 遺物実測図 (21)	100
Fig. 30 遺構実測図 (24)	60	Fig. 71 遺物実測図 (22)	101
Fig. 31 遺構実測図 (25)	61	Fig. 72 遺物実測図 (23)	102
Fig. 32 遺構実測図 (26)	62	Fig. 73 遺物実測図 (24)	103
Fig. 33 遺構実測図 (27)	63	Fig. 74 遺物実測図 (25)	104
Fig. 34 遺構実測図 (28)	64	Fig. 75 遺物実測図 (26)	105
Fig. 35 遺構実測図 (29)	65	Fig. 76 遺物実測図 (27)	106
Fig. 36 遺構実測図 (30)	66	Fig. 77 遺物実測図 (28)	107
Fig. 37 遺構実測図 (31)	67	Fig. 78 遺物実測図 (29)	108
Fig. 38 遺構実測図 (32)	68	Fig. 79 遺物実測図 (30)	109
Fig. 39 遺構実測図 (33)	69	Fig. 80 遺物実測図 (31)	110
Fig. 40 遺構実測図 (34)	70	Fig. 81 遺物実測図 (32)	111
Fig. 41 遺構実測図 (35)	71	Fig. 82 時期別の住居跡分布	129
		Fig. 83 弥生時代後期・古墳時代前期に見られる 住居埋没パターン	130

## 表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	5	Tab. 11	出土遺物観察表（9）	119
Tab. 2	土坑一覧表	34	Tab. 12	出土遺物観察表（10）	120
Tab. 3	出土遺物観察表（1）	111	Tab. 13	出土遺物観察表（11）	121
Tab. 4	出土遺物観察表（2）	112	Tab. 14	出土遺物観察表（12）	122
Tab. 5	出土遺物観察表（3）	113	Tab. 15	出土遺物観察表（13）	123
Tab. 6	出土遺物観察表（4）	114	Tab. 16	出土遺物観察表（14）	124
Tab. 7	出土遺物観察表（5）	115	Tab. 17	出土遺物観察表（15）	125
Tab. 8	出土遺物観察表（6）	116	Tab. 18	出土遺物観察表（16）	126
Tab. 9	出土遺物観察表（7）	117	Tab. 19	出土遺物観察表（17）	127
Tab. 10	出土遺物観察表（8）	118	Tab. 20	出土遺物観察表（18）	128

## 写真図版目次

<b>P L . 1</b>		焼失状態	H - 56 号住居跡全景
遺跡遠景		H - 42 号住居跡全景	H - 56 号住居跡カマド全景
遺跡全景		H - 42 号住居跡カマド全景	
<b>P L . 2</b>		H - 42 号住居跡カマド遺物	<b>P L . 8</b>
H - 31 号住居跡全景		出土状態	H - 59 号住居跡全景
H - 32 号住居跡全景		<b>P L . 5</b>	H - 59 号住居跡カマド全景
H - 32 号住居跡炉跡全景		H - 43 号住居跡全景	H - 60 号住居跡全景
H - 32 号住居跡出入口施設		H - 43 号住居跡カマド全景	H - 60 号住居跡カマド全景
検出状態		H - 44 号住居跡全景	H - 61 号住居跡全景
H - 34 号住居跡全景		H - 44 号住居跡カマド全景	H - 62 号住居跡土層断面
H - 35 号住居跡全景		H - 45 号住居跡全景	H - 63 号住居跡全景
H - 35 号住居跡カマド全景		H - 45 号住居跡カマド全景	H - 63 号住居跡カマド全景
H - 36 号住居跡全景		H - 46 号住居跡全景	<b>P L . 9</b>
<b>P L . 3</b>		H - 46 号住居跡カマド全景	H - 64 号住居跡全景
H - 37 号住居跡全景		<b>P L . 6</b>	H - 64 号住居跡カマド全景
H - 37 号住居跡カマド全景		H - 47 号住居跡全景	H - 65 号住居跡全景
H - 37 号住居跡カマド遺物		H - 47 号住居跡カマド全景	H - 65 号住居跡カマド全景
出土状態		H - 48 号住居跡全景	H - 69 号住居跡全景
H - 38 号住居跡全景		H - 49 号住居跡全景	H - 69 号住居跡炉跡全景
H - 38 号住居跡カマド全景		H - 50 号住居跡カマド全景	H - 69 号住居跡遺物出土状態
H - 38 号住居跡カマド遺物		H - 50 号住居跡土層断面	H - 69 号住居跡 H r - F A
出土状態		H - 51 号住居跡全景	ユニット確認状態近景
H - 39 号住居跡全景		H - 52 号住居跡全景	<b>P L . 10</b>
H - 39 号住居跡カマド全景		H - 52 号住居跡カマド全景	H - 70 号住居跡土層断面
<b>P L . 4</b>		H - 53 · 67 号住居跡全景	H - 73 号住居跡全景
H - 40 号住居跡全景		H - 53 号住居跡カマド全景	H - 73 号住居跡カマド全景
H - 40 号住居跡カマド全景		H - 54 号住居跡全景	H - 79 号住居跡全景
H - 41 号住居跡全景		H - 55 号住居跡全景	H - 80 号住居跡全景
H - 41 号住居跡カマド全景		H - 55 号住居跡カマド全景	H - 81 号住居跡全景
H - 41 号住居跡土葺き屋根			H - 81 号住居跡カマド全景
			H - 82 号住居跡全景

P L . 11	P L . 14	P L . 24
H -83 号住居跡全景	出土遺物①	出土遺物⑪
H -83 号住居跡カマド全景	P L . 15	P L . 25
H -84 号住居跡全景	出土遺物②	出土遺物⑫
H -85 号住居跡全景	P L . 16	P L . 26
H -87 号住居跡全景	出土遺物③	出土遺物⑬
W - 2 号溝検出状態	P L . 17	P L . 27
W - 2 号溝全景	出土遺物④	出土遺物⑭
W - 2 号溝土層断面	P L . 18	P L . 28
P L . 12	出土遺物⑤	出土遺物⑮
W -17 号溝遺物出土状態	P L . 19	P L . 29
W -17 号溝検出状態	出土遺物⑥	出土遺物⑯
W -17 号溝土層断面	P L . 20	P L . 30
D -15 号土坑遺物出土状態	出土遺物⑦	出土遺物⑰
D -15 号土坑遺物出土状態近景	P L . 21	P L . 31
D -25 号土坑土層断面	出土遺物⑧	出土遺物⑱
D -25 号土坑遺物出土状態	P L . 22	P L . 32
P L . 13	出土遺物⑨	出土遺物⑲
D -28 号土坑全景	P L . 23	P L . 33
T - 3 号竪穴状遺構全景	出土遺物⑩	出土遺物⑳
T - 4 号竪穴状遺構全景		
T - 5 号竪穴状遺構全景		
遺跡全景		

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、10年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成21年8月5日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明（以下「調査団」という。）に発掘調査実施について協議を行った。しかし、調査団では既に直営による発掘調査を実施しており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成21年11月18日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、11月20日付けで調査団と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所 取締役 長井正欣との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(28)」(遺跡コード:21A130-28)の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(28)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図 52- 1・52- 3』1/2,500 を 50%縮小）

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境 (Fig. 2)

元総社蒼海遺跡群が立地する前橋市は、群馬県の中央からやや南東寄りに位置し、北の渋川市、東の桐生市・伊勢崎市、西の高崎市・吉岡町・榛東村、南の玉村町と境を接し、周囲を見わたすと北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。市域の西側には、榛名山麓を源とする幾つもの小河川を集める利根川が南流しており、同河川を中心として数々の文化が栄えている。利根川の現流路は15世紀後半頃に定まったものとされており、それ以前は、前橋市大手町の北側で現流路から逸れて、南東流していたことが確認されている。なお、旧利根川の流路は、現在の広瀬川に一致するものとされている。

元総社蒼海遺跡群は、前橋市の西端に位置し、遺跡の西2.4kmには群馬県庁、南南東1.9kmには関越自動車道前橋インターが立地している。また、地形的な要因を加味すると本遺跡周辺は、榛名山麓より広がる相馬ヶ原扇状地の末端部にあたる。なお、相馬ヶ原扇状地は、榛名山の陣場岩屑なだれに起因するものとされており、その範囲は榛名山南東麓の大部分にわたる。陣場岩屑なだれは、A s - Y P (浅間板鼻黄色軽石: 13,000 ~ 14,000年前降下: y b p) と A s - S r (浅間白糸軽石: 18,000年前降下) の間に起きていることが発掘調査等で解明されていることから、相馬ヶ原扇状地の形成も両軽石降下間と言えよう。扇状地の形成は河川の流路にも影響を及ぼし、扇状地形が開ける方向へ河川も流下する状況が窺える。本遺跡周辺にも榛名山麓より南東流する染谷川・牛池川・八幡川等の河川が見られ、遺跡の占地に影響を与えていた。元総社蒼海遺跡群は、染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地しており、同じ台地上には代表的な遺跡として上野国府・国分僧寺・国分尼寺・蒼海城等の痕跡が捉えられている。

現在、元総社蒼海遺跡の周辺は上野国府や蒼海城の地割りが残っており、特に蒼海城に関しては、土塁や埋没した堀の痕跡を部分的に見ることができる。

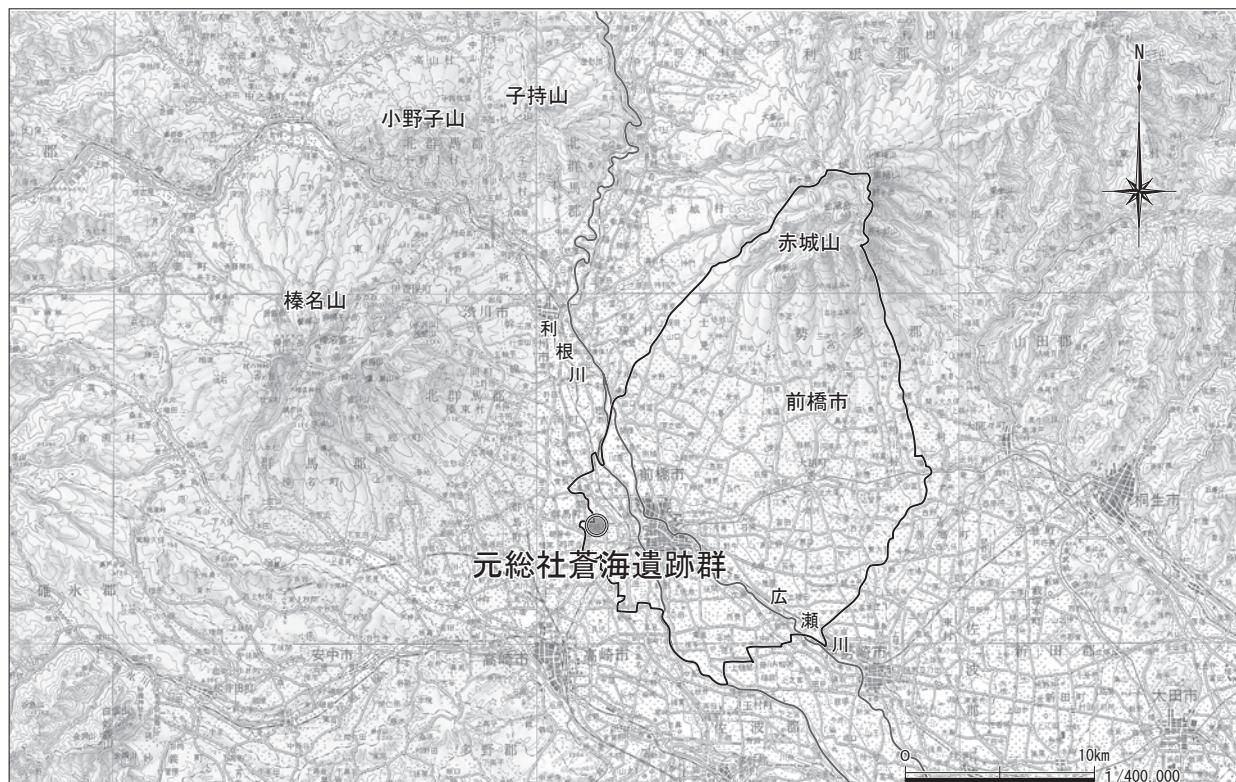


Fig. 2 元総社蒼海遺跡群位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小）

## 2 歴史的環境 (Fig. 3・4・5、Tab. 1)

本遺跡が立地する元総社周辺は、古くから上野国府・国分僧寺・国分尼寺・山王廃寺等が建立され、群馬県内において中枢をなす地域として広く知られている。また、中世になると上野国府の地割りを利用して造られたとされる蒼海城の存在も周知であろう。このような状況から、本遺跡周辺は奈良・平安時代及び中世の遺跡等が目立つ地域となっているが、周辺遺跡を見わたすと、人々が残した痕跡が縄文時代より連綿と続いている状況を窺うことができる。ここでは、各時代ごとの遺跡の分布状況について概観してみたいと思う。

縄文時代の遺跡は、牛池川と染谷川に挟まれた微高地上に集中する傾向にあり、前期後半及び中期後半の集落が近年の開発と共に確認されつつある。同台地上では元総社小見遺跡【35】で諸磯 b 式期・加曾利 E 3 式期の住居跡が検出されているのを始め、元総社蒼海遺跡群（13）【28】で諸磯 c 式期の住居跡が確認されており、床面から板状土偶の出土も認められている。このように元総社周辺の遺跡からは、前期後半・中期後半における集落・遺物の確認が多いように思われるが、近年調査が行われた元総社北川遺跡【25】で、A s - C 痕土層下の河道から晩期の注口土器が出土し、元総社蒼海遺跡群（9）【38】では該期の竪穴住居跡も検出されている。なお、元総社周辺において草創期～前期前半の集落等は確認されていない。これは、浅間総社軽石（A s - S j : 11,000 年前）降下以後に本地域の地形を改変させた度重なる洪水（総社砂層）によるものと推測されよう。

弥生時代の遺跡数は極めて少ない状況にあり、確認された遺構のほとんどは後期の樽式期にあたるものである。該期の住居跡は、桜ヶ丘遺跡【2】・下東西遺跡【4】・上野国分僧寺・尼寺中間地域【27】・日高遺跡【60】で確認されている。このうち、日高遺跡では浅間 C 軽石（A s - C : 3 世紀後半～4 世紀初頭）下の水田跡が検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田として捉えられている。弥生時代後期以外確認は先述したとおり希少で、遺構に伴わないものの元総社北川遺跡【25】で竜見町式の壺が出土している。

古墳時代になると遺跡数は増大の傾向をたどる。利根川右岸には遠見山古墳【11】を始めとして、王山古墳【32】・稻荷山古墳【23】・総社二子山古墳【6】・愛宕山古墳【10】・宝塔山古墳【13】・蛇穴山古墳【12】が築造され、このうち稻荷山古墳を除く古墳は総社古墳群に属するものである。なお、宝塔山古墳の石棺と蛇穴山古墳の石室に見られる石造技術は、約 900 m 南西に建立された山王廃寺【18】の石造物と同系統の技術であることから、これらの古墳は仏教色の強いものとされている。集落は縄文時代と同様で、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に多く分布しているが、前期～中期の住居跡は散見されるほどで、後期からの集落増加が目立つ地域と言えよう。集落に伴う畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、総社甲稻荷塚大道西 IV 遺跡【30】・総社閑泉明神北遺跡【38】・元総社西川遺跡【33】で畠跡、元総社北川遺跡【25】・総社閑泉明神北遺跡・総社閑泉明神北遺跡 V【38】・元総社明神遺跡 I～13【50】・元総社寺田遺跡 I～III【51】で水田跡が確認されている。なお、本遺跡【1】では、前期及び後期の集落が確認されており、特に前期の集落に関しては、元総社北川遺跡【25】で検出された灌漑用水路の開発集団とも考えられよう。

奈良・平安時代の元総社は、上野国府・国分僧寺【61】・国分尼寺【62】が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと変化を遂げていく。現在、上野国府の範囲・建物については不明瞭な部分が多いものの、元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）【38】・閑泉樋遺跡【39】で東西方向、元総社明神遺跡【50】で南北方向の大溝が確認されており、国府域における北及び東外郭線が推定されることとなった。国府域推定域内には、元総社宅地遺跡【41】・元総社寺田遺跡【51】・元総社小学校校庭遺跡【53】など国府関連の様相を示す遺跡が確認されており、元総社宅地遺跡・元総社小学校校庭遺跡では掘立柱建物跡、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」などが書かれた墨書き器や人形の出土が確認されている。国分僧寺・国分尼寺は必然的に上野国府周辺に置かれており、国分僧寺については昭和 55 年より本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・屏などが捉えられている。国分尼寺に関しては、昭和 44・45 年にトレンチ調査が行われたことにより伽藍配置の推測が可能となり、この結果を基に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が、平成 12 年に寺域確認調査を行っている。この調査の結果、南東・

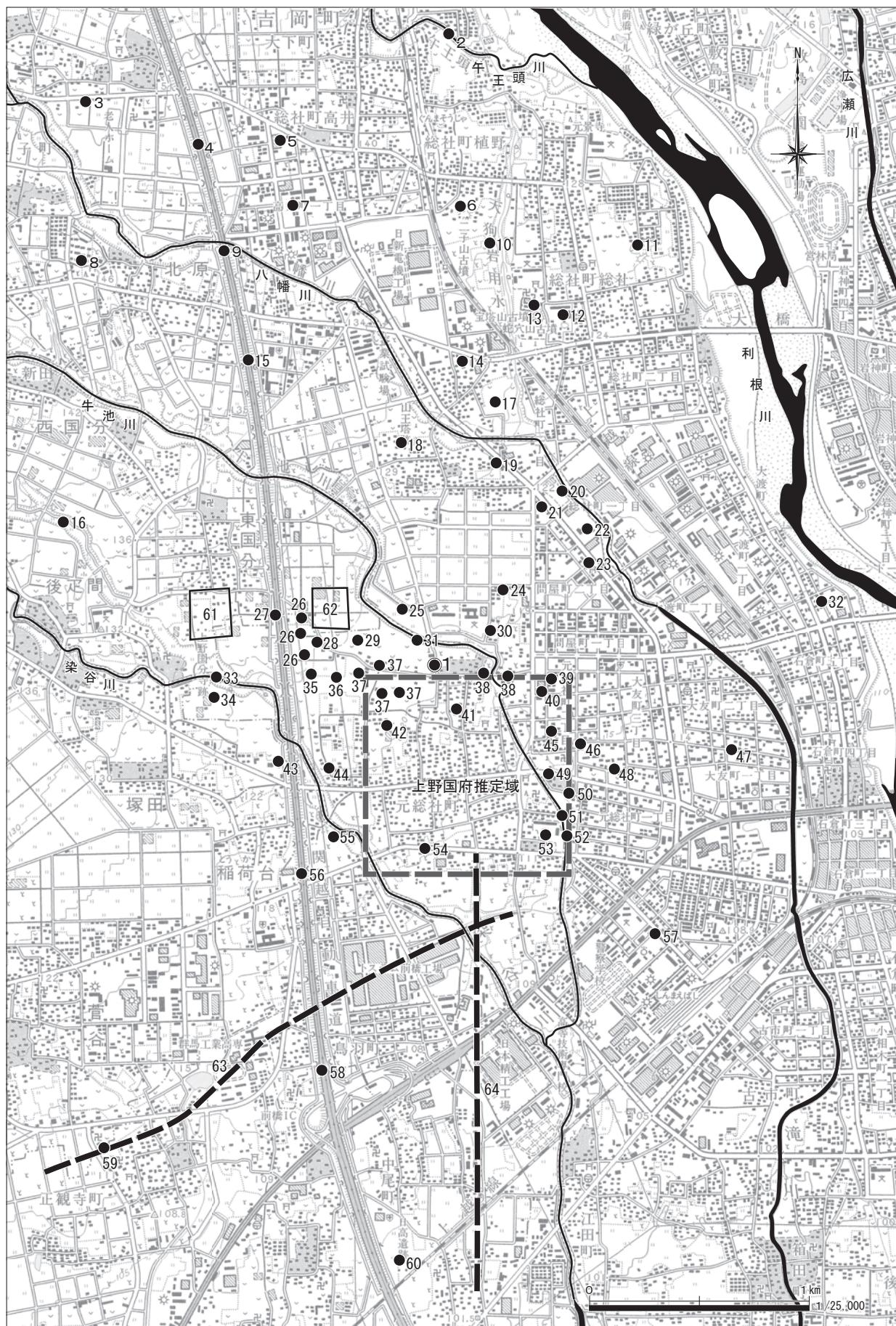


Fig. 3 遺跡分布図（国土地理院発行『前橋』1/25,000）

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社蒼海遺跡群 (28)			●	●	●	
2	桜ヶ丘遺跡		●				
	総社桜ヶ丘遺跡・II遺跡				●		
3	清里南部遺跡群・III	●			●		
4	下東西遺跡	●	●	●	●	●	
5	中島遺跡				●		
6	総社二子山古墳			●			
7	柿木遺跡・II遺跡				●		
8	熊野谷遺跡	●			●		
	熊野谷II・III遺跡				●		
9	北原遺跡	●		●	●		
10	愛宕山古墳			●			
11	遠見山古墳			●			
12	蛇穴山古墳			●			
13	宝塔山古墳			●			
14	村東遺跡		●		●	●	
15	国分境遺跡		●		●		
	国分境II遺跡		●		●		
	国分境III遺跡		●		●		
16	後足間遺跡I～III		●		●	●	
17	大屋敷遺跡I～VI	●		●	●	●	
18	山王廐寺跡			●			
19	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡				●		
20	産業道路東遺跡	●					
21	産業道路西遺跡	●					
22	稻荷塚道東遺跡		●		●		
23	稻荷山古墳		●				
24	総社甲稻荷塚大道西遺跡			●	●	●	
	総社甲稻荷塚大道西II遺跡			●	●		
25	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	●	●	●	●	●	●
26	元総社小見II遺跡	●		●	●	●	
	元総社小見IV・V遺跡	●		●	●	●	
	元総社小見VI・VII遺跡	●		●	●		
	元総社蒼海遺跡群(4)	●		●	●		
27	上野国分僧寺・尼寺中間地域	●	●	●	●	●	
28	元総社蒼海遺跡群(13)	●		●	●	●	
29	元総社小見内VII遺跡	●			●	●	
	元総社蒼海遺跡群(1)(5)				●	●	
30	総社甲稻荷塚大道西III遺跡			●	●		
	総社閑泉明神北III遺跡	●		●	●		
	総社甲稻荷塚大道西IV遺跡			●			
31	元総社小見内III遺跡				●	●	●
	元総社小見内VI遺跡					●	●
	元総社蒼海遺跡群(12)				●	●	●
32	王山古墳				●		
33	元総社西川遺跡				●		
34	上野国分寺参道遺跡				●		
35	元総社小見遺跡		●		●		
36	元総社小見III遺跡	●			●	●	●
	元総社草作V遺跡				●		
37	元総社小見内IV遺跡				●		
	元総社小見内VII遺跡				●		
	元総社小見内IX・X遺跡				●		
	元総社蒼海遺跡群(2)(6)				●		
	元総社蒼海遺跡群(11)				●		
38	総社閑泉明神北遺跡				●		
	総社閑泉明神北II遺跡				●		
	総社閑泉明神北V遺跡				●		
	元総社蒼海遺跡群(7)				●		
	元総社蒼海遺跡群(9)(10)				●		
39	閑泉樋遺跡				●		
40	閑泉樋南遺跡				●		
41	元総社宅地遺跡1～23トレンチ				●	●	●
42	草作遺跡				●	●	●
43	塙田村東遺跡				●		
44	元総社蒼海遺跡群(8)				●		
45	屋敷遺跡・II遺跡				●	●	●
46	堰越II遺跡				●		
47	大友宅地添遺跡				●		
48	堰越遺跡				●		
49	大友屋敷II・III遺跡				●	●	
50	元総社明神遺跡I～13				●	●	●
51	元総社寺田遺跡I～III				●	●	●
52	寺田遺跡				●		
53	元総社小学校校庭遺跡				●		
54	天神遺跡・II遺跡				●		
55	弥勒遺跡・II遺跡				●	●	
56	鳥羽遺跡				●	●	
57	元総社稻葉遺跡				●		
58	中尾遺跡				●		
59	正觀寺遺跡I～IV				●	●	●
60	日高遺跡				●		
61	上野国分寺跡				●		
62	上野国分尼寺跡				●		
63	東山道(推定)						
64	日高道(推定)						

※ 本表の遺跡番号は本文・Fig. 3の『遺跡分布図』の番号と一致している。

南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構を捉えるに至っている。なお、上野国府・国分僧寺・国分尼寺に関連する遺構も周辺で確認されている。上野国分僧寺・尼寺中間地域【27】で、大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されているのを始めとして、鳥羽遺跡【56】で神社遺構、中尾遺跡【58】で工房跡が見られ、周辺地域における調査の重要性を再認識させられるものと言えよう。また、東山道(国府ルート)【63】・日高道【64】の存在も明らかになりつつあり、当時の交通事情や流通を知る貴重な手がかりになるものと考えられる。

一方、公的な建物以外である一般的な集落を概観すると、やはり牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地してくるが、国府推定域の中心部における分布は疎となっている。これは、当然ながら国府域と居住域の区分けがなされていたことを示すものであろう。このような衛星的な集落は古墳時代の集落分布と比べるとさらに多く、確

認された集落のほとんどで、8～11世紀代の堅穴住居跡が所狭しと重複する状況を見ることができる。無数に分布する集落遺跡に対し、本遺跡周辺の生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡【25】・元総社甲稻荷塚大道西III遺跡【30】などで確認されている畠跡に留まっている。水田跡は、本遺跡より南へ2.3kmほど離れた日高遺跡【60】で確認されている。

中世の元総社には、上野国府の地割りを利用して蒼海城が築かれる。蒼海城は牛池川と染谷川に挟まれた径1,200m程の範囲を縛張りとする広大な面積を要する城で、千葉介常胤によって鎌倉時代に築かれたと言われて



Fig. 4 蒼海城縛張り図（山崎 一 1978『群馬県古城址の研究 上巻』より 1/8,000）

いる。千葉介常胤については「上毛伝説雑記拾遺」の「総社記」に記されており、「長元元戌辰年（1028年）六月、上総介平忠常下総国より引移らる。其の嫡子下総介常重、其の長子千葉介常胤、此の時城鎮護の為に、五智の如来を城の四方に数箇寺を建立有って安置す。」とある。

時は下って、蒼海城は永享元年（1429年）に総社長尾氏によって修築を受けることとなる。なお、蒼海城の修築は、長尾景行によって行われたとされているが、景行の子である長尾忠房（賢昌）によるものとの説もある。長尾忠房は上野国府の地割りを利用して築かれた蒼海城を居住には不便であると判断し石倉城を築いて移り住んだが、その石倉城は利根川に崩落してしまったため、再び蒼海城へ戻ることになったとされている。以後、守護である上杉氏とともに総社長尾氏は守護代として栄えるが、長尾頸方の時、勃興してきた北条氏綱に服属し、さらには長尾頸方の跡を継いだ長尾頸景は箕輪城主長野信業と厩橋城主長野方業に攻められ、長野氏に屈服したようである。永禄九年（1566年）には、主力を石倉城へ移していたものの、一部は蒼海城に残っていたこともあり武田信玄に攻略されることとなる。

天正十八年（1590年）小田原城が落とされ、関東地方は徳川家康の支配下に置かれることになるが、その時蒼海城に諏訪頼忠が入り、城の北東部に長屋を構えて居住したとされている。そこで、諏訪頼忠は頼永を授かるが、諏訪頼永はその後先祖の地である信濃高島城へ移ることとなる。慶長六年（1601年）には、諏訪頼永に変わり秋元長朝が蒼海へ入るが、蒼海城は荒廃していたためであろうか、植野に総社城を築城し移り住んだとされる。なお、総社城の築城までは時間を要したため、秋元長朝は蒼海城の東に位置する八日市場城を仮の地として身を置くこととなったようである。秋元長朝が総社城へ移った後は、蒼海城は城としての役割を終え廃城を迎えることとなる。

蒼海城関連の遺構は本遺跡【1】と元総社蒼海遺跡群（1）【29】・（5）【29】・（6）【37】、元総社小見内Ⅷ遺跡【37】で確認されている。このうち、本遺跡で改修前と想定される堀、元総社蒼海遺跡群（6）で南北方向に走行する上端幅11mの堀が検出されている。

## 参考文献

- 山崎 一 ほか 1979 『日本城郭大系 第4巻 茨城・栃木・群馬』 新人物往来社  
近藤義雄 1986 『図説・前橋の歴史 群馬県の歴史シリーズ①』 あかぎ出版  
群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史 通史編3 中世』 群馬県  
山崎 一 1978 『群馬県古城址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会  
前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史 第一巻』 前橋市  
秋本太郎 ほか 2008 『史跡箕輪城跡Ⅷ』 高崎市教育委員会  
早田 勉 ほか 2008 『更新世の地形発達史と遺跡群の形成』 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会  
群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編1 原始古代1』 群馬県  
大崎和久 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群（6）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
坂口 一 ほか 2007 『総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』  
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団  
櫻井和哉 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（16）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
阿久澤真一 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（13）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
長谷川一郎 ほか 2001 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
長谷川一郎 ほか 2003 『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
梅沢克典 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（15）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
近藤雅順 ほか 2006 『元総社蒼海遺跡群（2）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
梅沢克典 ほか 2007 『元総社蒼海遺跡群（12）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
近藤雅順 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（14）・元総社蒼海遺跡群（19）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
金子正人 ほか 2008 『元総社蒼海遺跡群（17）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

### III 調査方針と経過

#### 1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路用地で、調査総面積は 1,120 m<sup>2</sup>である。調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている 4 mごとの方眼（日本測地系）を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へ X : 155、X : 156、X : 157…、北から南へ Y : 107、Y : 108、Y : 109…、と設定した。本遺跡の X : 160、Y : 110 の公共座標は以下のとおりである。

- ・元総社蒼海遺跡群 (28) 測点 X : 160 Y : 110

日本測地系 : X =43560.000 Y =-71560.000 世界測地系 : X =43914.9040 Y =-71851.7584

調査方法は、基本的に表土除去→遺構確認→遺構検出→断面観察→遺構完掘の順に行い、測量及び写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて隨時行っている。表土除去は 0.45 バックホーで遺構確認面である A s - C が混入する黒褐色土層まで掘り下げるのこととした。遺構確認は重複が激しいことから困難を極めた。このため、調査区を 4 mごとの方眼に区画し、区画ラインをベルトとして、各区画ごとに遺構の詳細を捉えられるまで、ジョレンを使用して掘り下げるのこととした。確認された遺構は基本的に移植ゴテを使用して掘り下げたが、堀に限り、壁面・底面付近及び遺物集中部分を除きスコップを使用した。遺構の検出過程では、ベルトないし半截により遺構の埋没状況を確認し、出土遺物は可能な限りトータルステーションで出土位置及び標高を記録した後に取り上げを行った。

検出された遺構の記録保存は、平面・断面測量及び写真撮影で対応している。遺構図面は平面・断面図とも基本 1/20 縮尺で作成し、いずれもトータルステーションで測量している。遺構写真は、35 mm白黒・35 mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として 1,000 万画素相当のデジタルカメラも利用した。また、完掘後はラジコンヘリコプターによる空撮も行っている。

#### 2 調査経過

現地での発掘調査は平成 21 年 11 月 24 日から平成 22 年 1 月 29 日まで、整理業務は平成 22 年 2 月 1 日～同年 3 月 12 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

平成 21 年 11 月 24 日：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。11 月 24 日：表土除去開始。11 月 25 日：遺構確認・検出作業を開始。11 月 27 日：W - 2 号溝確認し、検出作業に取り掛かる。11 月 30 日：表土除去終了。12 月 2 日：遺構の重複が激しいことから、調査区を 4 m 方眼に区切り、各方眼ごとに調査を進めることとする。平成 22 年 1 月 11 日：調査区の約半分程の遺構検出を終了する。1 月 25 日：遺構検出を終了する。1 月 27 日：空撮を行う。空撮の終了を受けて埋め戻しを行う。1 月 29 日：2 区の埋め戻し完了。発掘器材・プレハブ・簡易トイレの撤収を行い、現地における全ての調査を終了する。2 月 1 日：出土遺物の洗浄・注記・接合を開始。2 月 8 日：図面修正・写真整理開始。2 月 12 日：遺構原稿執筆及び遺物実測開始。2 月 17 日：遺物・遺構トレース開始。2 月 24 日：版組み。2 月 26 日：入稿・校正。3 月 9 日：印刷・製本。3 月 12 日：報告書納品。

## IV 標準堆積土層

本遺跡は染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地している。今回の調査では、現地表面より約2mの深さまで堆積土層を確認しており、最深部の土層は度重なる洪水により形成されたものと考えられる総社砂層（VI層）である。なお、その厚さは1.25m以上にも及んでいる。今回の調査では確認できなかったものの、総社砂層の下にはA s - S j（浅間 - 総社軽石：11,000年前降下：y b p）、さらにはA s - Y P（浅間 - 板鼻黄褐色軽石：13,000～14,000年前降下：y b p）が堆積しているものと推測される。A s - S jは前橋泥炭層中に含まれており、A s - S j降下時（縄文時代早期）の本遺跡周辺は、湿地であったことを示していると言えよう。なお、本遺跡周辺が台地化するのは、洪水を起源とする総社砂層の度重なる堆積によるものと考えられ、台地形成後に集落が形成されるのは、縄文時代前期後半あたりと推測されている。

VI層より上位に堆積する土は、上からA s - A（浅間A軽石：1,783年降下）の混入が見られる現表土（I層）、旧耕作土（II層）、A s - B（浅間B軽石：1,108年降下）が混入する暗灰色土（III層）、A s - C（浅間C軽石：3世紀後半降下）が混入する黒褐色土（IV層）、IV層とVI層の漸移層と考えられるにぶい黄褐色土（V層）が認められる。このほか、遺構の埋没土中には部分的にH r - F A（榛名山 - ニッ岳渋川テフラ：6世紀初頭降下）の混入が確認されているが、一次堆積層としての確認には及んでいない。また、III層および遺構の埋没土中にはA s - C軽石の混入が顕著に見られるが、これも一次堆積層を捉えるには至っていない。このような状況から、本遺跡内では度重なる搅拌が行われていたものと考えられ、徐々にA s - CやH r - F Aの一次堆積層が失われていったものと推測される。

今回の調査では、IV層上面を遺構確認面として、古墳時代から中世の遺構を捉えることに努めた。調査を進めている。例外として、遺構の重複が激しく、IV層上面での遺構確認が困難な場合は、V層上面まで遺構確認面を下げて調査を進めることとした。

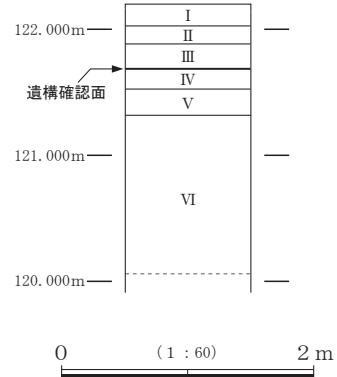


Fig. 5 標準堆積土層

## V 遺構と遺物

### 1 遺跡の概要 (Fig. 6、PL. 1)

本遺跡の調査では、竪穴住居跡47軒・溝18条・土坑26基・ピット1基・竪穴状遺構5基が検出されている。竪穴住居跡は3・4・6・7・8・9・10・11世紀代に帰属するもので構成されており、5世紀代の住居跡は見られない状況にあった。なお総体的に本遺跡を概観すると、確認されるA s - C・H r - F Aの一次堆積層が見られない状況を窺うことができる。このため、本遺跡は集落域として栄える一方、畠の耕作等も顕著に行われていたと言えよう。

竪穴住居跡で特筆すべき事項として、7世紀代の竪穴住居跡の埋没状況が挙げられる。該期の住居跡の埋没は、人為的な埋め戻し、または焼失によるものが多く見受けられる。8世紀代の本遺跡周辺は、国府域として機能し始める時期にあたり、国府の開発に伴って一般的な集落は撤去させられた可能性が考えられよう。その他、古墳時代前期のH-32号住居跡では、出入口と想定される施設が良好な状態で検出されている。また、平安時代のH-36号住居跡はカマドを持たない特異な形状を示すものである。

溝はW-2・6号溝が蒼海城に関連するものと考えられ、W-2号溝は、底面の両端が轍状に窪んでおり、道としての可能性を有するものである。なお、W-2・6号溝は並走関係にあるもので、W-2号溝の埋没土中からは中世陶器等の出土が認められている。W-17号溝は6世紀末～7世紀初頭に比定される溝で、断面逆台形状（薬研状）、深さ1.45mの直線的に走行する溝で、環濠を想像させるものである。本溝の埋没土上位では、硬化した層が連綿と確認されており、埋没過程において道として機能を変容させていることが、判明している。

土坑はD-15号土坑から平安時代から中世に帰属するものと考えられる馬具の轡が出土しており、D-25号土坑からは多量の鉄滓が羽口とともに埋没土から出土している。D-25号土坑から出土した多量の鉄滓は、鍛冶関連遺構を想定させるものと言えよう。

堅穴状遺構は、T-5・9号堅穴状遺構を除き、底面の状態は不安定な状態にあり、性格を捉えるには至っていない。T-5・9号堅穴状遺構は、重複遺構や遺構のほとんどが調査区外にあたることから、堅穴住居跡として、明確な立証ができなかったものである。

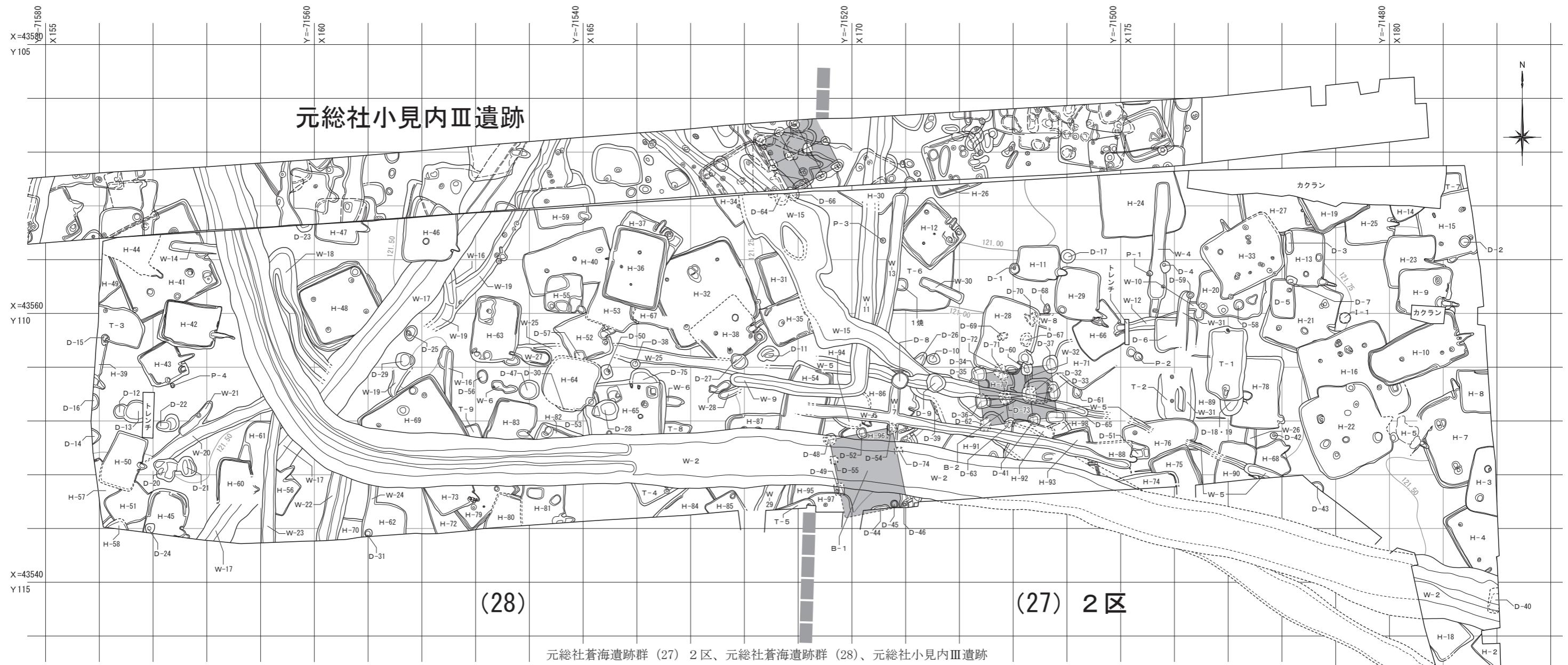
## 2 住居跡

H-31号住居跡（遺構：Fig. 7、P.L. 2／遺物：Fig. 50、Tab. 3、P.L. 14）

**位置：**X：168・169、Y：108・109グリッド。**主軸方位：**N-70°-E。**重複：**H-35号住居跡、W-15号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-35号住居跡・W-15号溝より古い。**形状：**方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模：**4.16m×〈3.65〉m。**残存深度：**0.28m。**面積：**〈15.18〉m<sup>2</sup>。**床面の状態：**多少の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや窪む。壁周溝は幅広で、検出部分に限り全周する。**カマド：**W-15号溝により壊されたものと想定される。東壁付近の埋没土中に焼土の混入が顕著に見られることから、東壁に付設されていたものと推測される。**貯蔵穴：**住居跡南東で確認されている。規模は0.90m×0.75m、深さ0.45mを測り、不整楕円形状を呈する。埋没土はA s-C・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色の土となっている。**柱穴：**確認されていない。**貼床：**A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s-C・ローム粒・焼土・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**住居跡中央やや北西寄り及び貯蔵穴付近の床面直上に集中して出土している。**時期：**6世紀中頃と想定される。

H-32号住居跡（遺構：Fig. 7～9、P.L. 2／遺物：Fig. 50、Tab. 4、P.L. 14）

**位置：**X：166・167・168、Y：108・109・110グリッド。**主軸方位：**N-24°-W。**重複：**H-35・36・37・38・67号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-35・36・37・38・67号住居跡より古い。**形状：**正方形状を呈する。**規模：**7.02m×6.79m。**残存深度：**0.44m。**面積：**47.67m<sup>2</sup>。**床面の状態：**多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は東壁中央を除き全周する。住居跡南壁中央で南北方向に走行する長さ1.41m、幅0.32m、深さ0.14mの溝状の掘り込みが確認されている。同溝の断面形状は箱状で板材を差し込んだかのように見える。また先端には垂直方向に掘られる平面0.26m×0.22m、深さ0.27mを測るピット状の窪みが確認されており、出入口施設と推測される。**炉跡：**住居跡中央やや北寄り（P1とP3の間）に付設されており、規模は1.33m×0.70m、深さ全長0.11m・主軸方位N-37°-Wを測り、A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・灰を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。炉跡の中央には、長さ14～19cm・幅7～8cmの川原石2石（枕石）が東西方向に直列した状態で設置されており、枕石北側の炉底は焼土化している。**貯蔵穴：**住居跡南西コーナー付近で確認されている。規模は0.71m×0.61m、深さ0.35mを測り、楕円形状を呈する。埋没土はA s-C・ローム粒が混入する黒褐色の土となっている。**柱穴：**推定範囲内に5基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P1が平面0.25m×0.21m、深さ0.32m、P2



元総社蒼海遺跡群（27）2区、元総社蒼海遺跡群（28）、元総社小見内Ⅲ遺跡

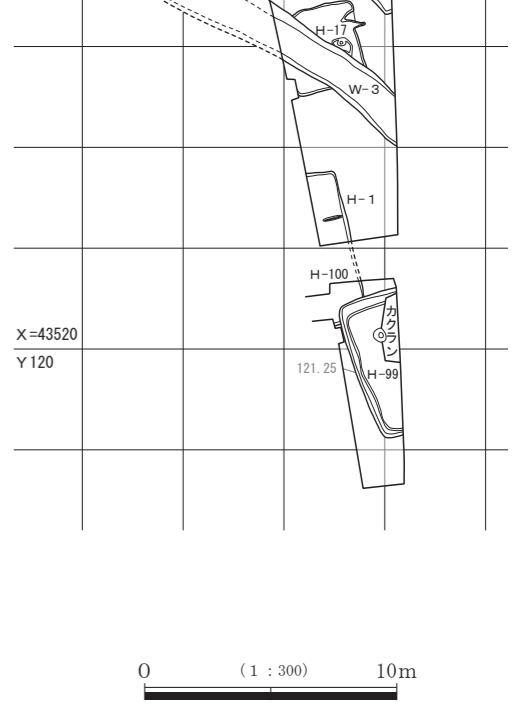
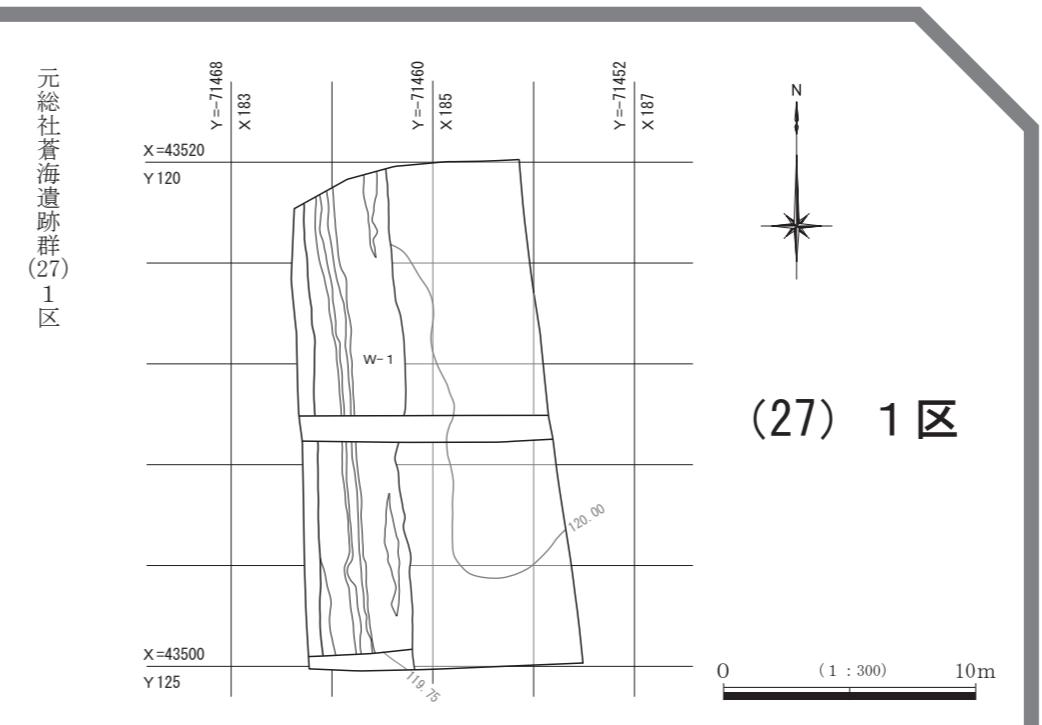
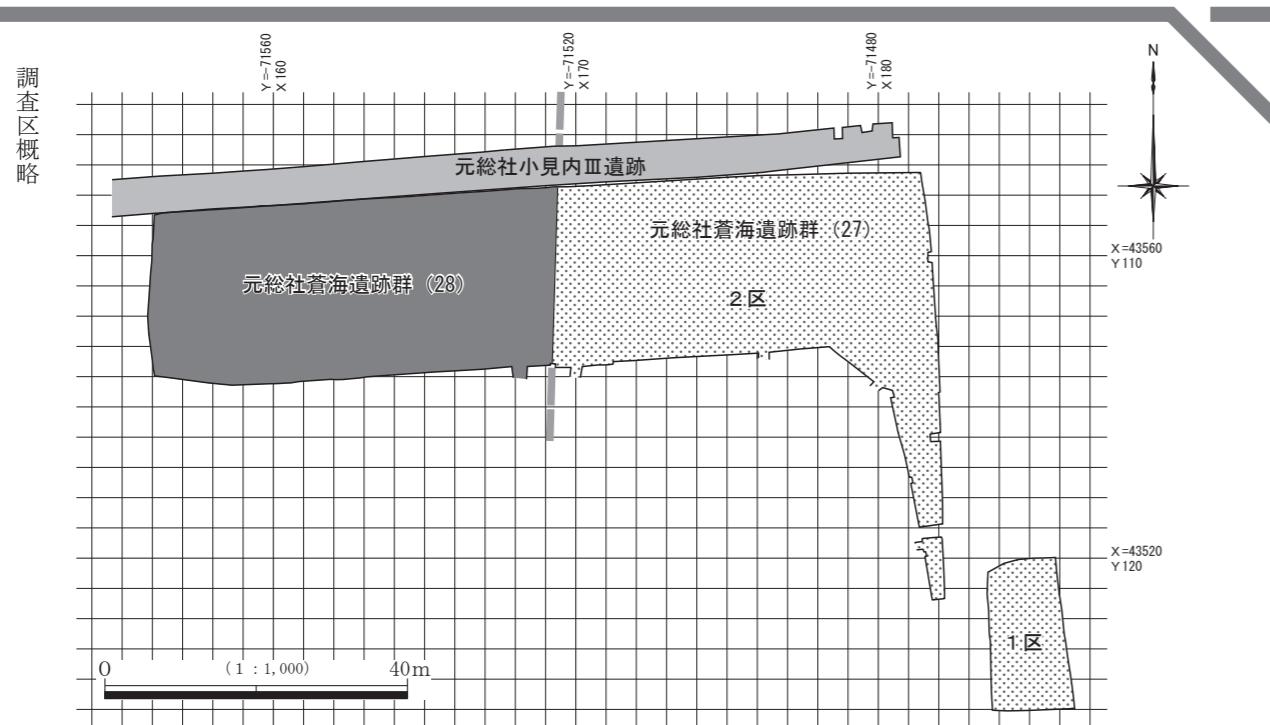


Fig. 6 全体図

が平面  $0.42\text{ m} \times 0.39\text{ m}$ 、深さ  $0.56\text{ m}$ 、P 3 が平面  $0.27\text{ m} \times 0.26\text{ m}$ 、深さ  $0.49\text{ m}$ 、P 4 が平面  $0.42\text{ m} \times 0.39\text{ m}$ 、深さ  $0.60\text{ m}$ 、P 5 が平面  $0.31\text{ m} \times 0.25\text{ m}$ 、深さ  $0.30\text{ m}$ を測る。これらのピットは A s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色土により埋没しており、主柱穴は P 1 ~ P 4 と想定され、柱痕は P 1 で確認されている。**貼床**：A s - C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、壁面付近の埋没となる 38 層には、A s - C の含有量が一次堆積に近いほど極めて多い状態にある。この状態から住居構築時には周堤帶下に A s - C の一次堆積層が残っており、38 層はこの一次堆積層が埋没時に流出した可能性を想像させるものである。**遺物出土状態**：炉跡内及び床面直上に散在する状態で出土している。**時期**：4 世紀前半と想定される。

#### H -34 号住居跡（遺構：Fig. 9、P L. 2 / 遺物：Fig. 50、Tab. 4、P L. 14）

**位置**：X : 167・168、Y : 107・108 グリッド。**主軸方位**：N  $-56^\circ$  - E。**重複**：W -15 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W -15 号溝より古い。**形状**：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 3.70 \rangle\text{ m} \times \langle 2.71 \rangle\text{ m}$ 。**残存深度**：0.19 m。**面積**： $\langle 10.03 \rangle\text{ m}^2$ 。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**カマド**：検出範囲内においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：推定範囲内に 2 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面  $0.36\text{ m} \times 0.30\text{ m}$ 、深さ  $0.36\text{ m}$ 、P 2 が平面  $0.65\text{ m} \times \langle 0.30 \rangle\text{ m}$ 、深さ  $0.32\text{ m}$ を測る。これらのピットは A s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色ないし暗褐色の土により埋没しており、柱痕は P 2 で確認されている。なお、両ピットとも主柱穴と想定される。**貼床**：A s - C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中に散在する状態で出土している。また、住居跡南コーナー付近の床面直上から編物石が集中して出土している。**時期**：8 世紀前半と想定される。

#### H -35 号住居跡（遺構：Fig. 10・11、P L. 2 / 遺物：Fig. 51、Tab. 4、P L. 14）

**位置**：X : 168・169、Y : 109・110 グリッド。**主軸方位**：N  $-66^\circ$  - E。**重複**：H -31・32・38 号住居跡・W -15 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H -31・32・38 号住居跡より新しく、W -15 号溝より古い。**形状**：長方形状を呈する。**規模**： $4.25\text{ m} \times 3.15\text{ m}$ 。**残存深度**：0.42 m。**面積**： $13.39\text{ m}^2$ 。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、北・南・東壁の一部で確認されている。**カマド**：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長  $1.09\text{ m}$ ・最大幅  $0.42\text{ m}$ ・燃焼部幅  $0.41\text{ m}$ ・主軸方位 N  $-65^\circ$  - E を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s - C・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。**貯蔵穴**：住居跡南東コーナーで確認されている。規模は  $0.81\text{ m} \times 0.70\text{ m}$ 、深さ  $0.56\text{ m}$ を測り、橢円形状を呈する。埋没土は A s - C・ロームブロック・ローム粒・白色粘土が混入する黒褐色ないし暗褐色の土となっている。貯蔵穴周辺の床面は、貯蔵穴の形状に併せて窪んでいることから、蓋が存在していたものと推測される。**柱穴**：推定範囲内に 2 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面  $0.52\text{ m} \times 0.40\text{ m}$ 、深さ  $0.35\text{ m}$ 、P 2 が平面  $0.34\text{ m} \times 0.33\text{ m}$ 、深さ  $0.40\text{ m}$ を測る。これらのピットは A s - C・ローム粒が混入する黒褐色土により埋没している。柱痕の確認はされていないため、柱が抜き取られた可能性が考えられる。**貼床**：A s - C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。**遺物出土状態**：住居跡中央やや東よりの床面直上に集中して出

土している。時期：7世紀中頃と想定される。

**H-36号住居跡**（遺構：Fig. 11・12、P L. 2／遺物：Fig. 51、Tab. 4、P L. 15）

位置：X：165・166、Y：108・109 グリッド。主軸方位：N-11°-E。重複：H-32・37・40・53・67号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-32・37・40・53・67号住居跡より新しい。形状：長方形状を呈する。規模：5.70 m × 4.29 m。残存深度：0.69 m。面積：24.45 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は西壁中央付近を除き全周する。カマド：付設されていない。貯蔵穴：検出されていない。柱穴：推定範囲内に3基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1が平面0.16 m × 0.15 m、深さ0.29 m、P 2が平面0.25 m × 0.25 m、深さ0.33 m、P 3が平面0.23 m × 0.18 m、深さ0.17 mを測る。これらのピットはA s-C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒が混入する黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色の土により埋没している。主柱穴はP 1・P 2と考えられるが、柱痕の確認には至っていない。貼床：A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。埋没土中位から上に堆積する土には、焼土・炭化粒・白色粘土・灰の混入が目立つ。遺物出土状態：床面直上・床面よりやや浮いた状態で、散在して出土している。時期：11世紀前半と想定される。

**H-37号住居跡**（遺構：Fig. 12・13、P L. 3／遺物：Fig. 52・53、Tab. 5、P L. 15・16）

位置：X：165・166、Y：108 グリッド。主軸方位：N-30°-E。重複：H-32・36号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-32号住居跡より新しく、H-36号住居跡より古い。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：4.60 m × 〈2.11〉 m。残存深度：0.36 m。面積：〈9.71〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。貯蔵穴の東側は棚状に一段高く構築されている。カマド：住居跡北壁やや東寄りに付設されており、全長1.11 m・最大幅0.52 m・燃焼部幅0.26 m・主軸方位N-437-Eを測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。白色粘土で構築された両袖の先端には凝灰岩、天井には入れ子状に重ね合わせた甕、支脚には高壠の脚部（正位に置かれている）を使用している。また、燃焼部には正位の状態で土師器の甕が出土しており、これはカマドに据えつけられていたものと想定される。貯蔵穴：カマドの東脇で確認されている。規模は0.60 m × 0.56 m、深さ0.30 mを測り、円形状を呈する。埋没土はA s-C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒が混入するしまりの弱い黒褐色ないし暗褐色の土となっている。柱穴：確認されていない。貼床：A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマドの構築材と使用されていたものが多いものの、床面直上からは、全体的に散在して出土している。時期：6世紀中頃と想定される。

**H-38号住居跡**（遺構：Fig. 13・14、P L. 3／遺物：Fig. 53、Tab. 5・6、P L. 16）

位置：X：167・168、Y：110 グリッド。主軸方位：N-48°-E。重複：H-32・35号住居跡・D-27号土坑・W-25号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-32号住居跡より新しく、H-35号住居跡・D-27号土坑・W-25号溝より古い。形状：正方形状を呈するものと想定される。規模：(4.18) m × 4.10 m。残存深度：0.39 m。面積：(17.14) m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、カマド部分・貯蔵穴付近を除き全周するものと推測される。カマド：住居跡の北東壁やや南寄りに付設されており、

全長  $\langle 1.40 \rangle$  m・最大幅 0.47 m・燃焼部幅 0.47 m・主軸方位 N-57°-E を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は、煙道部が燃焼部に対し一段高くなる形状をとり、A s-C・焼土・白色粘土・灰を含む暗褐色・褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。**貯蔵穴**: 住居跡東コーナーで確認されている。規模は 0.49 m × 0.46 m、深さ 0.36 m を測り、隅丸長方形状を呈する。埋没土は A s-C・ローム粒・白色粘土が混入する黒褐色の土となっている。貯蔵穴周辺の床面は、貯蔵穴の形状に併せて窪んでいることから、蓋が存在していたものと推測される。**柱穴**: 推定範囲内に 4 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.33 m × 0.25 m、深さ 0.28 m、P 2 が平面 0.36 m × 0.35 m、深さ 0.32 m、P 3 が平面 0.51 m × 0.45 m、深さ 0.24 m、P 4 が平面 0.30 m × 0.26 m、深さ 0.25 m を測る。これらのピットは A s-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色ないし暗褐色の土により埋没しており、主柱穴と想定される。**貼床**: A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**: A s-C・H r-F A・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。**遺物出土状態**: カマド内及び周辺に集中して出土している。**時期**: 6 世紀前半～中頃と想定される。

#### H-39号住居跡（遺構：Fig. 14・15、PL. 3）

**位置**: X : 155・156、Y : 110・111 グリッド。**主軸方位**: N-79°-W。**重複**: T-3号堅穴状遺構・D-15号土坑と重複し、埋没土層の観察から本住居跡は、T-3号堅穴状遺構・D-15号土坑より古い。**形状**: 方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**:  $\langle 3.51 \rangle$  m ×  $\langle 0.83 \rangle$  m。**残存深度**: 0.42 m。**面積**:  $\langle 2.91 \rangle$  m<sup>2</sup>。**床面の状態**: 少少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**カマド**: 住居跡の南東コーナーに付設されており、全長  $\langle 1.27 \rangle$  m・最大幅 0.76 m・燃焼部幅  $\langle 0.51 \rangle$  m・主軸方位 N-53°-W を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。**貯蔵穴**: 確認されていない。**柱穴**: 確認されていない。**貼床**: A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**: A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**: 遺物の出土は見られない。**時期**: カマドの付設される位置から平安時代と推測される。

#### H-40号住居跡（遺構：Fig. 15、PL. 4／遺物：Fig. 53・54、Tab. 6、PL. 17）

**位置**: X : 163・164・165、Y : 108・109 グリッド。**主軸方位**: N-72°-E。**重複**: H-36・53・55号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-36・53・55号住居跡より古い。**形状**: 長方形状を呈する。**規模**: 6.59 m × 4.01 m。**残存深度**: 0.27 m。**面積**: 26.43 m<sup>2</sup>。**床面の状態**: 少少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**カマド**: 住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長  $\langle 0.38 \rangle$  m・最大幅 0.39 m・燃焼部幅 0.39 m・主軸方位 N-83°-E を測る。横位断面形状は箱状、縦位断面は焚き口が住居跡床面よりやや窪み、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰・凝灰岩を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。両袖の先端及び天井には、構築材として凝灰岩、袖には白色粘土が使用されている。**貯蔵穴**: 確認されていない。**柱穴**: 推定範囲内に 3 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.51 m × 0.38 m、深さ 0.23 m、P 2 が平面 0.33 m × 0.28 m、深さ 0.23 m、P 3 が平面 0.35 m × 0.29 m、深さ 0.48 m を測る。これらのピットは A s-C・ローム粒が混入する暗褐色の土により埋没している。**貼床**: A s-C・ロームブロックを含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**: A s-C・H r-F A・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**: 住居跡中央から東側の床面直上に集中する傾向にあ

る。時期：6世紀前半と想定される。

**H-41号住居跡**（遺構：Fig. 16・17、P L. 4／遺物：Fig. 54、Tab. 6、P L. 17）

位置：X：156・157・158、Y：108・109・110 グリッド。主軸方位：N-68°-E。重複：H-42・44・49号住居跡、T-3号竪穴状遺構、W-14号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-49号住居跡より新しく、H-42・44号住居跡、T-3号竪穴状遺構、W-14号溝より古い。形状：方形ないし長方形を呈するものと想定される。規模：〈6.94〉m × 6.93 m。残存深度：0.47 m。面積：〈48.09〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、カマド部分・住居跡北西コーナー付近を除き全周する。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長 1.47 m・最大幅 0.85 m・燃焼部幅 0.44 m・主軸方位 N-76°-E を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗灰色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として礫・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：住居跡南東コーナーで確認されている。規模は 0.99 m × 0.70 m、深さ 0.48 m を測り、不整形状を呈する。埋没土は A s-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色ないし暗褐色の土となっている。貯蔵穴の北側半分はテラス状となっている。柱穴：推定範囲内に 5 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.49 m × 0.46 m、深さ 0.31 m、P 2 が平面 0.72 m × 0.61 m、深さ 0.44 m、P 3 が平面 0.57 m × 0.55 m、深さ 0.49 m、P 4 が平面 0.76 m × 0.70 m、深さ 0.49 m、P 5 が平面 0.40 m × 0.35 m、深さ 0.16 m を測る。これらのピットは A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒が混入する黒褐色・暗褐色ないしにぶい黄褐色の土により埋没しており、P 2～P 4 が主柱穴と考えられる。なお、柱痕が P 2 で確認されている。貼床：A s-C・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・灰・白色粘土を含む黒褐色・黑色を主体とした土による自然埋没と想定される。壁面付近には、焼土・炭化物が多く見られることから、焼失住居と考えられ、さらに炭化物の上位に焼土が重なる状態も確認されていることから、上屋構造に土を葺いていたことが推測される。遺物出土状態：住居跡中央から東側に散在する傾向にある。カマド周辺以外からの出土遺物に関しては、床面直上からの出土が目立つ。時期：6世紀中頃と想定される。

**H-42号住居跡**（遺構：Fig. 17・18、P L. 4／遺物：Fig. 54・55、Tab. 6、P L. 17・18）

位置：X：157・158、Y：109・110 グリッド。主軸方位：N-82°-W。重複：H-41・43号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-41・43号住居跡より新しい。形状：長方形を呈し、南西コーナー付近で棚状の段差が見られる。規模：4.29 m × 3.35 m。残存深度：0.19 m。面積：14.37 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、カマド部分・住居跡北東コーナー付近を除き全周する。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長 1.89 m・最大幅 0.28 m・燃焼部幅 0.26 m・主軸方位 N-80°-W を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・瓦・白色粘土が使用されており、支脚として棒状の川原石を据えつけている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内及びカマド周辺からの出土が大半を占める。時期：10世紀後半と想定される。

#### H-43号住居跡（遺構：Fig. 18・19、P L. 5／遺物：Fig. 55・56、Tab. 7、P L. 18）

位置：X：156・157、Y：110・111 グリッド。主軸方位：N -60° - E。重複：H-42号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-42号住居跡より古い。形状：正方形状を呈する。規模：2.99 m × 2.96 m。残存深度：0.41 m。面積：8.85 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや窪む。壁周溝はカマド・貯蔵穴付近及び南壁・西壁北側を除き全周する。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長1.36 m・最大幅0.42 m・燃焼部幅0.35 m・主軸方位N -70° - Eを測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面とほぼ同じ高さである。構築材として川原石・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：住居跡南東コーナーで確認されている。規模は0.74 m × 0.71 m、深さ0.33 mを測り、隅丸方形状を呈する。埋没土はA s-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色の土となっており、しまりが弱い。貯蔵穴の上位にはテラス状の段差が巡ることから、蓋が存在していた可能性が考えられる。柱穴：推定範囲内に1基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面0.44 m × 0.35 mを測り、A s-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色の土により埋没している。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロック・ローム粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：住居跡全体の床面直上から散在する状態で出土している。時期：6世紀中頃と想定される。

#### H-44号住居跡（遺構：Fig. 19・20、P L. 5／遺物：Fig. 56・57、Tab. 7、P L. 18・19）

位置：X：156・157、Y：108・109 グリッド。主軸方位：N -67° - W。重複：H-41・49号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-41・49号住居跡より新しい。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈3.85〉 m × 〈3.35〉 m。残存深度：0.30 m。面積：〈12.90〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、断面B-B'（住居跡南壁）で確認されている。カマド：住居跡の南東コーナーに付設されているものと推測される。全長（1.43）m・最大幅0.38 m・主軸方位N -64° - Wを測る。縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面とほぼ同じ高さと推測される。埋没土中に含まれる白色粘土及びカマド内で見られる川原石・瓦は構築材として使用されていたものと想定される。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土ないし暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内に集中する。カマドの西側では川原石が多量に出土する状態が見られる。時期：9世紀後半と想定される。

#### H-45号住居跡（遺構：Fig. 20・21、P L. 5／遺物：Fig. 57・58、Tab. 7・8、P L. 19・20）

位置：X：156・157、Y：113・114 グリッド。主軸方位：N -81° - W。重複：H-51号住居跡・D-24号土坑と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-51号住居跡より新しく、D-24土坑より古い。形状：隅丸長方形状を呈するものと想定され、北東コーナー付近で棚状の段差が見られる。規模：〈3.35〉 m × 3.03 m。残存深度：0.53 m。面積：〈10.15〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、住居跡北半で部分的に確認されている。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長1.05 m・最大幅0.55 m・燃焼部幅0.55 m・主軸方位N -68° - Wを測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部がテラス状の段差を持ちながら緩やかに立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや高い状態にある。構築材と

して凝灰岩・瓦・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。遺構埋没状態：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：住居跡中央から東側に散在する傾向にある。時期：10世紀後半～11世紀前半と想定される。

#### H-46号住居跡（遺構：Fig. 21、PL. 5／遺物：Fig. 58～60、Tab. 8、PL. 20）

位置：X：161・162、Y：108 グリッド。主軸方位：N-89°-E。重複：W-17号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-17号溝より新しい。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：4.05 m × 〈3.35〉 m。残存深度：0.24 m。面積：〈13.57〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや高まる。壁周溝は、見られない。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長0.61 m・最大幅0.42 m・燃焼部幅0.42 m・主軸方位N-53°-Wを測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s - C ・ ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・黒色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・瓦・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に1基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面0.45 m × 0.45 m、深さ0.82 mを測り、A s - C ・ ローム粒が混入する黒褐色の土により埋没している。貼床：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C ・ ローム粒・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド周辺に集中する状態で出土している。時期：11世紀後半と想定される。

#### H-47号住居跡（遺構：Fig. 22、PL. 6／遺物：Fig. 60・61、Tab. 8、PL. 21）

位置：X：160、Y：108 グリッド。主軸方位：N-87°-W。重複：重複は見られない。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：3.18 m × 〈1.55〉 m。残存深度：0.44 m。面積：〈4.93〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、見られない。カマド：住居跡の東壁に付設されており、全長0.85 m・最大幅0.63 m・燃焼部幅0.54 m・主軸方位N-67°-Wを測る。横位断面形状は皿字状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C ・ ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として礫・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内及び住居跡南東コーナー付近に集中して出土している。時期：10世紀後半と想定される。

#### H-48号住居跡（遺構：Fig. 22・23、PL. 6／遺物：Fig. 62、Tab. 8・9、PL. 21・22）

位置：X：159・160・161、Y：109・110 グリッド。主軸方位：N-25°-W。重複：W-17・18号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-17・18号溝より古い。形状：長方形状を呈する。壁面には、住居跡の北東北東部分を除いて幅0.20 m～0.35 m程のテラスを有し、棚として機能させていたものと推測される。規模：6.15 m × 5.68 m。残存深度：0.64 m。面積：34.93 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は検出部分に限り、全周する。炉跡：確認できなかった。なお、P 1とP 3間の埋没土掘削中に焼土の混入が確認されている。このため、炉跡はP 1・P 3間周辺に存在していたものと想定される。貯蔵穴：住居跡北東コーナー付近で確認されている。規模は0.70 m × 0.68 m、深さ0.60 mを測り、円形状を呈する。埋没土はA s - C ・ ロームブロック・ローム粒が混入するしまりの弱い黒褐色の土となっている。柱穴：推定範

囲内に4基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1が平面 $0.36\text{ m} \times 0.34\text{ m}$ 、深さ $0.57\text{ m}$ 、P 2が平面 $0.35\text{ m} \times 0.30\text{ m}$ 、深さ $0.52\text{ m}$ 、P 3が平面 $0.30\text{ m} \times 0.30\text{ m}$ 、深さ $0.60\text{ m}$ 、P 4が平面 $0.37\text{ m} \times 0.35\text{ m}$ 、深さ $0.53\text{ m}$ を測る。これらのピットはA s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色土により埋没しており、主柱穴と想定され、柱痕はP 1で確認されている。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・H r - F A・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、埋没土の上位（11～14層）ではH r - F Aの混入が多く見られるが、それ以下の層からはH r - F Aの混入を観察することができなかった。このため、H r - F A降下時に本住居跡は埋まりきっておらず、窪地状となっていたものと想定される。H r - F Aの一次堆積層の残存が見られない理由として、H r - F A降下後に耕作等による地面の攪拌がなされていたことが推測される。遺物出土状態：P 4周辺の床面直上に集中する傾向にある。時期：3世紀後半と想定される。

#### H -49号住居跡（遺構：Fig. 24、PL. 6／遺物：Fig. 62、Tab. 9、PL. 22）

位置：X : 156、Y : 109 グリッド。主軸方位：N  $-50^\circ$  - W。重複：H -41・44号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H -41・44号溝より古い。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模： $\langle 2.50 \rangle \text{ m} \times \langle 2.14 \rangle \text{ m}$ 。残存深度：0.30 m。面積： $\langle 5.35 \rangle \text{ m}^2$ 。床面の状態：多少の凸凹が見られ、住居跡中央あたりがやや高まる。壁周溝は見られない。炉跡：検出部分においては、確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面直上で少數の土器が確認されている。時期：4世紀後半と想定される。

#### H -50号住居跡（遺構：Fig. 24、PL. 6／遺物：Fig. 62・63、Tab. 9、PL. 22）

位置：X : 156、Y : 112・113 グリッド。主軸方位：N  $-72^\circ$  - W。重複：H -51・57号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H -51・57号住居跡より新しい。形状：長方形状を呈するものと想定される。規模： $\langle 4.14 \rangle \text{ m} \times 2.60 \text{ m}$ 。残存深度：0.30 m。面積： $\langle 10.76 \rangle \text{ m}^2$ 。床面の状態：多少の凸凹が見られ、壁面付近がやや窪む。壁周溝は見られない。カマド：住居跡の東壁に付設されており、全長 $0.76\text{ m}$ ・最大幅 $0.40\text{ m}$ ・燃焼部幅 $0.37\text{ m}$ ・主軸方位N  $-77^\circ$  - Wを測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む暗褐色・暗灰色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ローム粒・白色粘土を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。埋没土中には、焼土・炭化物が全体的に見られることから、焼失住居と考えられる。遺物出土状態：カマド周辺の床面直上に集中する傾向にある。時期：9世紀後半と想定される。

#### H -51号住居跡（遺構：Fig. 25、PL. 6／遺物：Fig. 63、Tab. 9、PL. 22）

位置：X : 156、Y : 113 グリッド。主軸方位：N  $-55^\circ$  - E。重複：H -45・50・57・58号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H -57号住居跡より新しく、H -45・50・58号住居跡より古い。形状：長方形状を呈する。規模： $3.21\text{ m} \times 2.70\text{ m}$ 。残存深度：0.25 m。面積： $8.67\text{ m}^2$ 。床面の状態：多少の凸凹が見られ、中央付近がやや高まる。壁周溝は、見られない。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長 $0.39\text{ m}$ 。

m・最大幅〈0.21〉m・燃焼部幅〈0.14〉m・主軸方位N-44°-Eを測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がる。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：観察漏れ。遺物出土状態：全体的に散在する状態で出土している。時期：6世紀後半と想定される。

#### H-52号住居跡（遺構：Fig. 25・26、P L. 6・7／遺物：Fig. 63、Tab. 10、P L. 22）

位置：X：164・165、Y：110 グリッド。主軸方位：N-67°-E。重複：H-53・64号住居跡、D-57号土坑と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-53・64号住居跡、D-57号土坑より古い。形状：不整正方形形状を呈する。規模：3.40 m × 3.32 m。残存深度：0.54 m。面積：11.29 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、住居跡南壁で一部確認されている。カマド：住居跡の東壁ほぼ中央に付設されており、全長1.38 m・最大幅0.52 m・燃焼部幅0.50 m・主軸方位N-68°-Eを測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部がテラス状の段差を持ちながら鋭角に立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む暗褐色・暗灰色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に1基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面0.40 m × 0.36 m、深さ0.29 mを測り、A s-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土により埋没している。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：床面直上からの遺物が散在する状態で出土している。時期：6世紀後半と想定される。

#### H-53号住居跡（遺構：Fig. 26・27、P L. 7／遺物：Fig. 63、Tab. 10、P L. 23）

位置：X：165、Y：109・110 グリッド。主軸方位：N-68°-W。重複：H-36・40・52・67号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-40・52・67号住居跡より新しく、H-36号住居跡より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模：3.50 m × 〈2.09〉m。残存深度：0.32 m。面積：〈7.32〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、西壁付近がやや高まる。壁周溝は見られない。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長0.70 m・最大幅〈0.48〉m・燃焼部幅〈0.31〉m・主軸方位N-75°-Wを測る。横位断面形状は「U」字状を呈するものと想定され、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・褐色・灰黄褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s-C・H r-F A・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から散在して出土している。時期：11世紀前半と想定される。

#### H-54号住居跡（遺構：Fig. 27、P L. 7／遺物：Fig. 64、Tab. 10、P L. 23）

位置：X：168・169・158、Y：110・111・112 グリッド。主軸方位：N-68°-E。重複：H-87号住居跡、W-2・6・9・25号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-87号住居跡より新しく、W-2・6・9・25号溝より古い。形状：長方形形状を呈するものと想定される。規模：〈5.13〉m × 3.38 m。残存深度：0.44 m。面積：〈17.34〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、北壁西半・西壁南側

を除き、検出範囲内は確認できている。カマド：確認されていない。なお、住居跡北側中央の床面には 0.60 m × 0.57 m の隅丸方形形状に広がる炭化物が見られるが、炭化物の下には焼土等を確認するには至っていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から散在して出土している。時期：7世紀前半と想定される。

#### H-55号住居跡（遺構：Fig. 28、P L. 7／遺物：Fig. 64、Tab. 10・11、P L. 23）

位置：X : 164、Y : 109 グリッド。主軸方位：N -88° - W。重複：H-40号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-40号住居跡より新しい。形状：方形形状を呈する。規模：2.92 m × 2.83 m。残存深度：0.24 m。面積： $\langle 8.26 \rangle$  m<sup>2</sup>。床面の状態：遺構確認時には床面のほとんどが壊されている状態であったため、掘り方のみの検出とした。掘り方の床面は凹凸が激しく、住居跡北西・南・南東側が窪む状態にある。カマド：住居跡の南東コーナーに付設されており、全長 0.71 m・最大幅 0.53 m・燃焼部幅 0.48 m・主軸方位 N -55° - W を測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・灰を含む暗褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として礫が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に 1 基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面 0.55 m × 0.47 m、深さ 0.48 m を測り、A s - C・ローム粒・炭化粒が混入する黒褐色の土により埋没している。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：カマド内及び周辺からの出土が目立つ。掘り方内から出土も数点見られる。1～4 の須恵器碗は紛れ込みの可能性を有する。時期：11世紀前半と想定されるが、9世紀第4四半期と想定される遺物の流入が見られる。

#### H-56号住居跡（遺構：Fig. 28・29、P L. 7／遺物：Fig. 64、Tab. 11、P L. 23）

位置：X : 159、Y : 112・113 グリッド。主軸方位：N -38° - E。重複：W-17・23号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-17号溝より新しく、W-23号溝より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模：2.75 m ×  $\langle 2.28 \rangle$  m。残存深度：0.13 m。面積： $\langle 6.27 \rangle$  m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。カマド：住居跡の東壁に付設されており、全長 1.34 m・最大幅 0.64 m・燃焼部幅 0.64 m・主軸方位 N -52° - E を測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・瓦・土器片・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：観察漏れのため不明。遺物出土状態：カマド袖内からの出土が見られる。構築材として使用されていたものと想定される。時期：平安時代と想定される。

#### H-57号住居跡（遺構：Fig. 29／遺物：Fig. 64、Tab. 11、P L. 23）

位置：X : 155・15、Y : 112・113 グリッド。主軸方位：N -32° - W。重複：H-50・51号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-50・51号住居跡より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模： $(4.10)$  m ×  $\langle 1.87 \rangle$  m。残存深度：0.18 m。面積： $\langle 7.67 \rangle$  m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、北・東壁で一部確認されている。炉跡：検出範囲内においては確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・

ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - Cを多量に含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から散在して出土している。時期：4世紀代と想定される。

#### H -58 号住居跡（遺構：Fig. 29）

位置：X：156、Y：113 グリッド。主軸方位：N -68° - E。重複：H -51 号住居跡と重複し、埋没土層の観察から本住居跡は、H -51 号住居跡より新しい。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈0.75〉m × 〈0.54〉m。残存深度：0.17 m。面積：〈0.41〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は確認されていない。カマド：検出範囲内においては確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られなかった。時期：H -51 号住居跡との新旧関係から6世紀後半以降と想定される。

#### H -59 号住居跡（遺構：Fig. 29・30、P L. 8）

位置：X：164・165、Y：108 グリッド。主軸方位：N -85° - E。重複：重複は見られない。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：3.94 m × 〈1.32〉m。残存深度：0.28 m。面積：〈5.21〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は見られない。カマド：住居跡の南東コーナーに付設されており、全長 0.96 m・最大幅 0.61 m・燃焼部幅 0.53 m・主軸方位 N -80° - W を測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られなかった。時期：カマドの付設される位置から平安時代と推測される。

#### H -60 号住居跡（遺構：Fig. 30、P L. 8／遺物：Fig. 65・66、Tab. 11、P L. 23・24）

位置：X：158、Y：112・113 グリッド。主軸方位：N -90°。重複：H -61 号住居跡、W -17 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H -61 号住居跡、W -17 号溝より新しい。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈3.40〉m × 2.66 m。残存深度：0.27 m。面積：〈9.04〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、北西から南東方向へ向けて低く傾斜する。これは、住居跡南東半がW -17 号溝と重複し、同溝埋没後に本住居跡が構築されたため、軟らかいW -17 号溝の埋没土が沈下したためと考えられる。検出部分に限るが、壁周溝はカマド部分を除き全周する。カマド：住居跡の東壁に付設されており、全長 〈0.37〉m・最大幅 0.30 m・燃焼部幅 0.30 m・主軸方位 N - 0° を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s - C・焼土・炭化粒・灰を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。両袖の構築材として川原石が使用されているほか、カマド前面に凝灰岩が散在することから、同凝灰岩も構築材として使用されていたものと想定される。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド前面の床面直上に集中する傾向にある。時期：10世紀前半と想定される。

#### H-61号住居跡（遺構：Fig. 31、P L. 8）

**位置：**X : 158・159、Y : 112 グリッド。**主軸方位：**N -84° - W。**重複：**H-60号住居跡、W-17・23号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-17号溝より新しく、H-60号住居跡、W-23号溝より古い。**形状：**方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模：**〈3.79〉 m × 〈1.80〉 m。**残存深度：**0.14 m。**面積：**〈6.82〉 m<sup>2</sup>。**床面の状態：**多少の凸凹が見られ、西壁周辺に浅い窪みが見られる。壁周溝は見られない。**カマド：**検出範囲内においては確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**貼床：**A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s - C・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**7世紀初頭～10世紀前半に帰属するものと想定される。

#### H-62号住居跡（遺構：Fig. 31、P L. 8）

**位置：**X : 160・161、Y : 113・114 グリッド。**主軸方位：**N -84° - W。**重複：**H-70号住居跡、D-31号土坑、W-24号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-70号住居跡より新しく、D-31号土坑、W-24号溝より古い。**形状：**方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模：**3.21 m × 〈2.42〉 m。**残存深度：**0.42 m。**面積：**〈7.77〉 m<sup>2</sup>。**床面の状態：**多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、見られない。**カマド：**検出範囲内においては確認されていない。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**確認されていない。**貼床：**A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s - C・ローム粒・焼土を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**遺物の出土は見られない。**時期：**重複遺構との新旧関係から7世紀初頭～10世紀前半と想定される。

#### H-63号住居跡（遺構：Fig. 32、P L. 8／遺物：Fig. 66・67、Tab. 11・12、P L. 24・25）

**位置：**X : 162・163、Y : 109・110 グリッド。**主軸方位：**N -85° - W。**重複：**W-27号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-27号溝より新しい。**規模：**4.92 m × 3.45 m。**残存深度：**0.43 m。**面積：**16.97 m<sup>2</sup>。**床面の状態：**多少の凸凹が見られ、住居跡の北側がやや高まる状態にある。壁周溝は、東壁北半で確認されている。**カマド：**住居跡の南東コーナーに付設されており、全長 1.14 m・最大幅 0.86 m・燃焼部幅 0.86 m・主軸方位 N -68° - W を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面はテラス状の段差を持ちながら鋭角に立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面とほぼ同じ高さである。構築材として川原石・白色粘土が使用されている。**貯蔵穴：**確認されていない。**柱穴：**推定範囲内に 2 基のピット及び土坑 1 基が確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.80 m × 0.40 m、深さ 0.35 m、P 2 が平面 (0.70) m × 0.65 m、深さ 36 m、D 1 は不整長方形状を呈し、平面 1.97 m × 1.47 m、深さ 0.15 m を測る。ピットは A s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土により埋没しており、P 1 で柱痕が確認されている。土坑は A s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土により埋没している。**貼床：**A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態：**A s - C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態：**カマド及び西壁周辺、ピット内からの出土が目立つ。ピット以外からの出土遺物のほとんどは床面直上での確認となっている。**時期：**11世紀前半と想定される。

#### H-64号住居跡（遺構：Fig. 33、P L. 9／遺物：Fig. 67、Tab. 12、P L. 25）

**位置：**X : 164・165、Y : 110・111 グリッド。**主軸方位：**N -70° - W。**重複：**H-52・65号住居跡、D-30・

50・53・57号土坑、W-27号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-52・65号住居跡、D-30・50・53・57号土坑、W-27号溝より新しい。形状：隅丸方形状を呈するものと想定される。規模：3.95m×3.70m。残存深度：0.20m。面積：(14.62)m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は見られない。カマド：住居跡の東壁やや南寄りに付設されており、全長0.77m・最大幅1.04m・燃焼部幅0.68m・主軸方位N-56°-Wを測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部がほぼ直角に立ち上がり、As-C・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：As-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：As-C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド周辺に集中する傾向にある。被熱を受けた瓦の出土も見られることから、カマドの構築材として利用されていたものと想定される。時期：11世紀後半と想定される。

H-65号住居跡（遺構：Fig.33～35、PL. 9／遺物：Fig.68、Tab.12、PL. 25・26）  
位置：X：165・166、Y：111・112グリッド。主軸方位：N-2°-W。重複：H-64号住居跡、T-8号竪穴状遺構、D-28・53・75号土坑、W-2・6号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、D-53号土坑より新しく、H-64号住居跡、T-8号竪穴状遺構、D-28・75号土坑、W-2・6号溝より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模：6.15m×〈4.57〉m。残存深度：0.65m。面積：〈28.11〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや窪む。壁周溝は、東壁でのみ確認されている。カマド：住居跡の北壁やや東寄りに付設されており、全長0.64m・最大幅0.45m・燃焼部幅0.45m・主軸方位N-4°-Wを測る。横位断面形状は箱状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、As-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・暗灰色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として白色粘土が使用されている。貯蔵穴：住居跡北東コーナーで確認されている。規模は0.86m×0.80m、深さ0.19mを測り、長方形形状を呈する。埋没土はAs-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色の土となっている。貯蔵穴の西及び南側はテラス状に高まる。柱穴：推定範囲内に5基のピット・1基の土坑が確認されている。各ピットの規模は、P1が平面0.43m×0.39m、深さ0.61m、P2が平面0.50m×0.50m、深さ49m、P3が平面0.49m×0.37m、深さ61m、P4が平面0.40m×0.39m、深さ58m、P5が平面0.35m×0.31m、深さ0.23mを測る。これらのピットはAs-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土により埋没しており、P1～P4が主柱穴と考えられる。なお、柱痕がP1で確認されている。土坑（D1）は平面1.20m×0.98m、深さ0.22mを測る。形状は不整長方形を呈し、As-C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色の土により埋没している。貼床：As-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態：As-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：住居跡中央からカマド周辺にかけて集中する傾向にある。出土する高さは、カマド周辺が床面直上、住居跡中央付近が床面から5～15cm浮いた状態である。また、埋没土中より長さ7.9cm、幅6.0cm、厚さ2.1cmの滑石が出土しており、石製模造品等の素材と推測される。時期：6世紀中頃と想定される。

H-67号住居跡（遺構：Fig.35、PL. 7／遺物：Fig.68、Tab.12・13、PL. 26）  
位置：X：165・166、Y：109・110グリッド。主軸方位：N-84°-W。重複：H-32・36・53号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-32号住居跡より新しく、H-36・53号住居跡より古い。形状：

方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模:  $\langle 2.58 \rangle \text{ m} \times \langle 1.32 \rangle \text{ m}$ 。残存深度: 0.35 m。面積:  $\langle 3.41 \rangle \text{ m}^2$ 。  
床面の状態: 少分の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや高まる。壁周溝は見られない。カマド: 住居跡北ないし東壁に付設されていたものと推測されるが、確認できなかった。貯蔵穴: 確認されていない。柱穴: 確認されていない。貼床: A s - C・ロームブロック・ローム粒・焼土を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。遺構埋没状態: A s - C・H r - F A・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態: 埋没土中に散在する状態で出土している。時期: 10世紀後半と想定される。

#### H-69号住居跡（遺構: Fig. 36・37、P L. 9／遺物: Fig. 68・69、Tab. 13、P L. 26）

位置: X : 160・161・162、Y : 111・112・113 グリッド。主軸方位: N -31° - W。重複: T - 9号堅穴状遺構、W - 2・16・19号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、T - 9号堅穴状遺構、W - 2・19・16号溝より古い。形状: 方形形状を呈する。規模: 6.79 m × 6.22 m。残存深度: 0.78 m。面積: 42.23 m<sup>2</sup>。床面の状態: 少分の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、北及び東壁で確認されている。炉跡: P 2・P 4間で確認されており、0.89 m × 0.71 m、深さ 0.06 m の楕円形状を呈する。炉跡の中央には長さ 0.19 m、幅 0.09 m の枕石（川原石）が置かれており、A s - C・ローム粒・炭化粒が混入する黒褐色土で埋没している。枕石南側の炉底はやや焼土化している。貯蔵穴: 住居跡南西コーナー付近で確認されている。規模は 0.65 m × 0.50 m、深さ 0.34 m を測り、隅丸方形形状を呈する。埋没土は A s - C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土で埋没している。柱穴: 推定範囲内に 8基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.63 m × 0.56 m、深さ 0.50 m、P 2 が平面 0.35 m × 0.34 m、深さ 0.61 m、P 3 が平面 0.36 m × 0.35 m、深さ 0.72 m、P 4 が平面 0.30 m × 0.27 m、深さ 0.50 m、P 5 が平面 0.25 m × 0.25 m、深さ 0.44、P 6 が平面 0.25 m × 0.25 m、深さ 0.24 m、P 7 が平面 0.27 m × 0.24 m、深さ 0.22 m、P 8 が平面 0.11 m × 0.10 m、深さ 0.09 m を測る。主柱穴は P 2～P 5 と推測され、A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色・ぶい黄褐色土により埋没している。なお、柱痕は P 2 で確認されている。P 1 は貯蔵穴と対角線上の位置にあり、平面楕円形状を呈している。A s - C・ロームブロック・ローム粒の混入する黒褐色土で埋没しており、規模や貯蔵穴との位置関係から、貯蔵穴として機能していた可能性が考えられる。P 6・7に関しては、掘り込みの深度が他の柱穴より浅い状態にある。出入口施設の一環としての構築物とも考えられる。貼床: A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態: A s - C・H r - F A・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。なお、埋没土の上位（2～4層）では H r - F A の混入が多く見られるが、それ以下の層からは H r - F A の混入を観察することができなかった。このため、H r - F A 降下時に本住居跡は埋まりきっておらず、窪地状となっていたものと想定される。H r - F A の一次堆積層の残存が見られない理由として、H r - F A 降下後に耕作等による地面の搅拌がなされていたことが推測される。遺物出土状態: 1・2以外の遺物はほぼ床面直上からの出土で、埋没土中からの出土は極めて少ない。1の土器は2の土器内に入れ子状に納まっていた。床面直上より出土した土器は、土圧で押しつぶされたような状態で出土している。時期: 4世紀前半と想定される。

#### H-70号住居跡（遺構: Fig. 31、P L. 10）

位置: X : 160、Y : 113・114 グリッド。主軸方位: N -82° - W。重複: W -22・24号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W -22・24号溝より古い。形状: 方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模:  $\langle 1.86 \rangle \text{ m} \times \langle 1.58 \rangle \text{ m}$ 。残存深度: 0.45 m。面積:  $\langle 2.94 \rangle \text{ m}^2$ 。床面の状態: 少分の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は見られない。炉跡: 円形状（0.22 m × 0.21 m）に炭化物及び焼土が床面直上より確認されている部分が見られ、同部分が炉跡と考えられる。貯蔵穴: 確認されていない。柱穴: 確認されていない。

い。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、A s - Cの混入量は比較的多い。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土層の状態が古墳時代前期の埋没土（A s - Cの混入量が多く、黒褐色土主体の土）と類似することや炉跡状の炭化物及び焼土が残ることから古墳時代前期と想定される。

#### H-72号住居跡（遺構：Fig. 37）

位置：X : 162、Y : 113・114 グリッド。主軸方位：N -73° - E。重複：H-73・79号住居跡、W-2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-73・79号住居跡より新しく、W-2号溝より古い。形状：長方形形状を呈するものと想定される。規模：〈3.40〉 m × 〈2.10〉 m。残存深度：0.19 m。面積：〈7.14〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、壁面近くがやや低くなる。壁周溝は見られない。カマド：検出範囲内においては確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：H-73号住居跡との新旧関係から10世紀後半以降と想定される。

#### H-73号住居跡（遺構：Fig. 37・38、P L. 10／遺物：Fig. 69、Tab. 13、P L. 27）

位置：X : 162・163、Y : 113 グリッド。主軸方位：N -55° - E。重複：H-72・79号住居跡、W-2号溝穴と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-79号住居跡より新しく、H-72号住居跡、W-2号溝より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模：3.24 m × 〈2.50〉 m。残存深度：0.18 m。面積：〈8.10〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られ、住居跡中央付近がやや窪む。カマド：住居跡の南東コーナーに付設されており、全長0.80 m・最大幅0.68 m・燃焼部幅0.43 m・主軸方位N -58° - Wを測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド周辺に集中する傾向にある。時期：10世紀後半と想定される。

#### H-79号住居跡（遺構：Fig. 38、P L. 10／遺物：Fig. 70、Tab. 13、P L. 27）

位置：X : 162・163、Y : 113 グリッド。主軸方位：N -43° - W。重複：H-72・73・80号住居跡、W-2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-72・73・80号住居跡、W-2号溝より古い。形状：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。規模：〈4.77〉 m × 4.58 m。残存深度：0.30 m。面積：〈21.85〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は検出部分に限るが、南西壁の北半を除き全周する。カマド：確認されていない。かまどはW-2号溝により壊されたものと考えられるが、残存する貯蔵穴の位置から北西壁に付設されていたものと推測される。貯蔵穴：住居跡北コーナーに置かれているものと想定され、規模は0.76 m × 0.74 m、深さ0.14 mを測り、円形状を呈する。柱穴：推定範囲内に6基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1が平面0.40 m × 0.39 m、深さ0.33 m、P 2が平面0.34 m × 0.24 m、深さ42 m、P 3が平面0.30 m × 0.28 m、深さ0.20 m、P 4が平面0.38 m × 0.35 m、深さ40 m、P 5が平面0.13 m × 0.12 m、深さ0.04 m、P 6が平面0.28 m × 0.18 m、深さ0.10 mを測る。これらのピットはA s

—C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色の土により埋没しており、P 1～P 4 が主柱穴と考えられる。なお、柱痕が P 1 で確認されている。また、P 5・6 は住居跡内での位置関係上、出入口施設に関するピットの可能性を含むものである。**貼床**：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する暗褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s-C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色・暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中に散在する状態にある。**時期**：7世紀前半と想定される。

#### H-80号住居跡（遺構：Fig. 39、PL. 10）

**位置**：X : 163・164、Y : 113 グリッド。**主軸方位**：N -73° - W。**重複**：H-79・81号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-79号住居跡より新しく、H-81号住居跡より古い。**形状**：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 4.14 \rangle \text{ m} \times \langle 2.48 \rangle \text{ m}$ 。**残存深度**：0.25 m。**面積**： $\langle 10.27 \rangle \text{ m}^2$ 。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は北壁で確認されている。**カマド**：検出範囲内においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。**貼床**：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s-C・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：住居跡西側の床面直上に散在する状態で出土している。**時期**：重複遺構との新旧関係から7世紀前半～10世紀前半と想定される。

#### H-81号住居跡（遺構：Fig. 39、PL. 10／遺物：Fig. 70・71、Tab. 14、PL. 27・28）

**位置**：X : 163・164、Y : 113 グリッド。**主軸方位**：N -88° - W。**重複**：H-80号住居跡、W-2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-80号住居跡より新しく、W-2号溝より古い。**形状**：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**： $3.25 \text{ m} \times \langle 3.10 \rangle \text{ m}$ 。**残存深度**：0.18 m。**面積**： $\langle 10.08 \rangle \text{ m}^2$ 。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は見られない。**カマド**：住居跡の東壁に付設されており、全長 1.69 m・最大幅  $\langle 0.52 \rangle \text{ m}$ ・燃焼部幅  $\langle 0.45 \rangle \text{ m}$ ・主軸方位 N -85° - E を測る。横位断面形状は皿状、縦位断面は煙道部が緩やかに立ち上がり、A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・灰を含む黒褐色・暗褐色・暗灰色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・瓦・白色粘土が使用されている。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：確認されていない。なお、住居跡の床面下には 2 基の土坑が確認されており、D 1 は平面  $0.87 \text{ m} \times 0.64 \text{ m}$ 、深さ 0.14 m の楕円形状を呈する土坑で、A s-C・ロームブロックを含む黒褐色土で埋没している。D 2 は平面  $1.25 \text{ m} \times 0.80 \text{ m}$ 、深さ 0.23 m の隅丸長方形状を呈する土坑で、A s-C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色土で埋没している。**貼床**：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。**遺構埋没状態**：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド内に集中する状態で出土している。**時期**：10世紀前半と想定される。

#### H-82号住居跡（遺構：Fig. 40、PL. 10／遺物：Fig. 71、Tab. 14、PL. 27）

**位置**：X : 164、Y : 112 グリッド。**主軸方位**：N -73° - W。**重複**：W-2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、W-2号溝より古い。**形状**：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 3.09 \rangle \text{ m} \times \langle 1.50 \rangle \text{ m}$ 。**残存深度**：0.34 m。**面積**： $\langle 4.64 \rangle \text{ m}^2$ 。**床面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は北壁で確認されている。**カマド**：検出範囲内においては確認されていない。**貯蔵穴**：確認されていない。**柱穴**：推定範囲内に 2 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面  $0.94 \text{ m} \times 0.64 \text{ m}$ 、深さ 0.27 m、P 2 が平面  $0.74 \text{ m} \times 0.65 \text{ m}$ 、深さ 0.37 m を測る。これらのピットは A s-C・ロームブロック・

ローム粒が混入する黒褐色の土により埋没している。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：P 1 埋没土中からの出土が見られる。時期：11世紀前半と想定される。

#### H-83号住居跡（遺構：Fig. 40、PL. 11／遺物：Fig. 71・72、Tab. 14、PL. 28）

位置：X：163・164、Y：111・112 グリッド。主軸方位：N -78° - W。重複：T - 9号竪穴状遺構、W - 2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、T - 9号竪穴状遺構より新しく、W - 2号溝より古い。形状：長方形状を呈するものと想定される。規模：3.30 m × 〈3.17〉 m。残存深度：0.29 m。面積：〈10.46〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は西壁及び北壁の一部で確認されている。カマド：住居跡の東壁に付設されており、全長 1.42 m・最大幅 0.74 m・燃焼部幅 0.60 m・主軸方位 N -58° - W を測る。横位断面形状は「U」字状、縦位断面は煙道部が鋭角に立ち上がり、A s - C・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色を主体とした土により埋没している。焚き口は住居跡床面よりもやや窪む状態にある。構築材として川原石・白色粘土が使用されている。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド内からの出土が目立つ。カマド以外からの出土遺物は床面直上での確認となっている。時期：10世紀前半と想定される。

#### H-84号住居跡（遺構：Fig. 41、PL. 11／遺物：Fig. 72、Tab. 14、PL. 28）

位置：X：166・167、Y：113 グリッド。主軸方位：N -53° - E。重複：H-85号住居跡、W - 2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-85号住居跡・W - 2号溝より古い。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈4.18〉 m × 〈2.44〉 m。残存深度：0.56 m。面積：〈10.20〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は、北東及び北西壁の一部で確認されている。カマド：検出範囲内においては確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：確認されていない。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土を含む黒褐色・暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中及び床面直上に散在する状態で出土している。時期：7世紀中頃と想定される。

#### H-85号住居跡（遺構：Fig. 41、PL. 11／遺物：Fig. 72、Tab. 14、PL. 28）

位置：X：167、Y：113 グリッド。主軸方位：N -53° - E。重複：H-84号住居跡と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-84号住居跡より新しい。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：2.56 m × 〈1.66〉 m。残存深度：0.68 m。面積：〈4.25〉 m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は見られない。カマド：検出範囲内においては確認されていない。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に1基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面 0.45 m × 0.39 m、深さ 0.20 m を測り、A s - C・ローム粒が混入する黒褐色の土により埋没している。貼床：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C・ロームブロック・ローム粒・焼土・白色粘土を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土上位からの出土となっている。時期：7世紀中頃と想定される。

H-87号住居跡（遺構：Fig. 42、P L. 11／遺物：Fig. 72、Tab. 15、P L. 28）

位置：X:167・168、Y:111・112 グリッド。主軸方位：N - 2° - W。重複：H-54号住居跡、W-2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本住居跡は、H-54号住居跡、W-2号溝より古い。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈4.60〉m × 〈3.97〉m。残存深度：0.56 m。面積：〈18.26〉m<sup>2</sup>。床面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。壁周溝は住居跡北西コーナー付近で確認されている。炉跡：P 1・P 3間で確認されており、0.65 m × 0.65 m、深さ 0.08 m の円形状を呈する。貯蔵穴：確認されていない。柱穴：推定範囲内に 5 基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1 が平面 0.45 m × 0.40 m、深さ 0.58 m、P 2 が平面 0.28 m × 0.25 m、深さ 0.43 m、P 3 が平面 0.32 m × 0.28 m、深さ 0.61 m、P 4 が平面 0.23 m × 0.23 m、深さ 0.31 m、P 5 が平面 0.50 m × 0.31 m、深さ 0.20 m を測る。これらのピットは A s - C ・ ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色・暗褐色ないしにぶい黄褐色の土により埋没しており、P 1～P 4 が主柱穴と考えられる。なお、P 5 は主柱穴との位置関係から出入口施設に伴うピットと推測される。貼床：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒を含み、しまりを有する黒褐色土により構築されている。遺構埋没状態：A s - C ・ ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中に散在する状態で出土している。時期：4世紀前半と想定される。

### 3 溝

W-2号溝（遺構：Fig. 43・44、P L. 11／遺物：Fig. 72・73、Tab. 15、P L. 28）

位置：X : 158 ~ 181、Y : 108 ~ 115 グリッド。主軸方位：東から西へ向けて N -78° - W → N -89° - E → N -17° - W。重複：H - 4 • 18 • 54 • 65 • 69 • 73 • 74 • 79 • 81 • 82 • 83 • 84 • 87 • 88 • 91 • 92 • 93 • 95 • 96 • 98 号住居跡、T - 4 • 8 • 9 号堅穴状遺構、D - 40 • 46 • 48 • 49 • 55 • 74 号土坑、W - 14 • 17 • 18 • 20 • 22 • 23 • 24 • 29 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は H - 4 • 18 • 54 • 65 • 69 • 73 • 74 • 79 • 81 • 82 • 83 • 84 • 87 • 88 • 91 • 92 • 93 • 95 • 96 • 98 号住居跡、T - 4 • 8 • 9 号堅穴状遺構、D - 40 • 46 • 48 • 49 • 55 • 74 号土坑、W - 17 • 24 • 29 号溝より新しい。W - 14 • 18 • 20 • 23 • 22 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 3.01 m ~ 4.45 m、下端幅 1.46 m ~ 2.90 m。残存深度：1.08 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：平坦に保たれているが、西側においては、底面端部が輻状に窪む。底面の標高は西から東に向けて減ずる状態にある。遺構埋没状態：A s - B • A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土・砂粒を含む暗褐色・暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、砂粒の混入が顕著に見られることから、洪水により埋没したものと推測される。遺物出土状態：埋没土中から陶器・古銭・獸骨等の出土が見られる。時期：15世紀前半と想定される。

W-3・15号溝（遺構：Fig. 42・43／遺物：Fig. 73、Tab. 15・16、P L. 29）

位置：X : 168 ~ 182、Y : 107 ~ 117 グリッド。主軸方位：東から西へ向けて N -60° - W → N -28° - W。重複：H - 17 • 31 • 34 • 35 • 74 • 86 • 88 • 91 • 92 • 93 • 98 号住居跡、D - 9 • 26 • 39 • 62 (B - 2号掘立柱建物跡) • 63 (B - 2号掘立柱建物跡) • 64 • 66 号土坑、W - 2 • 5 • 6 • 11 • 13 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から、本溝は H - 17 • 31 • 34 • 35 • 74 • 86 • 88 • 91 • 92 • 93 • 98 号住居跡、D - 26 • 39 • 62 (B - 2号掘立柱建物跡) • 63 (B - 2号掘立柱建物跡) • 64 • 66 号土坑、W - 13 号溝より新しく、D - 9 号土坑、W - 2 • 5 • 6 • 11 号溝より古い。規模：上端幅 1.04 m ~ 4.92 m、下端幅 0.75 m ~ 4.30 m。残存深度：0.48 m。断面形態：不整形な皿状を呈する。底面の状態：凸凹が顕著に見られ、底面の標高は北西から南東に向けて減ずる状態にある。人工的に築かれた溝ではなく、洪水等による急激な水の流れによって作り出されたものと想定される。遺構埋没状態：少なくとも 5 度におよぶ洪水の痕跡が埋没土中で認められる。埋没土中には、A s - C ・ ロームブロック

ク・ローム粒・焼土・炭化粒・灰・白色粘土・砂粒・小礫・鉄分を含む黒褐色・暗褐色・暗灰色を主体とした土による自然埋没（洪水による）と想定される。なお、5度におよぶ洪水のうち新しい洪水（4・5回目）の埋没土にはA s-Bが含まれる。**遺物出土状態**：埋没土中から古墳時代～平安時代の遺物が多量に出土している。**時期**：最初の洪水は10世紀後半～A s-B降下までの間に起こったものと想定される。

#### W-6号溝

**位置**：X：169～175、Y：111・112 グリッド。**主軸方位**：東から西へ向けてN-74°-W → N-81°-W。なお、本溝はW-2・5号溝と並走する関係にある。**重複**：H-54・65・86・88・91・92・93・94・96号住居跡、D-51号土坑、B-2号掘立柱建物跡（D-62号土坑）、W-7・15号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-54・65・86・88・91・92・93・94・96号住居跡、D-51号土坑、B-2号掘立柱建物跡（D-62号土坑）、W-15号溝より新しく、W-7号溝より古い。**規模**：上端幅0.40m～1.00m、下端幅0.20m～0.78m。**残存深度**：0.20m。**断面形態**：皿状を呈する。**底面の状態**：比較的なだらかで、底面の標高は西から東に向けて減ずる状態にある。**遺構埋没状態**：A s-B・A s-C・ローム粒・焼土を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：流れ込みと判断される古墳時代から平安時代の土器片が埋没土中から出土している。**時期**：埋没土中にA s-Bの一次堆積層が見られないことから、A s-B降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-9・11号溝（遺物：Fig. 73、Tab. 15、P L. 29）

※W-9号溝とW-11号溝は発掘調査段階で、別遺構として扱っていたが、戦利調査の段階で、同一遺構と判断した。

**位置**：X：167～170、Y：107～111 グリッド。**主軸方位**：W-9号溝（東西方向）：N-84°-W。W-11号溝（南北方向）：N-3°-E。**重複**：H-30・54・86・94号住居跡、W-5・15・25・28号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-30・54・86・94号住居跡、W-5・15・25・28号溝より新しい。**規模**：上端幅0.90m～1.46m、下端幅0.28m～1.04m。**残存深度**：0.35m。**断面形態**：逆台形状を呈する。**底面の状態**：比較的なだらかで、底面の標高は北から南、東から西に向けて減ずる状態にある。**遺構埋没状態**：A s-B・A s-C・ロームブロック・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：流れ込みと判断される古墳時代から平安時代の土器片等が埋没土中から出土している。**時期**：埋没土中にA s-Bの一次堆積層が見られないことから、A s-B降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-14号溝

**位置**：X：157・158、Y：108 グリッド。**主軸方位**：N-85°-W。**重複**：H-41号住居跡、W-2号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-41号住居跡より新しい。W-2号溝との新旧関係は不明。**規模**：上端幅0.69m～0.78m、下端幅0.45m～0.57m。**残存深度**：0.11m。**断面形態**：浅い皿状を呈する。**底面の状態**：比較的なだらかで、底面の標高は中央付近がやや窪む。**遺構埋没状態**：A s-B・A s-C・ローム粒を含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：埋没土中にA s-Bの一次堆積層が見られないことから、A s-B降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-16号溝

**位置**：X：162、Y：110・111 グリッド。**主軸方位**：N-2°-E。**重複**：H-69号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。**規模**：上端幅0.50m～0.60m、下端幅0.26m～0.37m。**残存深度**：0.23m。**断面形態**：逆台

形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は中央付近がやや高まる。遺構埋没状態：注記漏れのため不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：不明。

#### W-17号溝（遺構：Fig. 44・45、PL. 12／遺物：Fig. 74～77、Tab. 16・17、PL. 29～31）

位置：X：157～163、Y：108～114 グリッド。主軸方位：N-38°-E。重複：H-47・48・56・60・61号住居跡、W-2・18・19・23号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から、本溝はH-48号住居跡より新しく、H-47・56・60・61号住居跡、W-2・18・23号溝より古い。W-19号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅1.96m～3.07m、下端幅0.52m～0.81m。残存深度：1.45m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：平坦に保たれている。底面の標高はほぼ同レベルに保たれている。遺構埋没状態：10層の上位が硬化しているため、埋没途中で、道として機能を変容させていたものと想定される。なお、10層上位の硬化面は、部分的にではなく、溝全体から確認されている。本溝の構築当初から道へと変容するまでの埋没は、As-C-Hr-Fa・ローム粒・ロームブロック・焼土・炭化粒・砂粒が混入する黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。最下層である26・27層には砂粒の混入が顕著に見られることから、最下位は流水の影響を受けた埋没と考えられる。また、自然埋没ではあるものの、埋没土中にはロームブロックおよびHr-Faブロックの混入が見られる。この状態から、本溝脇に土壘状の構築物（溝掘削時に出た土によって構築されたもの）が存在していたものと推測される。道構築後の埋没は、As-C・ロームブロック・ローム粒が混入する黒褐色ないし暗褐色の土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：溝底面及び埋没土中位からの出土が見られる。溝中位からの遺物出土は埋没途中に投棄されたものと考えられる。なお、出土遺物は本溝が道として機能する以前のものと考えられる。時期：古墳時代後期（6世紀末～7世紀初頭）と想定される。

#### W-18号溝

位置：X：159・160、Y：108～111 グリッド。主軸方位：N-13°-W～N-41°-W。重複：H-48号住居跡、W-2・17号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-48号住居跡、W-17号溝より新しい。W-2号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅〈1.28〉m～〈2.02〉m、下端幅〈1.05〉m～〈1.68〉m。残存深度：0.27m。断面形態：中央付近が瘤状に高まる形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られる。遺構埋没状態：As-B・As-C・Hr-Fa・ローム粒・焼土を含む黒褐色・暗褐色・暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から人骨の出土が見られる。時期：埋没土中にAs-Bの一次堆積層が見られないことから、As-B降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-19号溝（遺構：Fig. 45）

位置：X：161～163、Y：108～111 グリッド。主軸方位：N-25°-E～N-42°-E。重複：H-69号住居跡、W-17号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-69号住居跡より新しい。W-17号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅0.73m～1.42m、下端幅0.35m～1.03m。残存深度：0.15m。断面形態：浅い皿状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高はほぼ同レベルに保たれている。遺構埋没状態：As-C・ローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土の状態から5世紀以降As-B降下以前と想定される。

#### W-20号溝

位置：X：157～159、Y：111・112 グリッド。主軸方位：N-54°-E～N-66°-E。重複：D-20号土坑、W-2・21号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はD-20号土坑、W-21号溝より新しい。W-2号溝との新旧関

係は不明。規模：上端幅 0.96 m～1.22 m、下端幅 0.60 m～0.78 m。残存深度：0.28 m。断面形態：皿状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は西から東に向けて減ずる状態にある。遺構埋没状態：埋没土中に A s-B を含む土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土中に A s-B の一次堆積層が見られないことから、A s-B 降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-21 号溝

位置：X：157・158、Y：111・112 グリッド。主軸方位：N-38°-E～N-51°-E。重複：W-20 号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝は W-20 号溝より古い。規模：上端幅 0.57 m～0.89 m、下端幅 0.43 m～0.54 m。残存深度：0.18 m。断面形態：箱状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は中央付近がやや窪む状態にある。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土の状態から A s-C 降下以降 A s-B 降下以前と想定される。

#### W-22 号溝

※本溝は 2 条の重複する溝で構成されており、それぞれ W-22 a 号溝・W-22 b 号溝と名称を付してある。

位置：X：160、Y：113・114 グリッド。主軸方位：N-13°-E。重複：H-70 号住居跡、W-2 号溝と重複し、埋没土層の観察から、W-22 a 号溝は H-70 号住居跡より新しい。W-2 号溝との新旧関係は不明。W-22 b 号溝は H-70 号住居跡より新しく、W-2 号溝より古い。なお、W-22 a 号溝が、W-22 b 号溝より新しい。規模：W-22 a 号溝：上端幅 0.77 m～0.91 m、下端幅 0.34 m～0.54 m。W-22 b 号溝：上端幅 <0.74> m～<0.80> m、下端幅 <0.53> m～<0.65> m。残存深度：W-22 a 号溝：0.61 m。W-22 b 号溝：0.39 m。断面形態：W-22 a 号溝は逆台形状、W-22 b 号溝は箱状を呈するものと想定される。底面の状態：両溝とも多少の凸凹が見られ、底面の標高は北から南へ向けて減ずる状態にある。遺構埋没状態：W-22 a 号溝は A s-B・A s-C・ローム粒・焼土・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没、W-22 b 号溝は A s-C・ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。なお、W-22 a 号溝の上位は硬くしまる状態にあることから、埋没途中の一段階で道として機能していたものと推測される。遺物出土状態：流れ込みと判断される古墳時代から中世の土器片等が埋没土中から出土している。時期：W-22 a 号溝は、埋没土中に A s-B の一次堆積層が見られないことから、A s-B 降下以降に帰属するものと想定される。W-22 b 号溝は、埋没土の状態から A s-C 降下以降 A s-B 降下以前と想定される。

#### W-23 号溝（遺物：Fig. 77、Tab. 17、PL. 31）

位置：X：159、Y：111～114 グリッド。主軸方位：N-1°-E～N-10°-E。重複：H-56・61 号住居跡、W-2・17 号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝は H-56・61 号住居跡、W-17 号溝より新しい。W-2 号溝との新旧関係は不明。規模：上端幅 0.80 m～1.05 m、下端幅 0.42 m～0.80 m。残存深度：0.44 m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は中央付近がやや窪む状態にある。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ローム粒・炭化粒・小礫を含む暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土中に A s-B の一次堆積層が見られないことから、A s-B 降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-24 号溝

位置：X：160・161、Y：113・114 グリッド。主軸方位：N-8°-E。重複：H-62・70 号住居跡、D-31 号土坑、

W-2号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-62・70号住居跡より新しく、D-31号土坑、W-2号溝より古い。規模：上端幅0.63m～0.67m、下端幅0.36m～0.40m。残存深度：0.24m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は北から南へ向けて減ずる状態にある。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：古墳時代前期～A s-B降下以前に帰属するものと想定される。

#### W-25号溝

位置：X：163～168、Y：110・111グリッド。主軸方位：N-83°-W。重複：H-38・52・54号住居跡、D-27・38号土坑、W-9・27号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はH-38・52・54号住居跡、W-27号溝より新しく、W-9号溝より古い。D-27・38号土坑との新旧関係は不明。規模：上端幅0.80m～1.21m、下端幅0.52m～0.75m。残存深度：0.17m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高は西から東へ向けて減ずる状態にある。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ローム粒を含む黒褐色・暗灰色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：埋没土中にA s-Bの一次堆積層が見られないことから、A s-B降下以降に帰属するものと想定される。

#### W-27号溝（遺物：Fig. 77、Tab. 17、P L. 31）

位置：X：163・164、Y：110グリッド。主軸方位：N-79°-W。重複：H-63・64号住居跡、W-25号溝と重複し、埋没土層と出土遺物の観察から、本溝はH-63・64号住居跡、W-25号溝より古い。規模：上端幅0.77m～1.25m、下端幅0.38m～1.05m。残存深度：0.25m。断面形態：皿状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高はほぼ同レベルに保たれている。東側半分には壁周溝状に細い溝（幅0.10m、深さ2cm程）が巡る。遺構埋没状態：A s-C・ローム粒・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中に数量の土器片が出土している。時期：10世紀後半から11世紀代に帰属するものと想定される。

#### W-28号溝

位置：X：167、Y：111グリッド。主軸方位：N-69°-E。重複：W-9号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はW-9号溝より古い。規模：上端幅0.49m～0.61m、下端幅0.23m～0.45m。残存深度：0.17m。断面形態：「U」字状を呈する。底面の状態：凸凹が顕著に見られる。遺構埋没状態：A s-C・H r-F A・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による人為埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：A s-C降下以降からA s-B降下以前と判断される。なお、埋没土中にH r-F Aが土壤化していない状態で残存していることなど、古墳時代前期の埋没土と類似する傾向にあることから、該期に帰属する可能性が高いものと想定される。

#### W-29号溝（遺構：Fig. 49）

位置：X：168、Y：113グリッド。主軸方位：N-24°-E。重複：T-5号竪穴状遺構、W-2号溝と重複し、埋没土層の観察から、本溝はT-5号竪穴状遺構、W-2号溝より古い。規模：上端幅1.33m～1.41m、下端幅1.03m～1.12m。残存深度：0.73m。断面形態：逆台形状を呈する。底面の状態：多少の凸凹が見られ、底面の標高はほぼ同レベルに保たれている。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロック・ローム粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：A s-C降下以降からA s-B降下以前に帰属するものと想定される。

#### 4 土坑 (遺構 : Fig. 9・20・22・25・31・33・34・45～47、P L. 12・13 / 遺物 : Fig. 77・78、Tab. 17・18、P L. 31・32)

本遺跡内において土坑は 26 基 (D -11～16・20～25・27～31・38・47・50・53・56・57・64・66・75 号土坑) 確認されている。このうち、特筆される土坑は D -15・25 号土坑で、D -15 号土坑は、埋没土中から中世に帰属するものと考えられる鉄製の轡・紡錘車が出土している。D -25 号土坑は、埋没土中から多量の鉄滓が出土しており鍛冶関連遺構と考えられるものである。

各土坑の計測値等は Tab. 2・3 に示してある。

Tab. 2 土坑一覧表

遺構名	グリット	規模 (m)	深さ (m)	平面形態	遺物	備考
D -11 号土坑	X 168、Y 110	1.60 × 1.18	0.42	不整形	—	黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - B ・ A s - C ・ ローム粒・炭化粒混入。
D -12 号土坑	X 156、Y 111	1.15 × 0.95	0.16	円形	—	D -13 号土坑と重複し本土坑が古い。暗褐色・暗灰色の埋没土に A s - B ・ A s - C ・ ローム粒混入。
D -13 号土坑	X 156、Y 111・112	1.65 × 1.40	0.22	円形	—	D -12 号土坑と重複し、本土坑が新しい。黒褐色の埋没土に A s - B ・ A s - C ・ ローム粒混入。
D -14 号土坑	X 155・156、Y 112	1.21 × 0.64	0.37	(正方形)	—	黒褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・焼土・炭化粒混入。
D -15 号土坑	X 156、Y 110	1.65 × 1.14	0.42	楕円形	鉄製轡・紡錘車	H -39 号住居跡、T - 3 号堅穴状遺構と重複し、H -39 号住居跡より新しく、T - 3 号堅穴状遺構より古い。黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・炭化粒混入。
D -16 号土坑	X 155、Y 111	1.23 × 0.45	0.38	(円形)	—	—
D -20 号土坑	X 157、Y 112・113	1.69 × 1.16	0.59	不整形	土師器坏・甕、須恵器坏、瓦	D -21 号土坑、W -20 号土坑と重複し、D -21 号土坑、W -20 号溝より古い。黒褐色の埋没土にローム粒・炭化粒混入。
D -21 号土坑	X 157、Y 112・113	1.49 × 1.14	0.78	楕円形	—	D -20 号土坑と重複し、本土坑が新しい。黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・炭化粒混入。
D -22 号土坑	X 157、Y 112	1.65 × 1.27	0.68	不整形	土師器坏・甕、須恵器甕、鉄製品	黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒混入。
D -23 号土坑	X 159、Y 108	1.20 × (0.54)	0.54	円形	—	黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒混入。
D -24 号土坑	X 156・157、Y 113・114	0.76 × 0.70	0.36	円形	瓦	H -45 号住居跡と重複し、本土坑が新しい。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒混入。
D -25 号土坑	X 161、Y 110	1.15 × 0.86	0.24	楕円形	鉄滓・紡錘車、羽口、須恵器坏・碗	鍛冶関連遺構。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・炭化粒混入。
D -27 号土坑	X 167・168、Y 110・111	1.30 × 1.20	0.32	円形	—	H -38 号住居跡、W -25 号溝と重複し、H -38 号住居跡より新しい。
D -28 号土坑	X 165、Y 111	2.00 × 1.50	0.34	不整形	土師器坏・甕、須恵器碗	H -65 号住居跡、D -53 号土坑と重複し、本土坑が重複する全ての遺構より新しい。黒褐色の埋没土に A s - B ・ A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・炭化粒混入。
D -29 号土坑	X 161、Y 110・111	1.24 × 1.40	0.54	不整形	—	黒褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・炭化粒混入。
D -30 号土坑	X 164、Y 111	2.36 × 1.73	0.19	不整形	鉄製品	H -64 号住居跡と重複し、本土坑が古い。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・焼土・炭化粒混入。
D -31 号土坑	X 160・161、Y 114	0.53 × 0.52	0.65	円形	—	H -62 号住居跡、W -24 号溝と重複し、本土坑が重複する全ての遺構より新しい。黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・焼土・炭化粒混入。
D -38 号土坑	X 165・166、Y 110・111	0.68 × 0.63	0.35	円形	—	W -25 号溝と重複。
D -47 号土坑	X 163・164、Y 111	1.50 × 1.47	0.50	円形	—	—
D -50 号土坑	X 165、Y 110・111	1.00 × 0.80	0.95	長方形	土師器坏・甕	H -64 号住居跡と重複し、本土坑が古い。黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・混入。
D -53 号土坑	X 165、Y 111	1.00 × 0.71	0.25	長方形	—	H -64・65 号住居跡、D -28 号土坑と重複し、本土坑が重複する全ての遺構より古い。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒混入。
D -56 号土坑	X 163、Y 111	0.92 × 0.75	—	楕円形	—	—
D -57 号土坑	X 164・165、Y 110	1.04 × 0.74	0.80	不整形	土師器甕、須恵器瓶	H -52・64 号住居跡と重複し、H -52 号住居跡より新しく、H -64 号住居跡より古い。黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒・炭化粒混入。
D -64 号土坑	X 168、Y 107	(0.87) × 0.76	0.70	不整形	—	H -34 号住居跡、D -66 号土坑、W -15 号溝と重複し、H -34 号住居跡、D -66 号土坑より新しく、W -15 号溝より古い。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・砂粒・鉄分混入。
D -66 号土坑	X 168・169、Y 107	0.78 × 0.62	0.72	(楕円形)	土師器坏・甕	元総社小見内Ⅲ遺跡 4 区 B - 1 号掘立柱建物跡 P 8 と同一遺構。D -64 号土坑、W -15 号溝と重複し、本土坑が重複する全ての遺構より古い。黒褐色・暗褐色の埋没土に A s - C ・ ロームブロック・ローム粒混入。
D -75 号土坑	X 165・166、Y 111	0.88 × 0.72	0.84	長方形	—	H -65 号住居跡と重複し、本土坑が新しい。黒褐色の埋没土に A s - C ・ ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土混入。

## 5 ピット

P - 4

**位置**：X : 157、Y : 111 グリッド。**形状**：円形状を呈する。**規模**：0.34 m × 0.30 m。**残存深度**：不明。**断面形態**：不明。**遺構埋没状態**：黒褐色の埋没土にA s - Cが混入する土により埋没している。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：A s - C降下以降からA s - B降下以前と想定される。

## 6 竪穴状遺構

T - 3号竪穴状遺構（遺構：Fig. 48、P L. 13）

**位置**：X : 156、Y : 109・110 グリッド。**主軸方位**：N -76° - W。**重複**：H -39・41号住居跡、D -15号土坑と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本竪穴状遺構は、H -39・41号住居跡、D -15号土坑より新しい。**形状**：長方形形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 3.55 \rangle$  m × 2.76 m。**残存深度**：0.35 m。**面積**： $\langle 9.80 \rangle$  m<sup>2</sup>。**底面の状態**：凸凹が顕著に見られる。**柱穴**：推定範囲内に1基のピット（P 1）が確認されている。規模は、平面0.31 m × 0.29 m、深さ0.23 mを測る。**遺構埋没状態**：A s - B・A s - C・ローム粒・炭化粒を含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より須恵器が出土しているが、埋没土にA s - Bの混入が見られることから紛れ込みと判断される。**時期**：A s - B降下以降と想定される。

T - 4号竪穴状遺構（遺構：Fig. 48、P L. 13）

**位置**：X : 165・166、Y : 113 グリッド。**主軸方位**：N -64° - E。**重複**：W - 2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本竪穴状遺構は、W - 2号溝より古い。**形状**：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 2.98 \rangle$  m ×  $\langle 1.85 \rangle$  m。**残存深度**：0.20 m。**面積**： $\langle 5.51 \rangle$  m<sup>2</sup>。**底面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**柱穴**：推定範囲内に2基のピットが確認されている。各ピットの規模は、P 1が平面0.37 m × 0.33 m、深さ0.18 m、P 2が平面0.32 m × 0.25 m、深さ0.11 mを測る。これらのピットはA s - C・ローム粒が混入する黒褐色の土により埋没している。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：A s - B降下以前と想定される。

T - 5号竪穴状遺構（遺構：Fig. 49、P L. 13／遺物：Fig. 78、Tab. 18、P L. 32）

**位置**：X : 168・169、Y : 113 グリッド。**主軸方位**：N -70° - E。**重複**：H -95・97号住居跡、W -29号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本竪穴状遺構は、H -95・97号住居跡、W -29溝より新しい。**形状**：方形ないし長方形形状を呈するものと想定される。**規模**： $\langle 2.30 \rangle$  m ×  $\langle 0.69 \rangle$  m。**残存深度**：0.43 m。**面積**： $\langle 1.59 \rangle$  m<sup>2</sup>。**底面の状態**：多少の凸凹が見られ、壁面付近がやや窪む状態にある。**柱穴**：確認されていない。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロック・ローム粒を含む黒褐色ないし暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より平瓦が出土している。**時期**：重複遺構との新旧関係から11世紀前半～A s - B降下以前と想定される。

T - 8号竪穴状遺構（遺構：Fig. 48）

**位置**：X : 166、Y : 112 グリッド。**主軸方位**：N - 6° - E。**重複**：H -65号住居跡、W - 2号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本竪穴状遺構は、W - 2号溝より古い。H -65号住居跡との新旧関係は不明。**形状**：不整形。**規模**： $\langle 2.02 \rangle$  m ×  $\langle 1.01 \rangle$  m。**残存深度**：0.20 m。**面積**： $\langle 2.04 \rangle$  m<sup>2</sup>。**底面の状態**：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。**柱穴**：確認されていない。**遺構埋没状態**：確認漏れのため不明。**遺物出土状態**：遺物の出土

は見られない。時期：中世以前と想定される。

#### T - 9号竪穴状遺構（遺構：Fig. 48）

位置：X : 162・163、Y : 112 グリッド。主軸方位：N -27° - W。重複：H -69 号住居跡、W - 2 号溝と重複し、出土遺物・埋没土層の観察から本竪穴状遺構は、W - 2 号溝より古い。H -69 号住居跡との新旧関係は不明。形状：方形ないし長方形状を呈するものと想定される。規模：〈1.07〉 m × 〈0.97〉 m。残存深度：0.15 m。面積：〈1.04〉 m<sup>2</sup>。底面の状態：多少の凸凹が見られるが、比較的平坦である。柱穴：確認されていない。遺構埋没状態：確認漏れのため不明。遺物出土状態：遺物の出土は見られない。時期：中世以前と想定される。

#### 7 遺構外出土遺物（遺物：Fig. 78～81、Tab. 18～20、P L. 32・33）

遺構外出土遺物として、52 点の土器類及び石器類等を提示した。1～7 は縄文土器、8 は縄文時代晩期末～弥生時代前期に比定されるもの、9～12 は弥生土器、13～18・23・24 は土師器、19～21・25～31 は須恵器、22 は埴輪、32 は灰釉陶器、33・34 は緑釉陶器、35 は古瀬戸の陶器、36・37 は瓦、38 は鉄製品、39～52 は石器ないし石製品となっている。特筆すべきは、23・24 の土師器壺で、今回調査された住居跡の時期に含まれないものと考えられる。これらの壺は9世紀第1四半期に比定されるものと想定され、上野国府が機能していた時期に該当するものと言える。

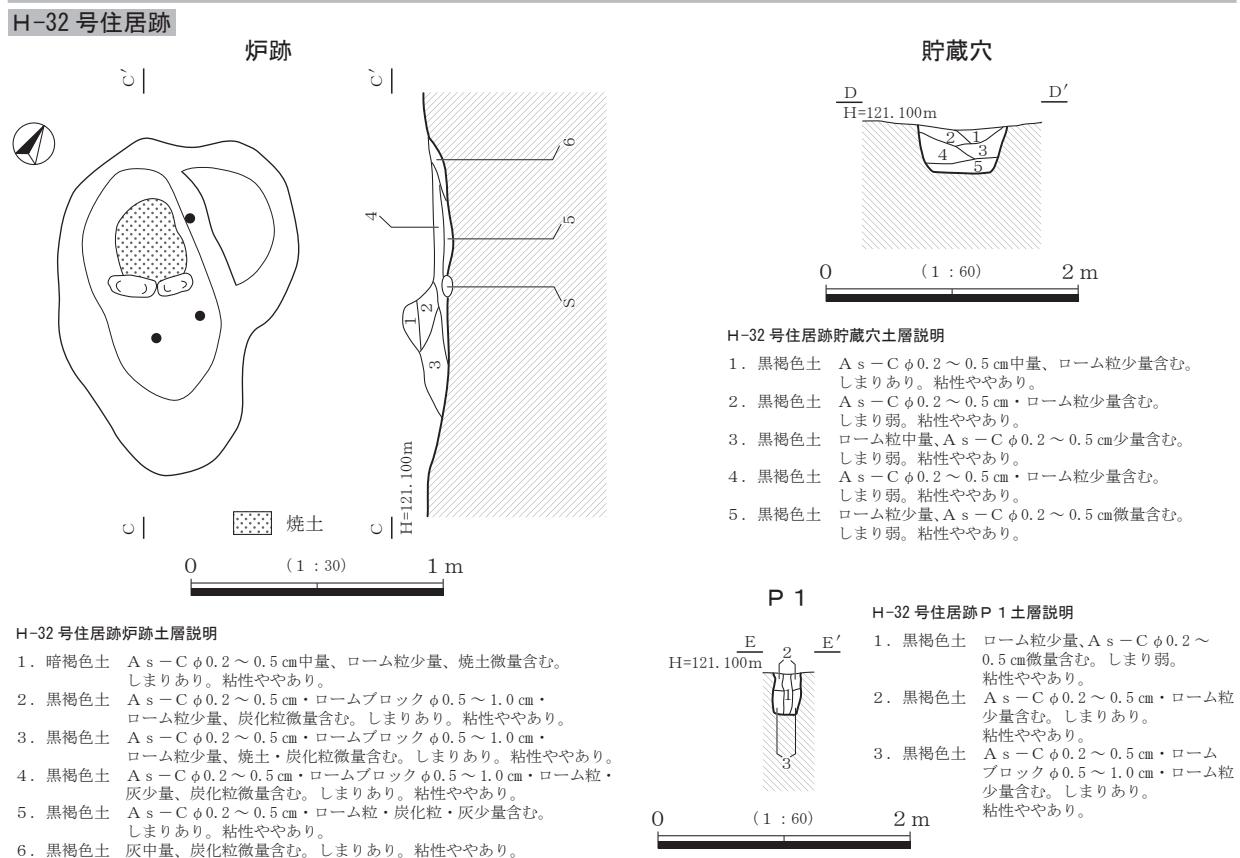
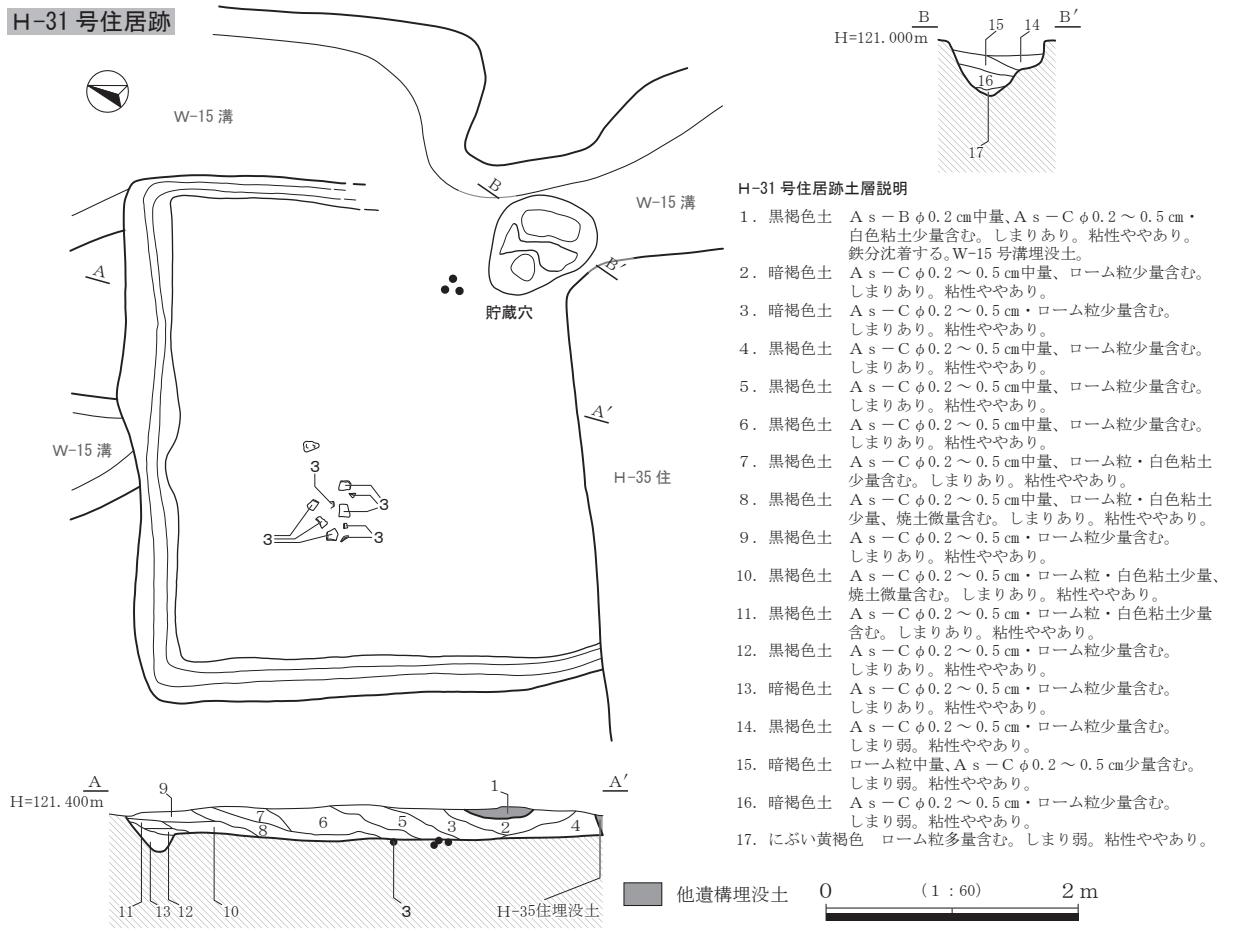
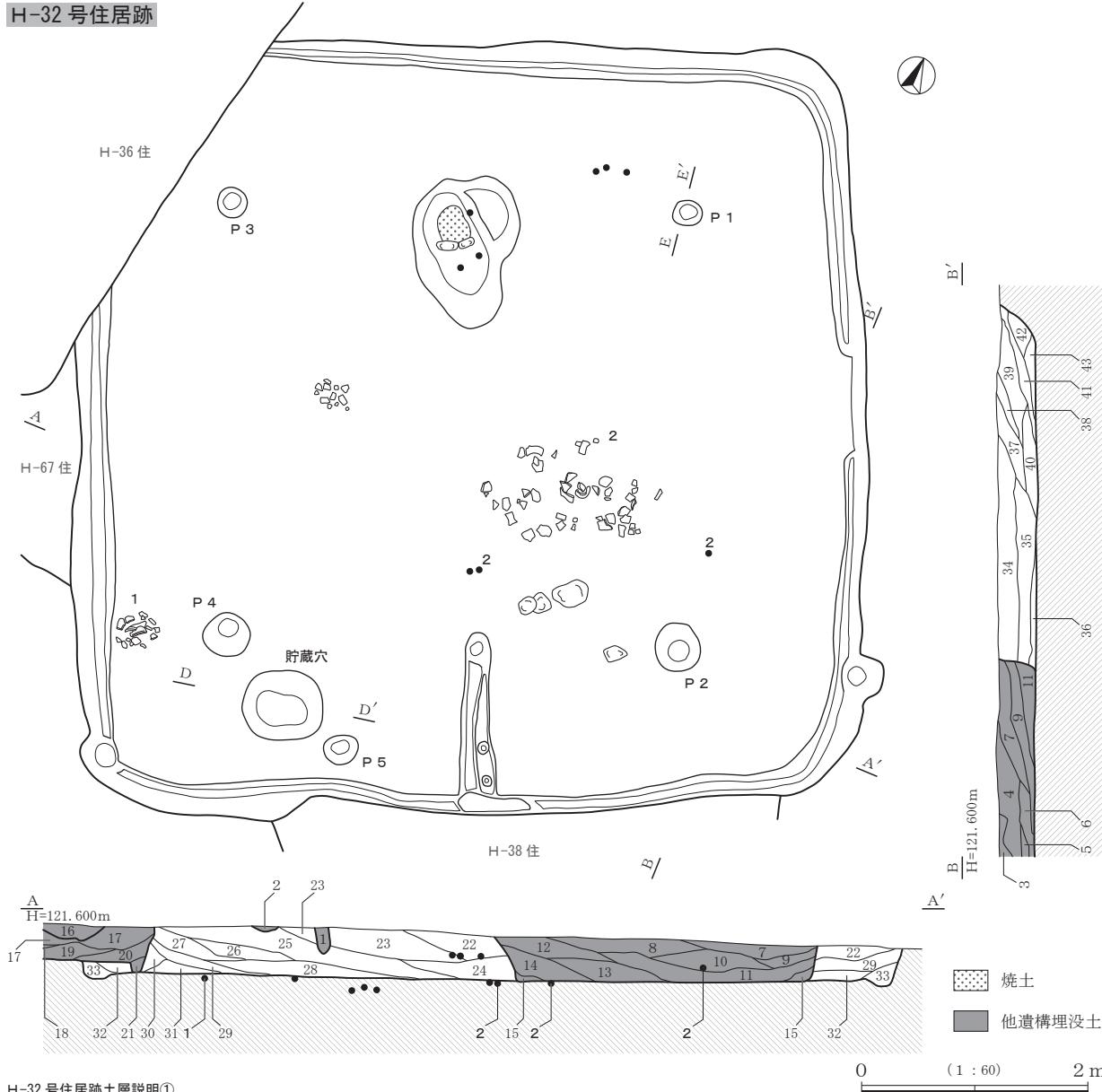


Fig. 7 遺構実測図 (1)

H-32号住居跡



H-32号住居跡土層説明①

1. 黒褐色土  $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm} \cdot A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 灰黃褐色土  $H_r - F_A$  火山灰多量含む。しまりあり。粘性ややあり。二次堆積。
3. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
4. 暗褐色土 白色粘土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
5. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒・焼土・白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
6. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
7. 暗褐色土  $H_r - F_A$  火山灰中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
8. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
9. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
10. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
11. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
12. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
13. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
14. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
15. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-35$  住埋没土。
16. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
17. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
18. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
19. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
20. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
21. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 $H-67$  住埋没土。
22. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
23. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
24. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
25. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
26. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ローム粒中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
27. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ローム粒少量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  微量含む。しまり弱。粘性ややあり。
28. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ローム粒中量含む。しまり弱。粘性ややあり。
29. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
30. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
31. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
32. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

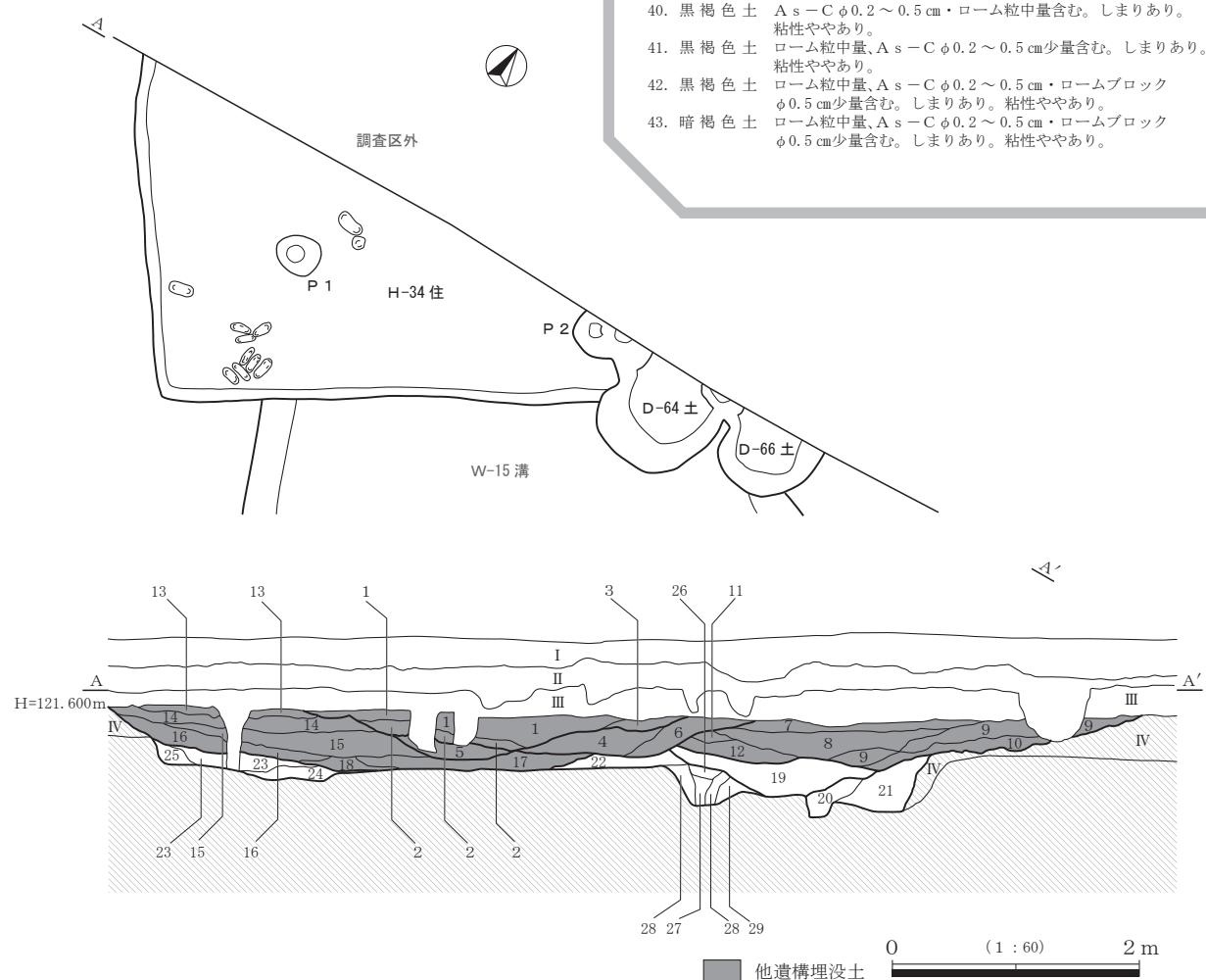
Fig. 8 遺構実測図 (2)

### H-32号住居跡（土層説明）

#### H-32号住居跡土層説明②

33. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
34. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### H-34号住居跡・D-64・66号土坑

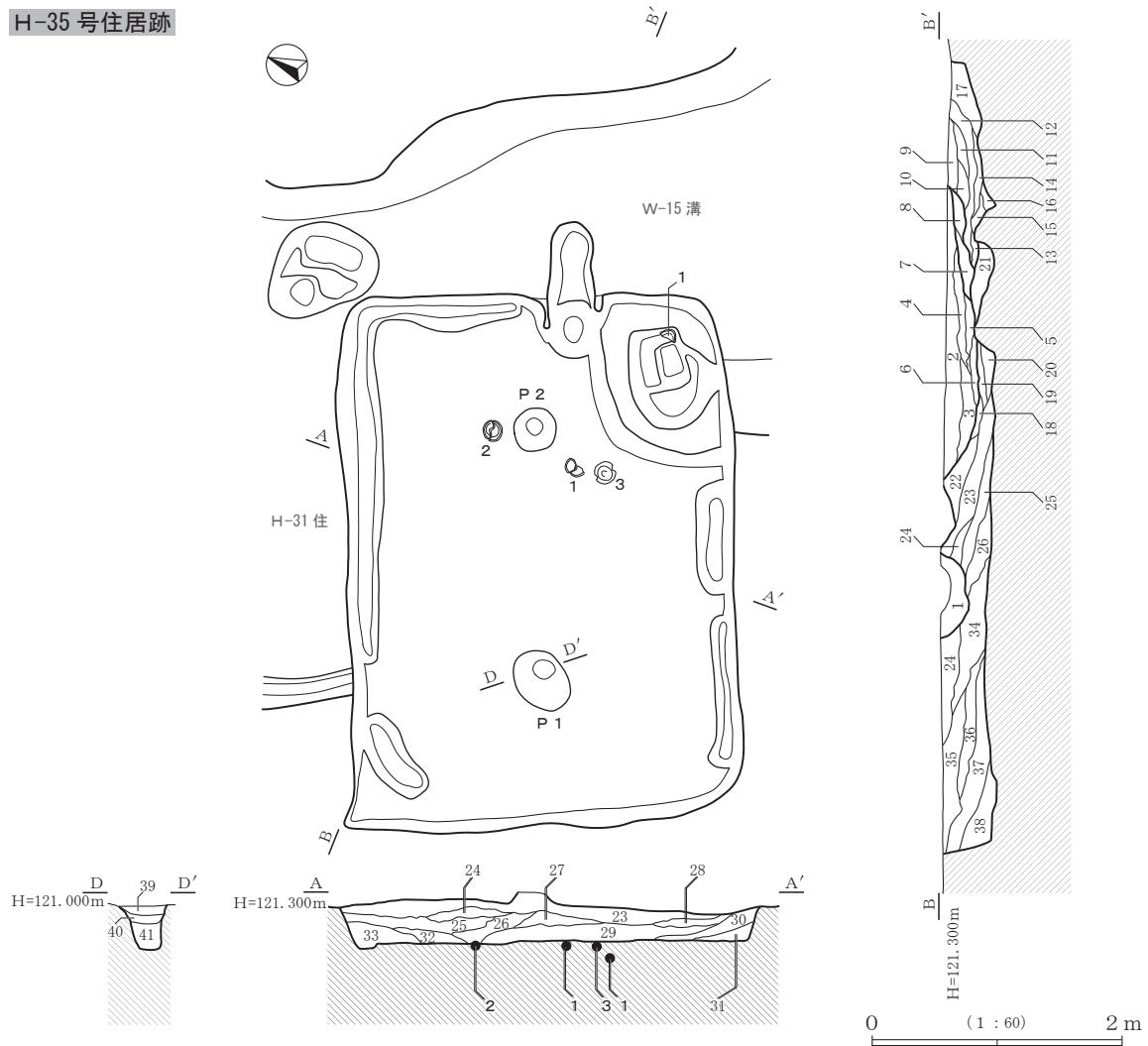


### H-34住居跡・D-64号土坑・D-66号土坑土層説明

1. 暗灰色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm 中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。鉄分やや沈着。
2. 暗灰色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm の二次堆積層。しまり弱。粘性なし。
3. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4. 黒褐色土 ローム粒・礫  $\phi$  3.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm • 砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm • A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 砂粒・小礫  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm 多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり弱。粘性なし。
10. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。下位に鉄分沈着。
11. 黒褐色土 砂粒・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒・鉄分少量含む。しまり弱。粘性あり。
12. 暗灰色土 砂粒・小礫  $\phi$  0.5 ~ 2.0 多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり弱。粘性なし。
13. 暗灰色土 砂粒多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
14. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒・砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黒褐色土 ローム粒少量、砂粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。鉄分の沈着あり。
18. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm • ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 黒褐色土 砂粒・鉄分中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-64号土坑埋没土。
20. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-66号土坑埋没土。
21. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-66号土坑埋没土。
22. 黑褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm • ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり強。粘性ややあり。
23. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ロームブロック  $\phi$  0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm • ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
26. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
27. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
28. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm • ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
29. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm • ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 9 遺構実測図 (3)

H-35号住居跡



H-35号住居跡土層説明

- |          |  |          |  |
|----------|--|----------|--|
| 1. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。ノロ状の土。                     | 23. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・白色粘土少量含む。<br>しまりあり。粘性ややあり。                        |
| 2. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                           | 24. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                               |
| 3. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。鉄分の沈着が見られる。                | 25. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。         |
| 4. 暗褐色土  | 砂粒・小礫 $\phi$ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性なし。  | 26. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~<br>1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 5. 暗褐色土  | 砂粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性弱。                              | 27. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                               |
| 6. 暗褐色土  | 砂粒・小礫 $\phi$ 0.5 cm多量含む。しまりあり。粘性なし。  | 28. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                             |
| 7. 黒褐色土  | 焼土・白色粘土中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。<br>しまりあり。粘性ややあり。                      | 29. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                               |
| 8. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                         | 30. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                               |
| 9. 暗灰色土  | 砂粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性弱。                              | 31. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                             |
| 10. 黒褐色土 | 砂粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む、炭化粒微量含む。<br>しまりあり。粘性ややあり。                   | 32. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                            |
| 11. 黒褐色土 | 砂粒多量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性弱。                              | 33. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土・炭化粒少量含む。<br>しまりあり。粘性ややあり。                        |
| 12. 暗灰色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・砂粒少量含む。しまり強。<br>粘性あり。ノロ状の土。鉄分尾沈着が見られる。          | 34. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                             |
| 13. 黑褐色土 | 焼土・灰中量含む。しまりあり。粘性ややあり。   | 35. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 14. 暗褐色土 | ローム粒中量、小礫 $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                              | 36. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。   |
| 15. 暗褐色土 | ローム粒中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                               | 37. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 5.0 cm・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。   |
| 16. 暗褐色土 | ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm中量、ローム粒少量含む。<br>しまりあり。粘性ややあり。                         | 38. 黑褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                             |
| 17. 暗褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                         | 39. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまり弱。<br>粘性ややあり。                                |
| 18. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                           | 40. 黑褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり弱。<br>粘性ややあり。                              |
| 19. 黑褐色土 | 灰・砂粒中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。   | 41. 暗褐色土 | ローム粒多量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり弱。<br>粘性ややあり。                              |
| 20. 黑褐色土 | 焼土・砂粒・小礫 $\phi$ 0.5 ~ 3.0 cm中量、<br>A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |          |  |
| 21. 黑褐色土 | 焼土多量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                           |          |  |
| 22. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。                         |          |  |

Fig. 10 遺構実測図 (4)

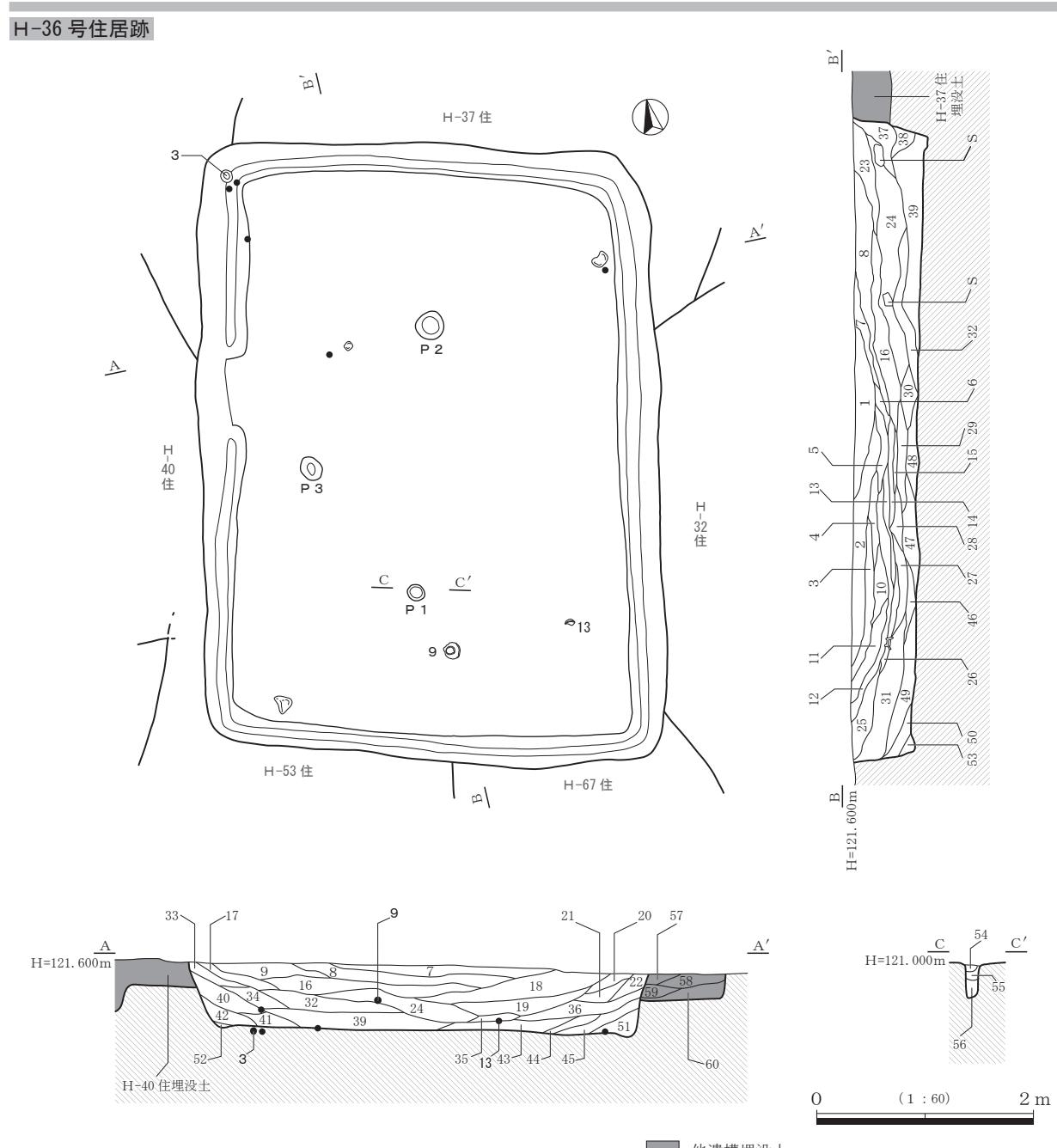
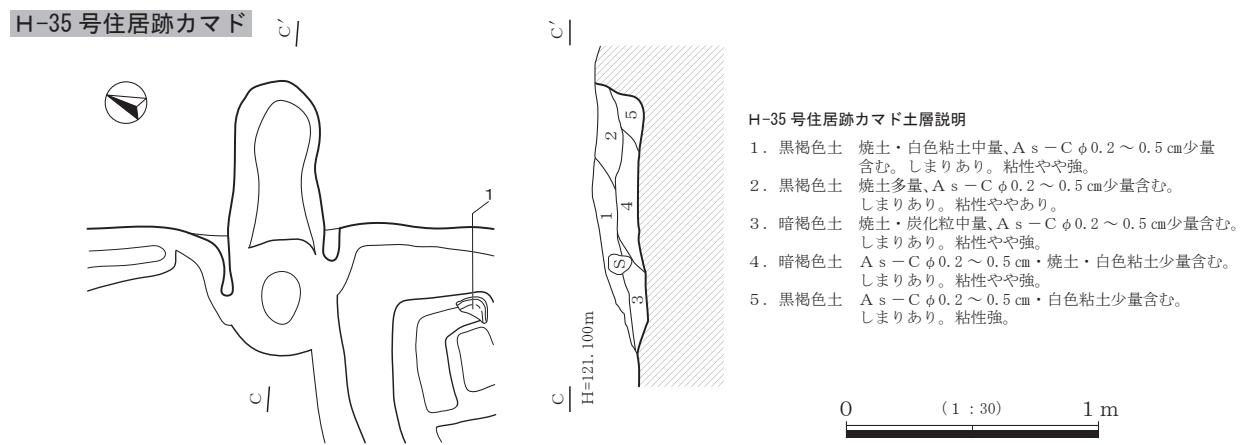


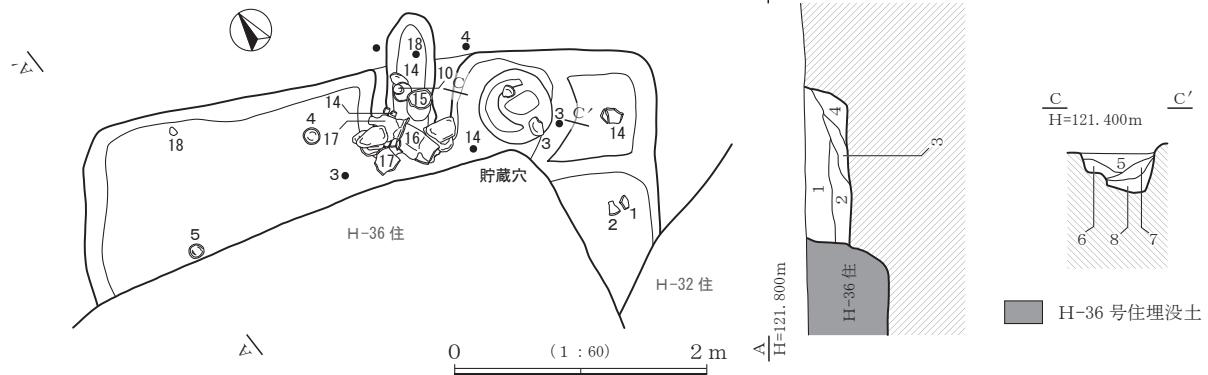
Fig. 11 遺構実測図 (5)

## H-36号住居跡（土層説明）

H-36号住居跡土層説明



H-37号住居跡



## H-37号住居跡土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・白色粘土少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。

2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。

3. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。

4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。

5. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり弱。  
粘性ややあり。

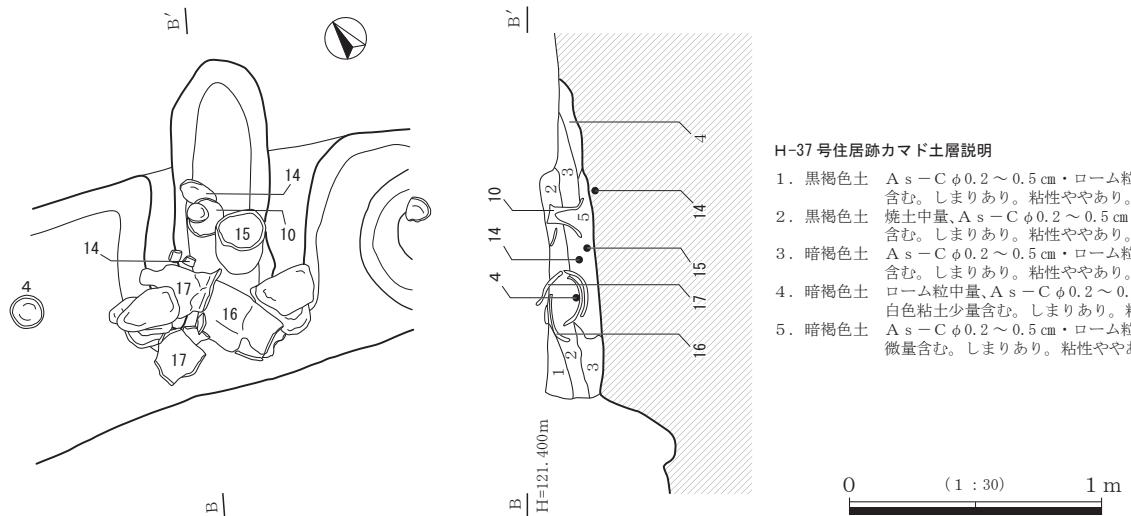
6. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまり弱。  
粘性弱。

7. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.1 cm少量含む。しまり弱。粘性ややあり。

8. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.1 cm少量、  
炭化粒微量含む。しまり弱。粘性ややあり。

Fig. 12 遺構実測図 (6)

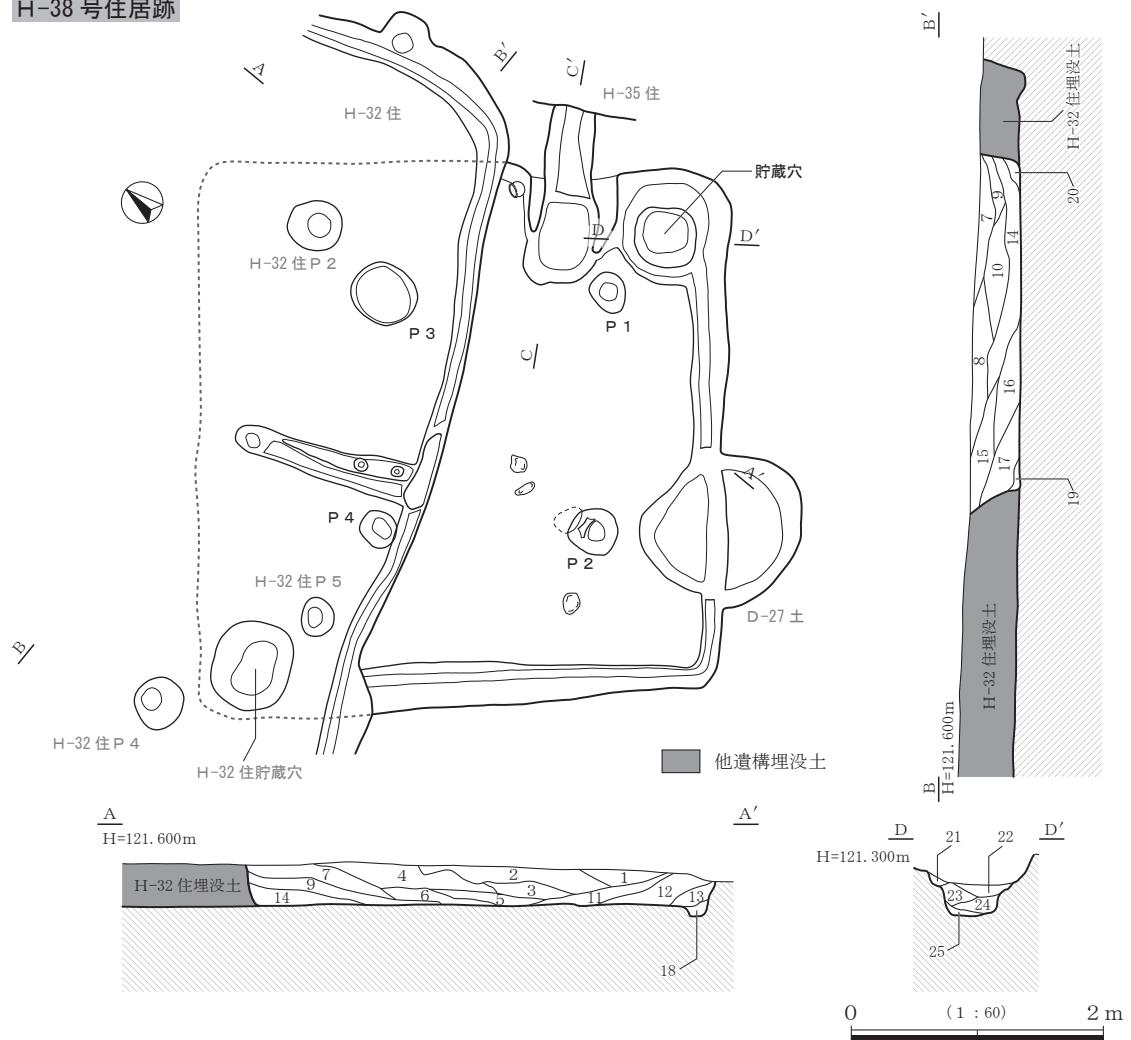
### H-37号住居跡カマド



### H-37号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 焼土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### H-38号住居跡



### H-38号住居土層説明①

1. 暗褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm中量、F A火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、F A火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量、白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 白色粘土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土・白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 暗褐色土 F A火山灰中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、F A火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

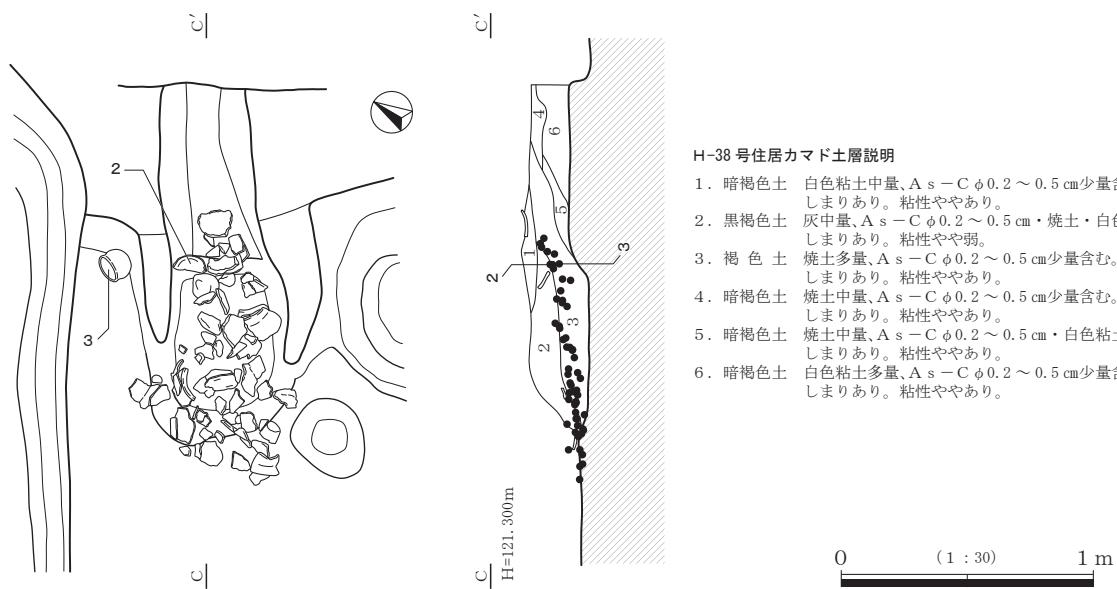
Fig. 13 遺構実測図 (7)

## H-38号住居跡（土層説明）

### H-38号住居土層説明②

9. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、F A 火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、F A 火山灰・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

18. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
20. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
21. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
22. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・白色粘土少量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



## H-39号住居跡

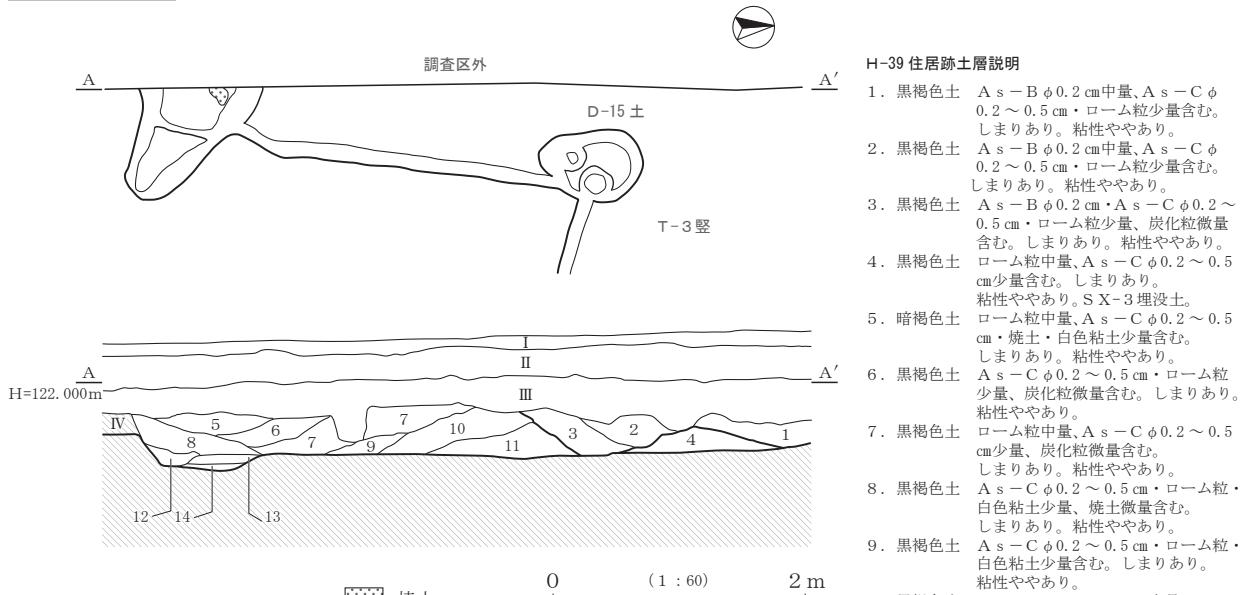


Fig. 14 遺構実測図 (8)

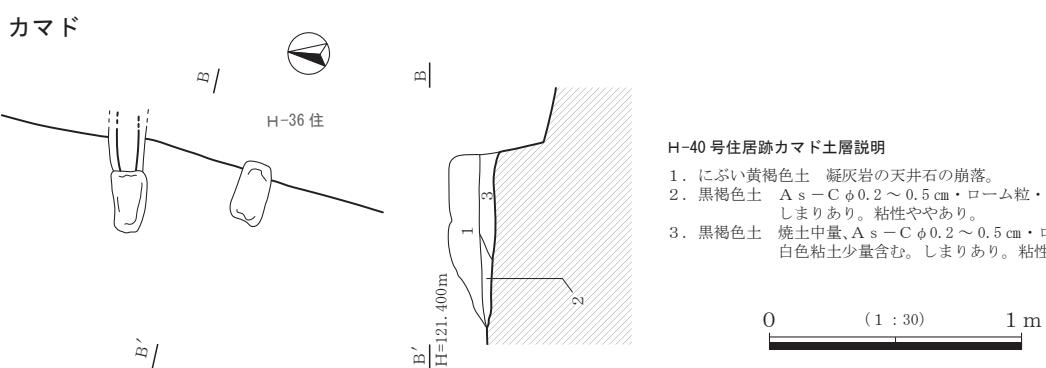
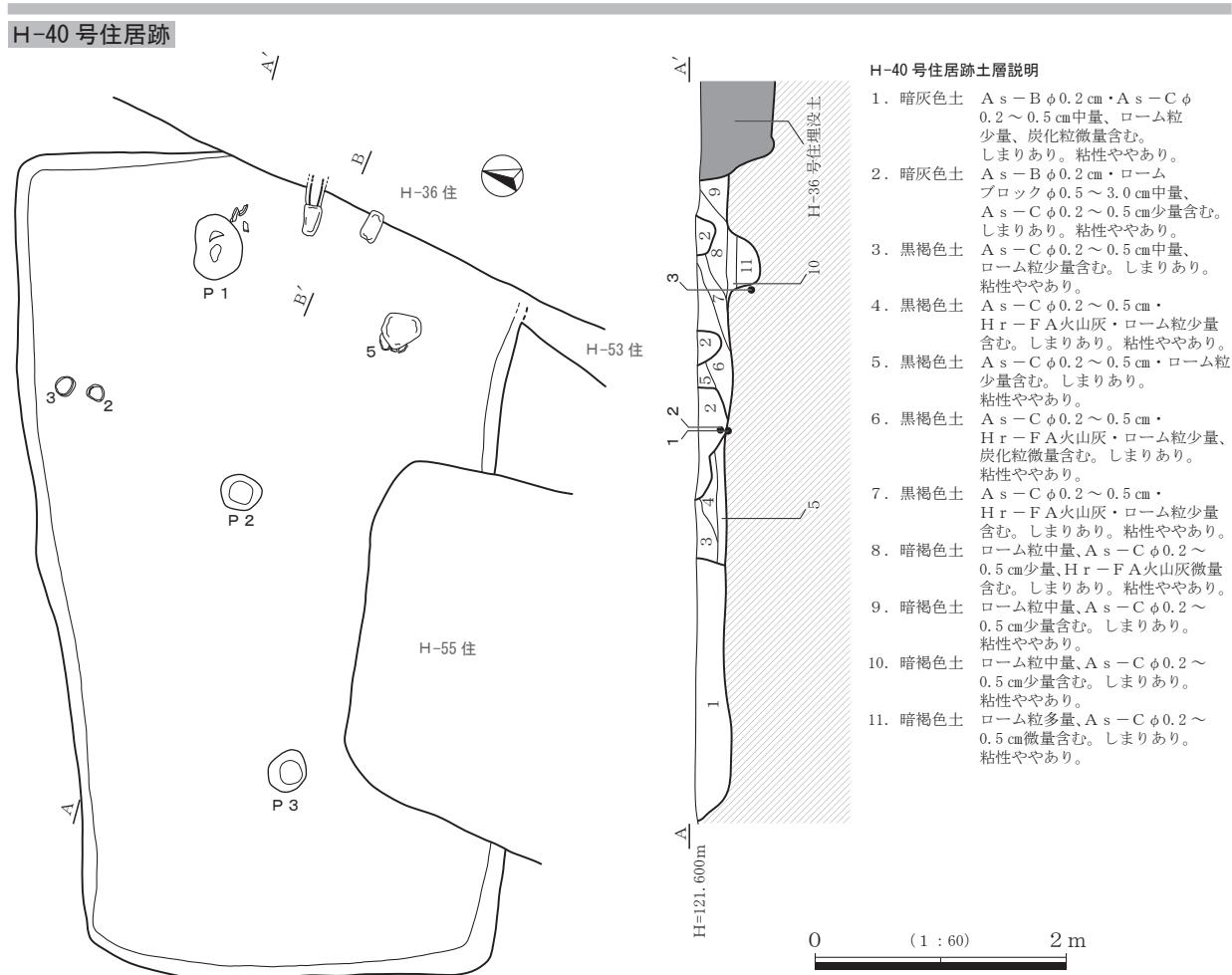
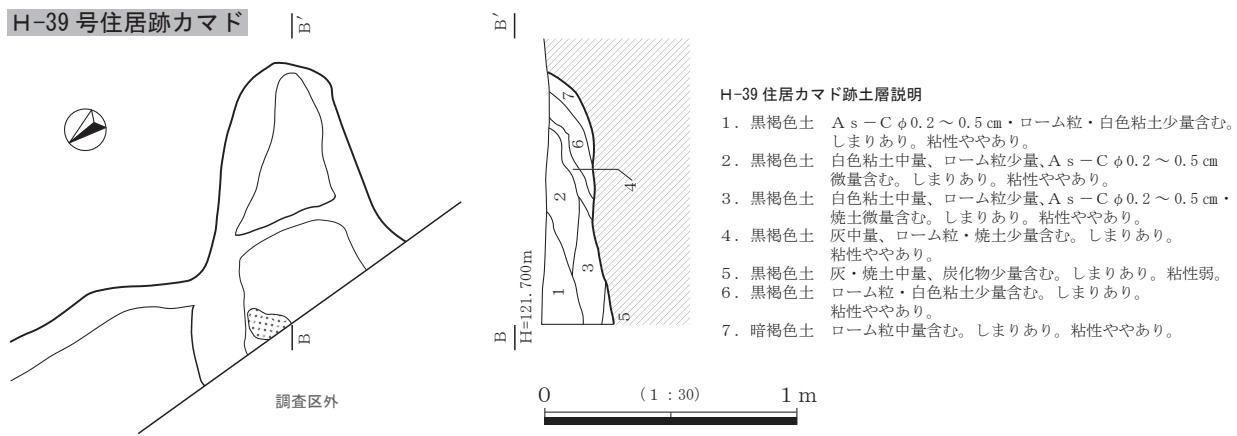
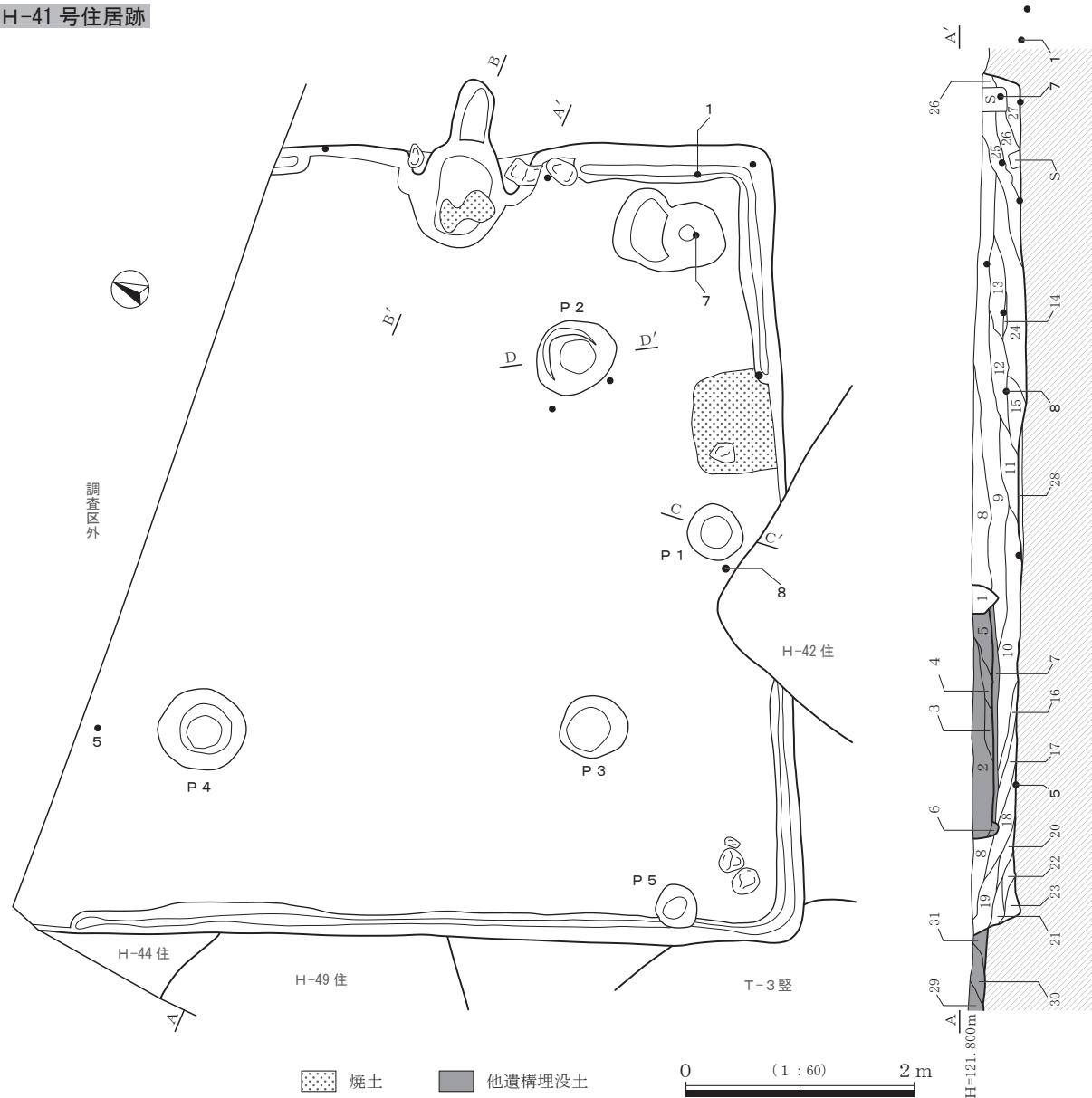


Fig. 15 遺構実測図 (9)

## H-41号住居跡

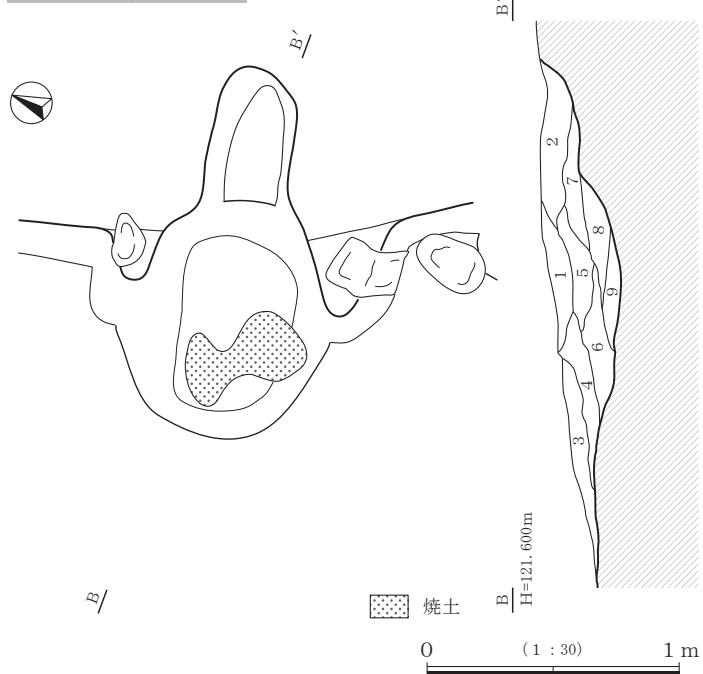


### H-41号住居跡土層説明

- |          |   |          |   |
|----------|---|----------|---|
| 1. 黒褐色土  | A s - B $\phi$ 0.2 cm 中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性弱。                             | 17. 黒褐色土 | ローム粒少量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。             |
| 2. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-44号住居跡埋没土。   | 18. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。             |
| 3. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・炭化粒・白色粘土中量、焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-44号住居跡埋没土。 | 19. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。             |
| 4. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・炭化粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-44号住居跡埋没土。      | 20. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                |
| 5. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-44号住居跡埋没土。            | 21. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。             |
| 6. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-44号住居跡埋没土。          | 22. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。          |
| 7. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまり強。                              | 23. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。                |
| 8. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                      | 24. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。           |
| 9. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                | 25. 黑褐色土 | 白色粘土中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・焼土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。       |
| 10. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・礫少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。              | 26. 暗褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・焼土・炭化粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。         |
| 11. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                   | 27. 暗褐色土 | 白色粘土多量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。しまりあり。粘性やや強。            |
| 12. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                      | 28. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり強。粘性ややあり。貼床。           |
| 13. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。              | 29. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49号住居跡埋没土。    |
| 14. 黒色土  | 炭化粒中量、灰少量含む。しまりあり。粘性弱。  | 30. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49号住居跡埋没土。 |
| 15. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                      | 31. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49号住居跡埋没土。 |
| 16. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                      |          |   |

Fig. 16 遺構実測図 (10)

H-41号住居跡カマド



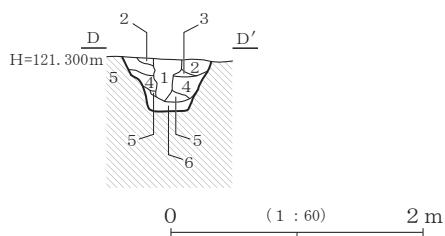
H-41号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 焼土中量、 $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・白色粘土少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
  2. 暗褐色土 焼土多量、 $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
  3. 暗褐色土  $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒・焼土・炭化粒少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  4. 暗褐色土  $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  5. 灰黃褐色土 白色粘土多量、焼土中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
  6. 暗褐色土 焼土・白色粘土中量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
  7. 暗灰色土 焼土・白色粘土中量、 $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 微量含む。しまりあり。  
粘性あり。
  8. 黑褐色土 焼土・灰中量、 $A - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・炭化粒微量含む。しまりあり。  
粘性弱。
  9. 黑褐色土 灰中量・ローム粒・焼土・炭化粒・白色粘土少量含む。しまりあり。  
粘性弱。

## H-41号住居跡P1土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  2. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  3. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・炭化粒少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  4. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量。しまりあり。  
粘性ややあり。
  5. にぶい黄褐色土 ロームの風化した層。しまり弱。粘性なし。

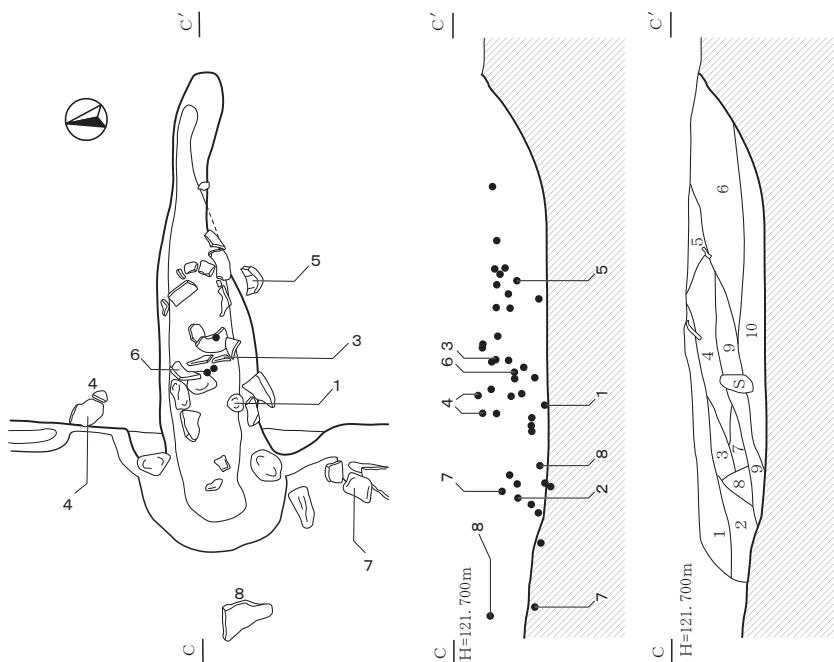
P 2



H-41号住居跡 P 2 土層説明

- 黒褐色土 ローム粒・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。  
しまり弱。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
  - 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・  
ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
  - 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 10.0 cm・ローム粒中量、  
A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり弱。  
粘性やや弱。
  - 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm 多量、ローム粒中量、  
A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性弱。
  - にぶい黄褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒多量  
含む。しまり弱。粘性弱。

H-42号住居跡カマド

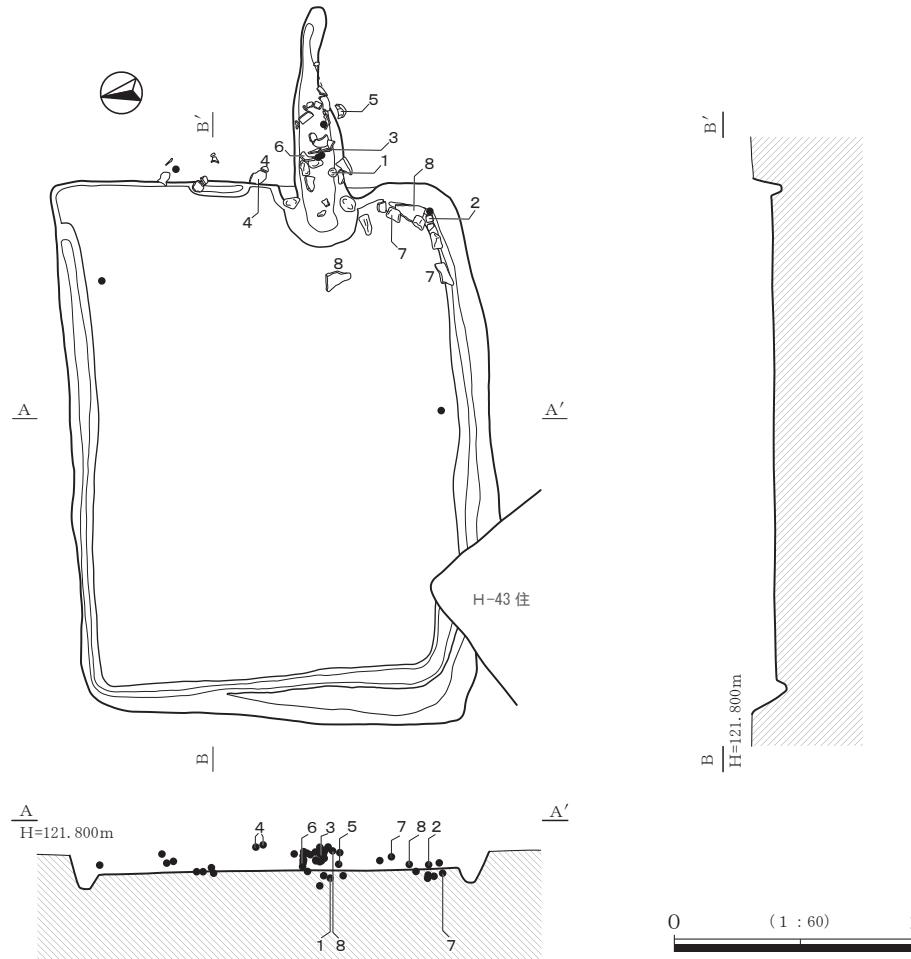


H-42号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 白色粘土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  2. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  3. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量、焼土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  4. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  5. 暗褐色土 焼土・白色粘土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  6. 暗褐色土 焼土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  7. 暗褐色土 白色粘土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・焼土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
  8. 灰黄褐色土 白色粘土多量含む。しまりあり。粘性あり。
  9. 黑褐色土 灰・白色粘土中量、焼土少量含む。しまりあり。粘性弱。
  10. 暗褐色土 烧土多量、灰少量含む。1. すわりあり。粘性ややあり。

Fig. 17 遺構実測図 (11)

### H-42号住居跡



### H-43号住居跡

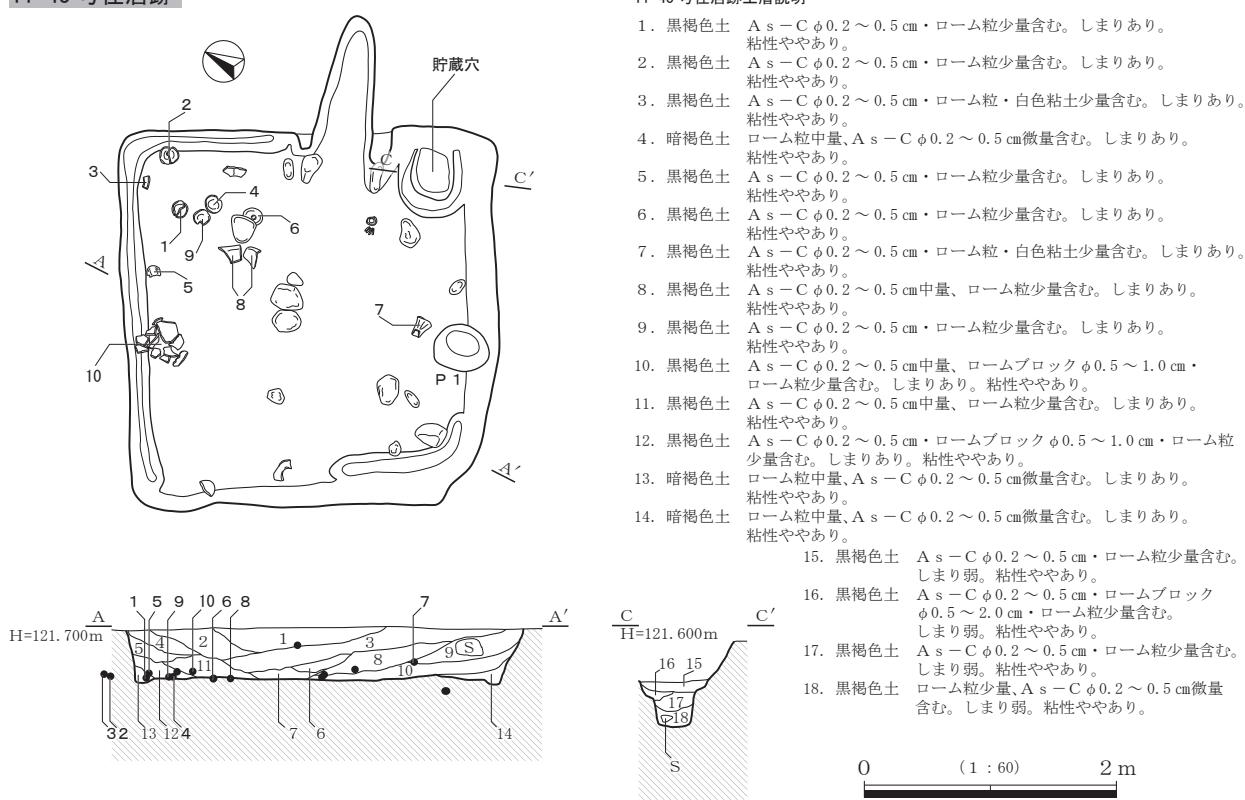
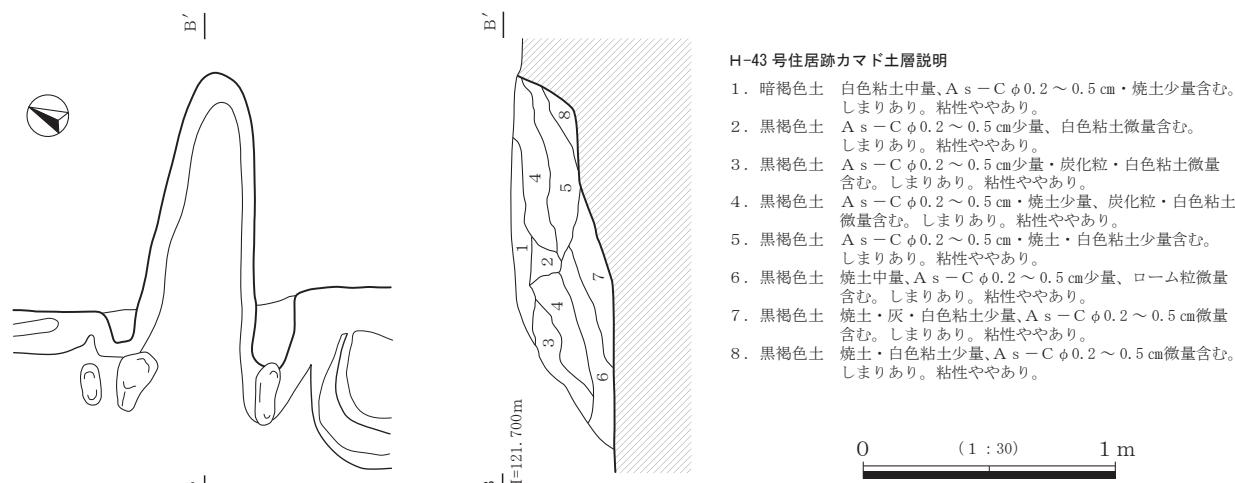


Fig. 18 遺構実測図 (12)

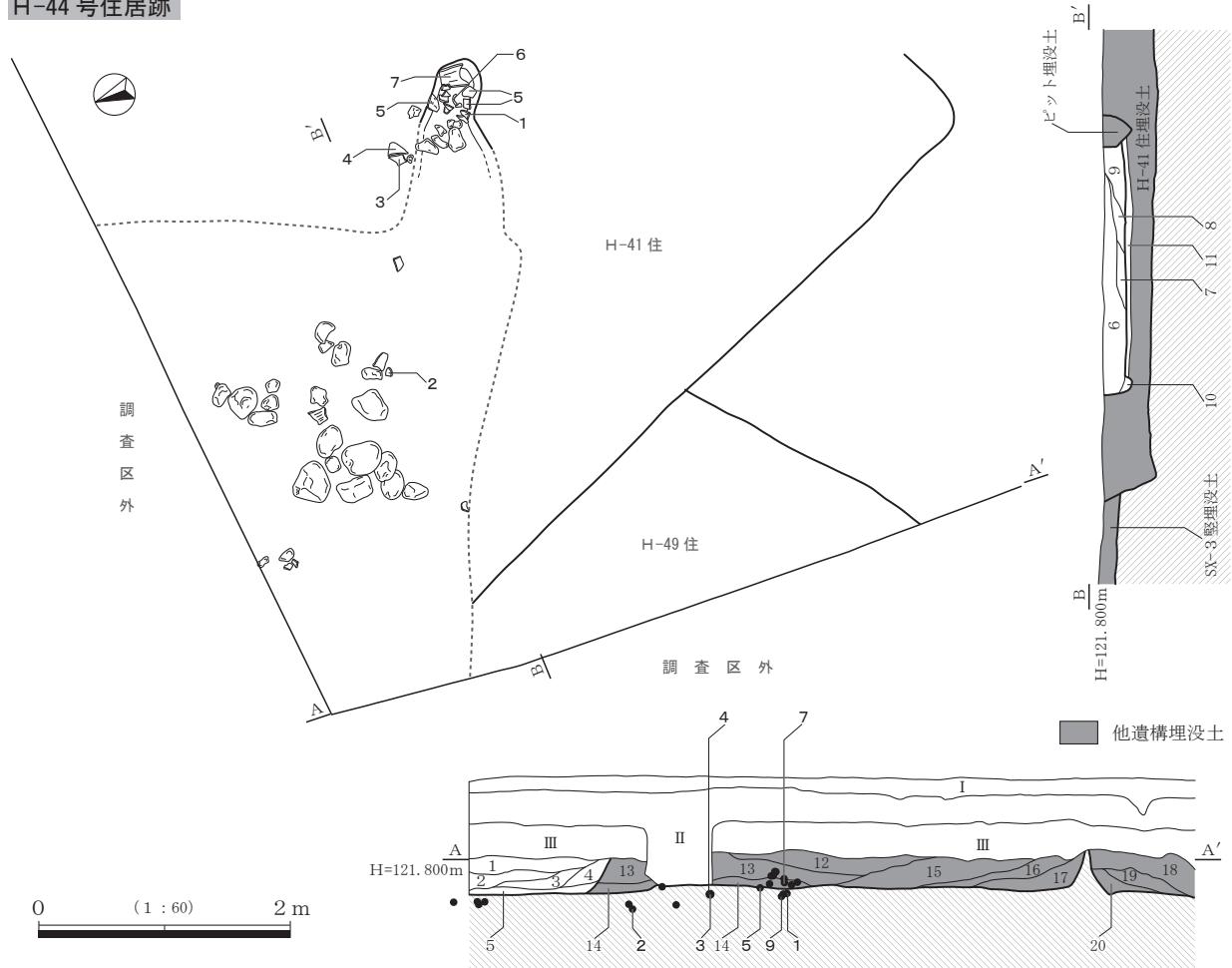
H-43号住居跡カマド



H-43号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 白色粘土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量、白色粘土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量・炭化粒・白色粘土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量、炭化粒・白色粘土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黑褐色土 焼土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土 焼土・灰・白色粘土少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黑褐色土 焼土・白色粘土少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-44号住居跡



H-44号住居跡土層説明①

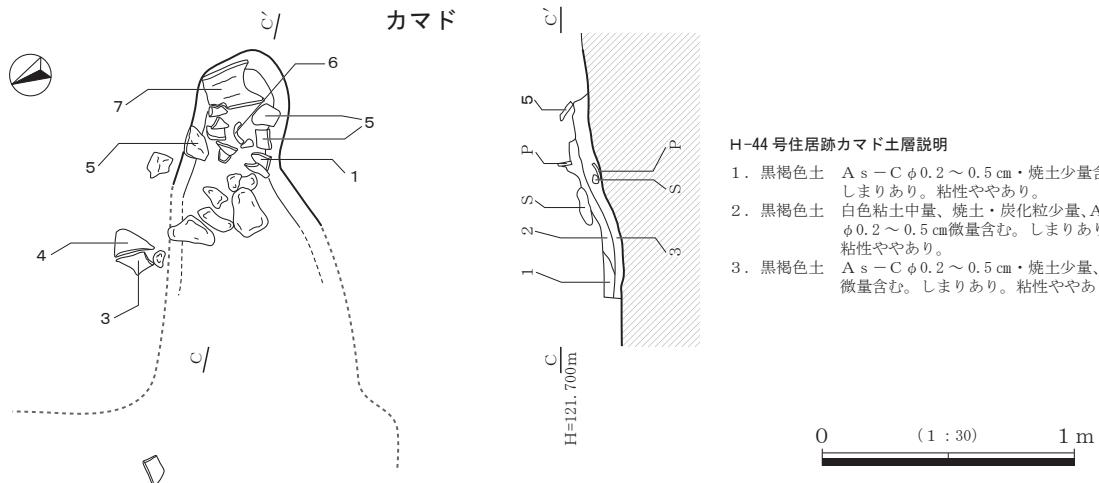
1. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり強。粘性ややあり。貼床。
6. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・炭化粒・白色粘土中量、焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・炭化粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 19 遺構実測図 (13)

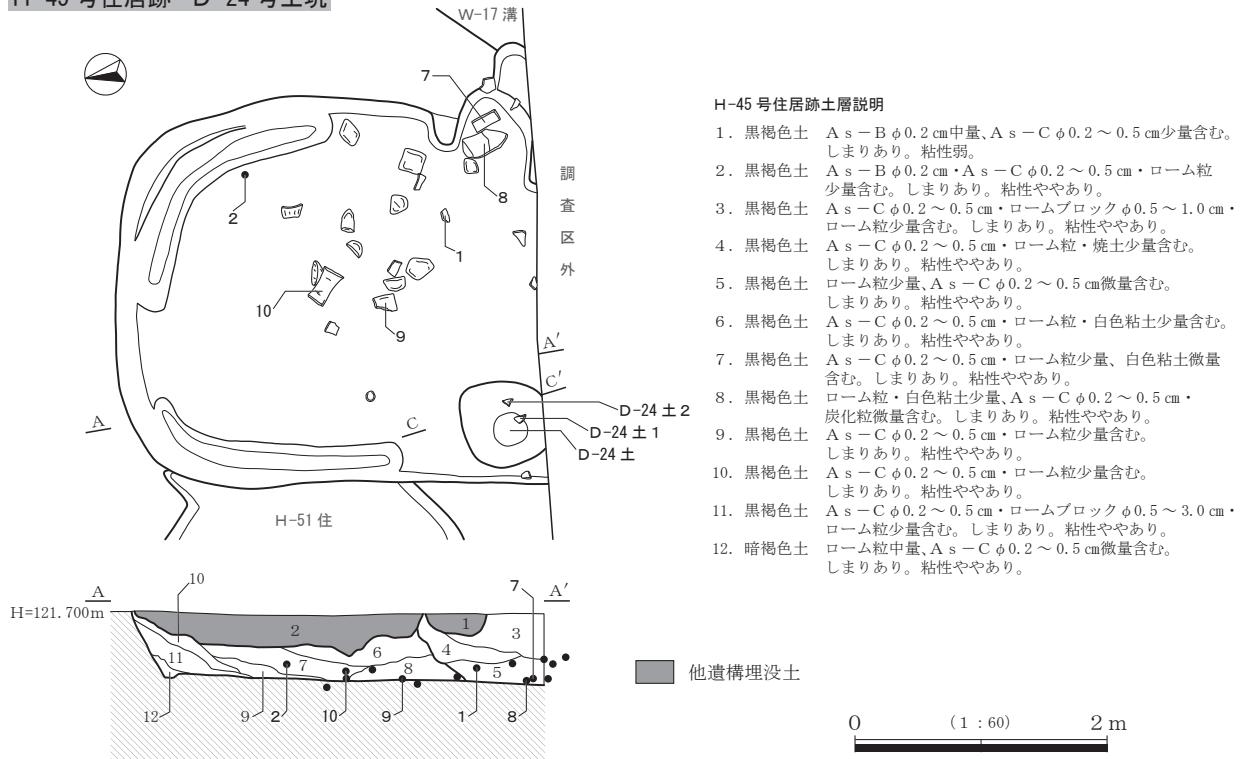
## H-44号住居跡

### H-44号住居跡土層説明②

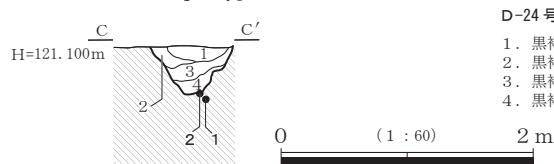
- |          |   |          |   |
|----------|---|----------|---|
| 11. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまり強。<br>粘性ややあり。   | 16. 暗褐色土 | ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。H-49住埋没土。                                      |
| 12. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量、ロームブロック $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$ ・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49住埋没土。 | 17. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。H-49住埋没土。   |
| 13. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒中量、ロームブロック<br>$\phi 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49住埋没土。           | 18. 黒褐色土 | ローム粒中量、 $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$ ・ $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量<br>含む。しまりあり。粘性ややあり。SX-3堅理没土。 |
| 14. 暗褐色土 | ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。しまりあり。<br>粘性ややあり。貼床。H-49住埋没土。                                     | 19. 暗褐色土 | ローム粒中量、 $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$ ・ $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量<br>含む。しまりあり。粘性ややあり。SX-3堅理没土。 |
| 15. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量、ロームブロック $\phi 0.5 \text{ cm}$ ・<br>ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。H-49住埋没土。          | 20. 黒褐色土 | $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$ ・ $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量、<br>炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。SX-3堅理没土。   |



## H-45号住居跡・D-24号土坑



## D-24号土坑

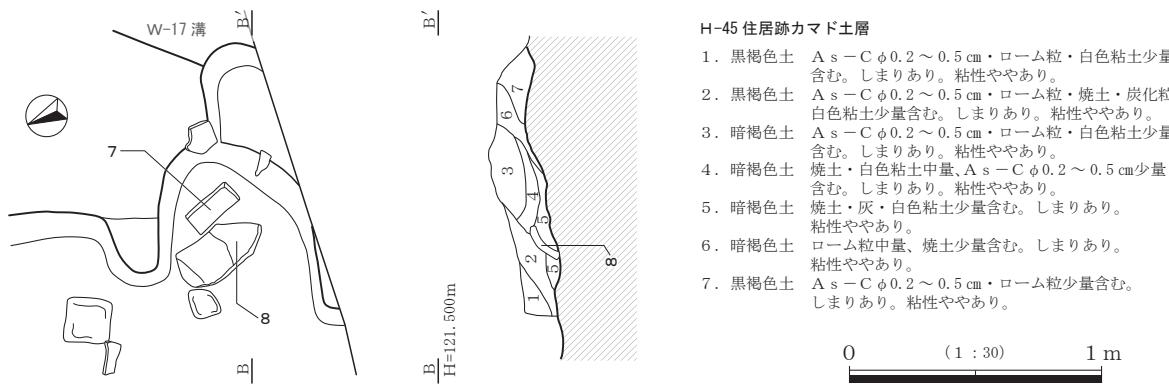


### D-24号土坑土層説明

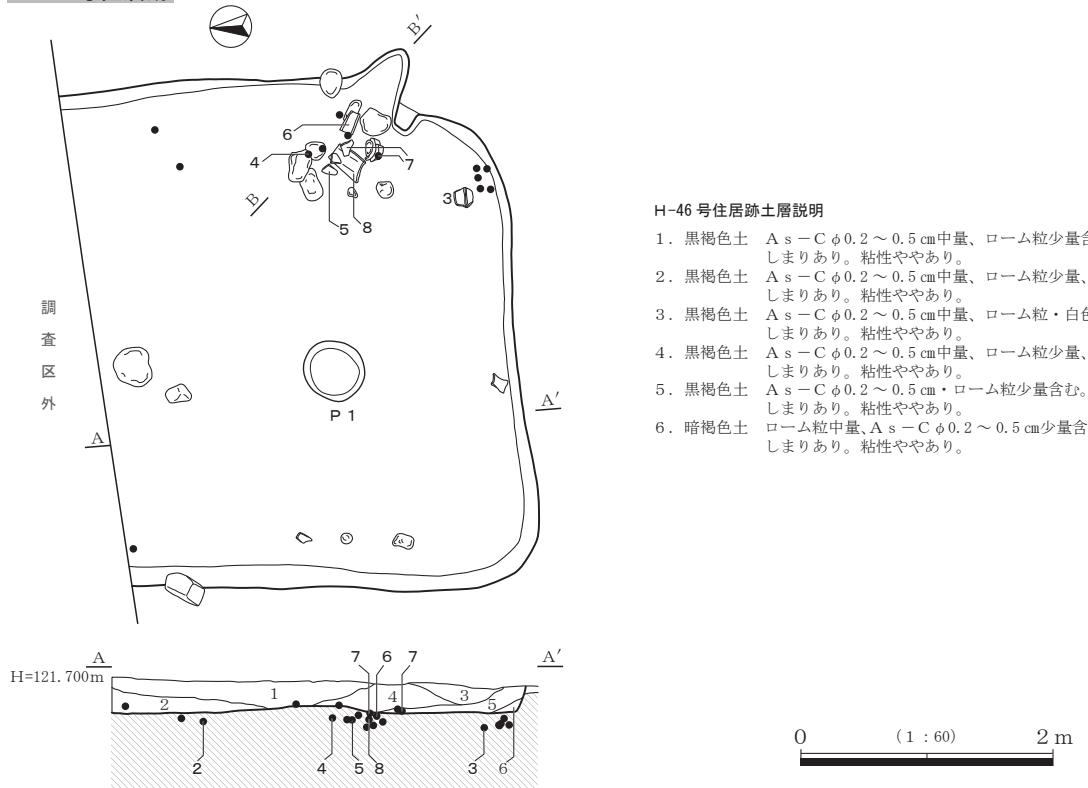
- |         |  |
|---------|--|
| 1. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。   |
| 2. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 3. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 4. 黒褐色土 | $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。   |

Fig. 20 遺構実測図 (14)

H-45号住居跡カマド



H-46号住居跡



カマド

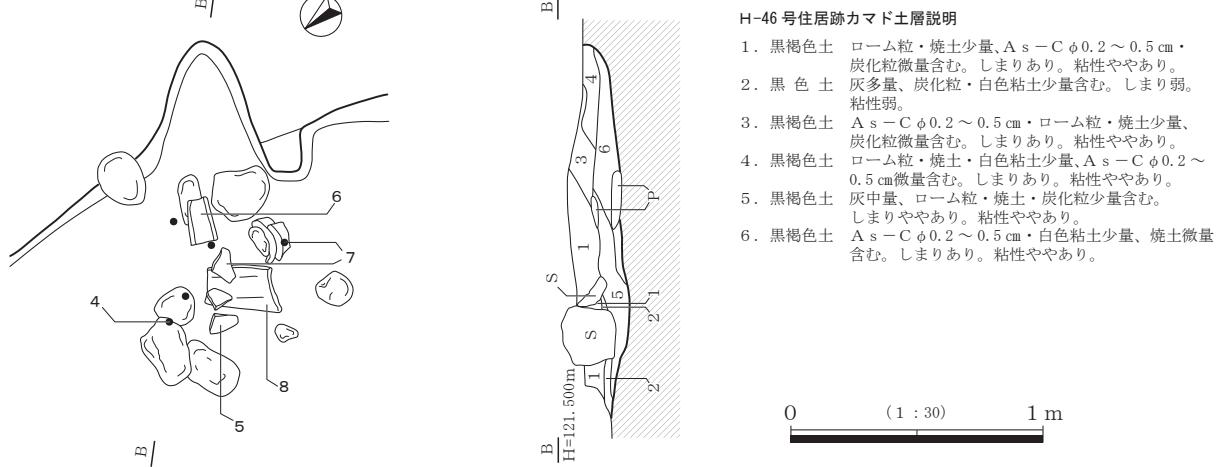
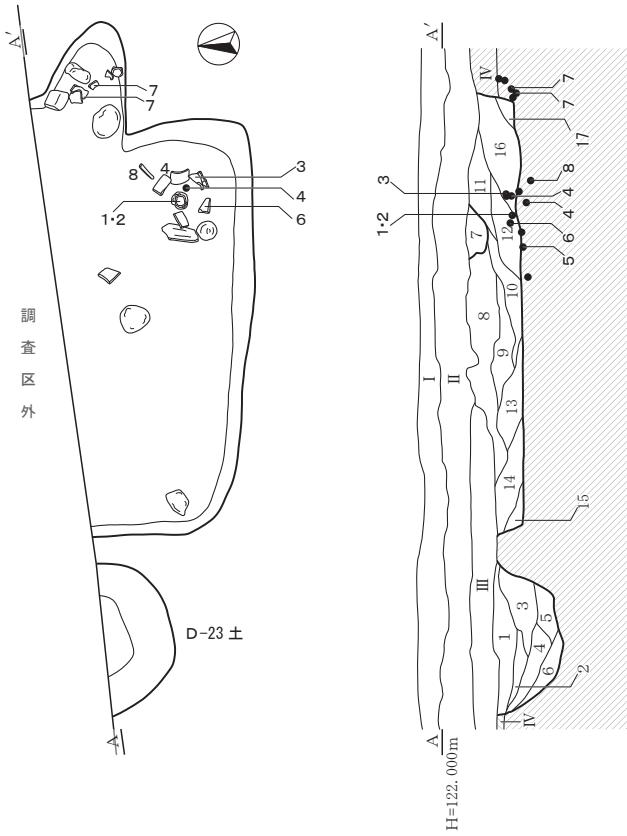


Fig. 21 遺構実測図 (15)

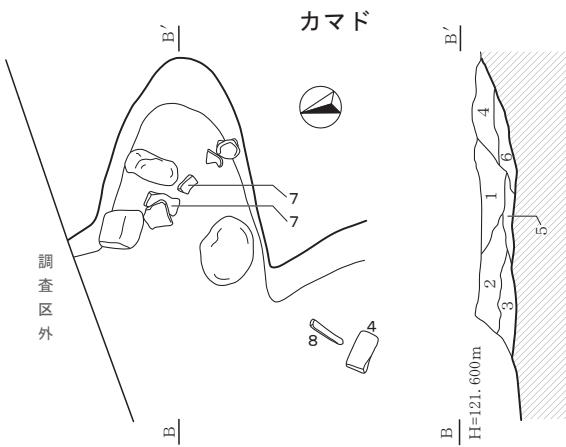
### H-47号住居跡・D-23号土坑



### H-47号住居跡・D-23号土坑土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。
3. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  1.5 cm 少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm 少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

0 (1 : 60) 2 m

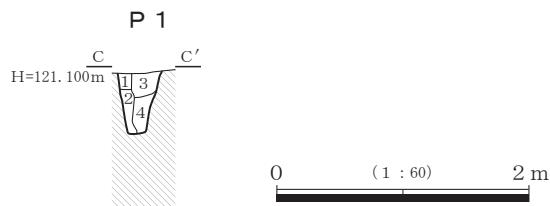


### H-47号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 焼土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 ローム粒・白色粘土中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

0 (1 : 30) 1 m

### H-48号住居跡



### H-48号住居跡P1土層説明

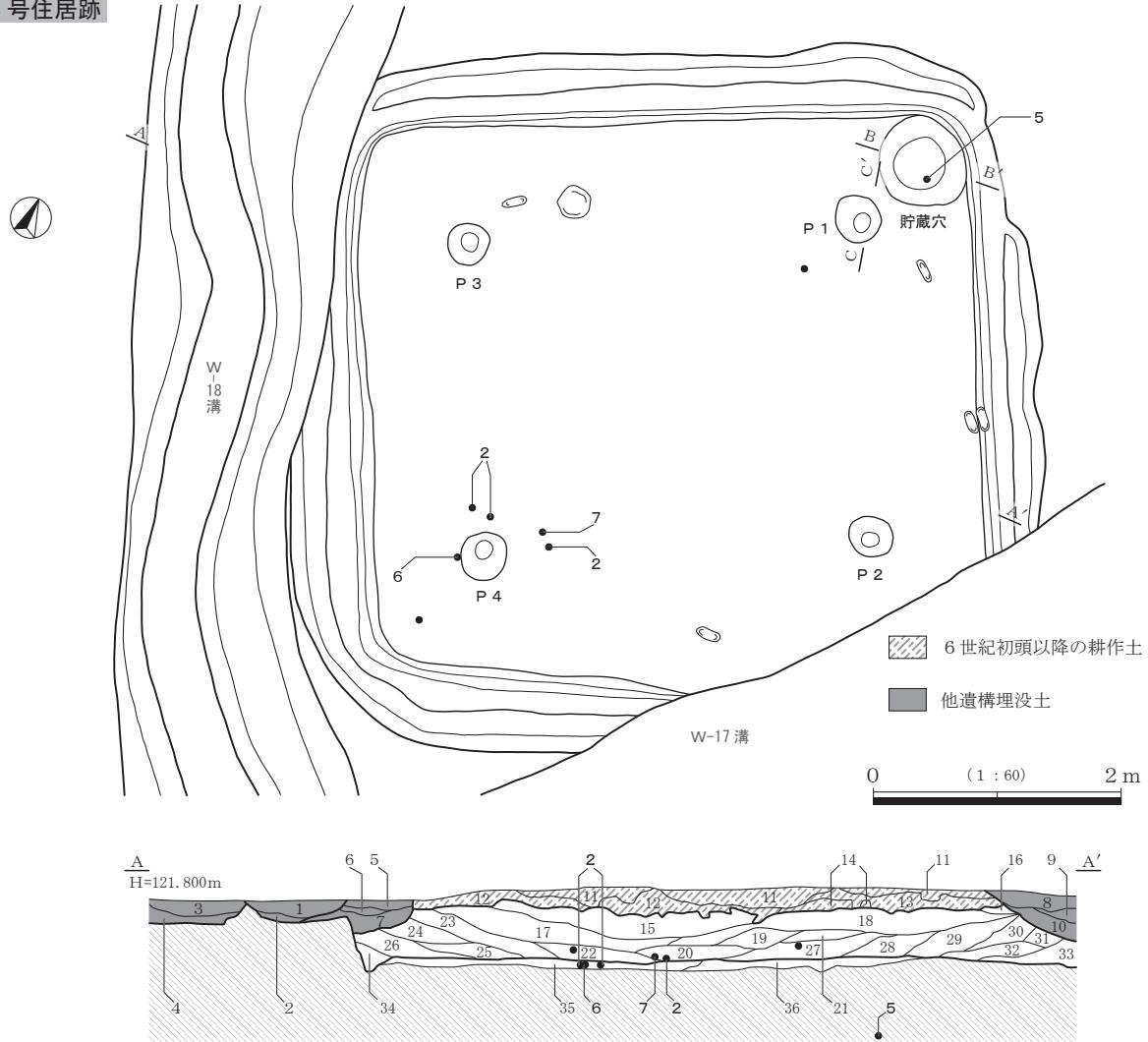
1. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土 ロームブロック  $\phi$  1.2 ~ 3.0 cm・ローム粒中量含む。A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### 貯蔵穴

1. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり弱。粘性ややあり。A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
3. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまりあり。粘性やややあり。ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm・ローム粒少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性やややあり。
4. 黑褐色土 ローム粒少量含む。しまり弱。粘性やややあり。
5. 黑褐色土 ローム粒中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性やややあり。A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性やややあり。
6. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 微量含む。しまり弱。粘性やややあり。
7. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性やややあり。
8. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまり弱。粘性やややあり。

Fig. 22 遺構実測図 (16)

H-48号住居跡

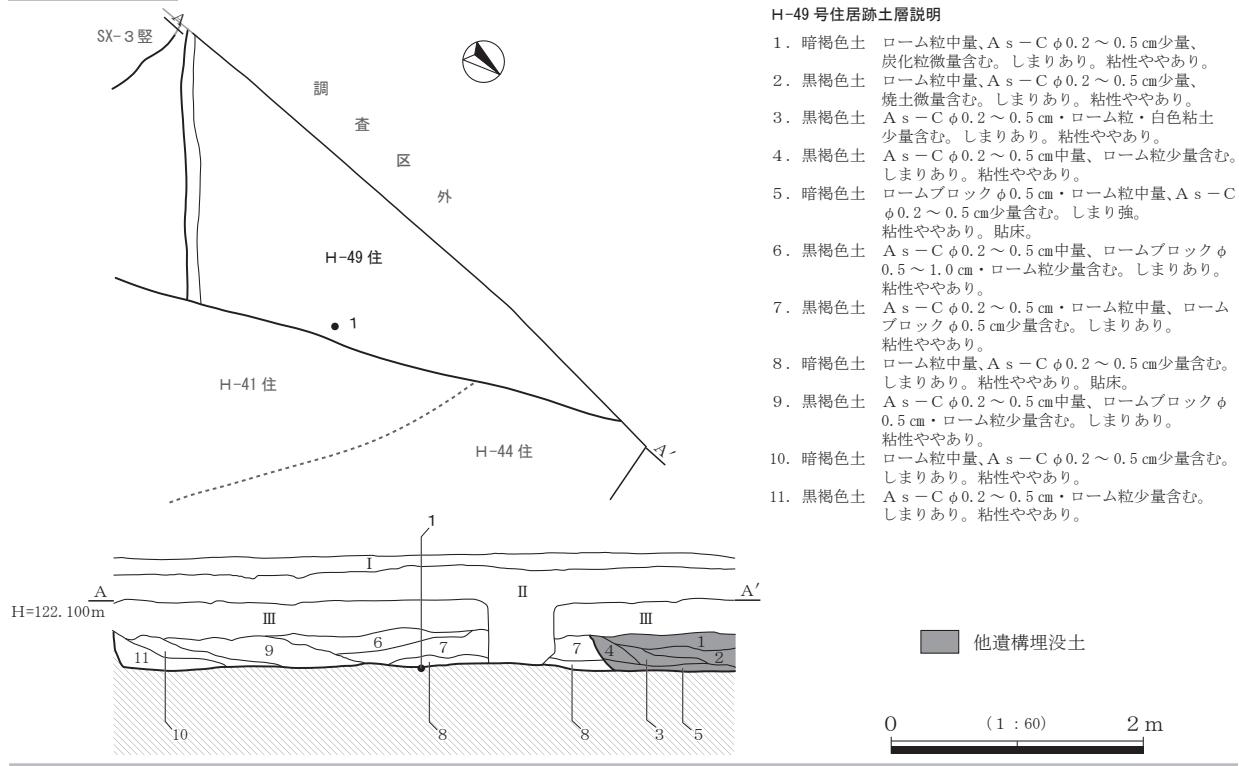


H-48号住居跡土層説明

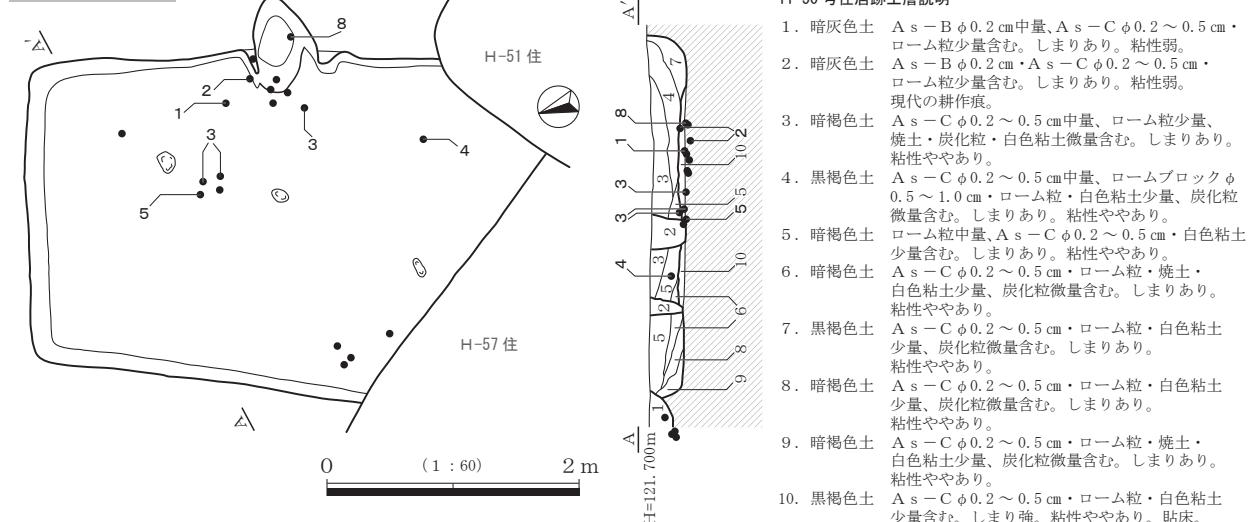


Fig. 23 遺構実測図 (17)

### H-49号住居跡



### H-50号住居跡



### カマド

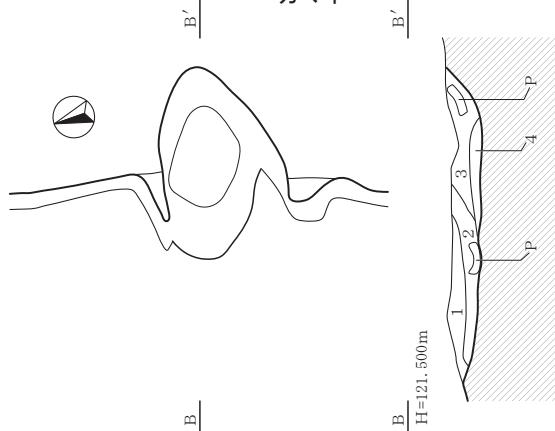
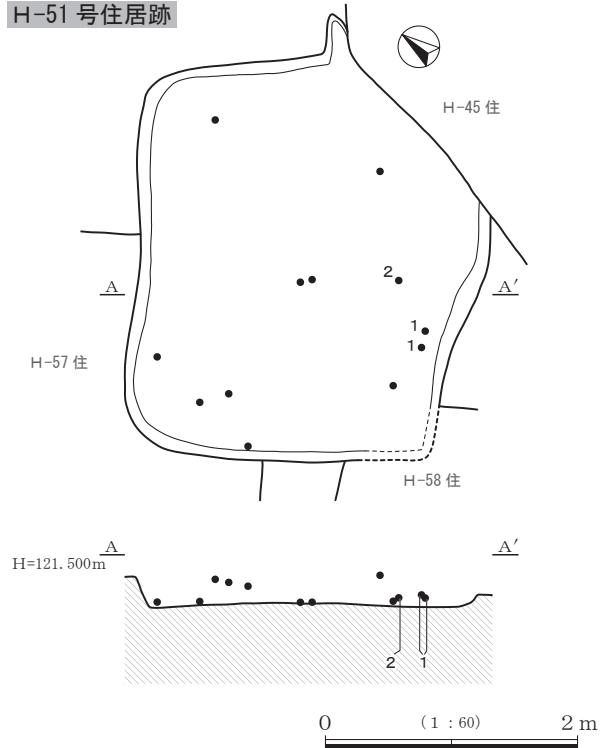
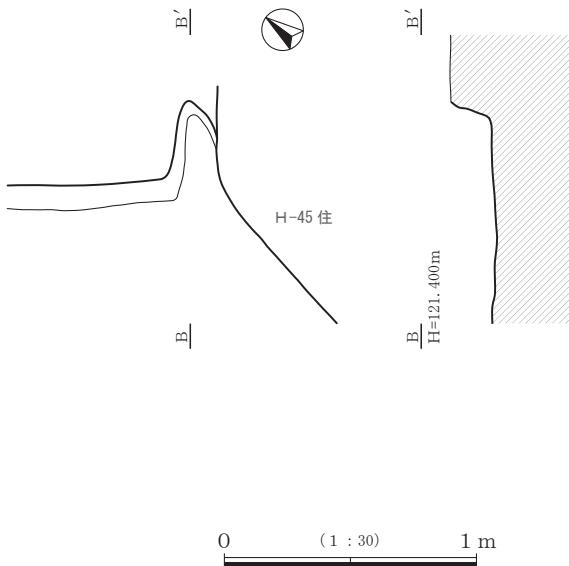


Fig. 24 遺構実測図 (18)

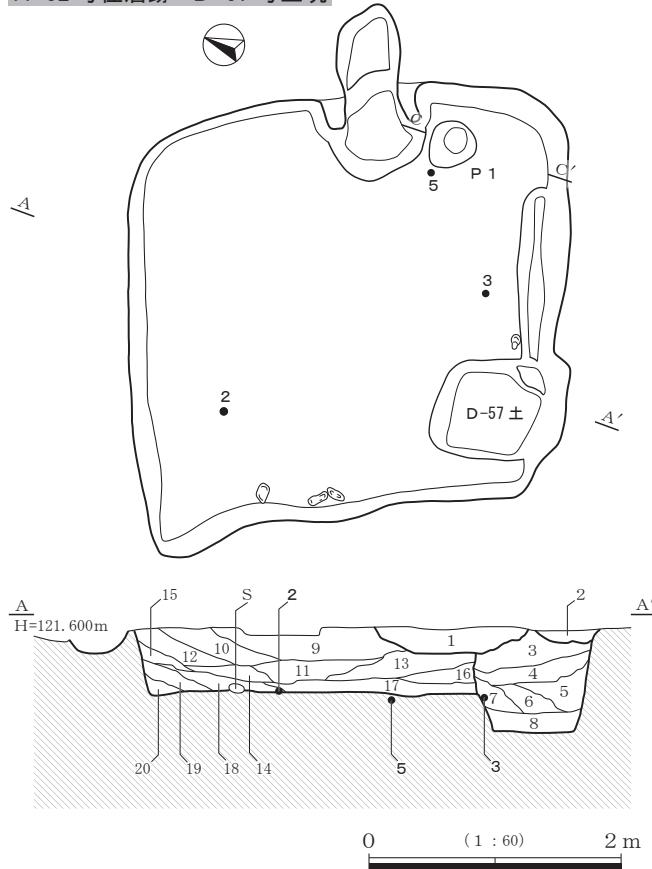
H-51号住居跡



カマド



H-52号住居跡・D-57号土坑

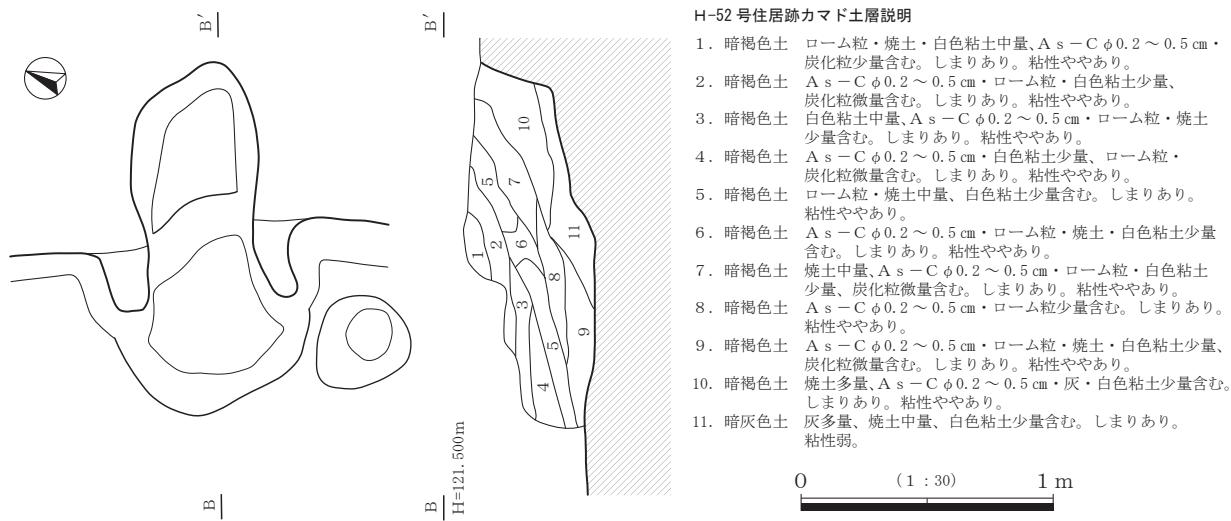


#### H-52号住居跡・D-57号土坑土層説明

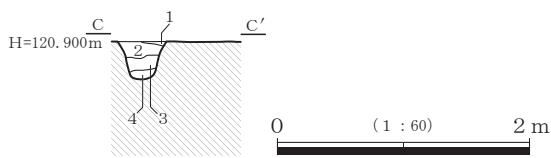
1. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。D-57号土坑埋没土。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。D-57号土坑埋没土。
5. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-57号土坑埋没土。
6. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。D-57号土坑埋没土。
7. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。D-57号土坑埋没土。
8. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 5.0 cm中量、ローム粒少量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。D-57号土坑埋没土。
9. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
10. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
11. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
12. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
13. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 4.0 cm中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
14. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。
15. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。人為埋没。H-52号住居跡埋没土。

Fig. 25 遺構実測図 (19)

## H-52号住居跡カマド



## P 1



## H-53号住居跡

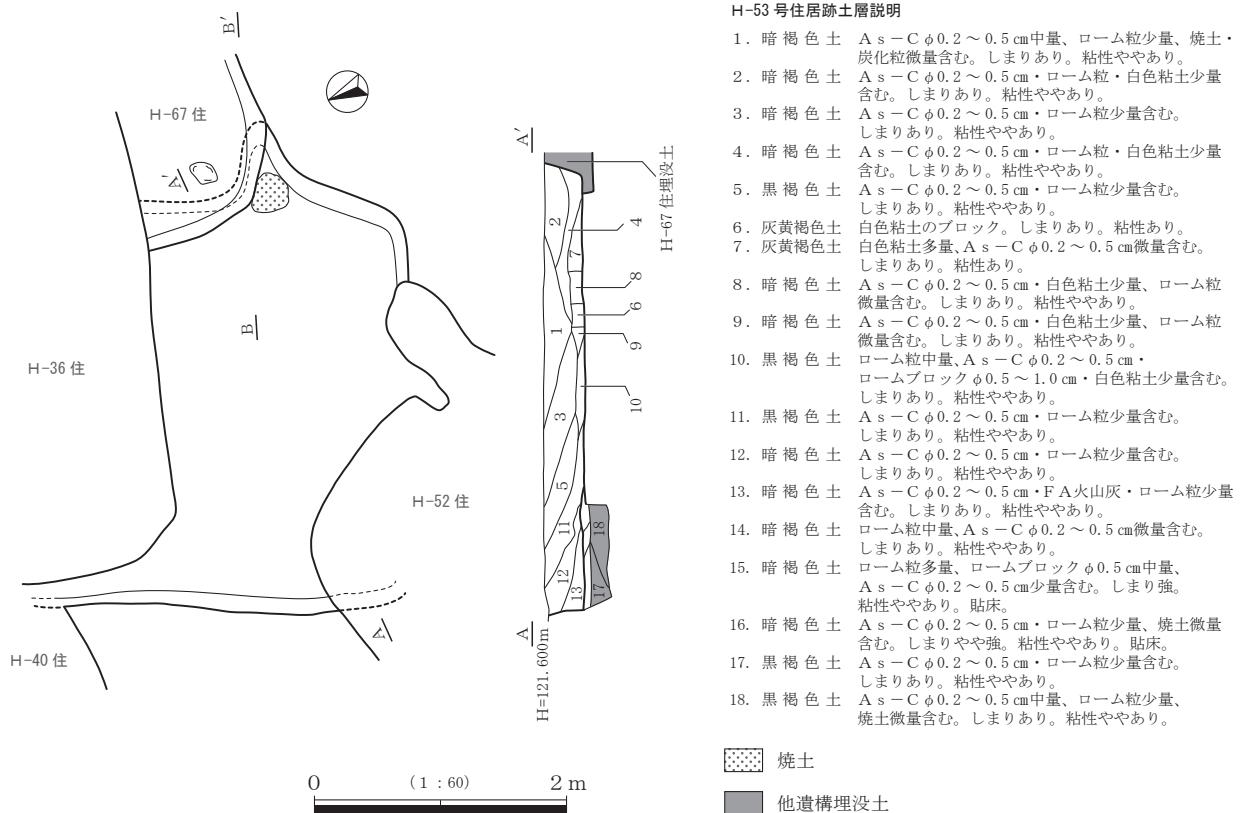
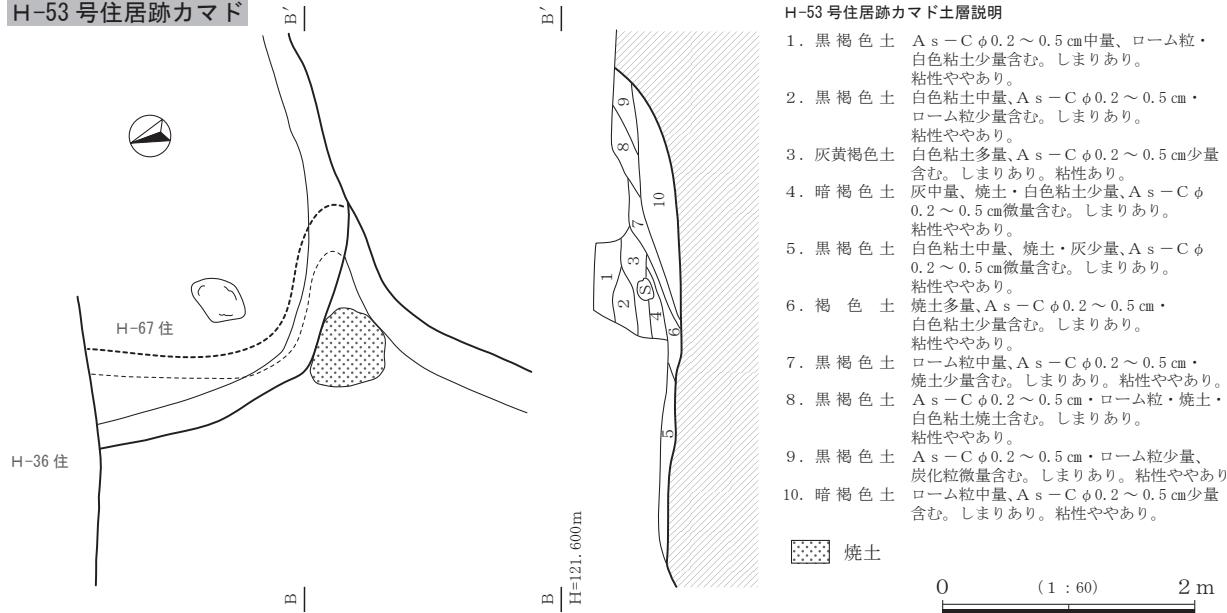
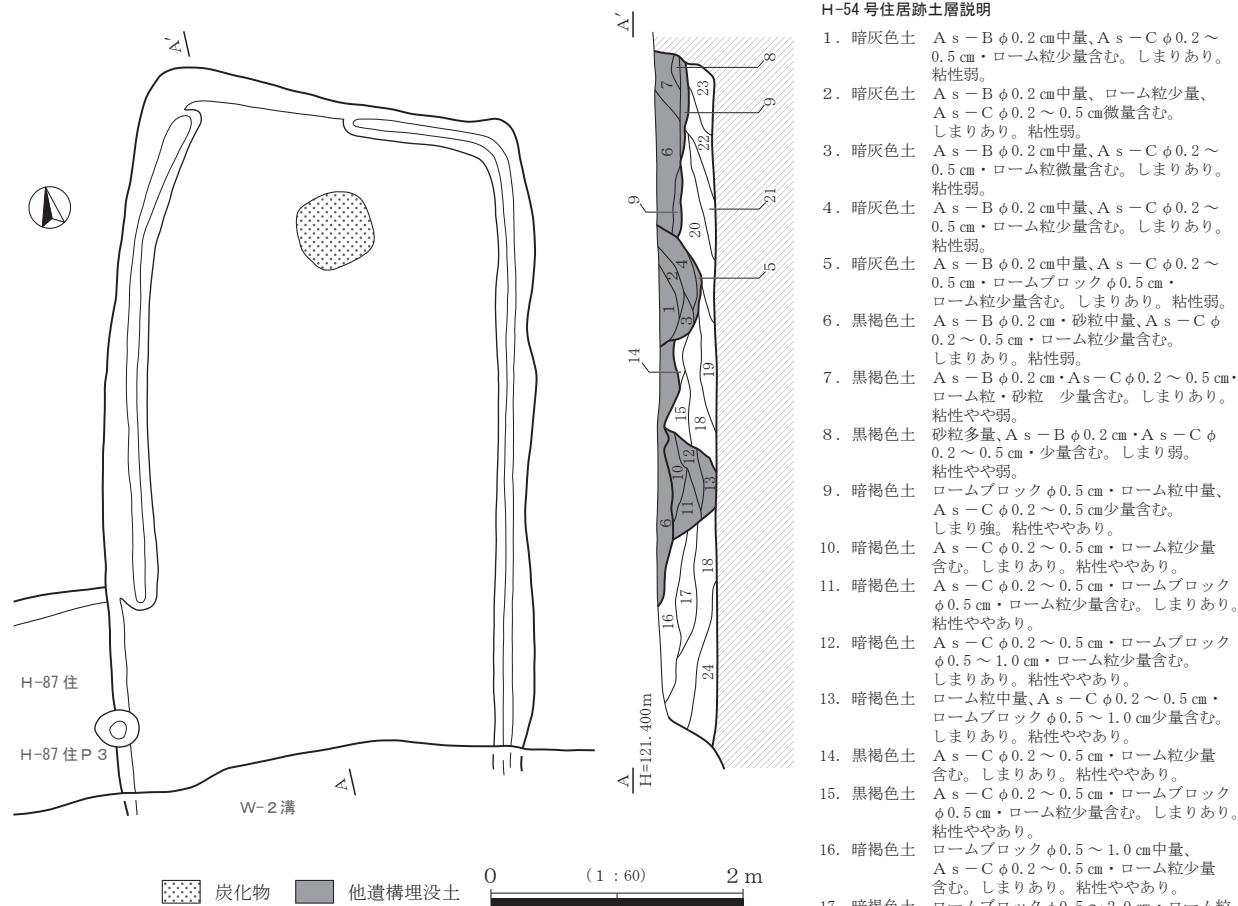


Fig. 26 遺構実測図 (20)

H-53号住居跡カマド



H-54号住居跡

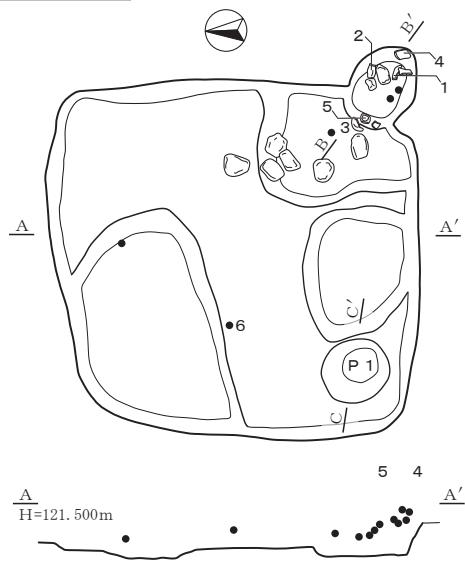


18. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm 中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
19. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
20. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
21. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

22. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
23. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
24. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 4.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 27 遺構実測図 (21)

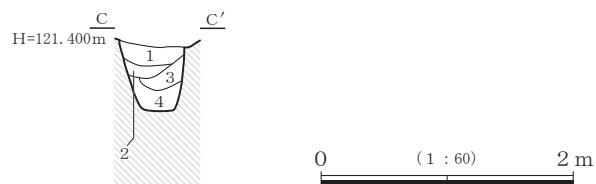
### H-55号住居跡



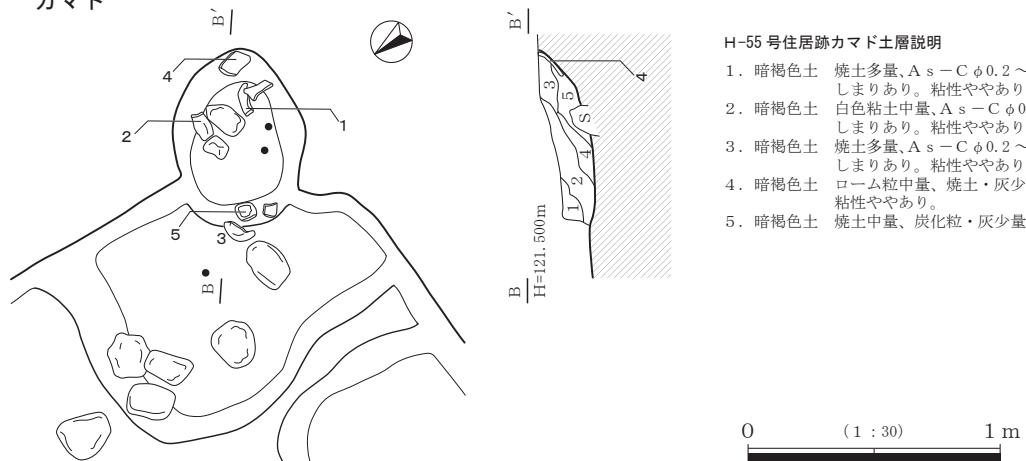
### H-55号住居跡 P 1 土層説明

1. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量、炭化粒微量含む。  
しまりややあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量、ローム粒微量含む。  
しまりややあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。  
しまりややあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。  
しまりややあり。粘性ややあり。

P 1



### カマド



### H-55号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 焼土多量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ 少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 白色粘土中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・焼土少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 焼土多量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$ ・炭化粒微量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、焼土・灰少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
5. 暗褐色土 焼土中量、炭化粒・灰少量含む。しまり弱。粘性弱。

### H-56号住居跡

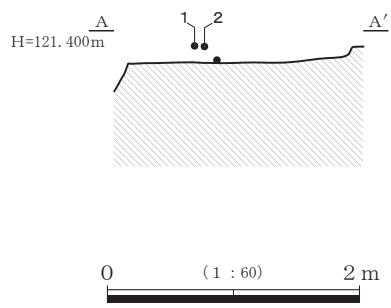
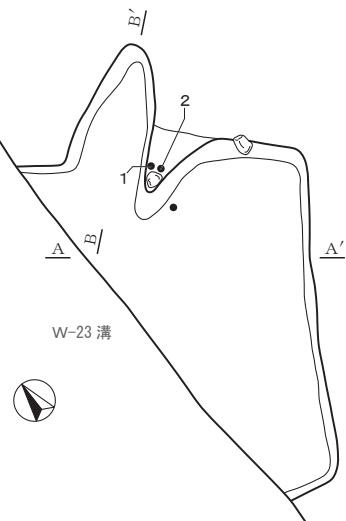
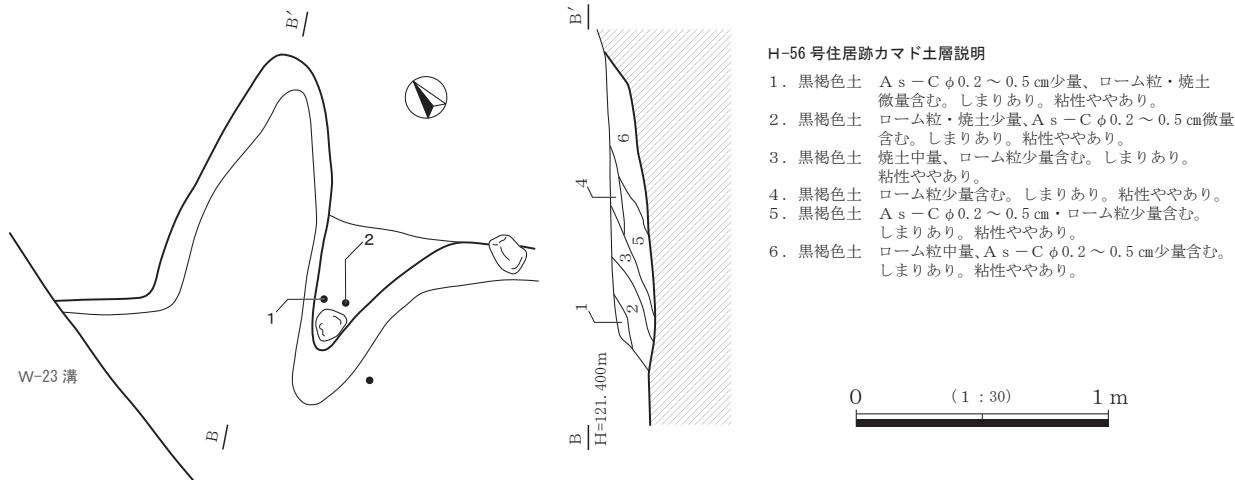


Fig. 28 遺構実測図 (22)

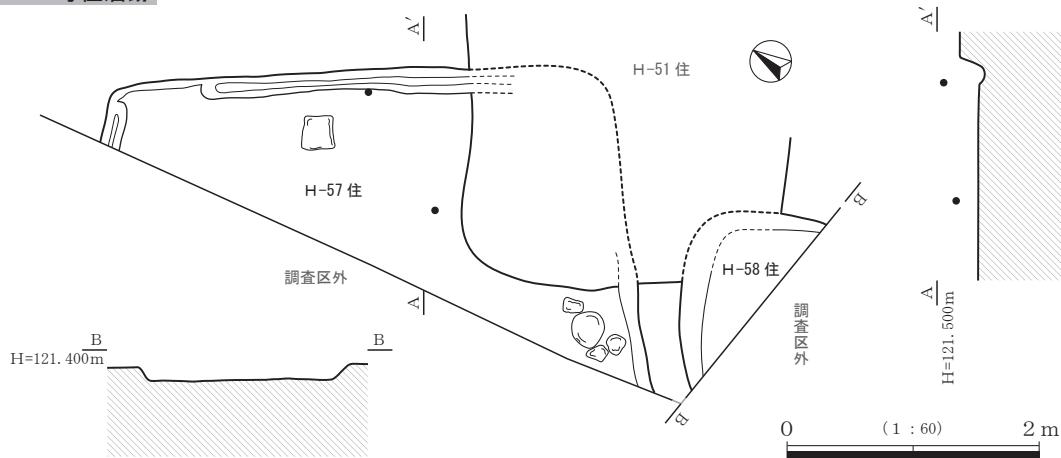
### H-56号住居跡カマド



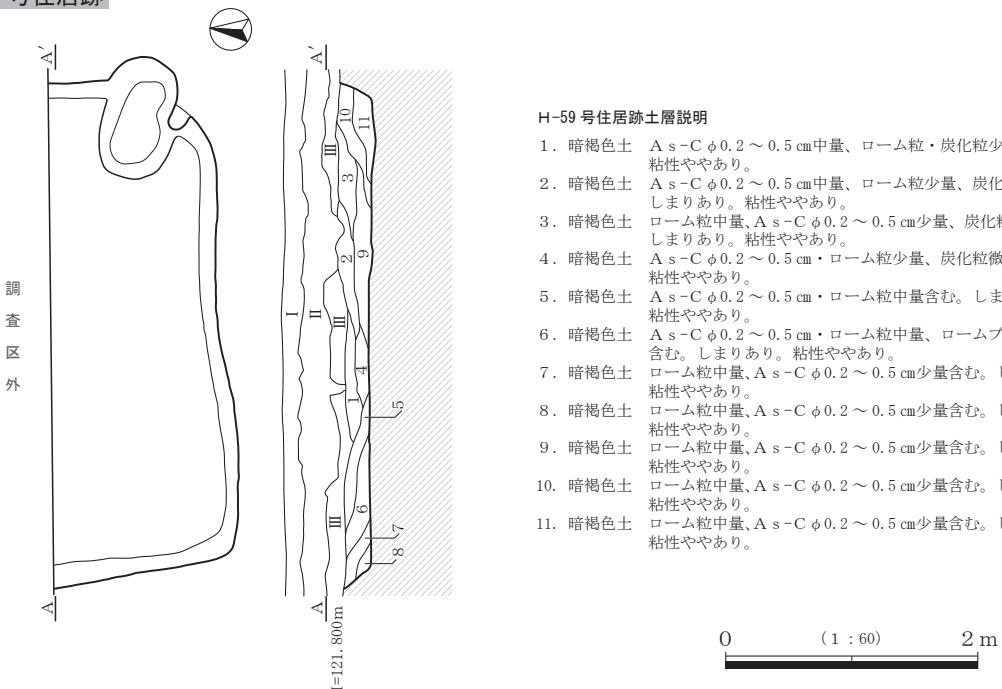
### H-56号住居跡カマド土層説明

1. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量、ローム粒・焼土  
微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒・焼土少量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  微量  
含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 焼土中量、ローム粒少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
4. 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。

### H-57・58号住居跡



### H-59号住居跡

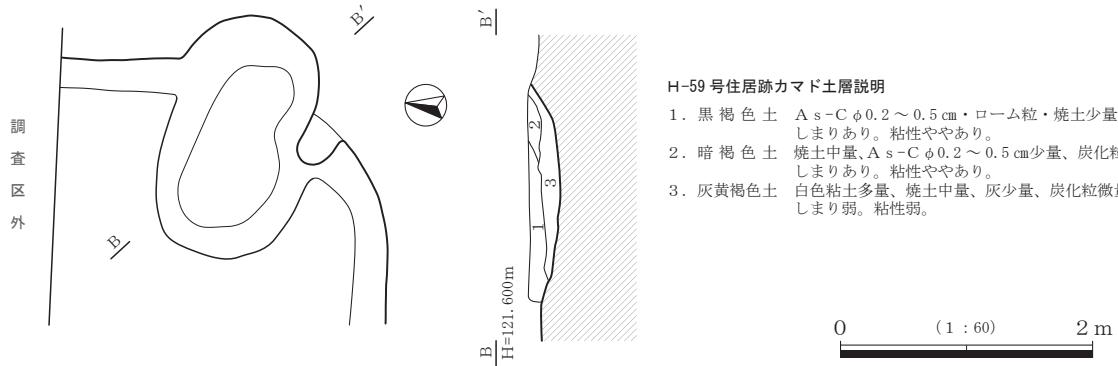


### H-59号住居跡土層説明

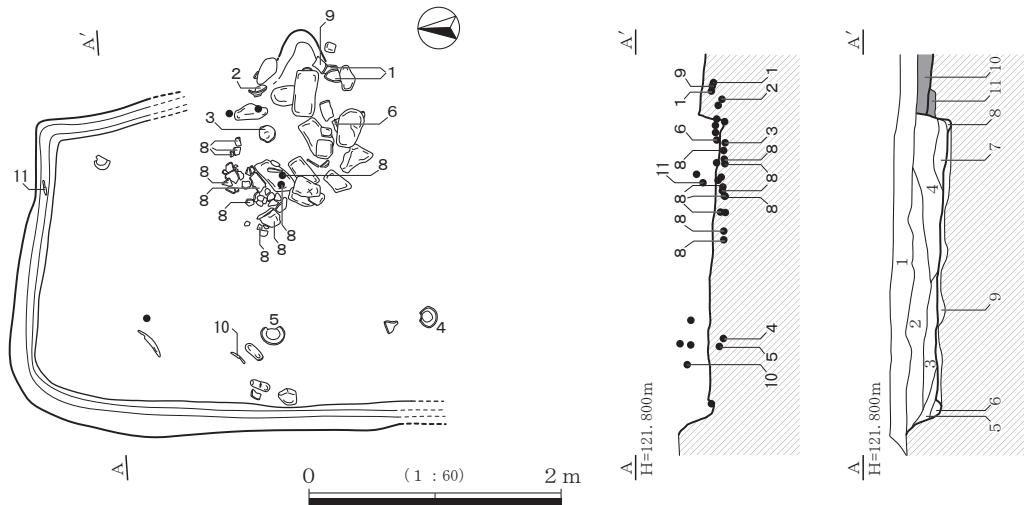
1. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
2. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量、炭化粒微量含む。  
しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
5. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒中量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
6. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  少量  
含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
8. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
9. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
10. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。
11. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。  
粘性ややあり。

Fig. 29 遺構実測図 (23)

### H-59号住居跡カマド



### H-60号住居跡



### カマド

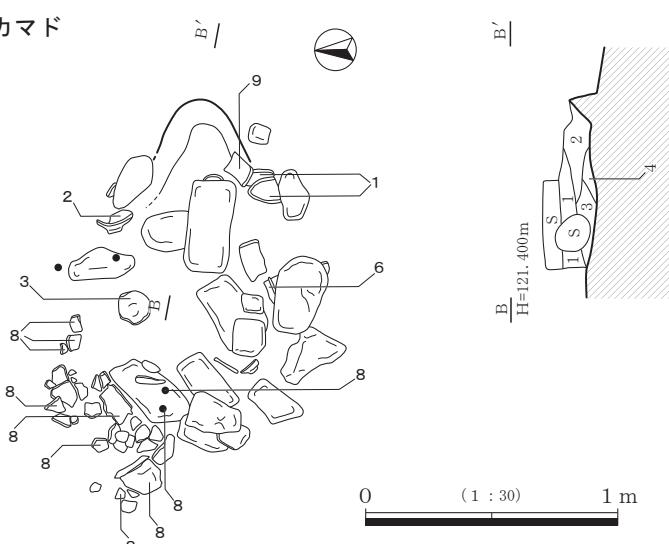
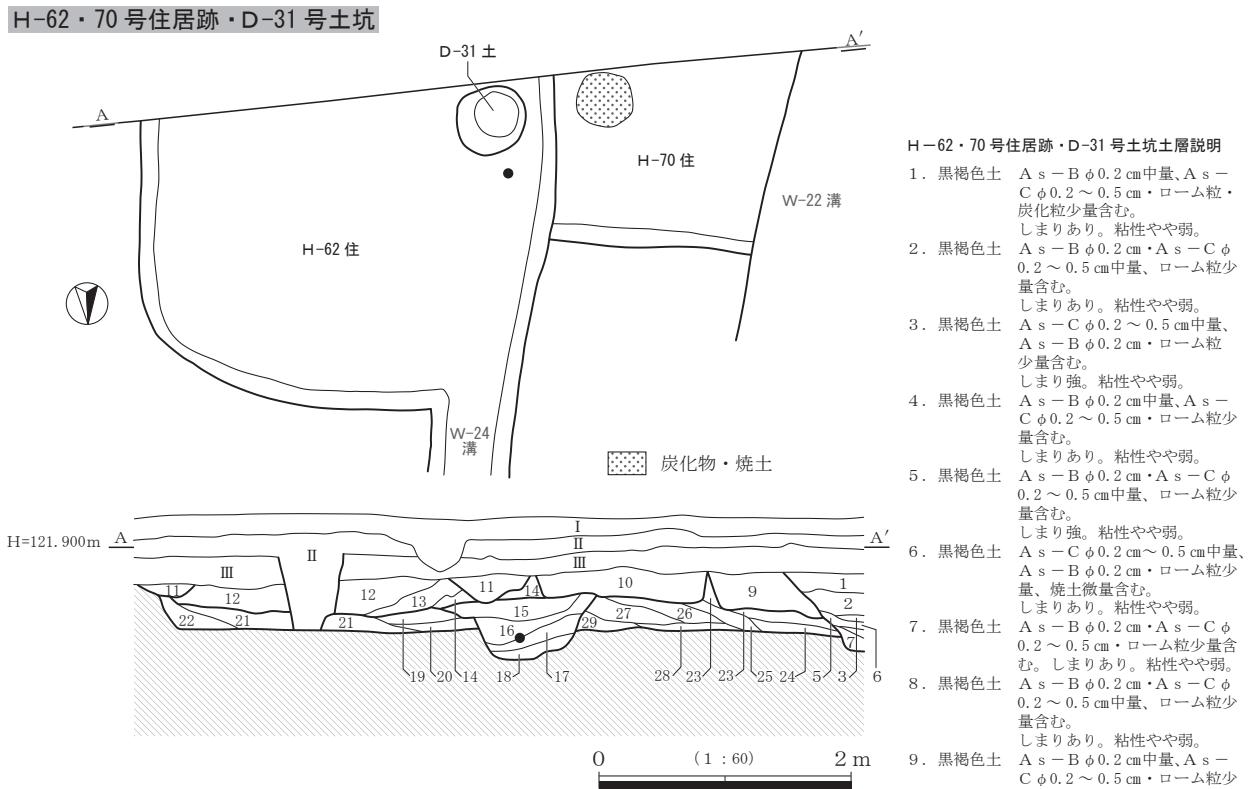
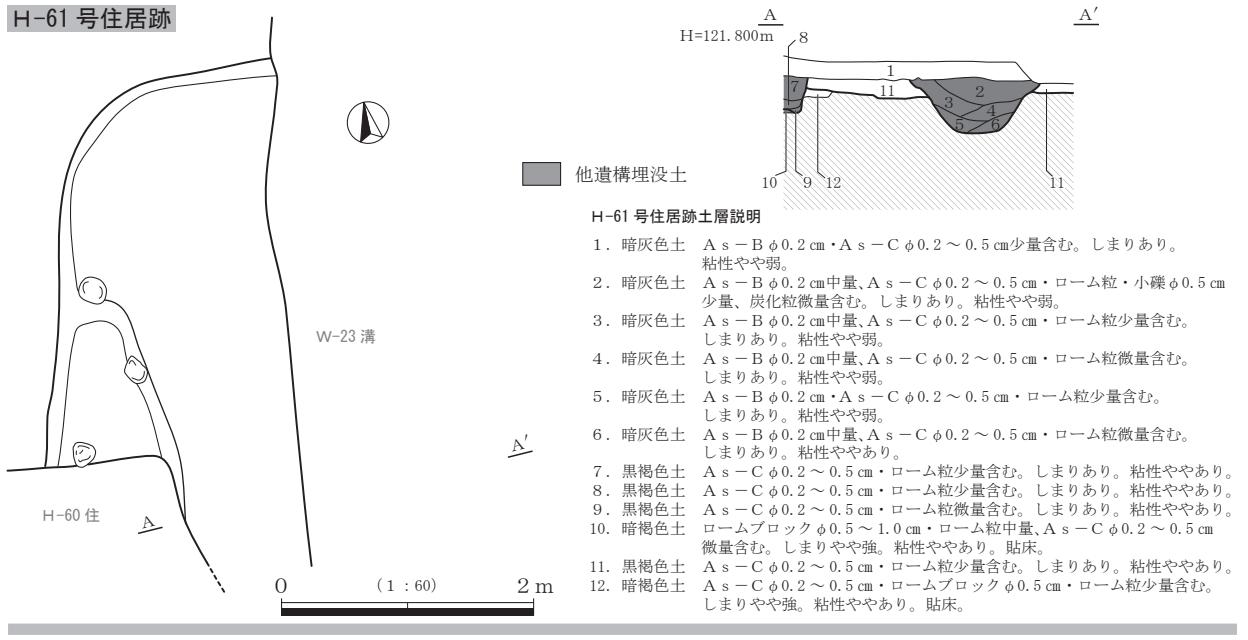


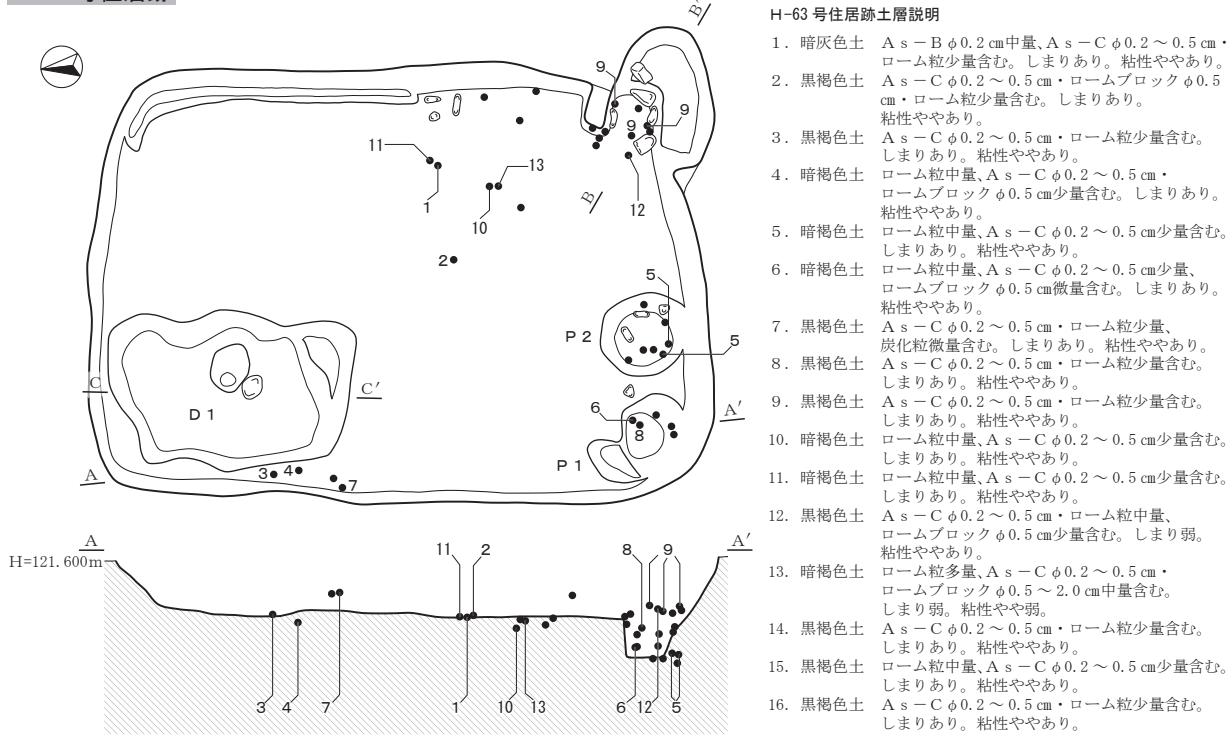
Fig. 30 遺構実測図 (24)



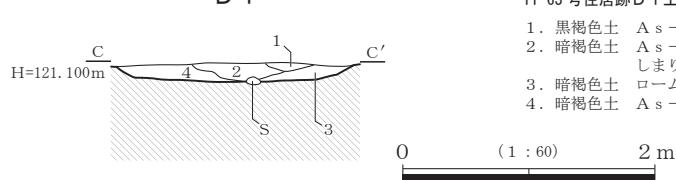
10. 暗褐色土  $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$  中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
11. 暗灰色土  $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$  中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  微量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
12. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
13. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm} \cdot$  ローム粒・焼土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
14. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
15. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量、焼土・炭化粒微量含む。しまり強。粘性やや弱。  
16. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
17. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
18. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
19. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
20. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
21. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
22. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
23. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
24. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
25. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
26. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
27. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
28. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性やや弱。  
29. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

Fig. 31 遺構実測図 (25)

### H-63号住居跡



### D 1



### カマド

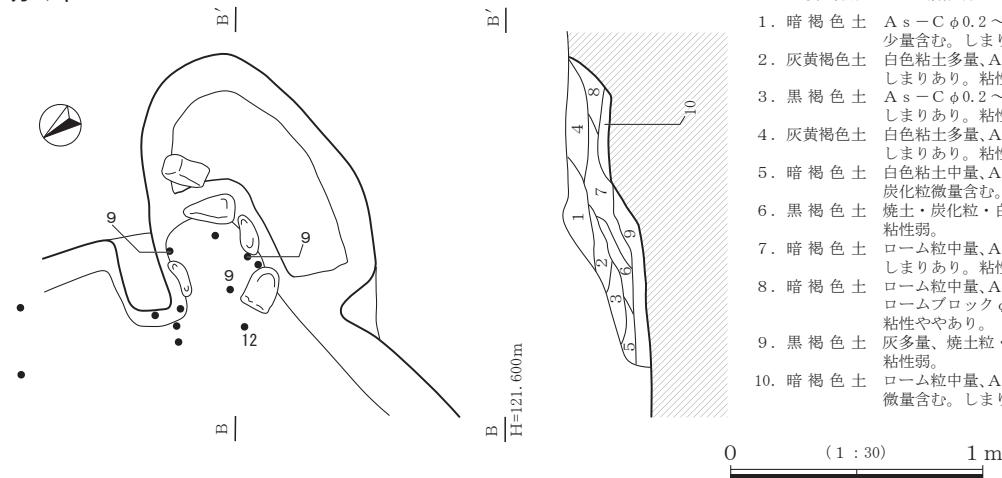


Fig. 32 遺構実測図 (26)

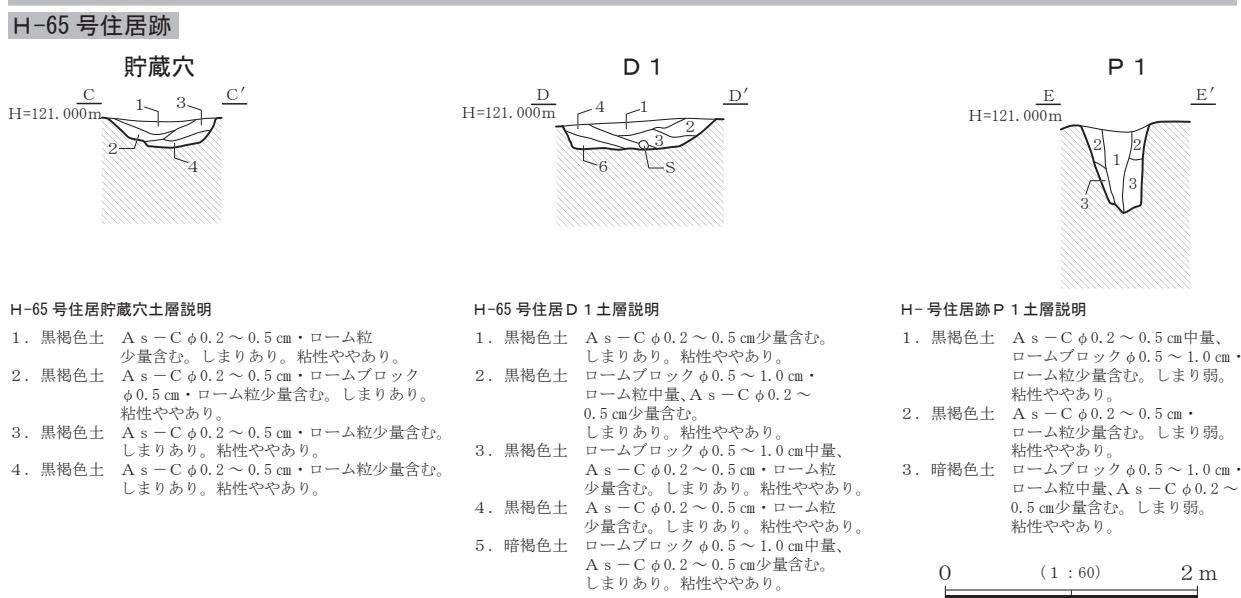
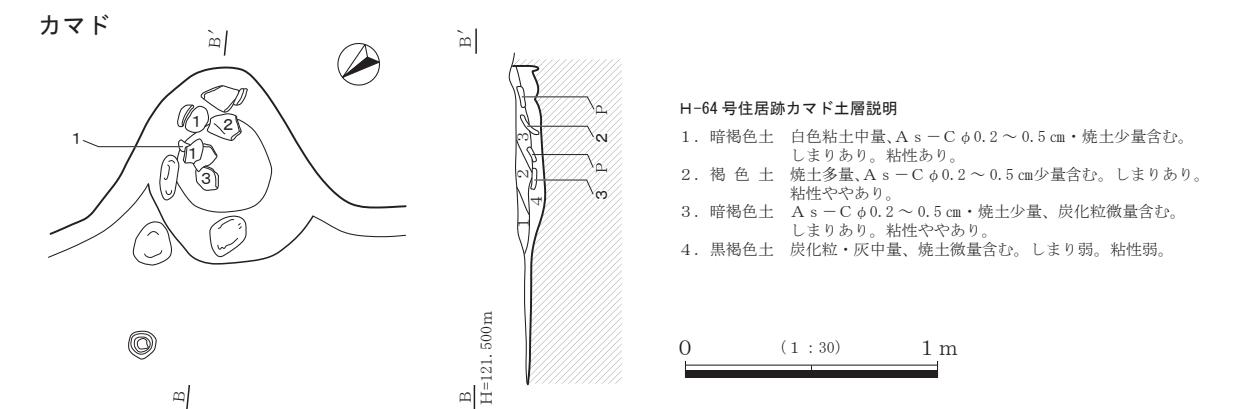
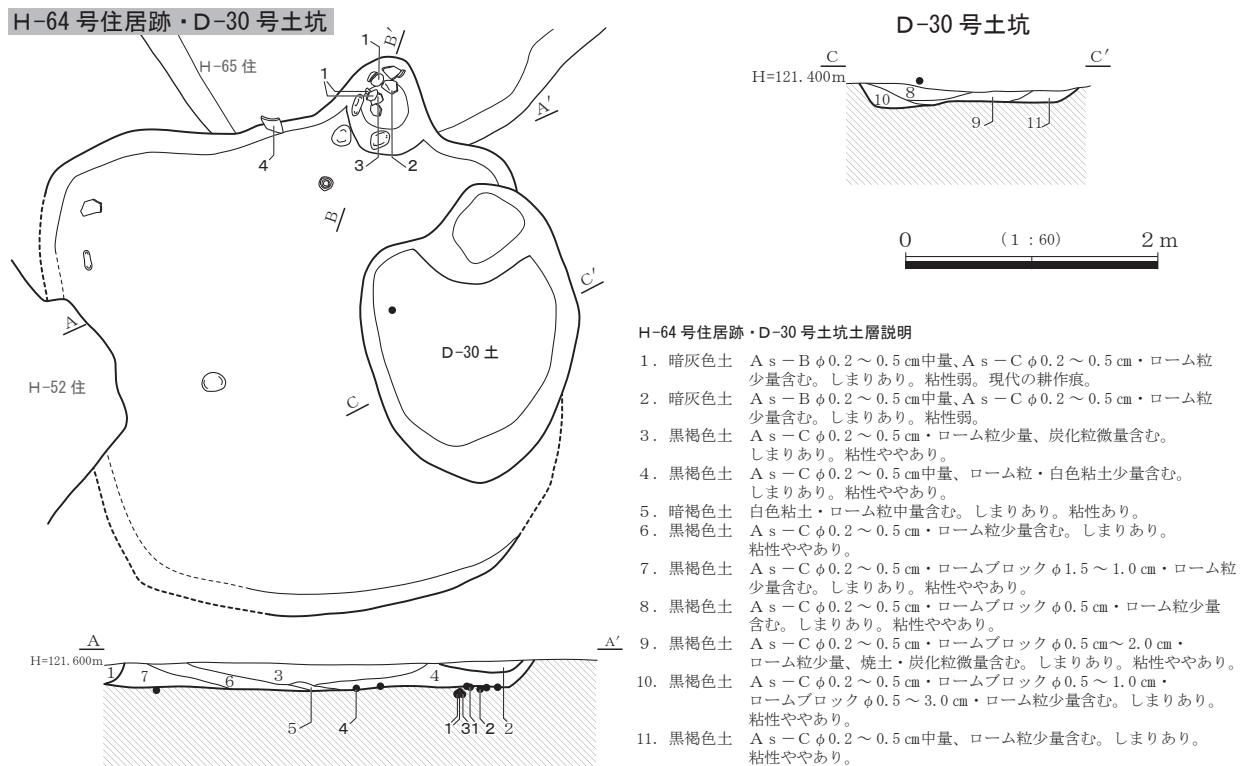
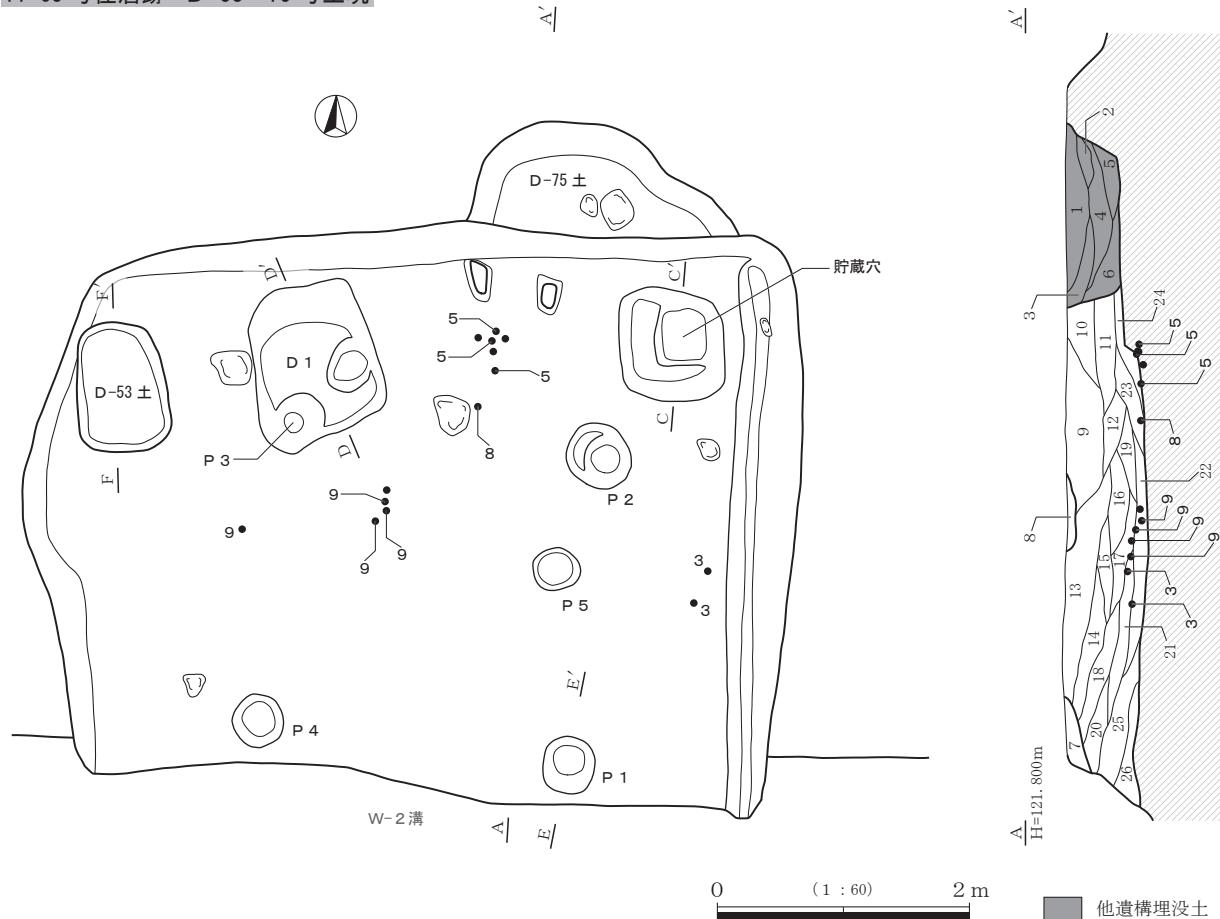


Fig. 33 遺構実測図 (27)

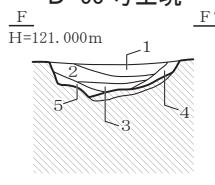
H-65号住居跡・D-53・75号土坑



H-65号住居跡・D-75号土坑土層説明

- |          |  |          |  |
|----------|--|----------|--|
| 1. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm • 炭化粒中量、ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                    | 14. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。    |
| 2. 黒褐色土  | 白色粘土多量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                               | 15. 黒褐色土 | ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 3.0 cm中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。    |
| 3. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒・焼土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                        | 16. 暗褐色土 | ローム粒・白色粘土中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。                           |
| 4. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                          | 17. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。                           |
| 5. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm • ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                         | 18. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm • ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。          |
| 6. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                    | 19. 暗褐色土 | ローム粒中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・白色粘土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                        |
| 7. 暗灰色土  | A s - B $\phi$ 0.2 cm中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。                 | 20. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                             |
| 8. 暗灰色土  | A s - B $\phi$ 0.2 cm中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。            | 21. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。            |
| 9. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性弱。                              | 22. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm少量含む。しまりやや強。粘性ややあり。           |
| 10. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。                             | 23. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 11. 暗褐色土 | ローム粒・白色粘土中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性弱。       | 24. 暗褐色土 | ローム粒・白色粘土中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 12. 暗褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 2.0 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。 | 25. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 13. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・白色粘土少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性弱。                        | 26. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                               |

D-53号土坑

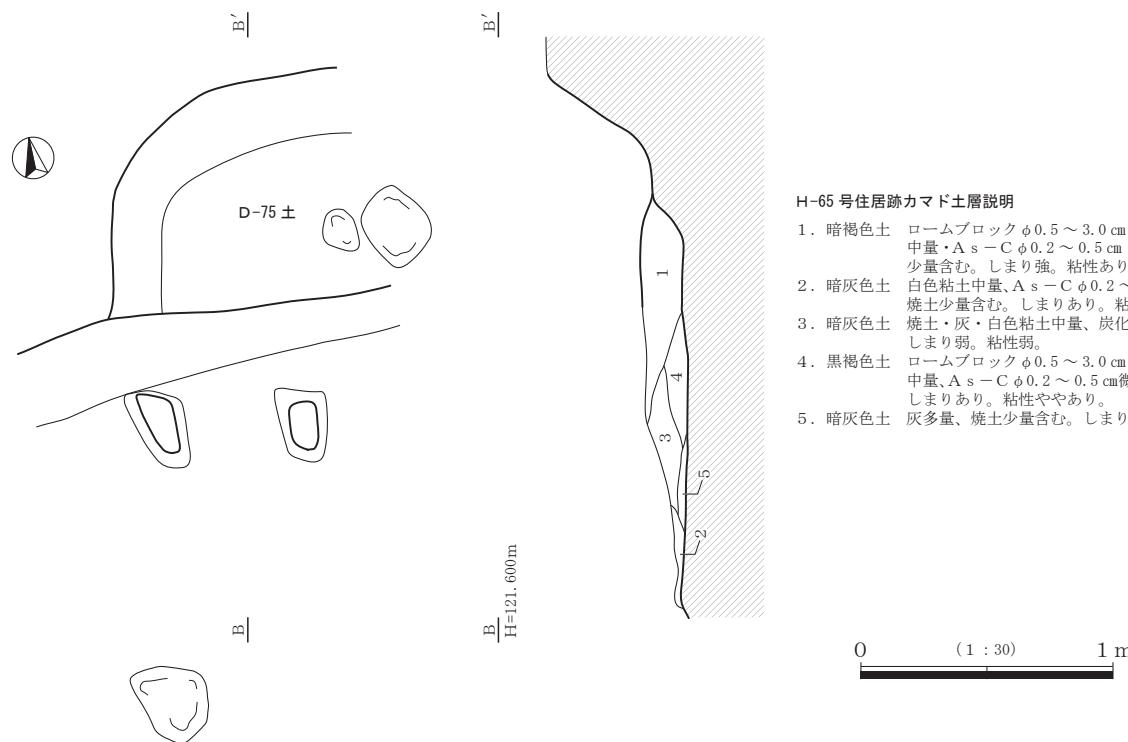


D-53号土坑土層説明

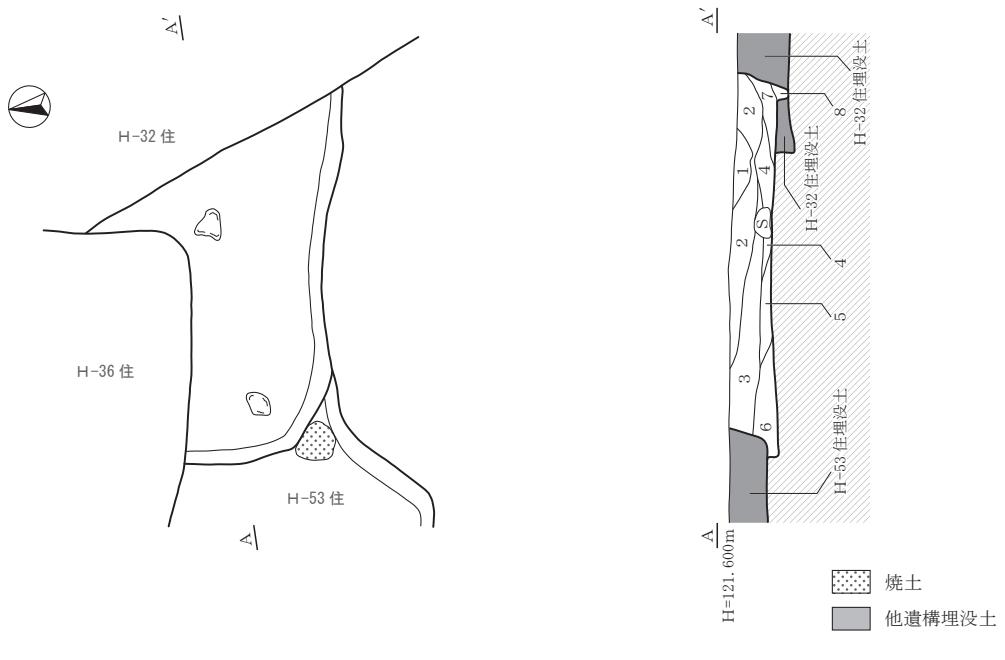
- |         |  |
|---------|--|
| 1. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 2. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 3. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 2.0 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 4. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。         |
| 5. 黑褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。         |

Fig. 34 遺構実測図 (28)

### H-65号住居跡カマド



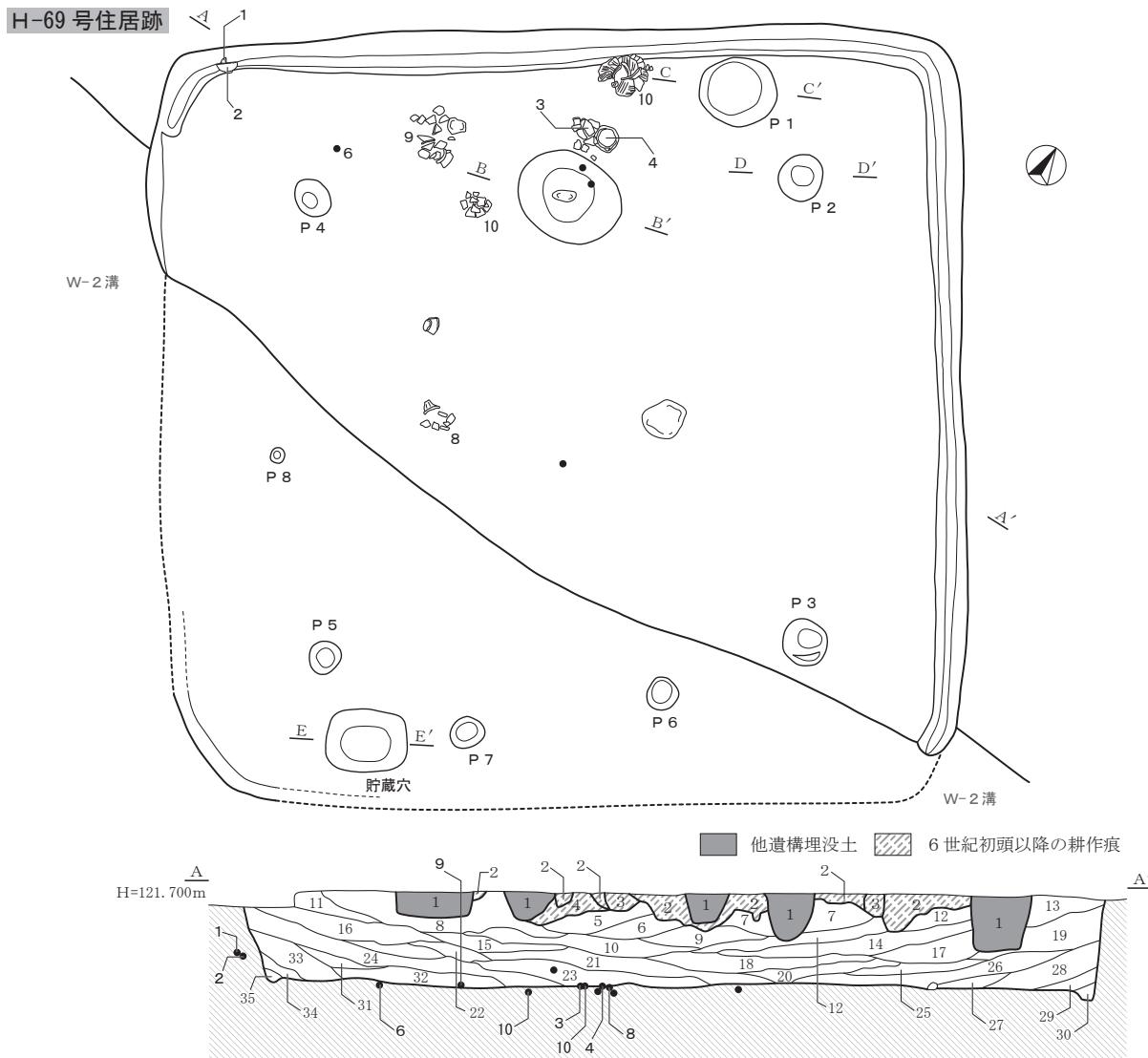
### H-67号住居跡



#### H-67号住居跡土層説明

1. 暗褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ 中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ ・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黑褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ ・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ 中量、H r - F A・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5\text{ cm}$ ・ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 35 遺構実測図 (29)

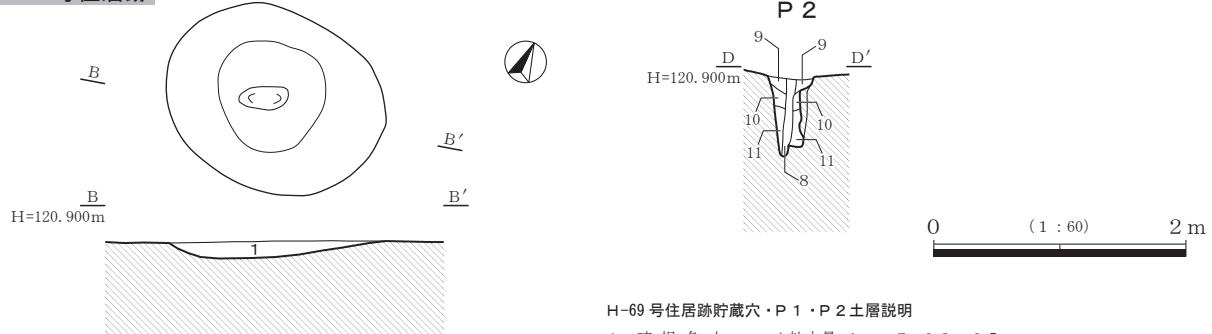


H-69号住居跡土層説明

1. 暗灰色土  $A_s - B \phi 0.2 \text{ cm}$  中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  •  $H_r - F_A$  • ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  •  $H_r - F_A$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 灰黄褐色土  $H_r - F_A$  多量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $H_r - F_A$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ローム粒中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
14. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量含む。ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
18. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 5.0 \text{ cm}$  • ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
20. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
21. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
22. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
26. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
27. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
28. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
29. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
30. 暗褐色土 ローム粒多量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
31. 黑褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
32. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
33. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
34. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
35. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
36. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  • ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  • ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

Fig. 36 遺構実測図 (30)

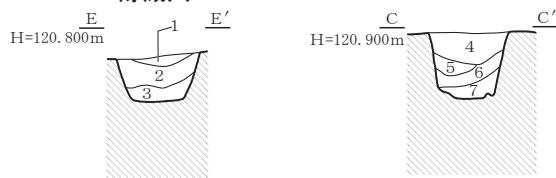
### H-69号住居跡



### H-69号住居跡炉跡土層説明

1. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。

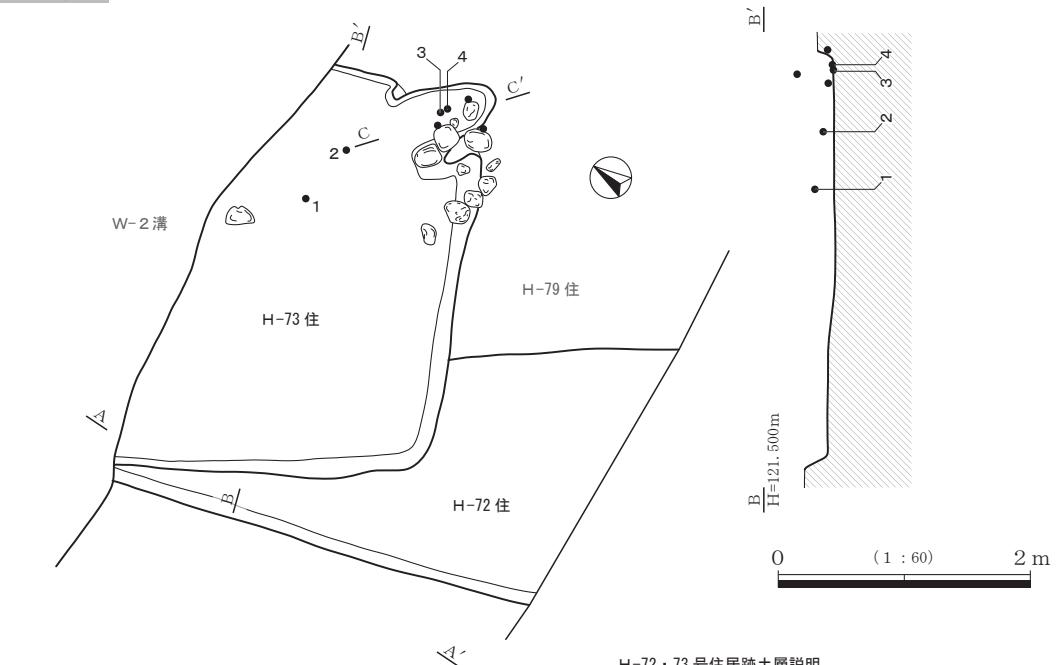
### 貯藏穴



### H-69号住居跡貯藏穴・P1・P2土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm、ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0$  cm・ $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黑褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5$  cm・ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0$  cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
5. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
6. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0$  cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
7. 黑褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 5.0$  cm中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
8. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒少量含む。しまり弱。粘性ややあり。
10. 暗褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm、ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. にぶい黄褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0$  cm・ローム粒多量含む。しまり弱。粘性弱。

### H-72・73号住居跡



### H-72・73号住居跡土層説明

1. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗灰色土  $A_s - B \phi 0.2$  cm中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-72号住居跡埋没土。
5. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-72号住居跡埋没土。
6. 黑褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまり強。粘性やや弱。H-72号住居跡貼床。
7. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-73号住居跡埋没土。
8. 黑褐色土 ローム粒少量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。H-73号住居跡埋没土。

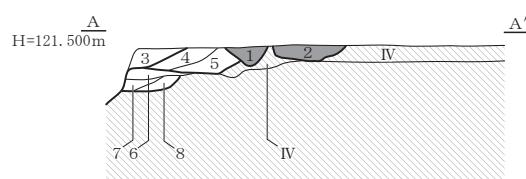
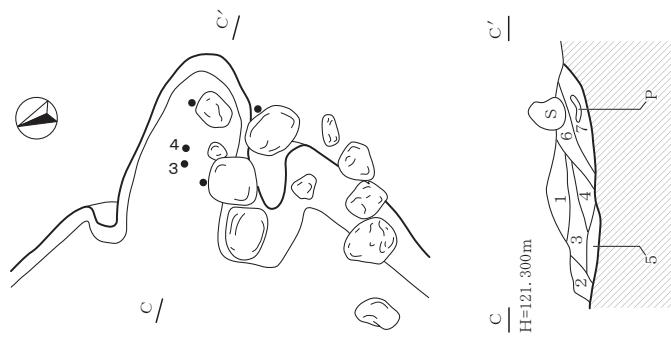


Fig. 37 遺構実測図 (31)

### H-73号住居跡カマド

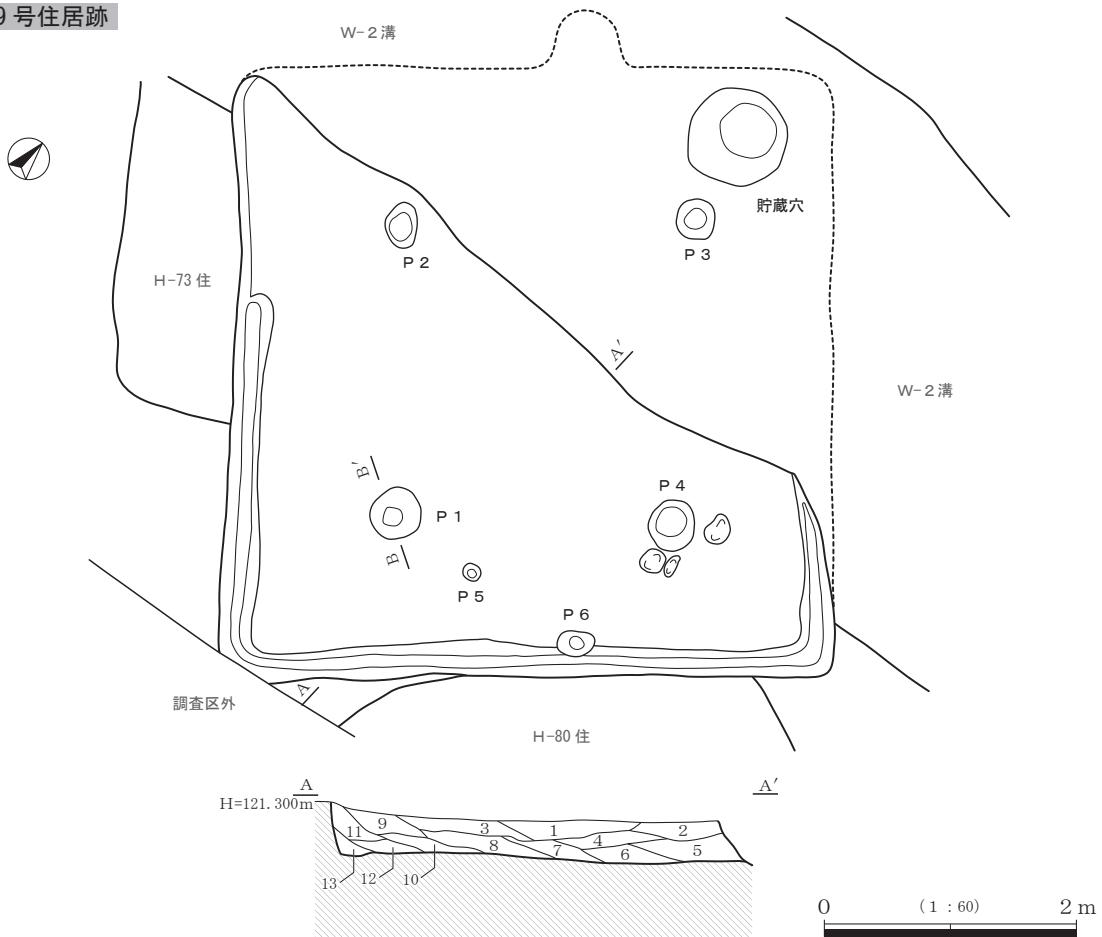


### H-73号住居跡カマド土層説明

1. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・焼土・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 暗褐色土 焼土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・焼土・灰少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 褐色土 焼土多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土 焼土中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

0 (1 : 30) 1 m

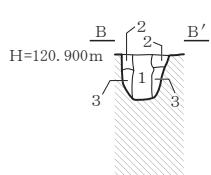
### H-79号住居跡



### H-79号住居跡土層説明

1. 暗灰色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒・白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 暗灰色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量、白色粘土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒中量、白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm、ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
12. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
13. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### P 1

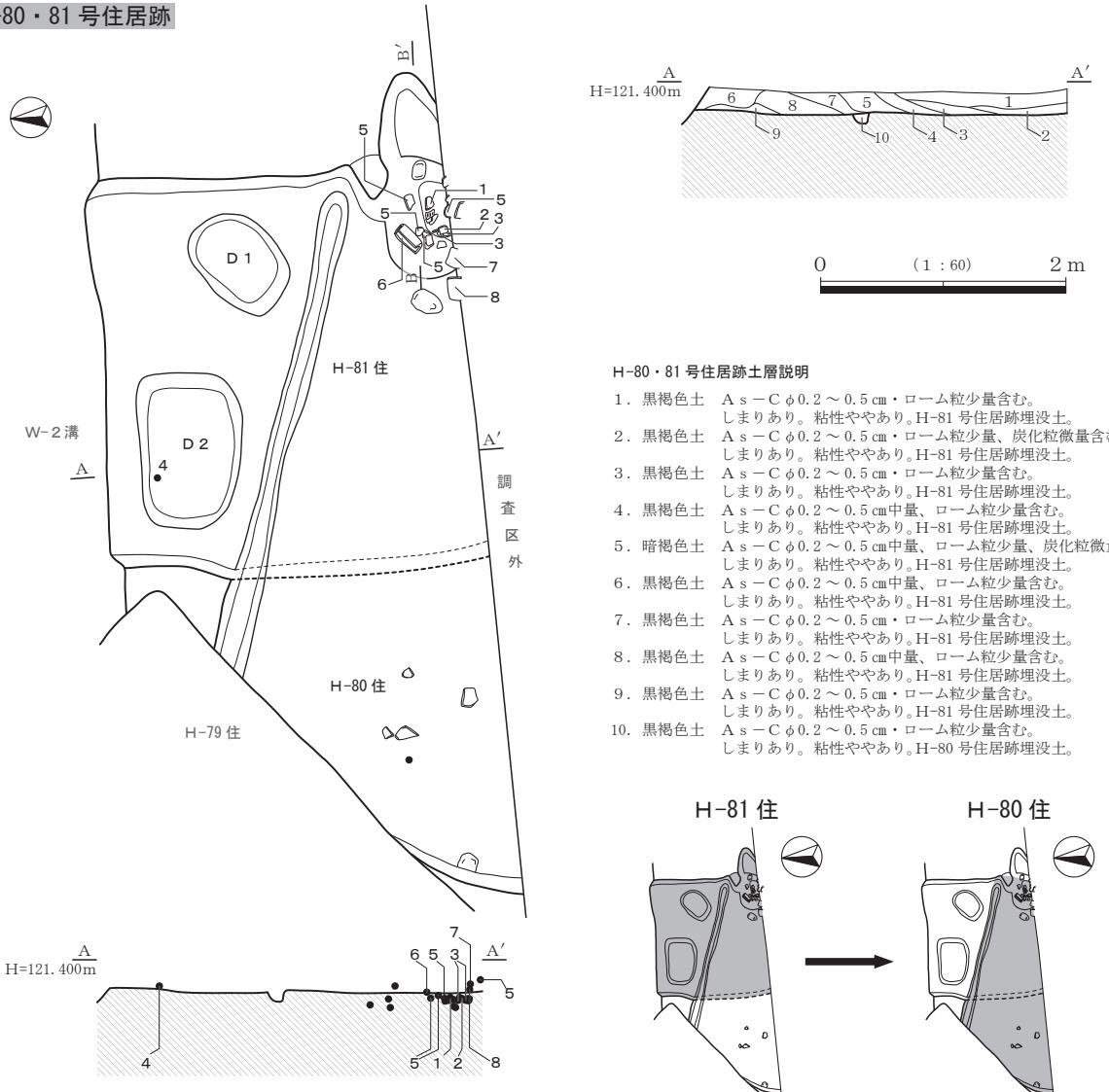


### H-79号住居P 1土層説明

1. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm含む。しまり弱。粘性やや弱。
2. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

Fig. 38 遺構実測図 (32)

H-80・81号住居跡



H-81住カマド

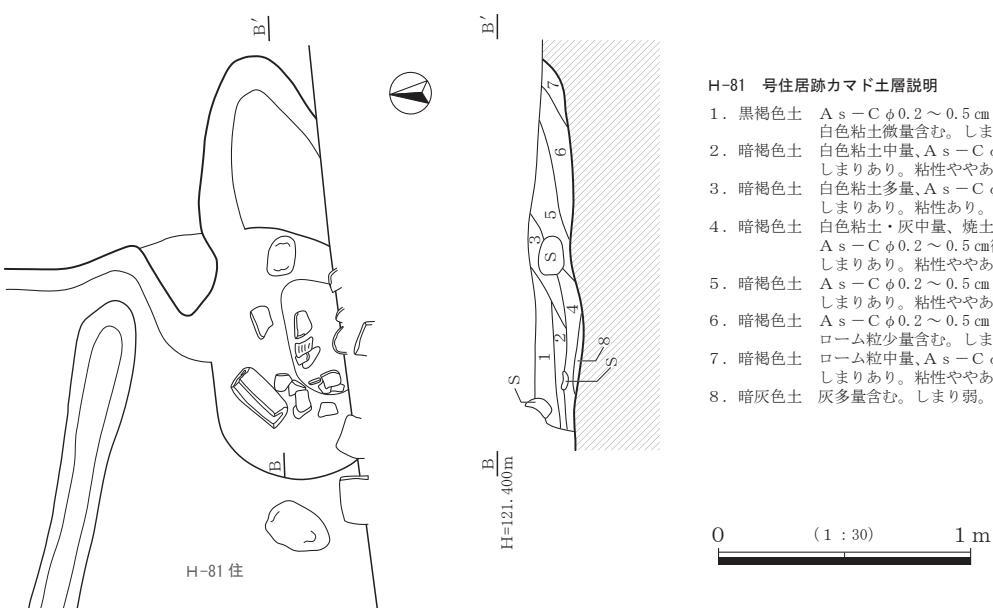


Fig. 39 遺構実測図 (33)

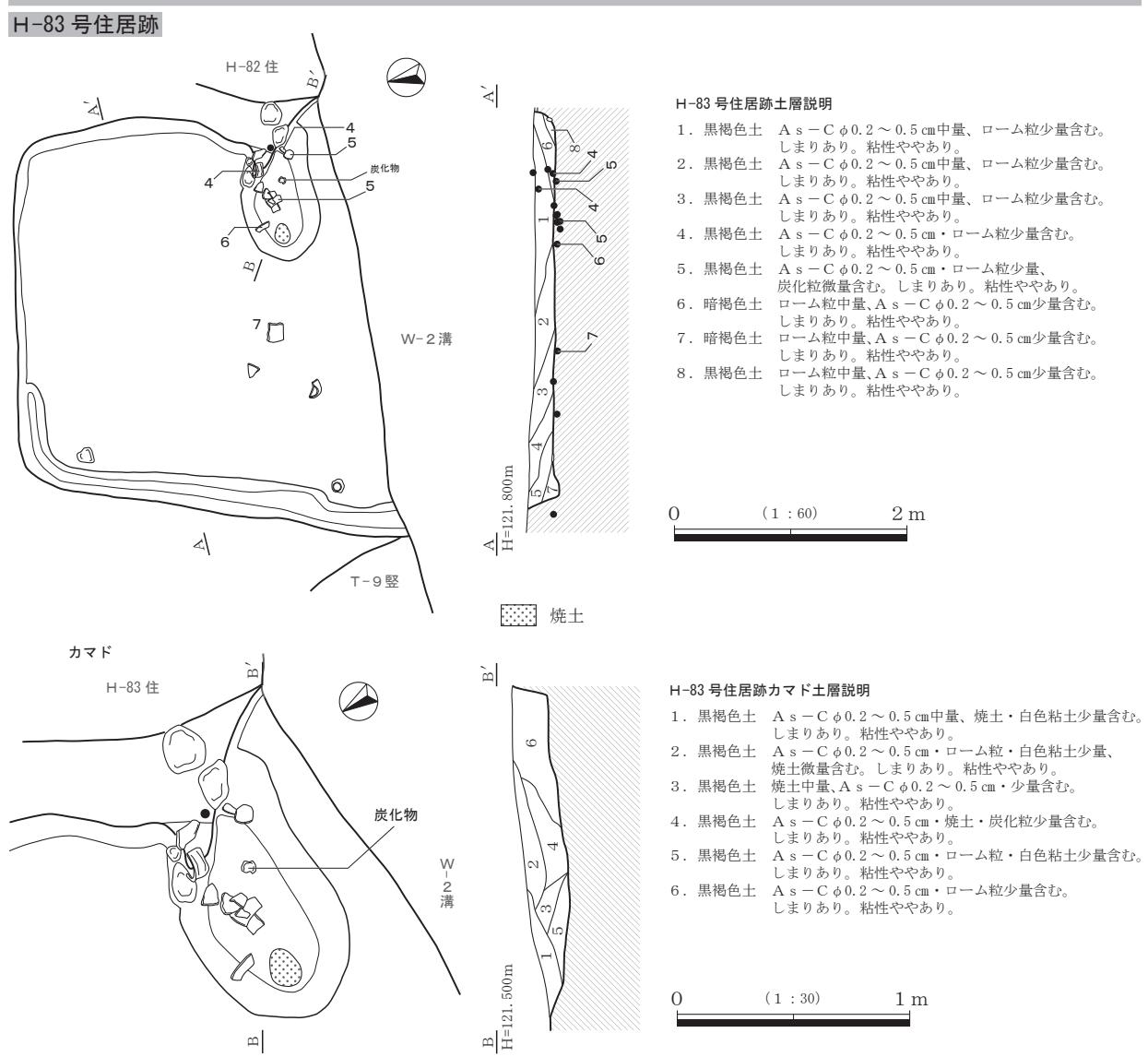
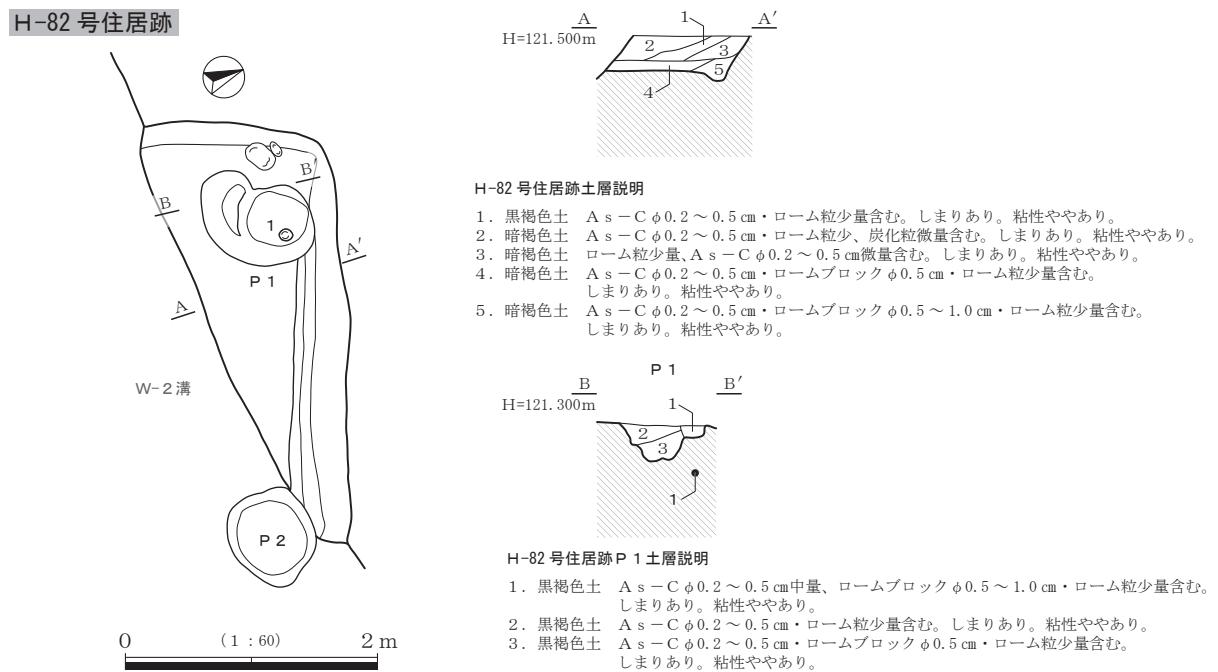
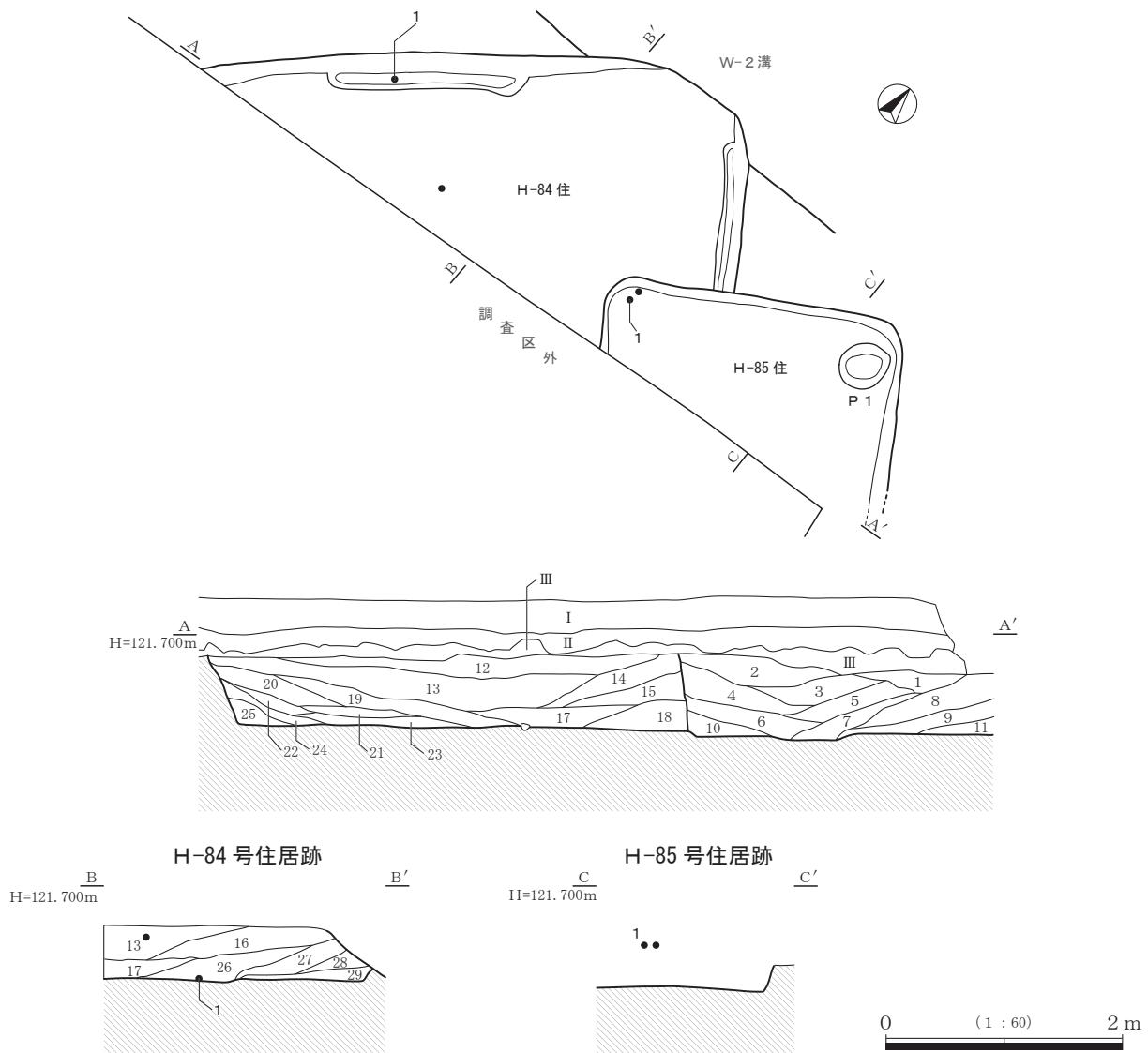


Fig. 40 遺構実測図 (34)

H-84・85号住居跡

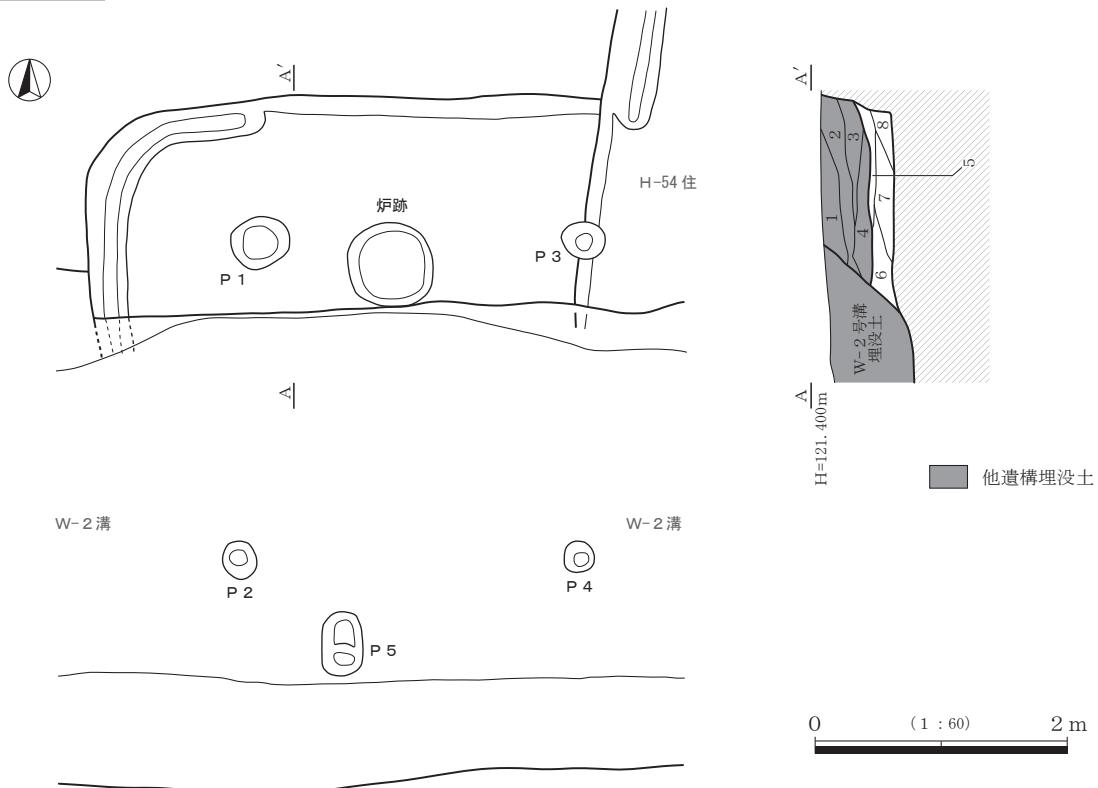


H-84・85号住居跡土層説明

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。      |
| 2. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                     |
| 3. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                 |
| 4. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。           |
| 5. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 6. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、ローム粒・白色粘土少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 7. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                     |
| 8. 暗褐色土  | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。      |
| 9. 黒褐色土  | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。      |
| 10. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 11. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 12. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                 |
| 13. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 14. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 15. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm 中量、ローム粒少、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。       |
| 16. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 17. 黒褐色土 | ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 18. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。            |
| 19. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 20. 暗褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒中量、白色粘土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                   |
| 21. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、白色粘土中量。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 22. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                    |
| 23. 黒褐色土 | 炭化粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                    |
| 24. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                      |
| 25. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 26. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                     |
| 27. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。  |
| 28. 黒褐色土 | A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                     |
| 29. 黒褐色土 | 炭化粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒・焼土少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                                 |

Fig. 41 遺構実測図 (35)

### H-87号住居跡



### H-87号住居跡土層説明

- |   |  |
|---|--|
| 1. 暗灰色土 A s - B $\phi$ 0.2 cm中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。                           | 5. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                             |
| 2. 暗灰色土 A s - B $\phi$ 0.2 cm中量、A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。     | 6. 黒褐色土 A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 3.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 3. 暗褐色土 A s - B $\phi$ 0.2 cm・A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。                             | 7. 黒褐色土 A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。                             |
| 4. 暗灰色土 A s - B $\phi$ 0.2 cm・A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック $\phi$ 0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。 | 8. 黒褐色土 A s - C $\phi$ 0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。                               |

### W-3・15号溝

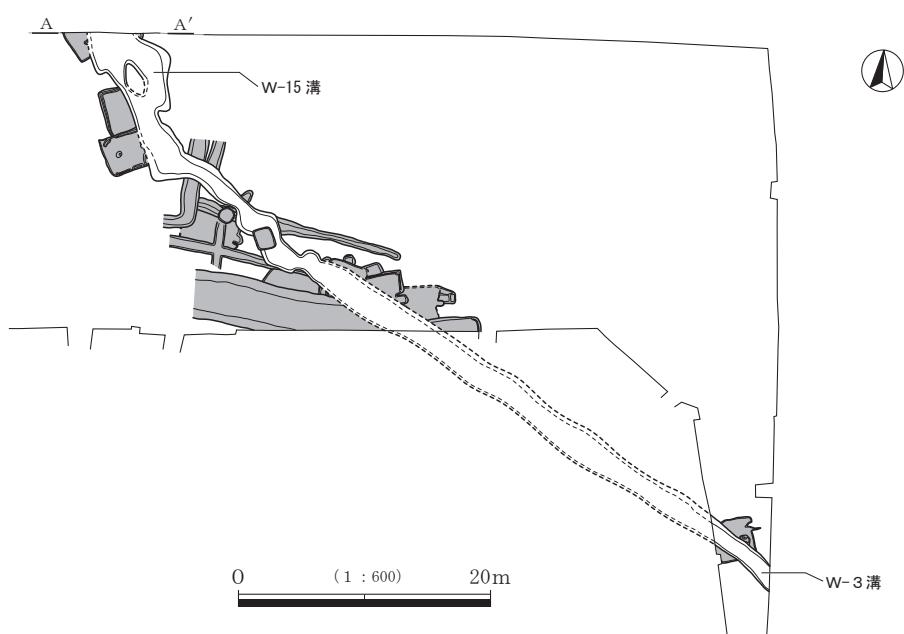
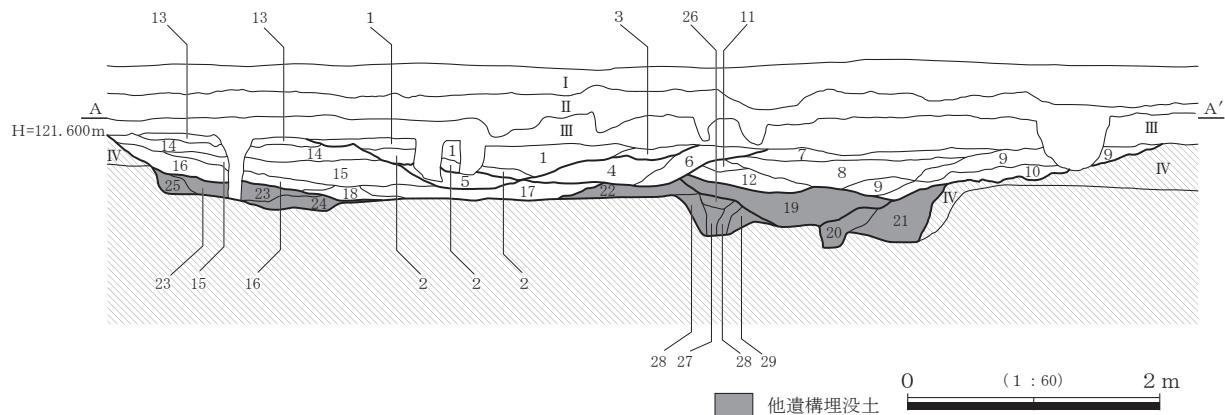


Fig. 42 遺構実測図 (36)

### W-3・15号溝



### W-15号溝土層説明

1. 暗灰色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。鉄分や沈着。
2. 暗灰色土 A s - B  $\phi$  0.2 cmの二次堆積層。しまり弱。粘性なし。
3. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm中量、ローム粒少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4. 黒褐色土 ローム粒・礫  $\phi$  3.0 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm・砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 砂粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 砂粒・小礫  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり弱。粘性なし。
10. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。下位に鉄分沈着。
11. 黒褐色土 砂粒・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・鉄分少量含む。しまり弱。粘性あり。
12. 暗灰色土 砂粒・小礫  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり弱。粘性なし。
13. 暗灰色土 砂粒多量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
14. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
15. 黑褐色土 ローム粒少量、砂粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
16. 暗褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
17. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量含む。しまり強。粘性ややあり。
18. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
19. 黑褐色土 砂粒・鉄分中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-64号土坑埋没土。
20. 黑褐色土 ローム粒中量・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・砂粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-66号土坑埋没土。
21. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒中量含む。しまりあり。粘性ややあり。D-66号土坑埋没土。
22. 黑褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまり強。粘性ややあり。
23. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
24. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
25. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
26. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
27. 黑褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm中量、ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
28. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
29. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 2.0 cm・ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### W-2号溝



Fig. 43 遺構実測図 (37)

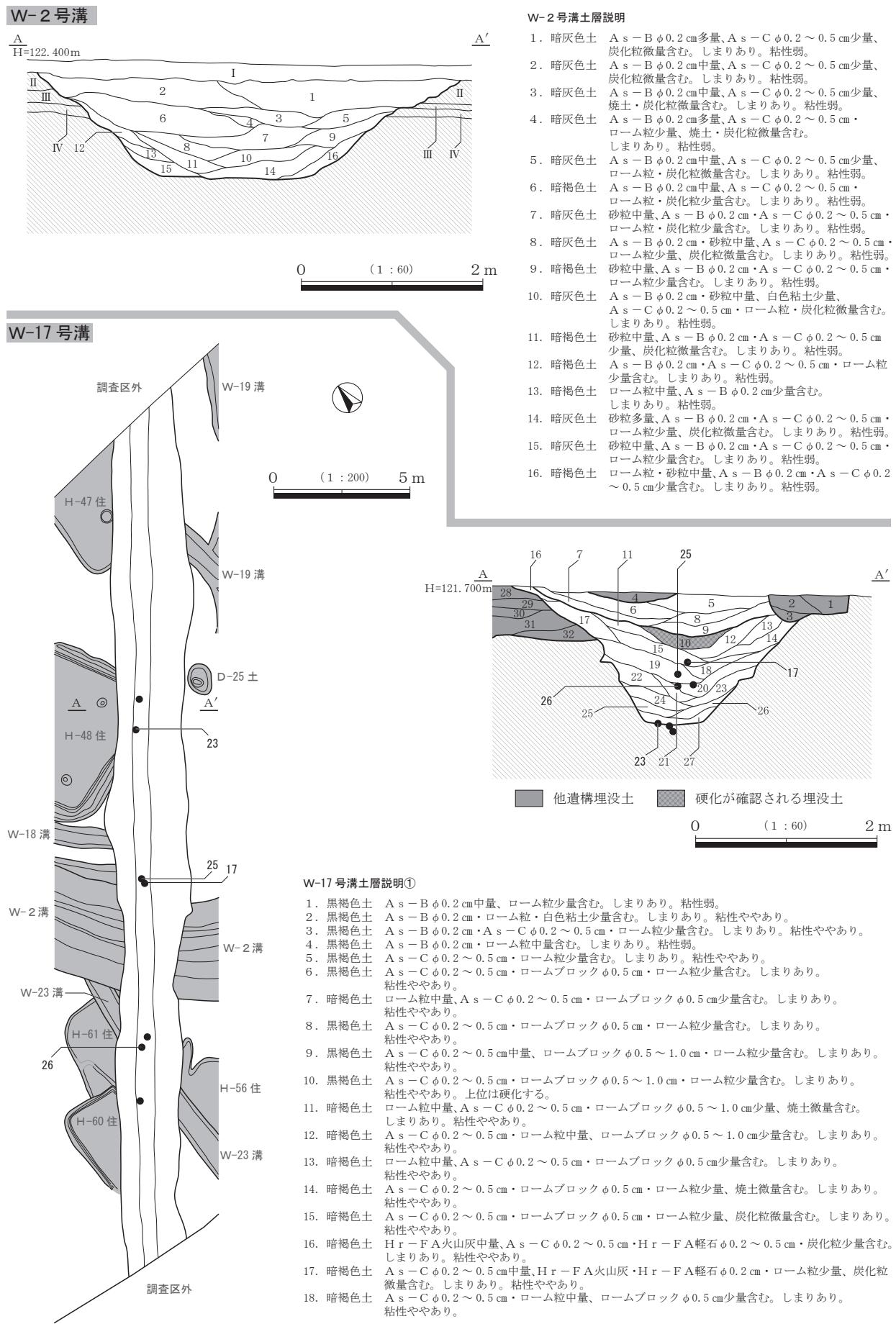


Fig. 44 遺構塞測図 (38)

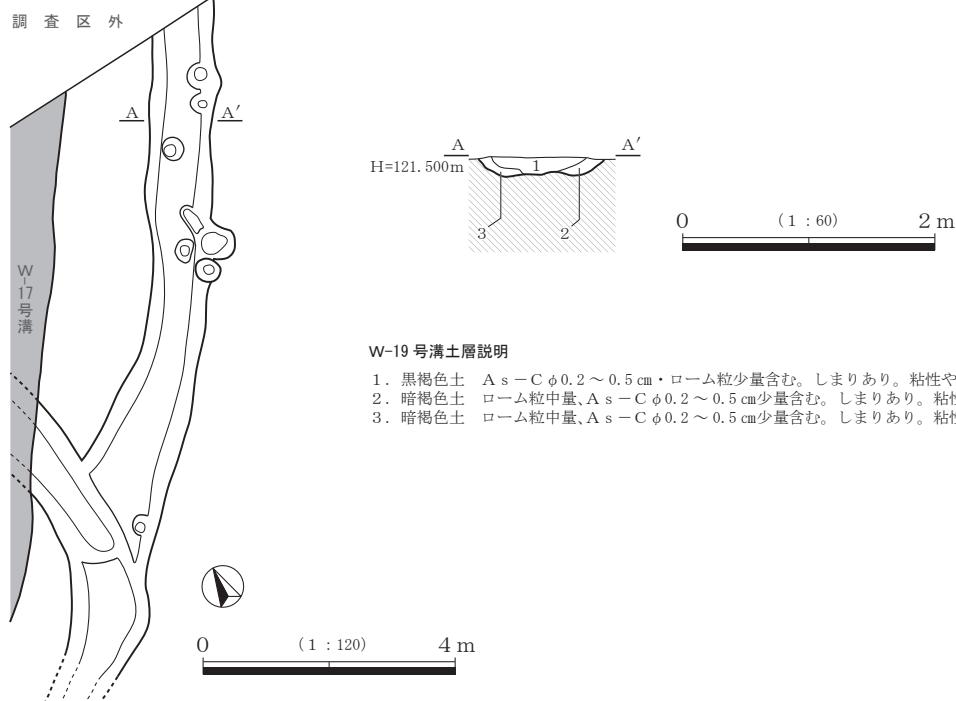
## W-17号溝

### W-17号溝土層説明②

19. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0$  cm中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 20. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 21. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 22. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0$  cm中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・H r - F A軽石  $\phi 0.2$  cm少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 23. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0$  cm中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 24. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 25. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

26. 黒褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5$  cm・砂粒中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 27. 黒褐色土 ローム粒・砂粒中量、ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 28. 暗褐色土 H r - F A火山灰多量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・H r - F A軽石  $\phi 0.2$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 29. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、H r - F A火山灰少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 30. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 31. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 32. 暗褐色土 ローム中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ロームブロック  $\phi 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

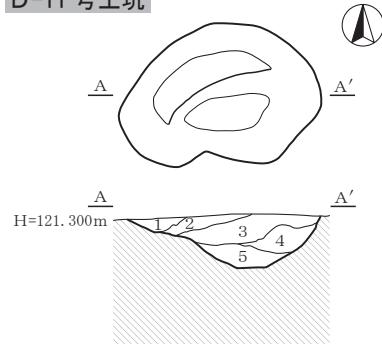
## W-19号溝



### W-19号溝土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 2. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 3. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

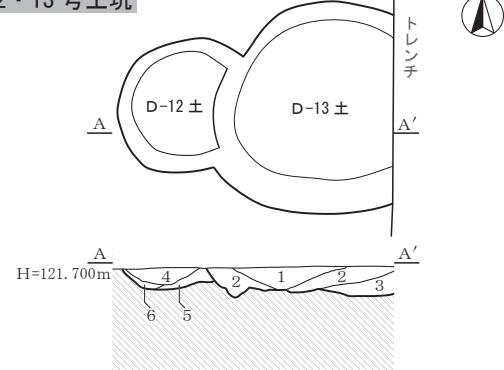
## D-11号土坑



### D-11号土坑土層説明

1. 暗褐色土 ローム中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 2. 黒褐色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm・A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 3. 黑褐色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量、A s - B  $\phi 0.2$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 5. 黑褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量、A s - B  $\phi 0.2$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

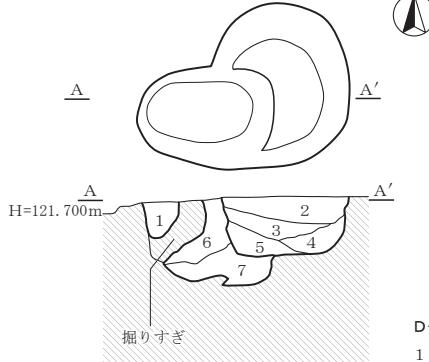
## D-12・13号土坑



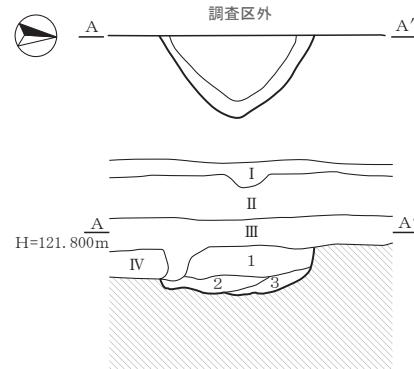
### D-12・13号土坑土層説明

1. 黒褐色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm・A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 2. 黑褐色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm・A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm少量、ローム粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 3. 黑褐色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm・ローム粒少量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - B  $\phi 0.2$  cm少量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 5. 暗灰色土 A s - B  $\phi 0.2$  cm・ローム粒少量、A s - C  $\phi 0.2 \sim 0.5$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。  
 6. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - B  $\phi 0.2$  cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

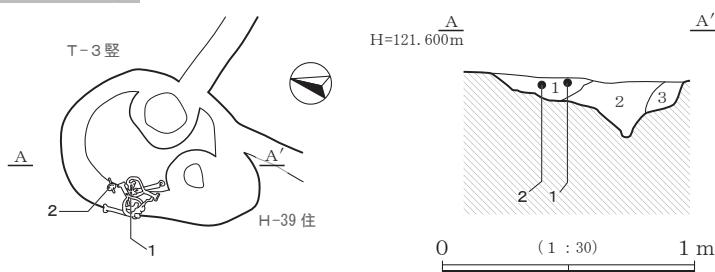
Fig. 45 遺構実測図 (39)

**D-22号土坑****D-22号土坑土層説明**

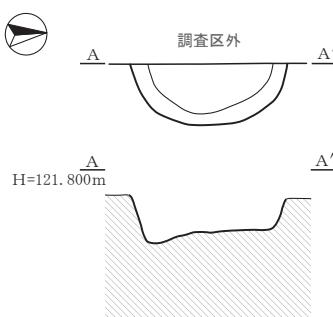
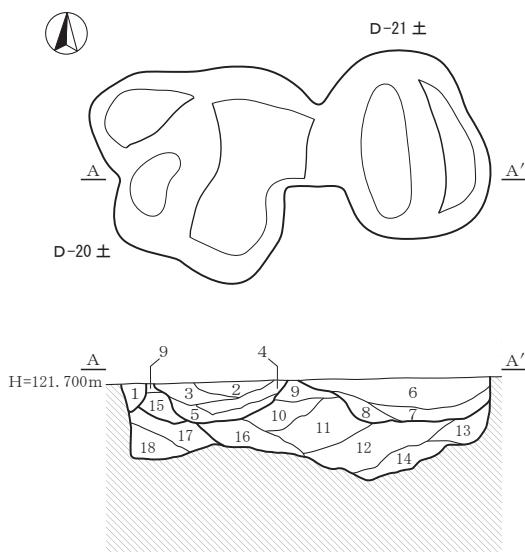
1. 黒褐色土  $A_s - B \phi 0.2 \sim 0.2 \text{ cm}$  中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  中量、ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  中量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 2.0 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$  多量、ローム粒少量含む。しまり弱。粘性やや弱。
7. 暗褐色土 ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 10.0 \text{ cm}$  ローム粒中量含む。しまり弱。粘性やや弱。

**D-14号土坑****D-14号土坑土層説明**

1. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

**D-15号土坑****D-15号土坑土層説明**

1. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
2. 黒褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3. 暗褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

**D-16号土坑****D-20・21号土坑****D-20・21号土坑土層説明**

1. 黒褐色土 ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量、白色粘土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 ローム粒少量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 1.0 \text{ cm}$  ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ローム粒中量、 $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やややあり。
8. 暗褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やややあり。
9. 黒褐色土  $A_s - C \phi 0.2 \sim 0.5 \text{ cm}$  ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やややあり。
10. 暗褐色土 ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やややあり。
11. 暗褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。粘性やややあり。
12. 黑褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やややあり。
13. にぶい黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$  中量含む。しまりあり。粘性弱。
14. にぶい黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 4.0 \text{ cm}$  中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性弱。
15. にぶい黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック  $\phi 0.5 \sim 3.0 \text{ cm}$  中量含む。しまりあり。粘性弱。
16. 黑褐色土 ローム粒中量含む。しまりあり。粘性やややあり。
17. 黑褐色土 ローム粒中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性やややあり。
18. 黑褐色土 ローム粒少量含む。しまりあり。粘性やややあり。

Fig. 46 遺構実測図 (40)

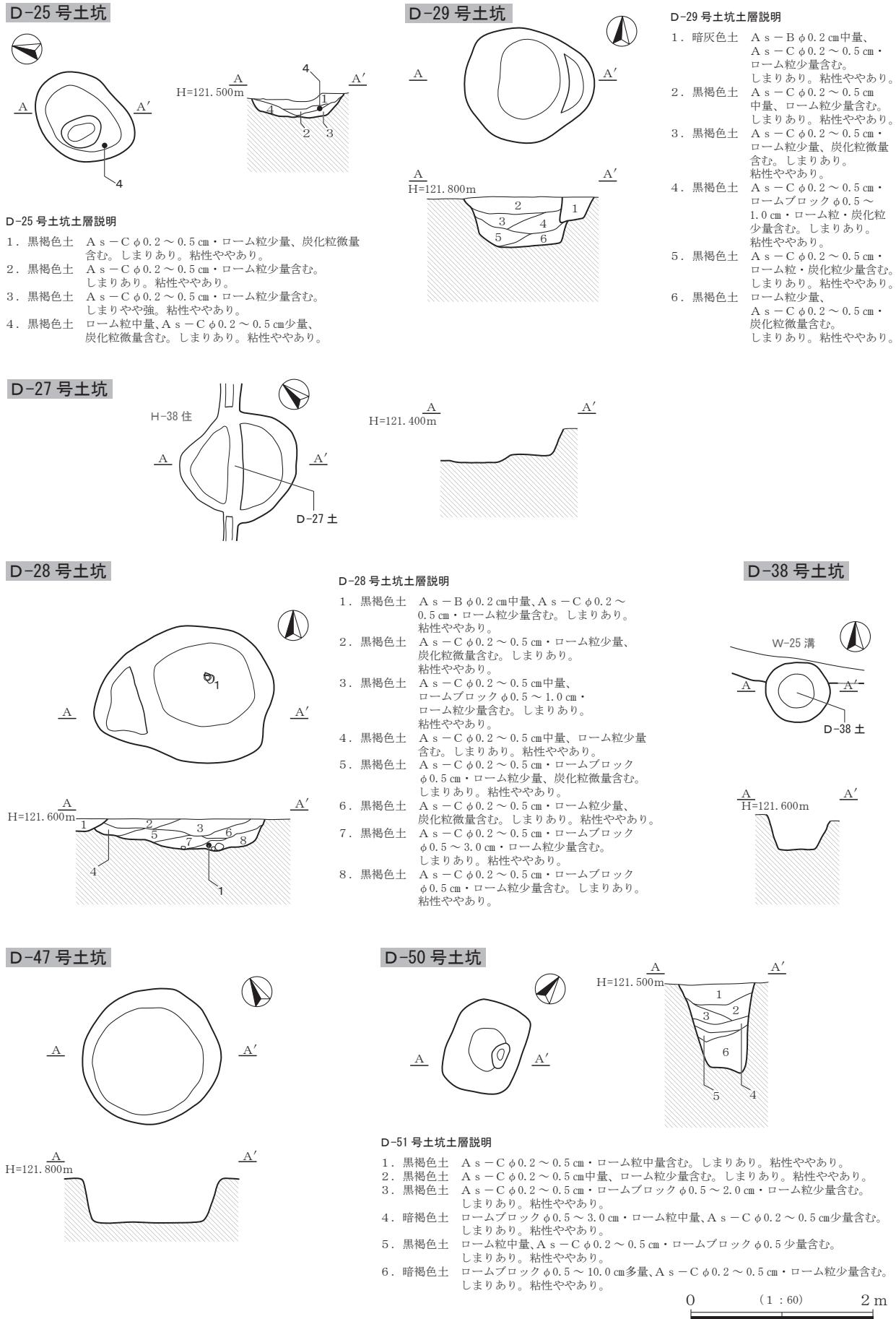
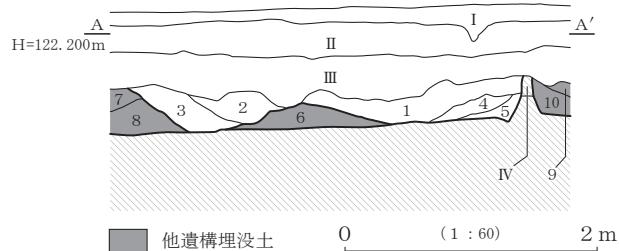
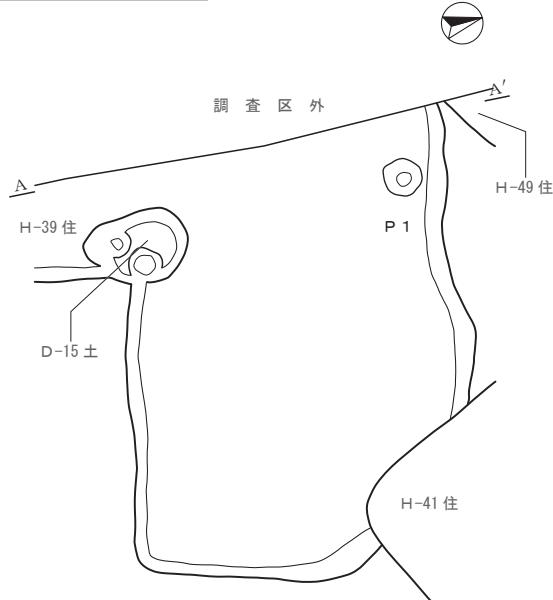


Fig. 47 遺構実測図 (41)

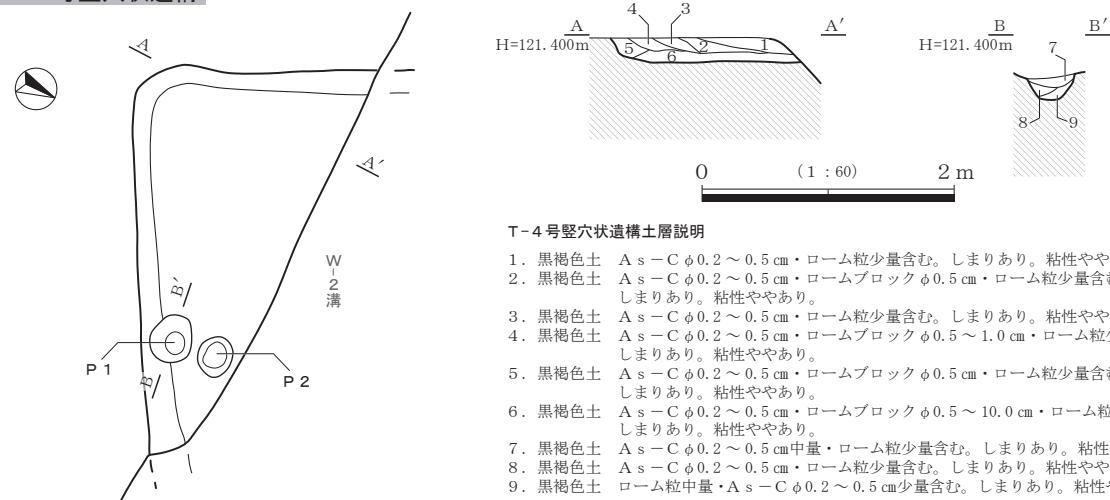
### T-3号竪穴状遺構



### 3号竪穴状遺構土層説明

1. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm 中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm 中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - B  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s - B  $\phi$  0.2 cm・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 中量、ローム粒少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 暗褐色土 ローム粒中量、A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

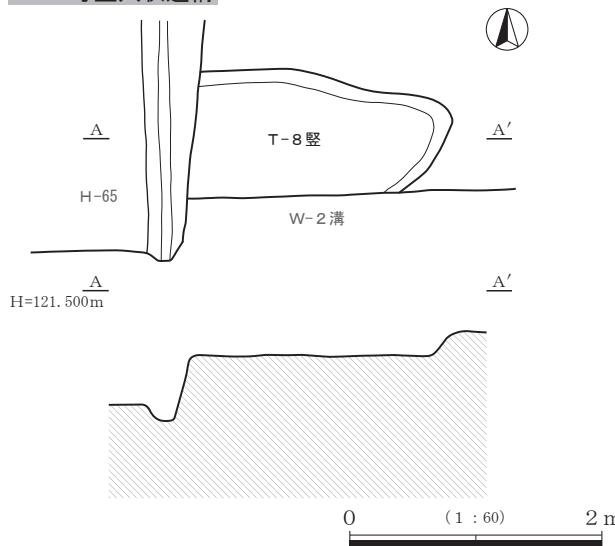
### T-4号竪穴状遺構



### T-4号竪穴状遺構土層説明

1. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 1.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
5. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
6. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ロームブロック  $\phi$  0.5 ~ 10.0 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 中量・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8. 黒褐色土 A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm・ローム粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
9. 黒褐色土 ローム粒中量・A s - C  $\phi$  0.2 ~ 0.5 cm 少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

### T-8号竪穴状遺構



### T-9号竪穴状遺構

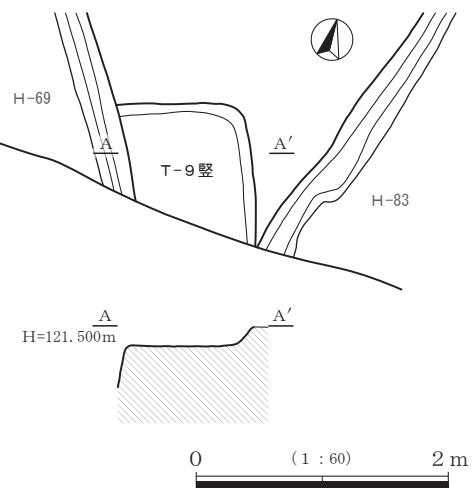


Fig. 48 遺構実測図 (42)

T-5号竪穴状遺構・W-29号溝・H-95・97号住居跡

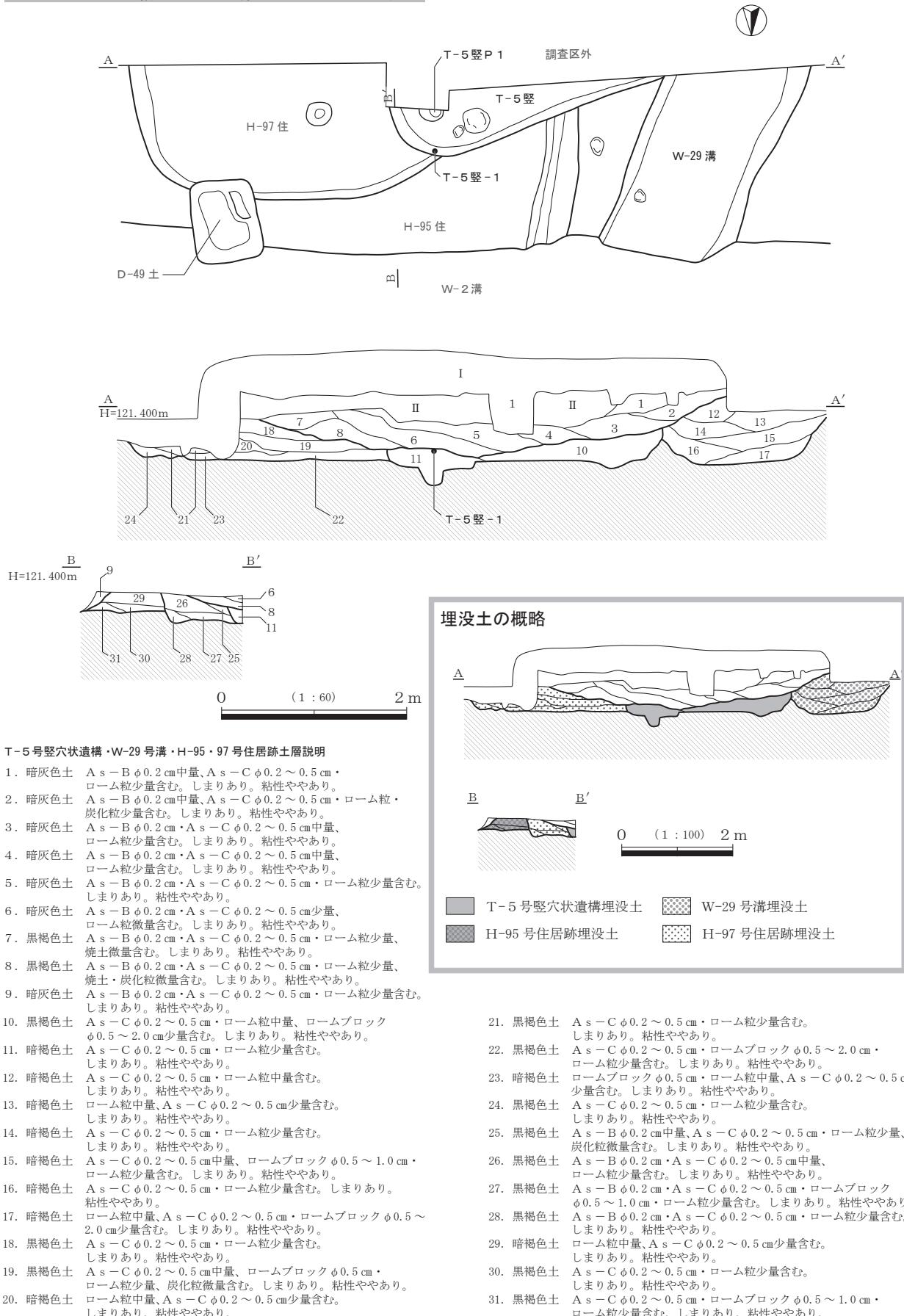
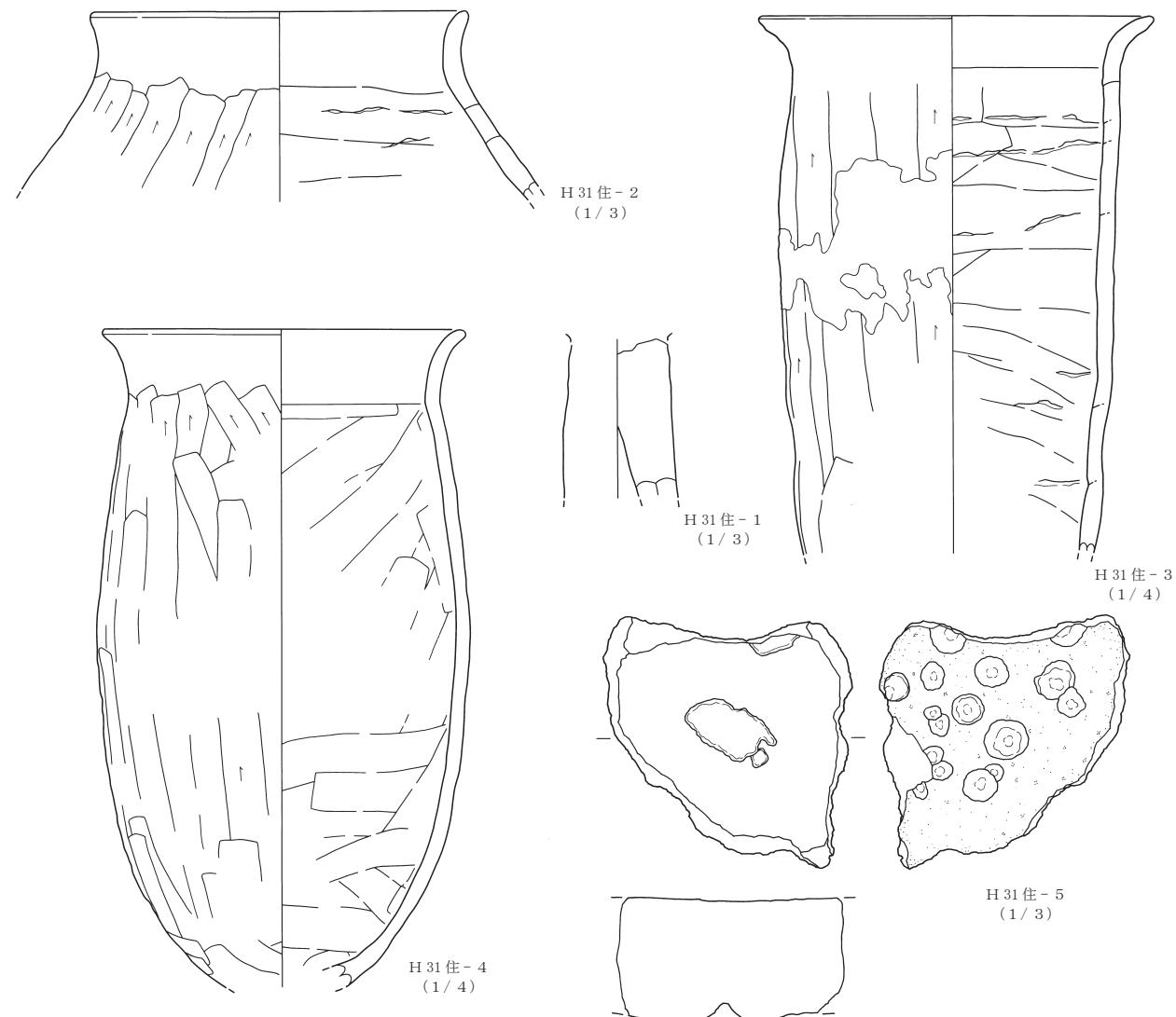
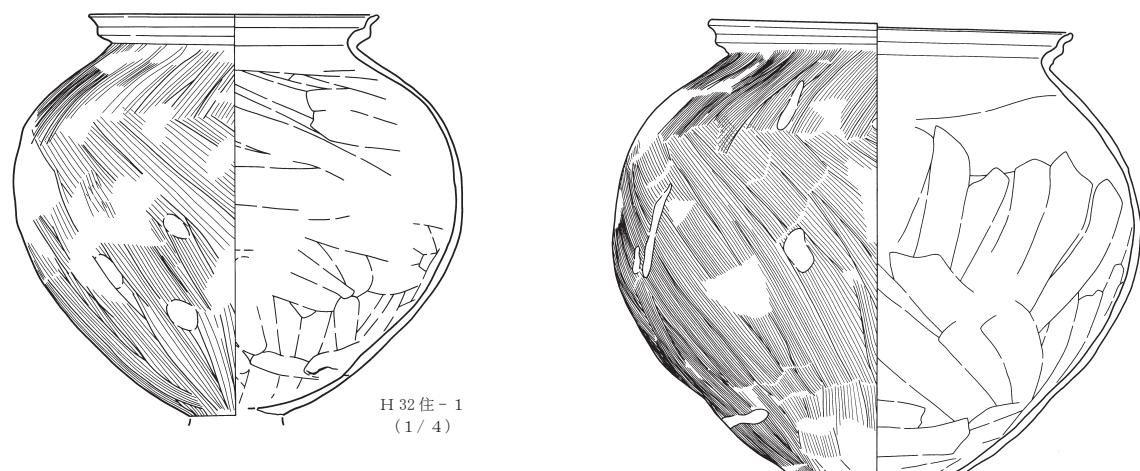


Fig. 49 遺構実測図 (43)

H - 31 号住居跡



H - 32 号住居跡

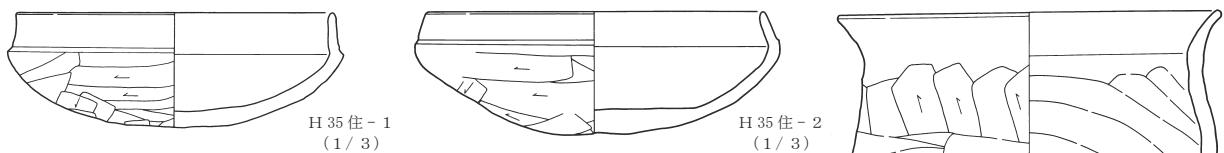


H - 34 号住居跡



Fig. 50 遺物実測図 (1)

H - 35号住居跡



H - 36号住居跡

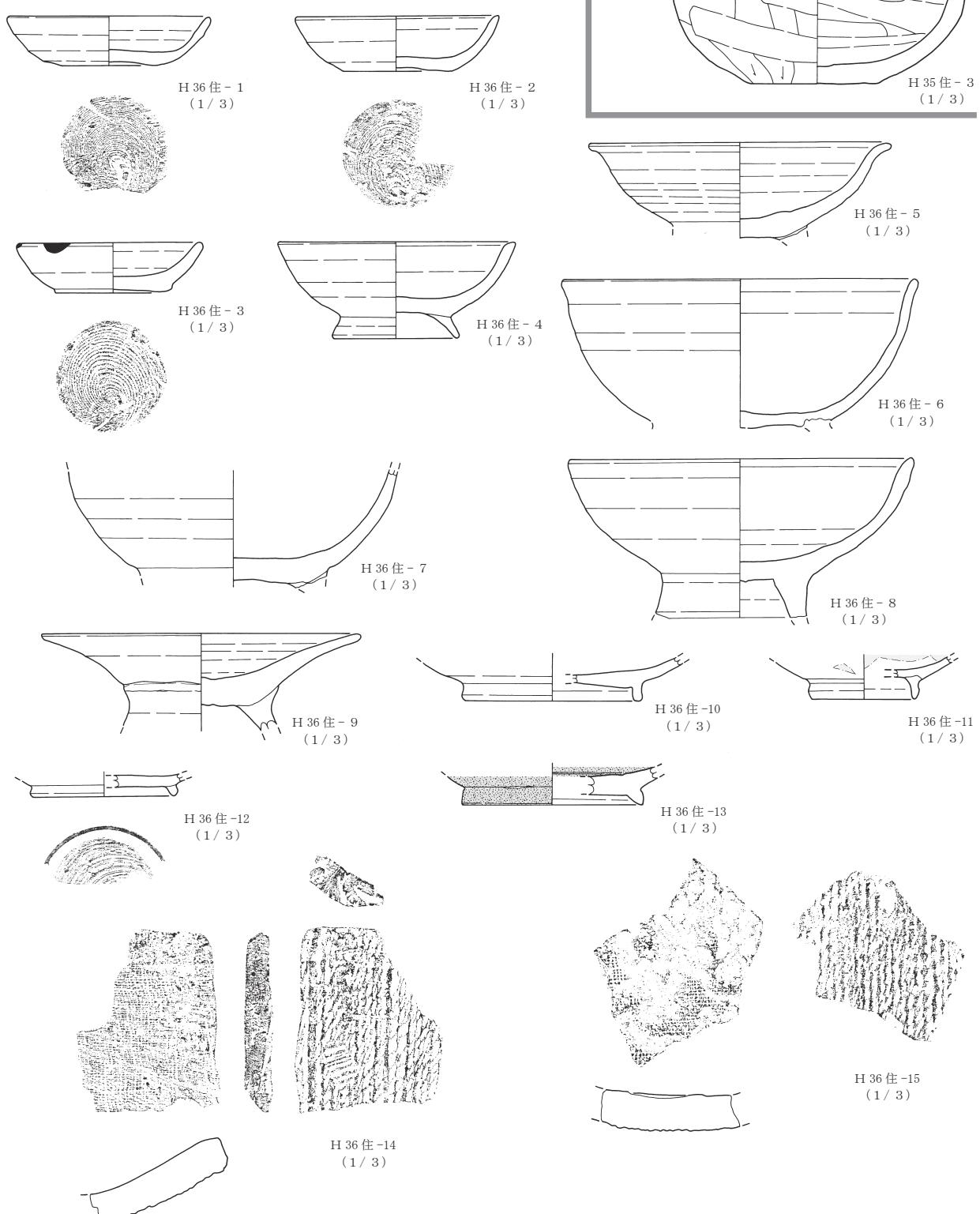
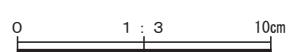


Fig. 51 遺物実測図 (2)



H - 37 号住居跡

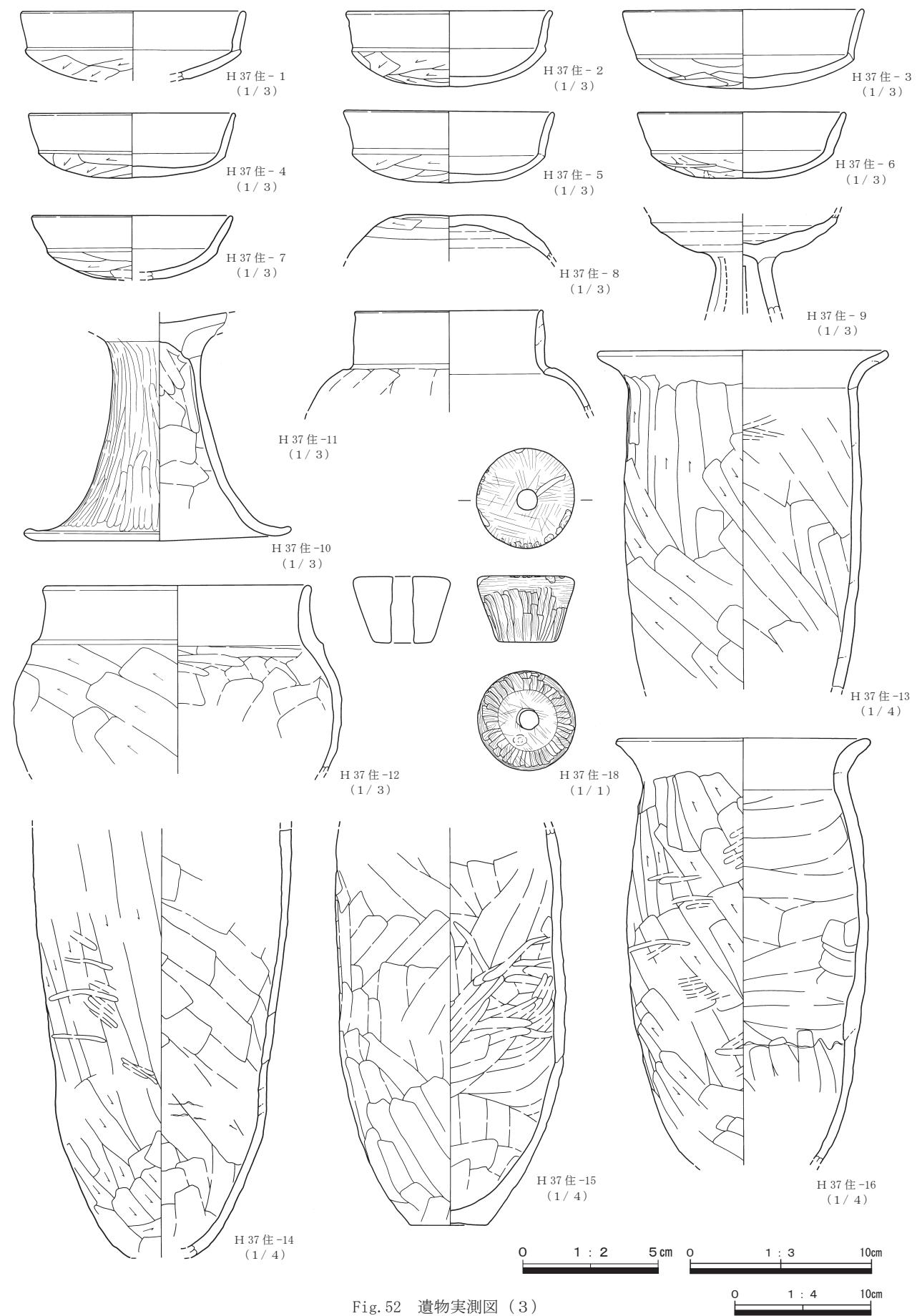
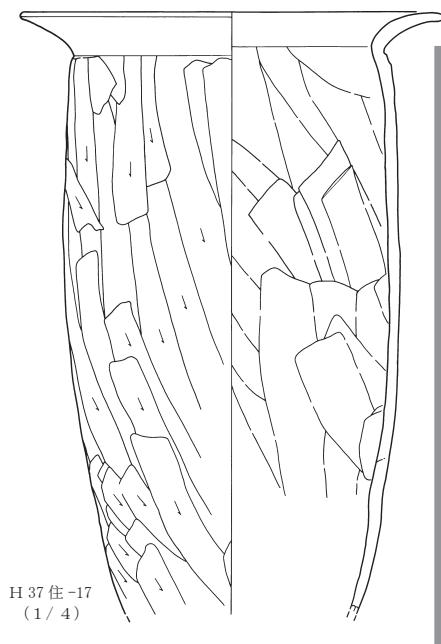


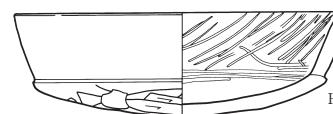
Fig. 52 遺物実測図 (3)

H - 37 号住居跡

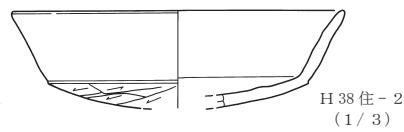


H 37 住 - 17  
(1 / 4)

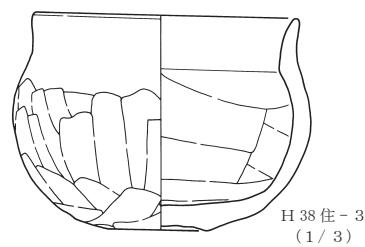
H - 38 号住居跡



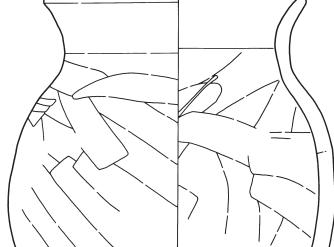
H 38 住 - 1  
(1 / 3)



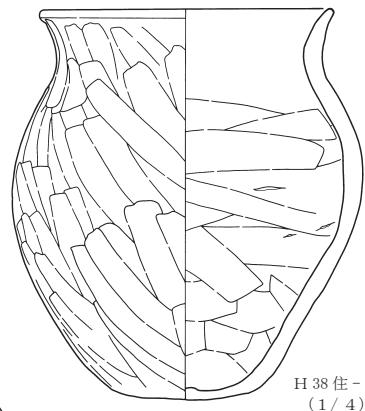
H 38 住 - 2  
(1 / 3)



H 38 住 - 3  
(1 / 3)



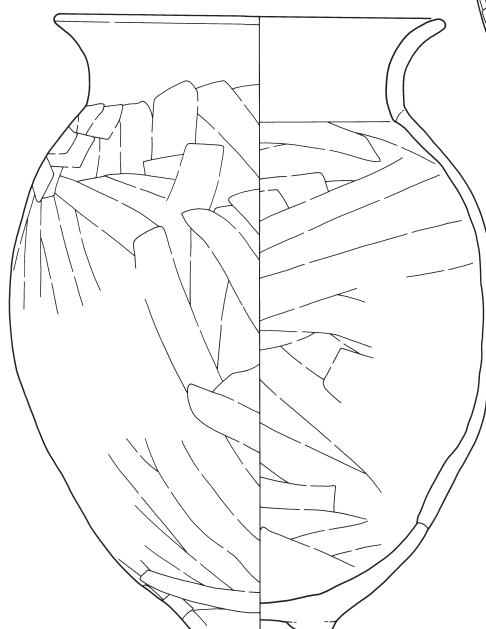
H 38 住 - 4  
(1 / 4)



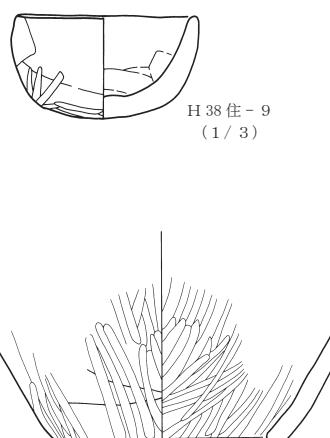
H 38 住 - 5  
(1 / 4)



H 38 住 - 7  
(1 / 4)

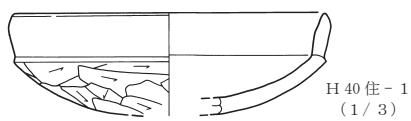


H 38 住 - 6  
(1 / 4)



H 38 住 - 8  
(1 / 3)

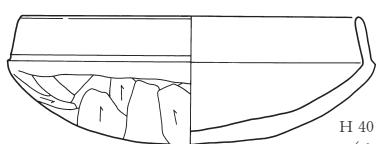
H - 40 号住居跡



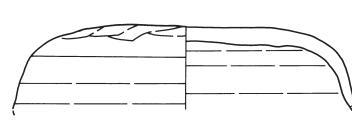
H 40 住 - 1  
(1 / 3)



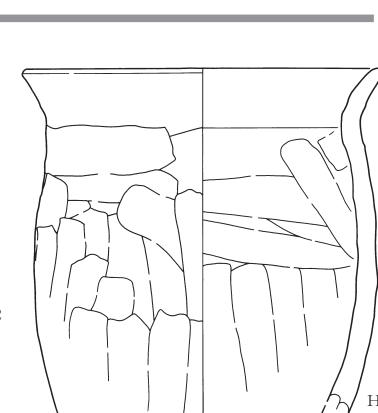
H 40 住 - 2  
(1 / 3)



H 40 住 - 3  
(1 / 3)



H 40 住 - 4  
(1 / 3)



H 40 住 - 5  
(1 / 3)

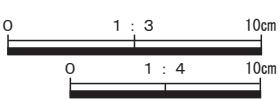
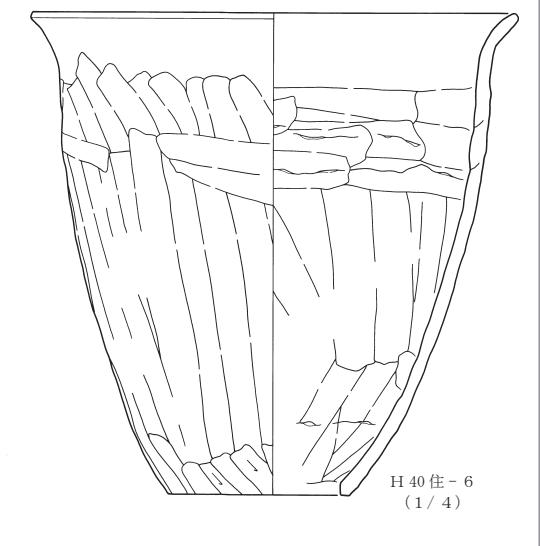
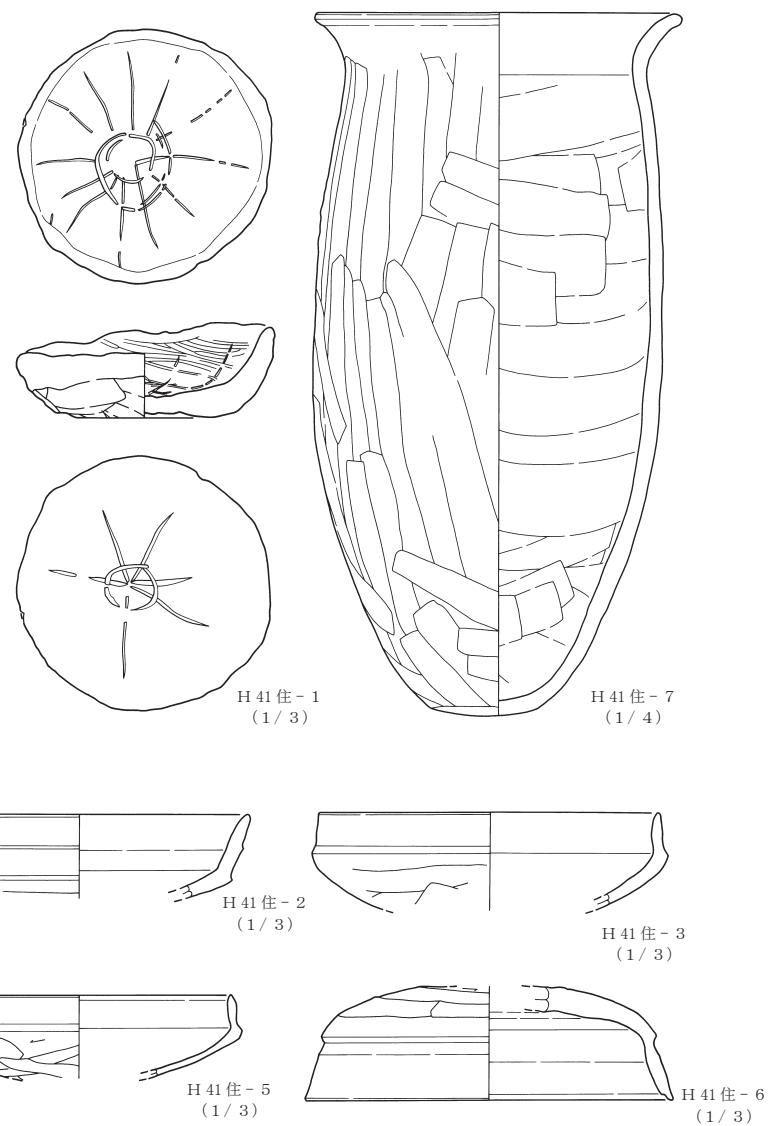


Fig. 53 遺物実測図 (4)

H - 40号住居跡



H - 41号住居跡



H - 42号住居跡

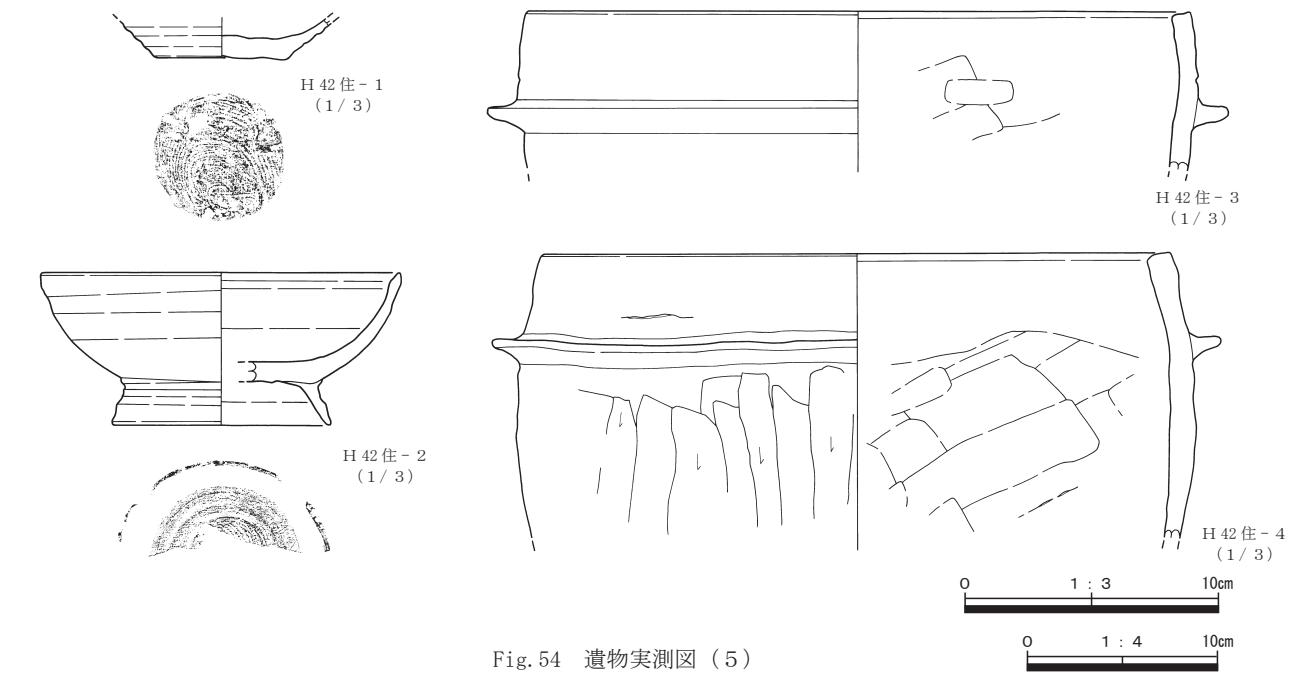
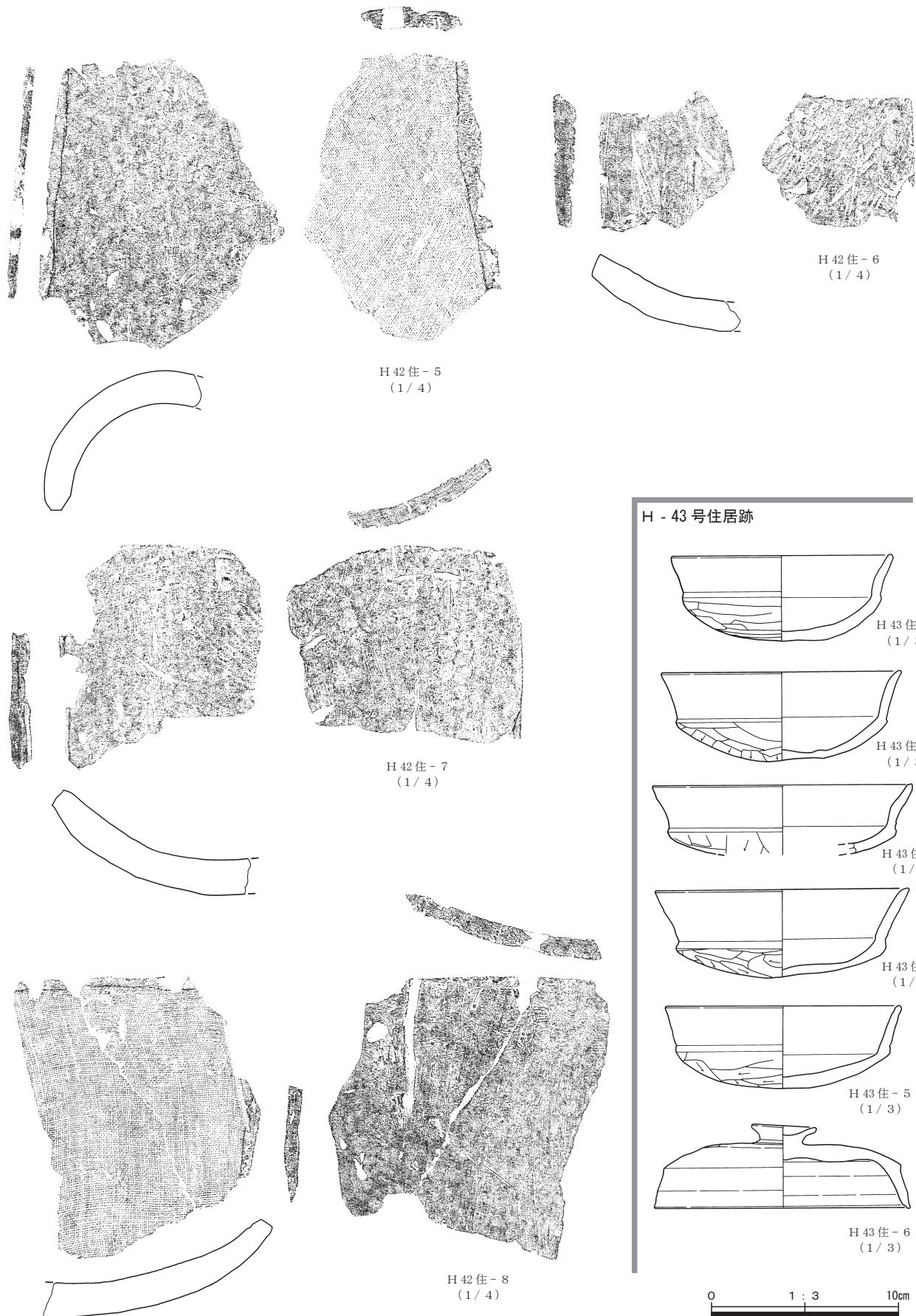


Fig. 54 遺物実測図 (5)

H - 42 号住居跡



H - 43 号住居跡

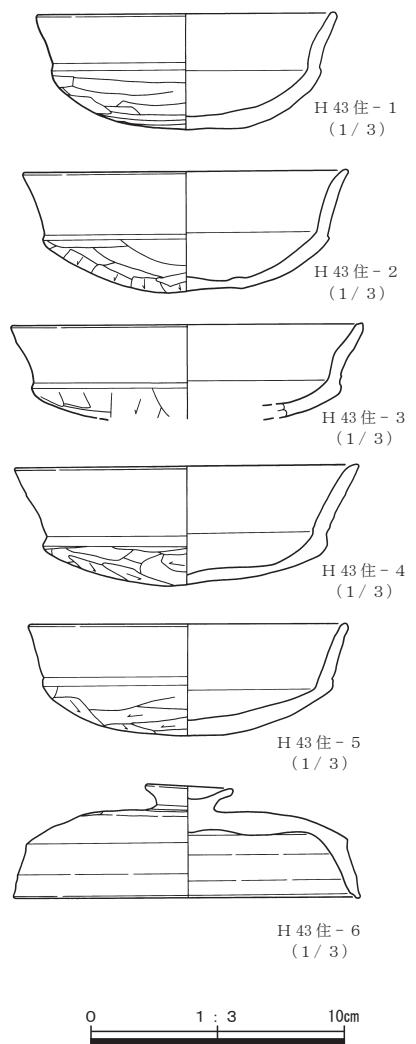
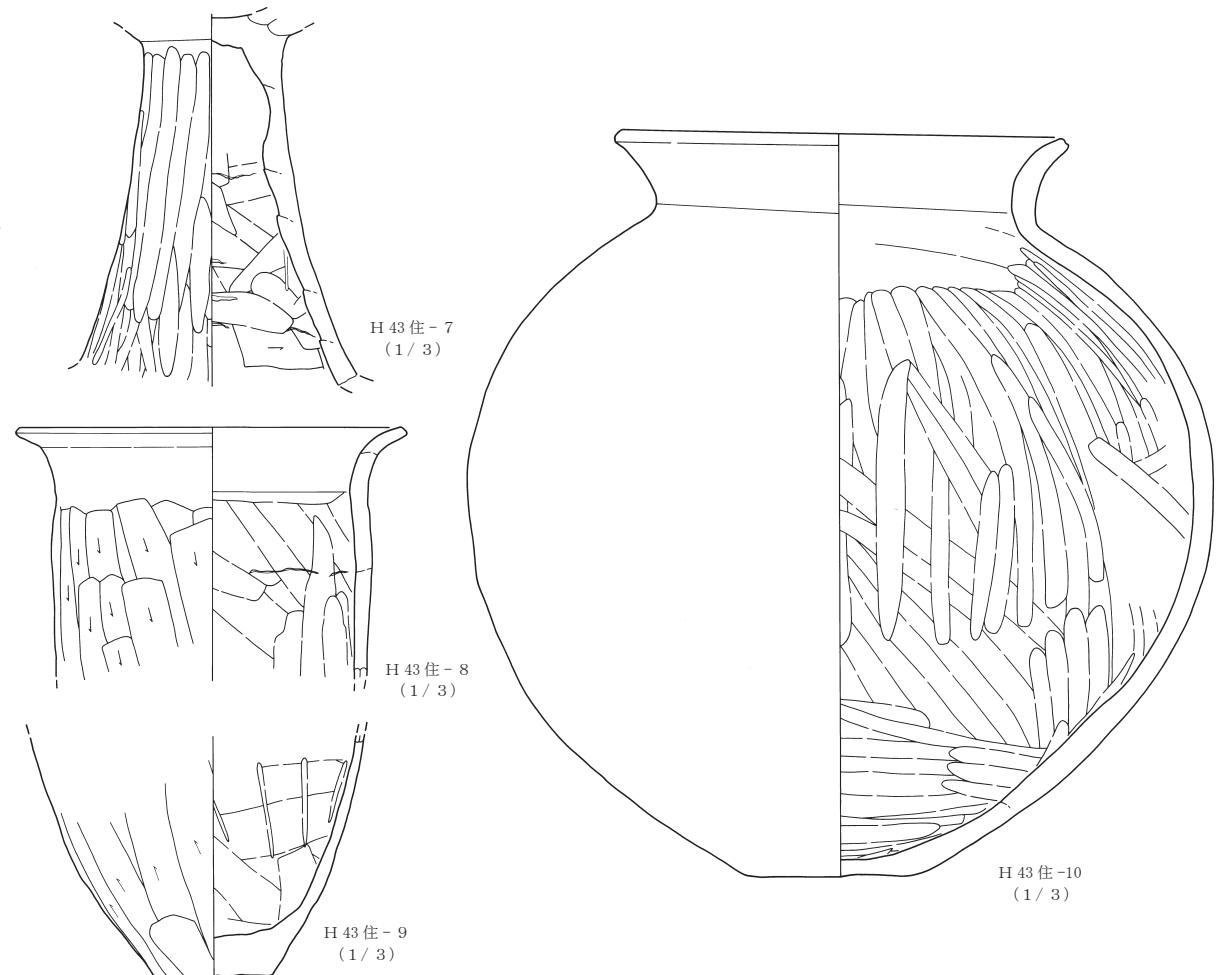


Fig. 55 遺物実測図 (6)

H - 43 号住居跡



H - 44 号住居跡

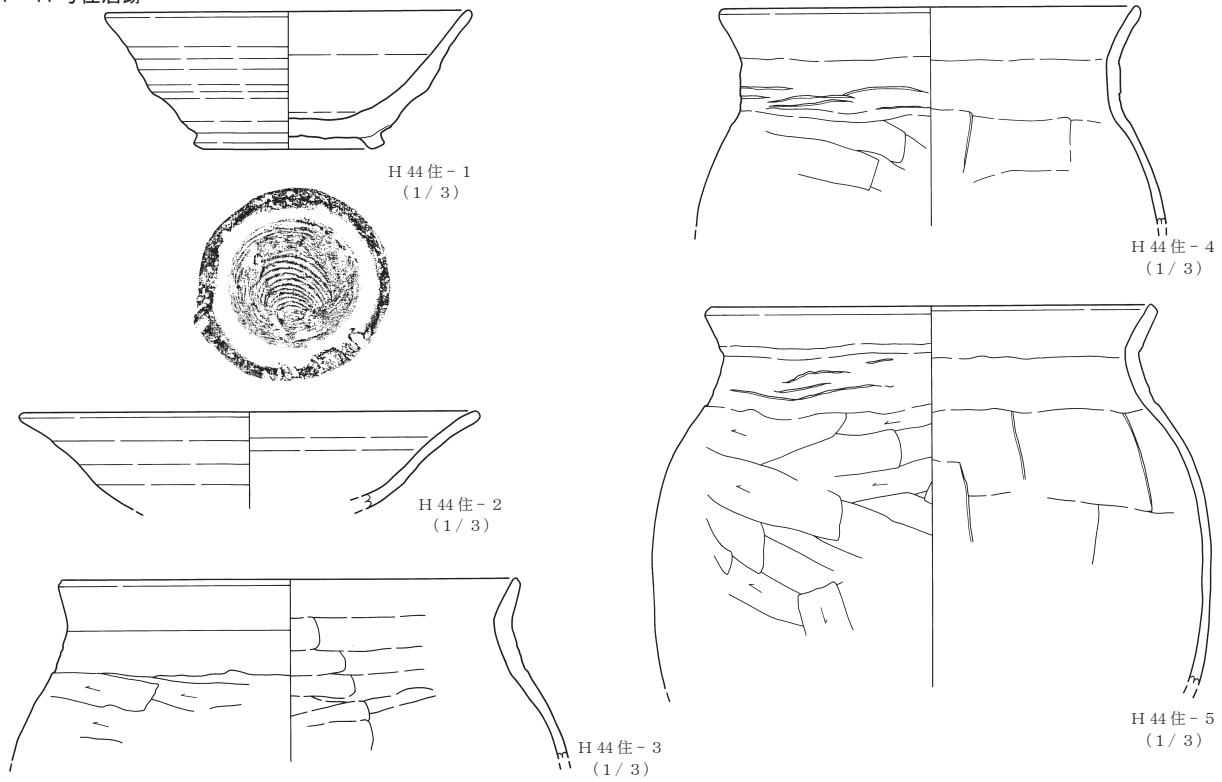


Fig. 56 遺物実測図 (7)

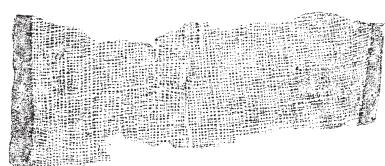
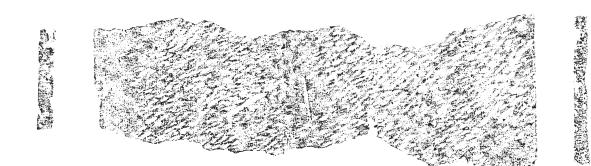
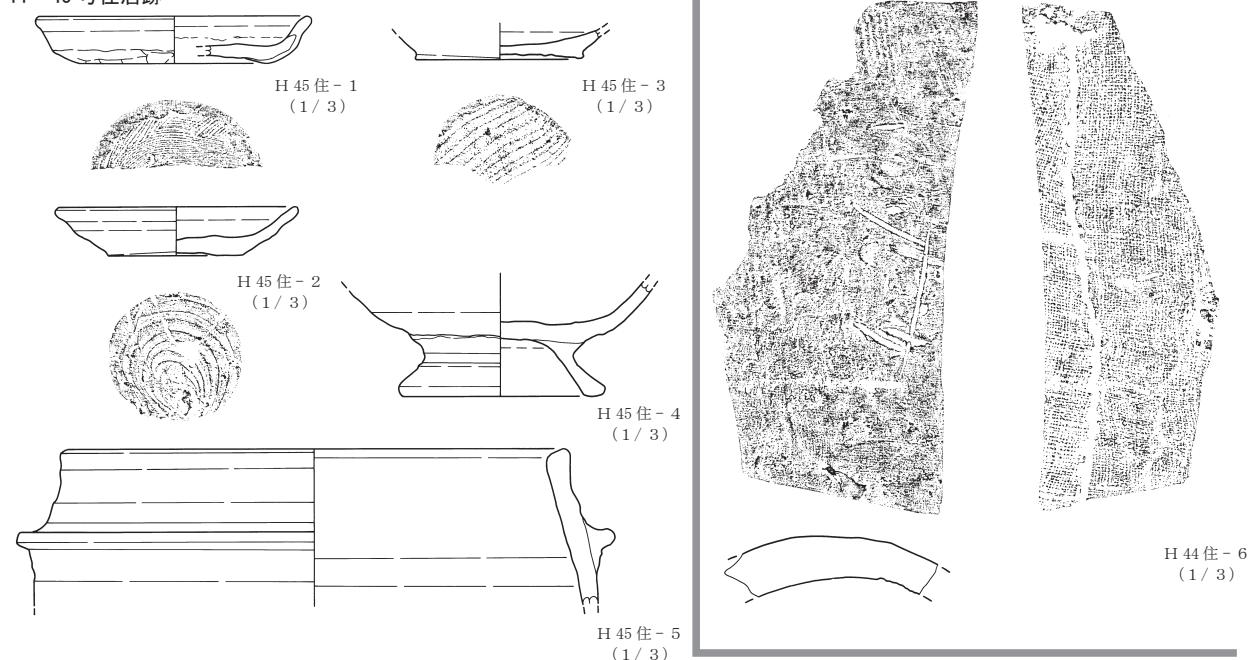


H - 44 号住居跡

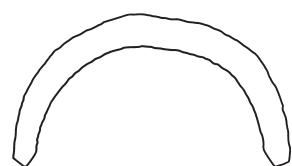


H 44 住 - 7  
(1 / 4)

H - 45 号住居跡



H 45 住 - 6  
(1 / 4)



0 1 : 3 10cm

0 1 : 4 10cm

Fig. 57 遺物実測図 (8)

H - 45 号住居跡

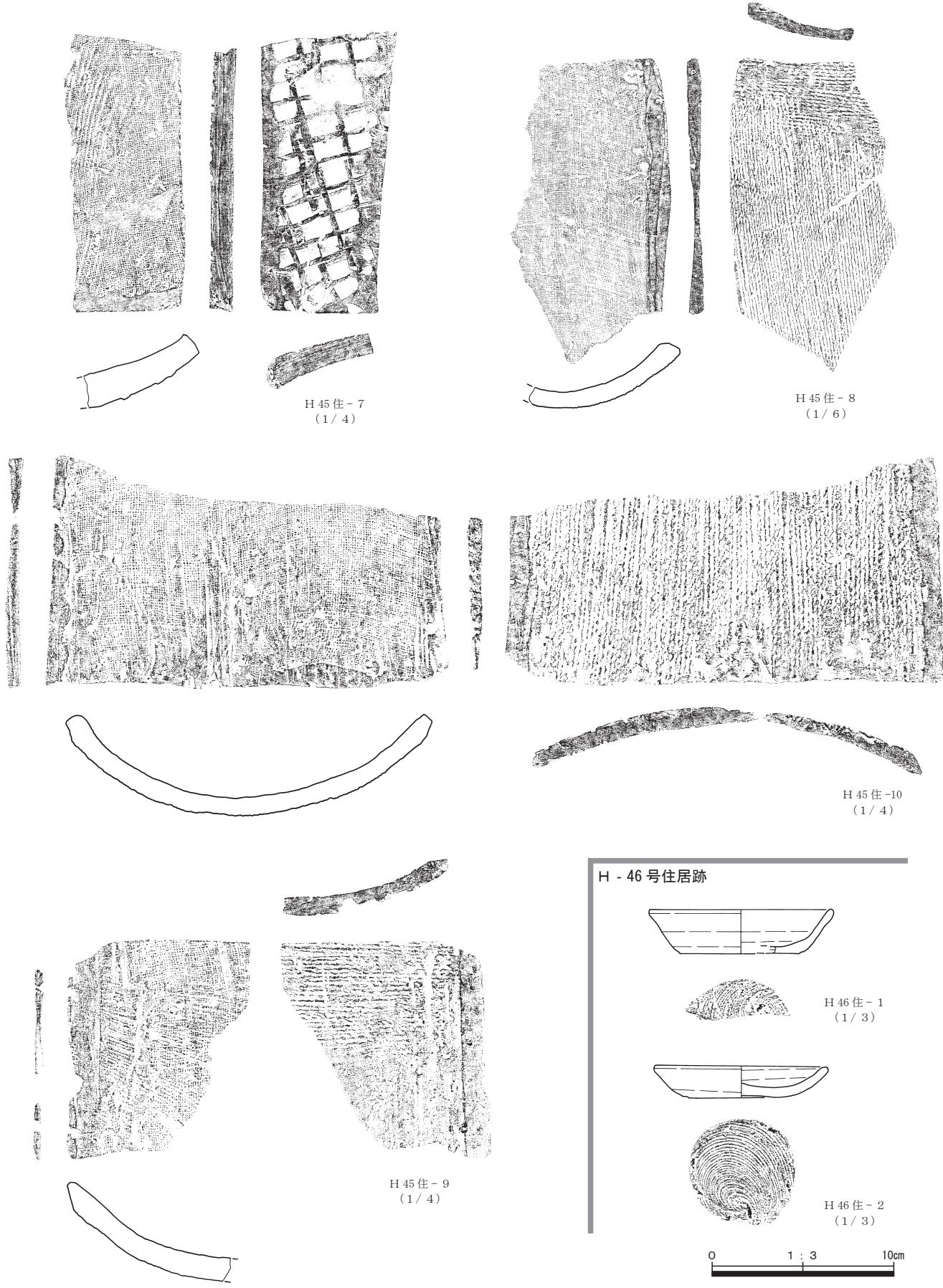


Fig. 58 遺物実測図 (9)

H - 46 号住居跡

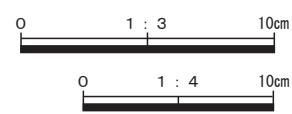
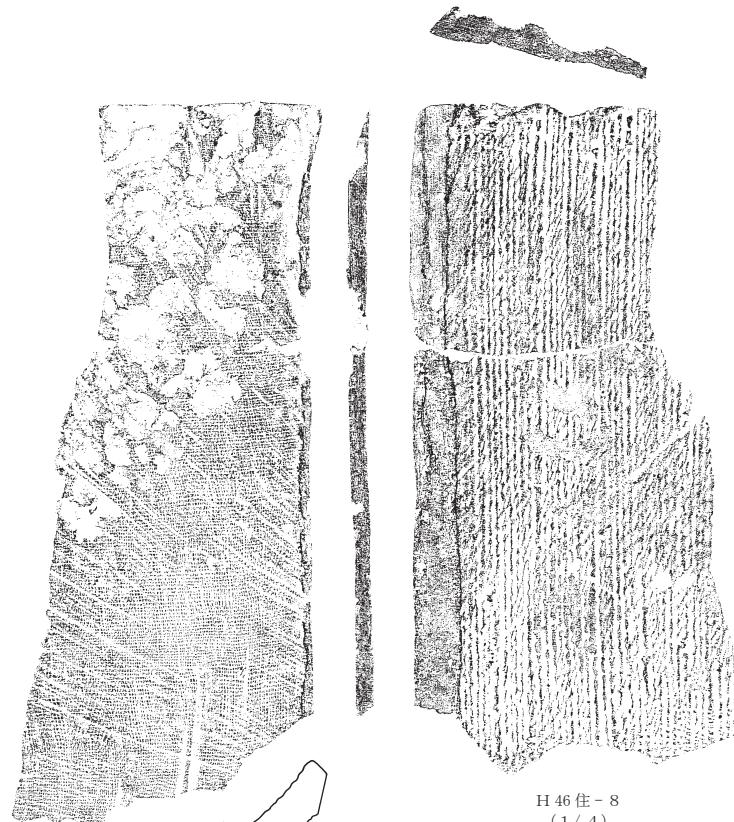
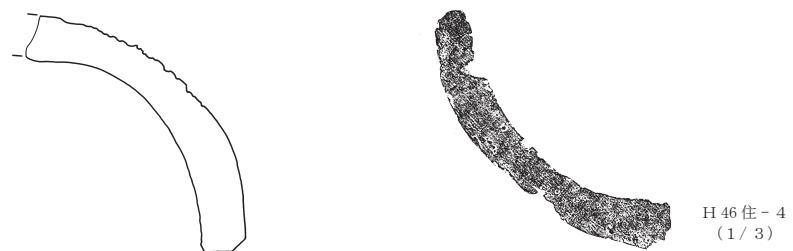
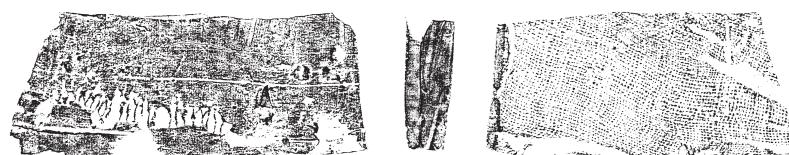
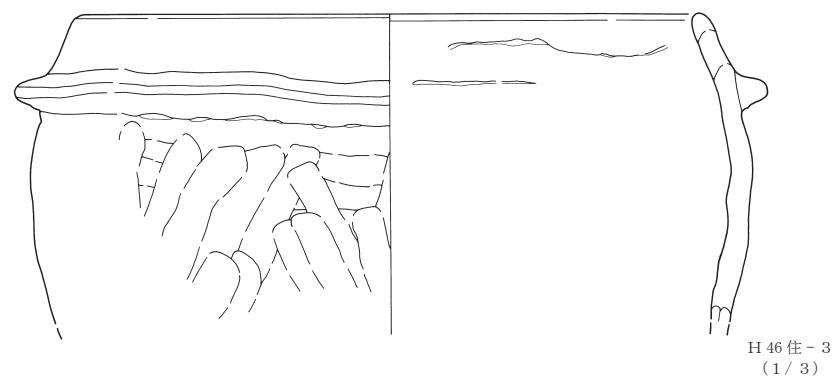
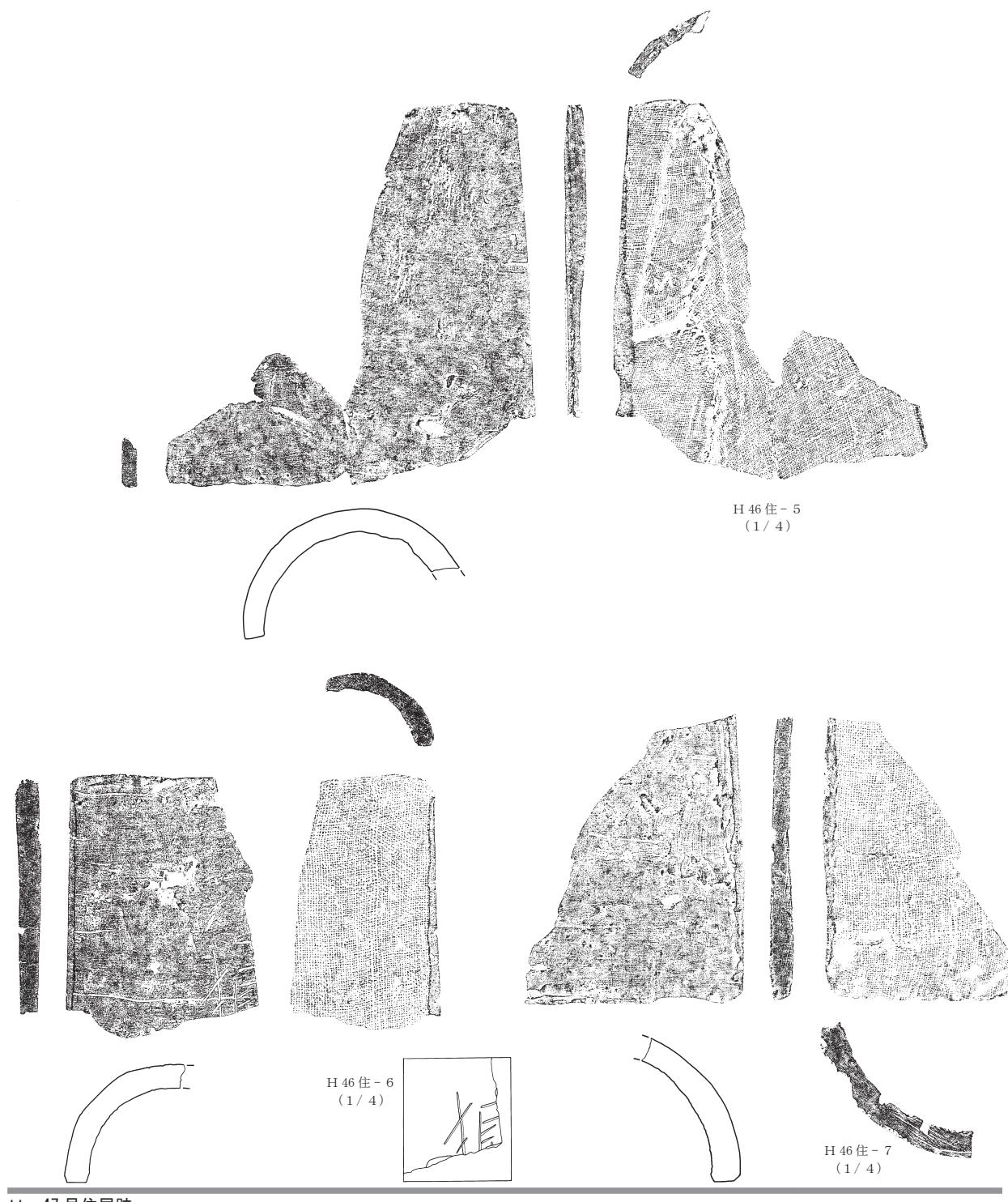


Fig. 59 遺物実測図 (10)

H - 46 号住居跡



H - 47 号住居跡

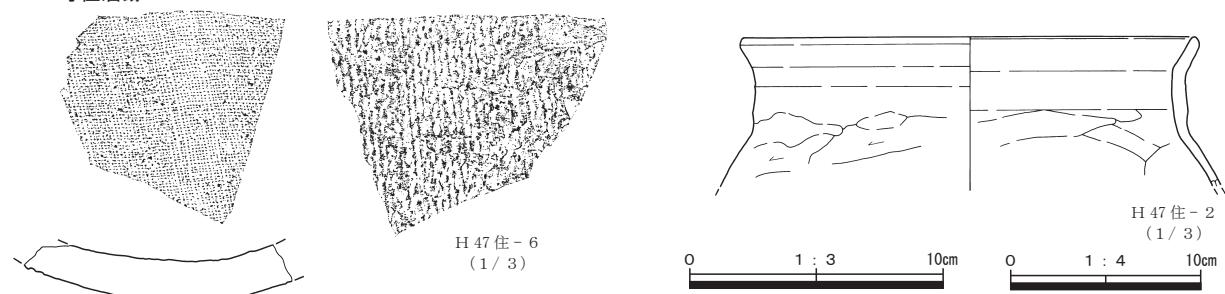


Fig. 60 遺物実測図 (11)

H - 47 号住居跡

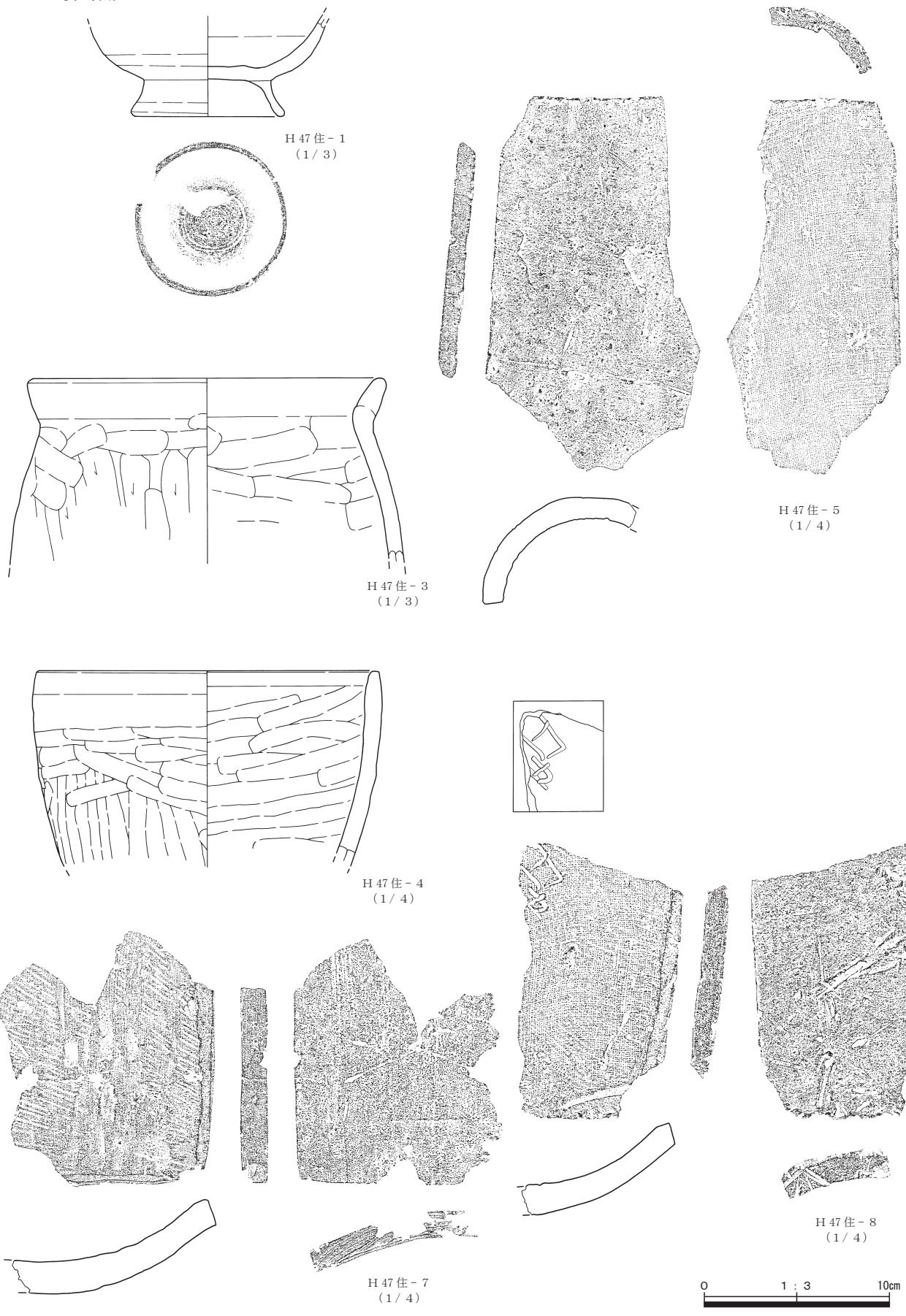
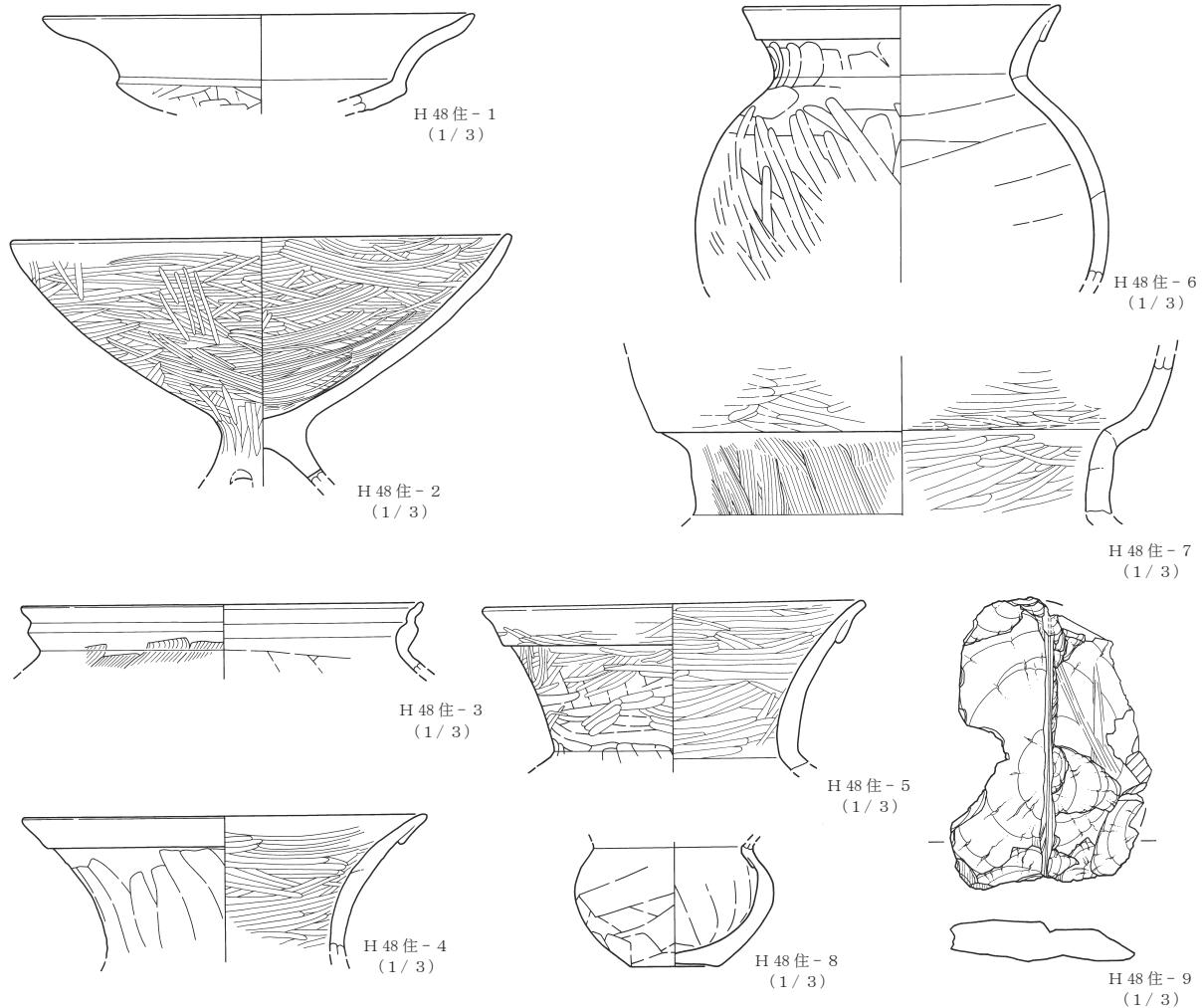
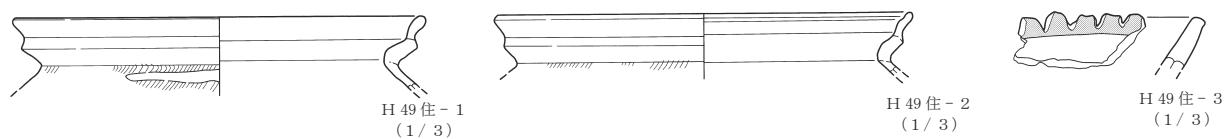


Fig. 61 遺物実測図 (12)

H - 48 号住居跡



H - 49 号住居跡



H - 50 号住居跡

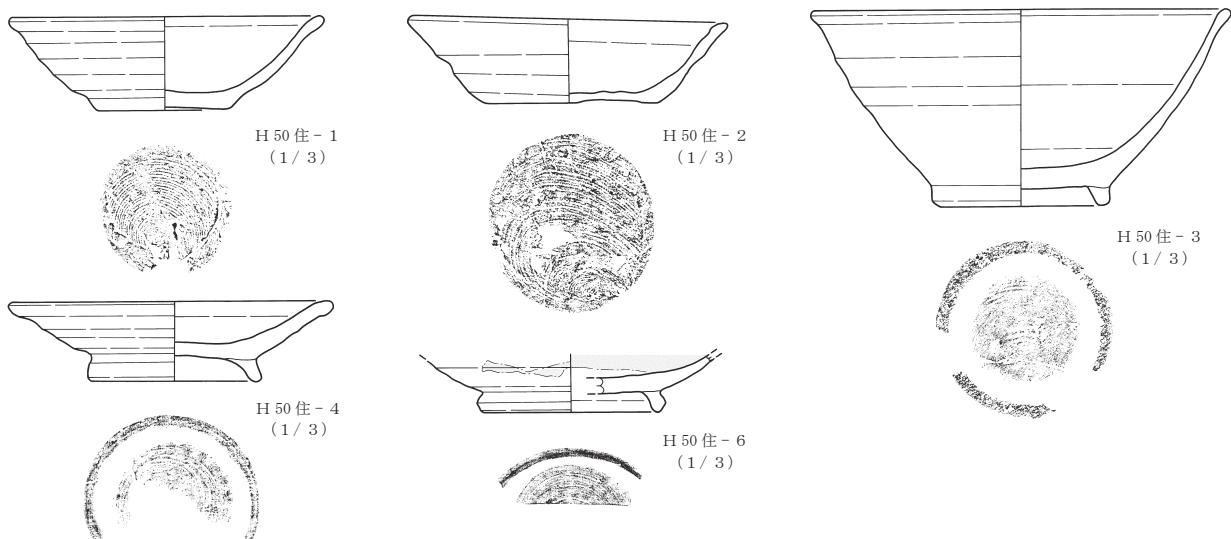
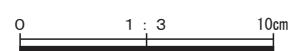
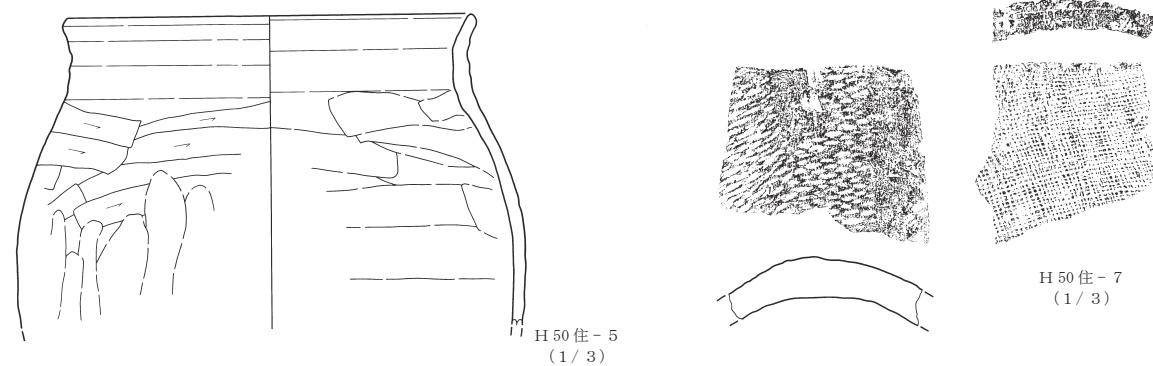


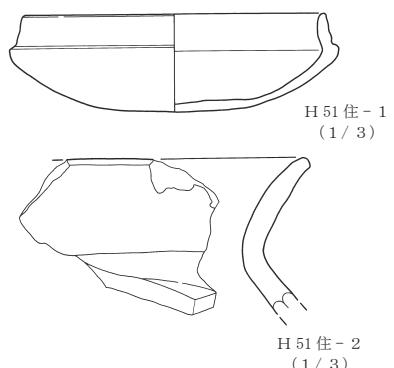
Fig. 62 遺物実測図 (13)



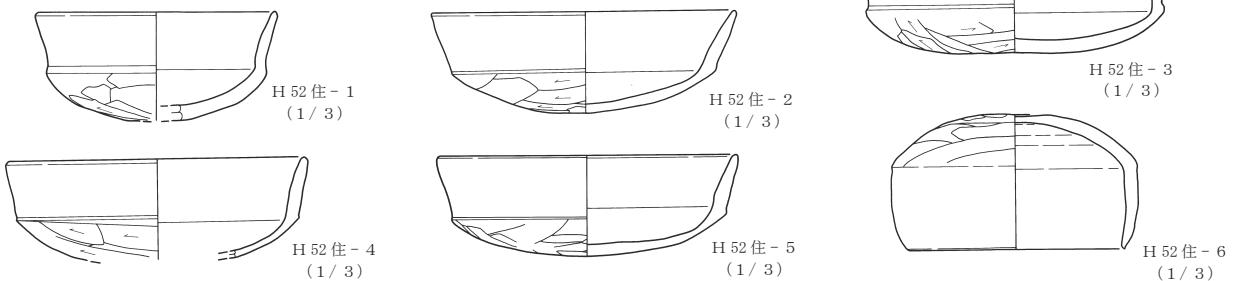
H - 50号住居跡



H - 51号住居跡



H - 52号住居跡



H - 53号住居跡

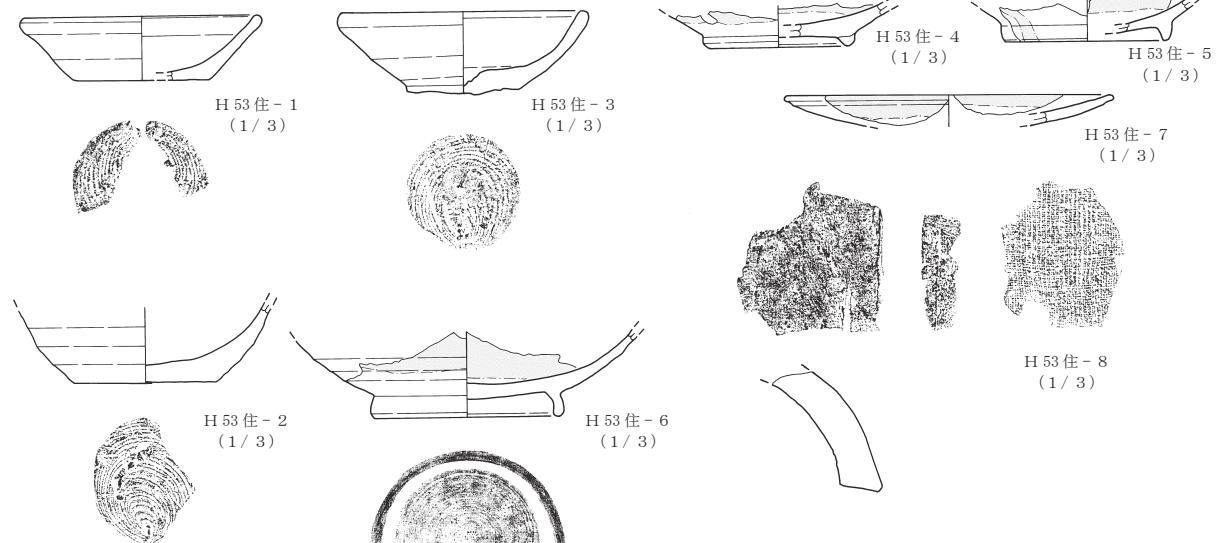
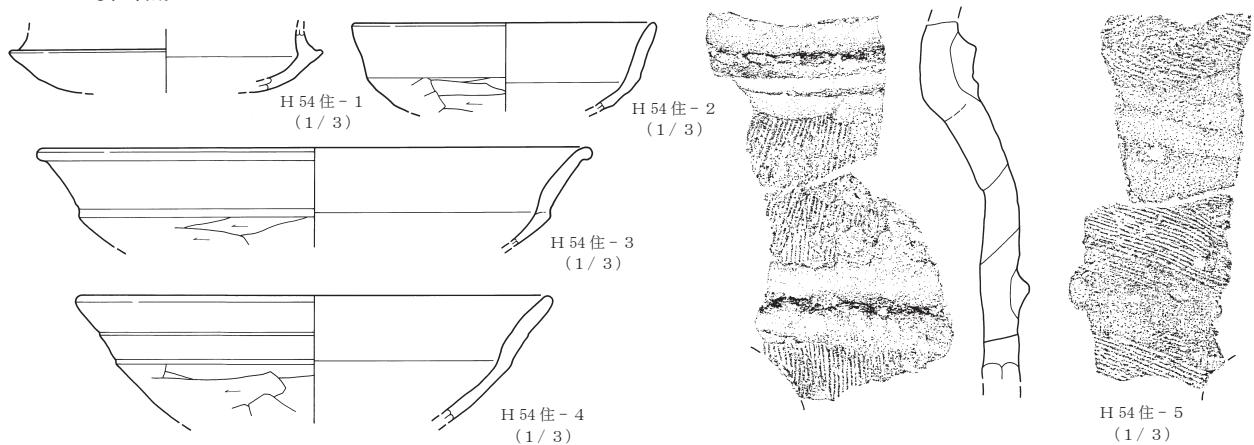


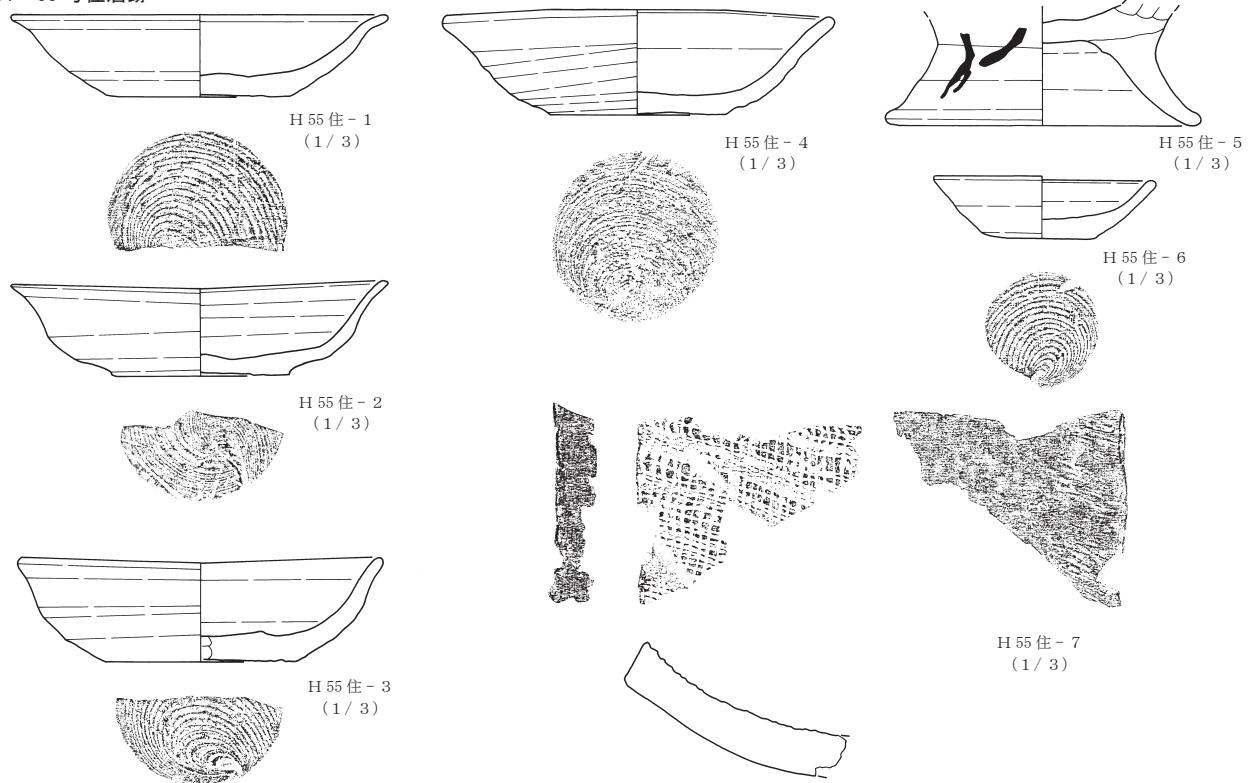
Fig. 63 遺物実測図 (14)



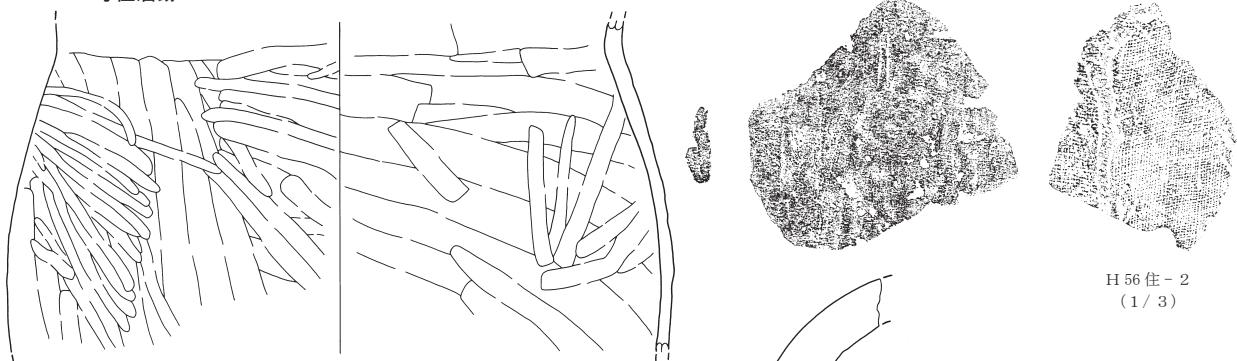
H - 54 号住居跡



H - 55 号住居跡



H - 56 号住居跡



H - 57 号住居跡



Fig. 64 遺物実測図 (15)

0 1 : 3 10cm

H - 60 号住居跡

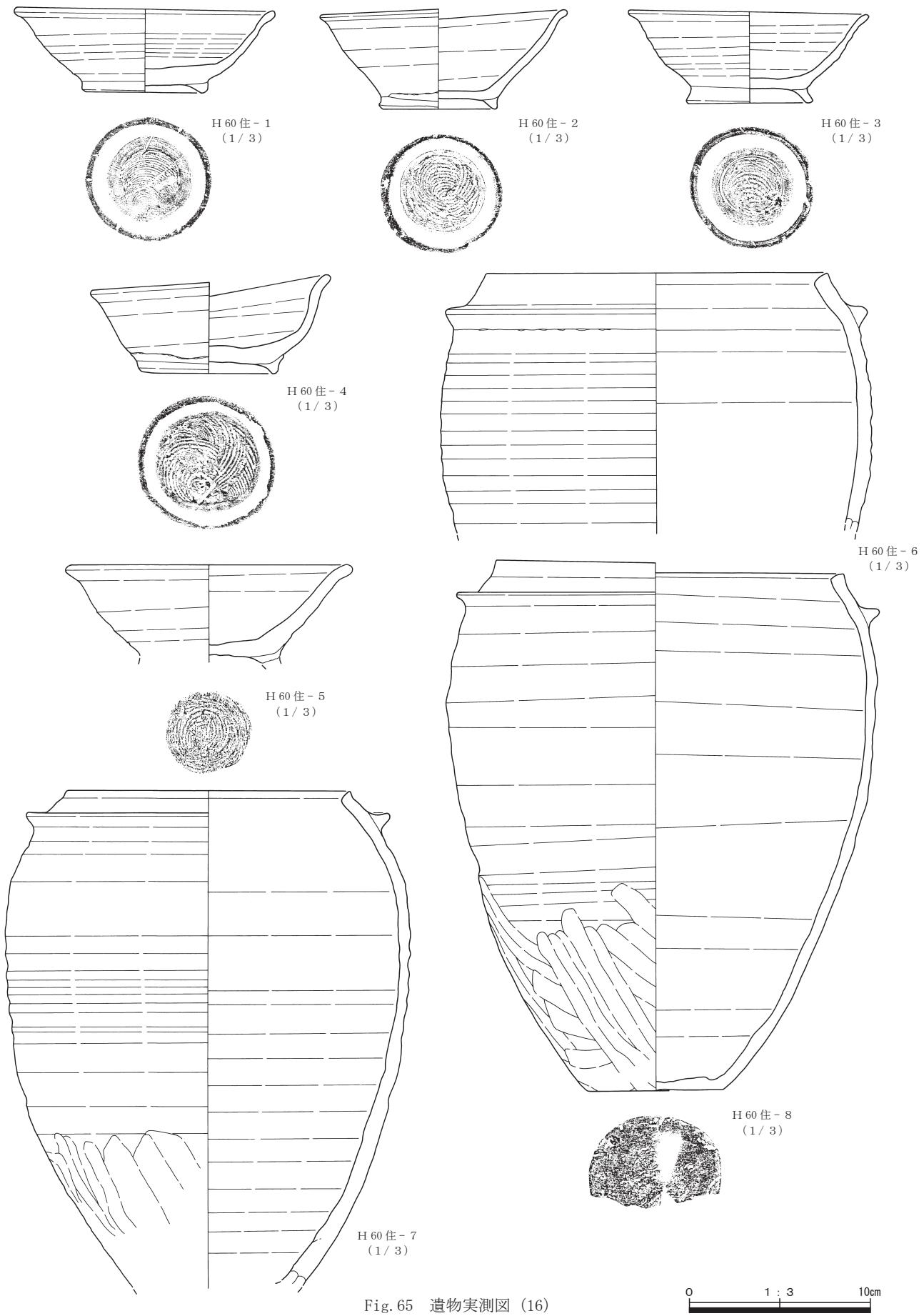


Fig. 65 遺物実測図 (16)

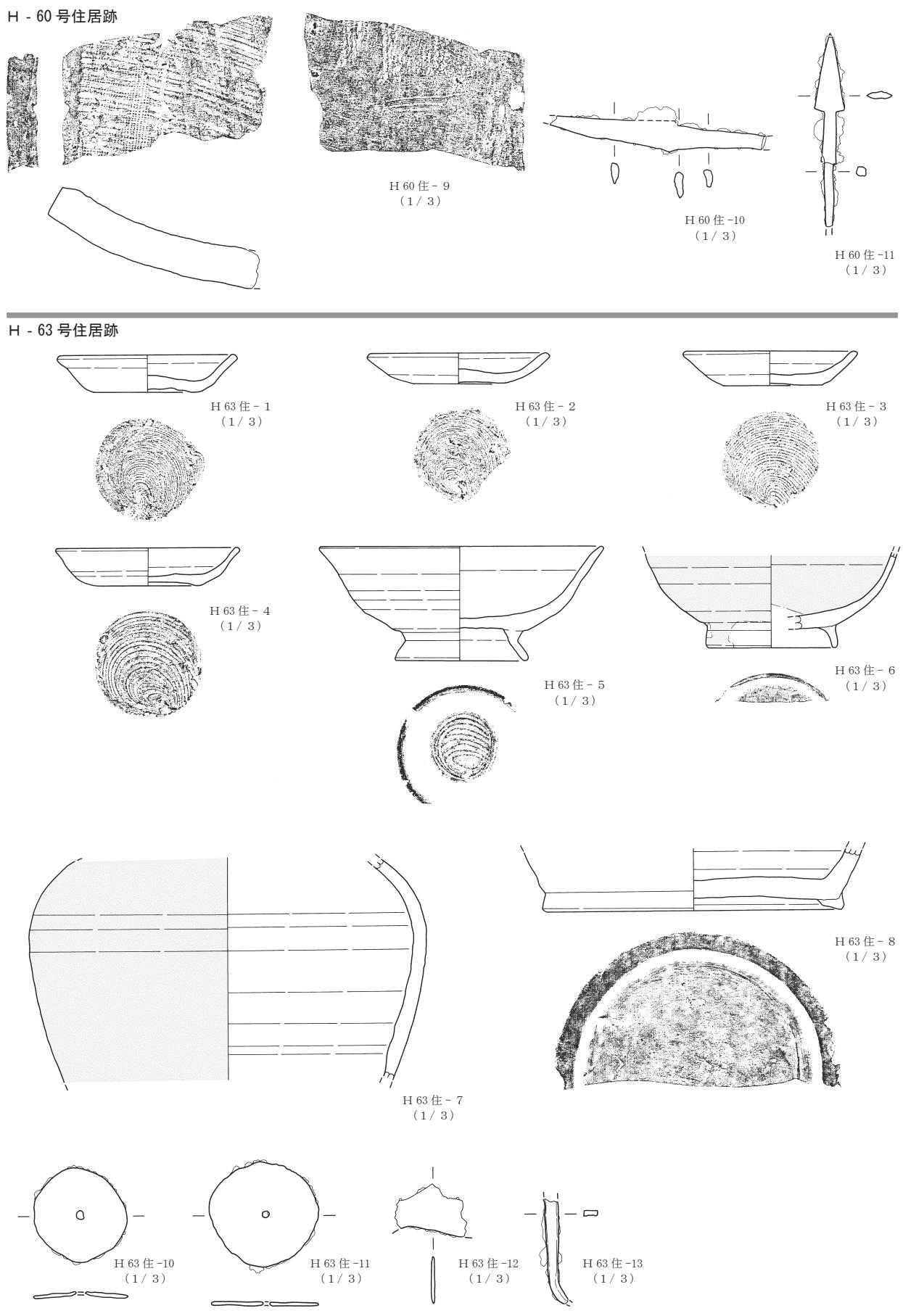


Fig. 66 遺物実測図 (17)

H - 63 号住居跡



H - 64 号住居跡

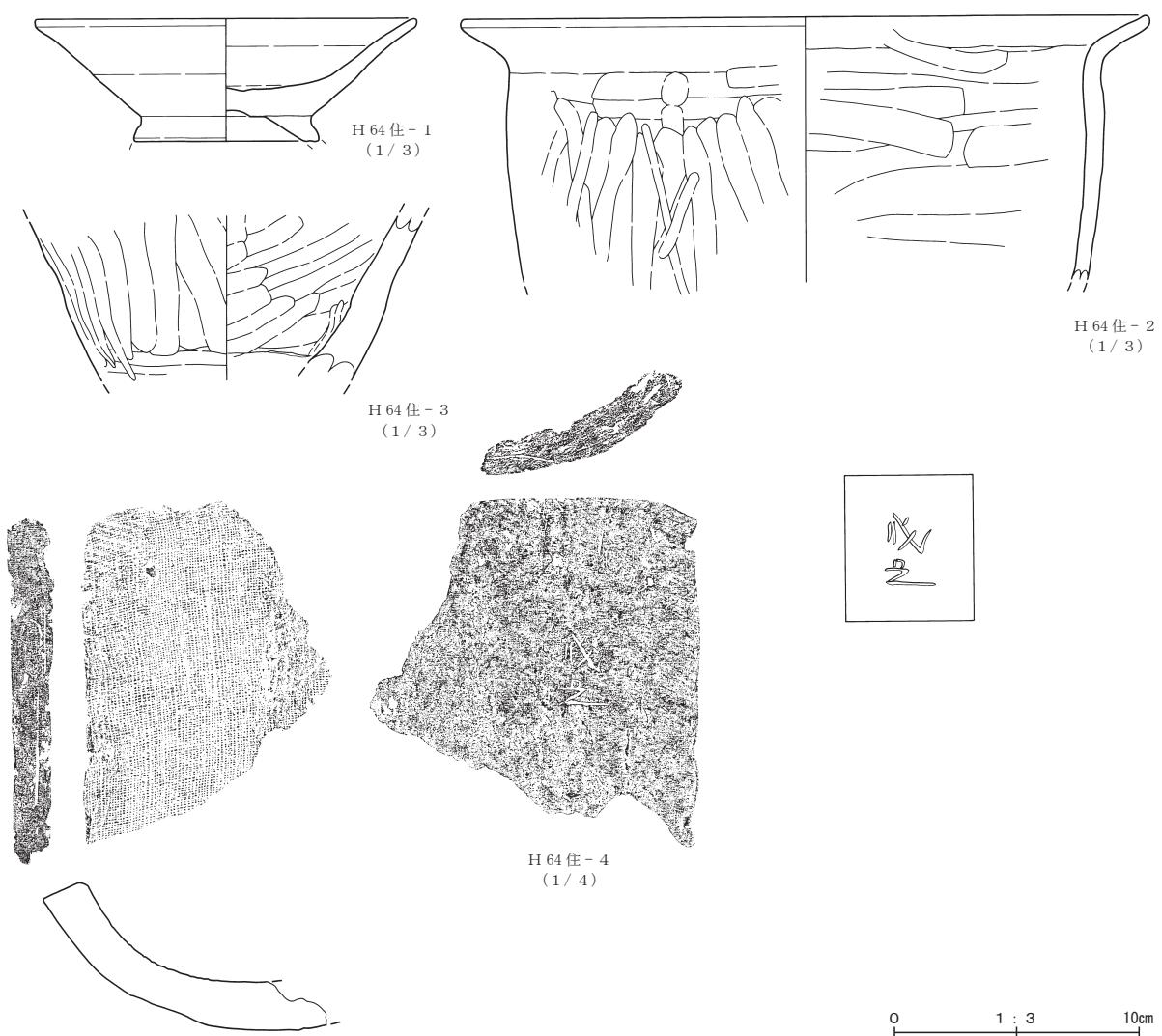
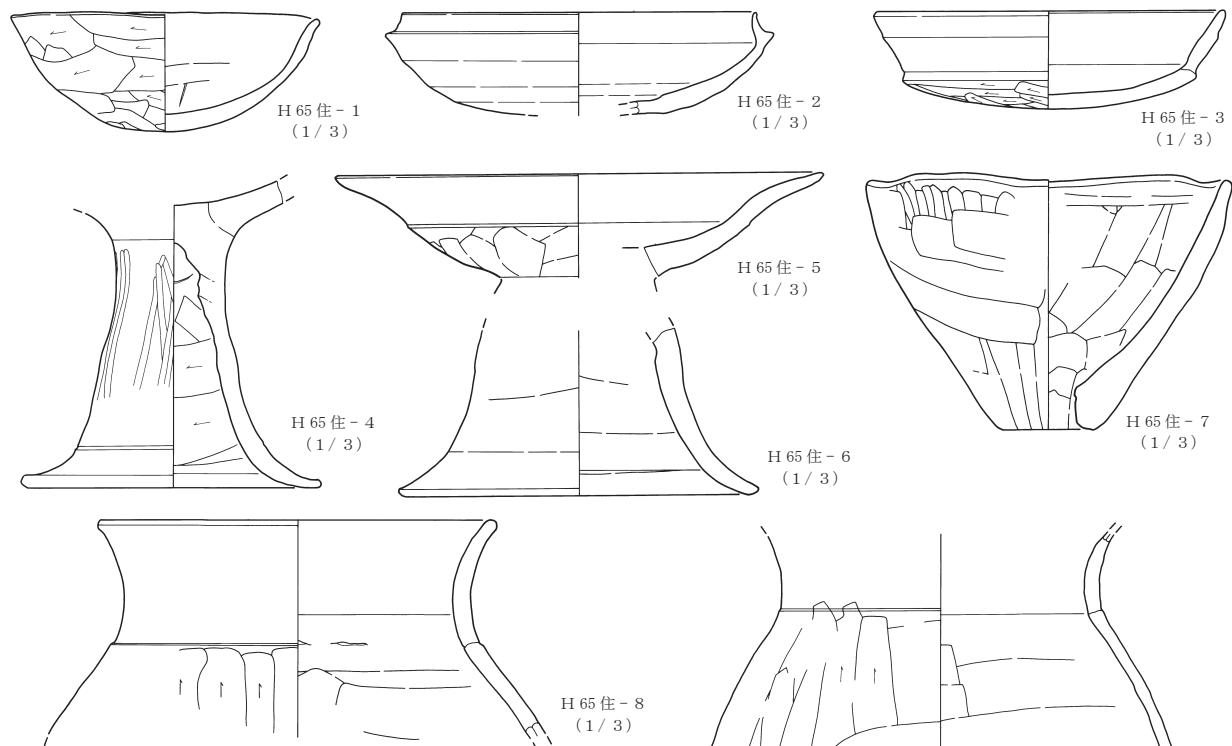
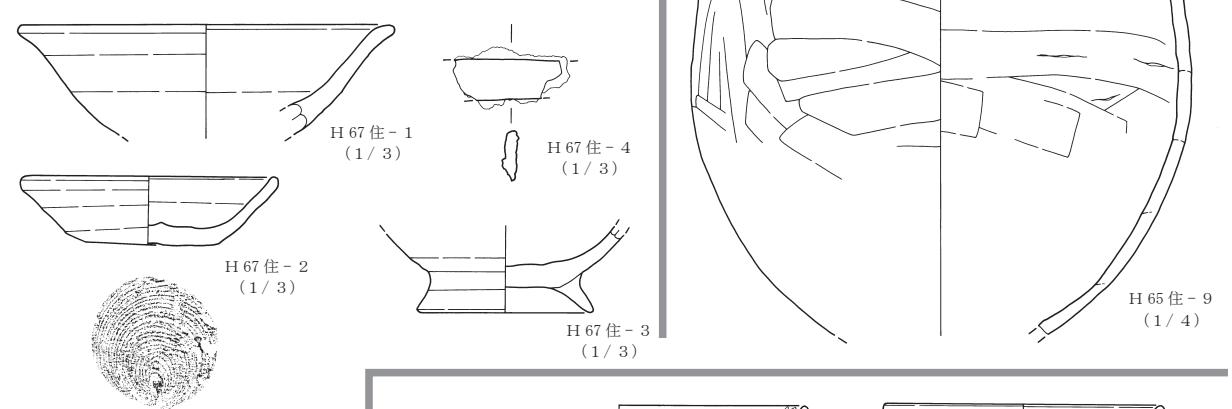


Fig. 67 遺物実測図 (18)

H - 65 号住居跡



H - 67 号住居跡



H - 69 号住居跡

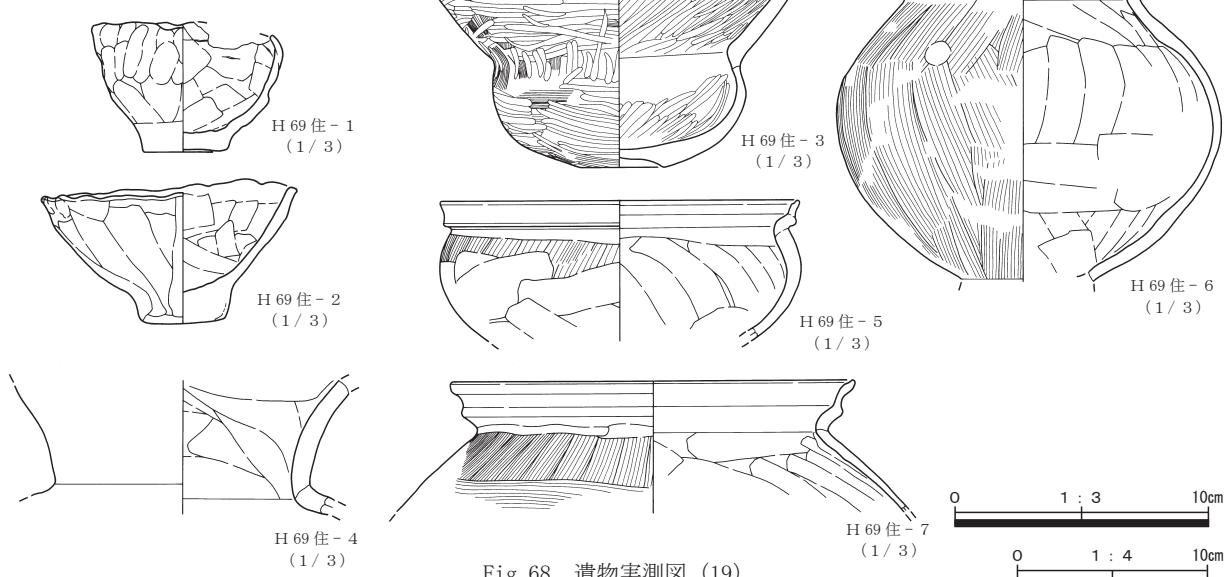
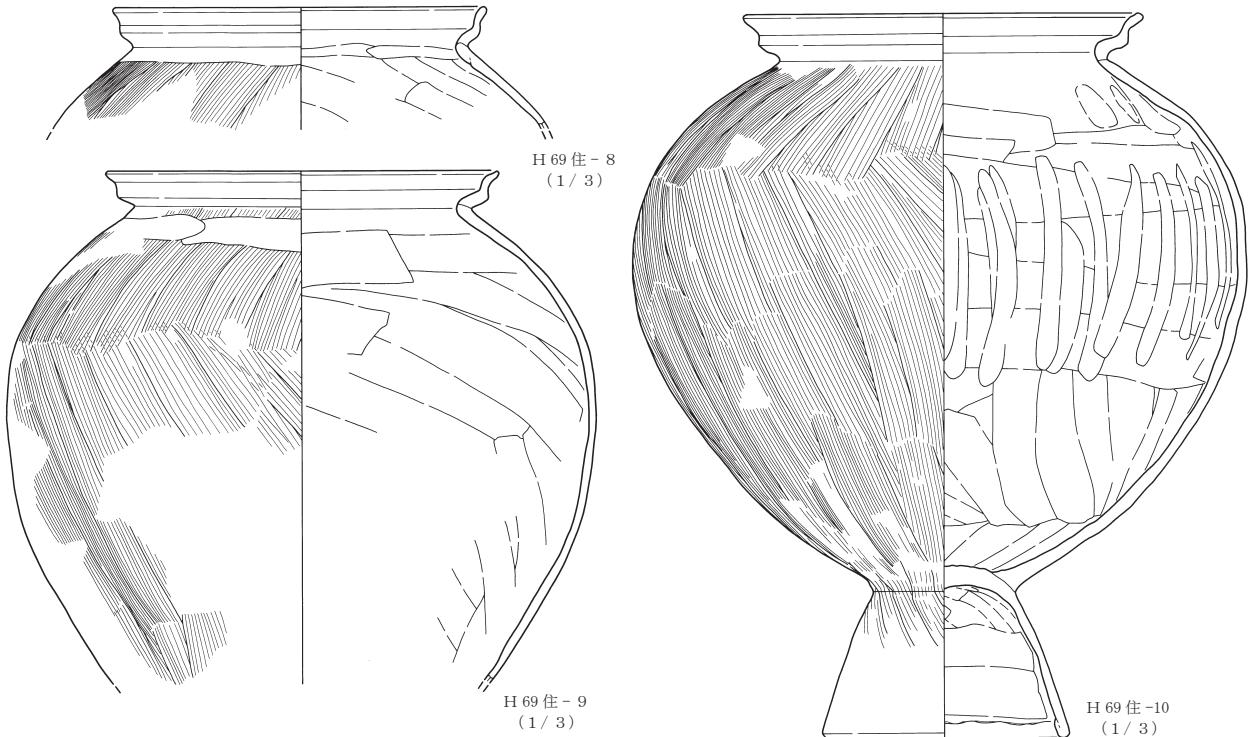


Fig. 68 遺物実測図 (19)

H - 69号住居跡



H - 73号住居跡

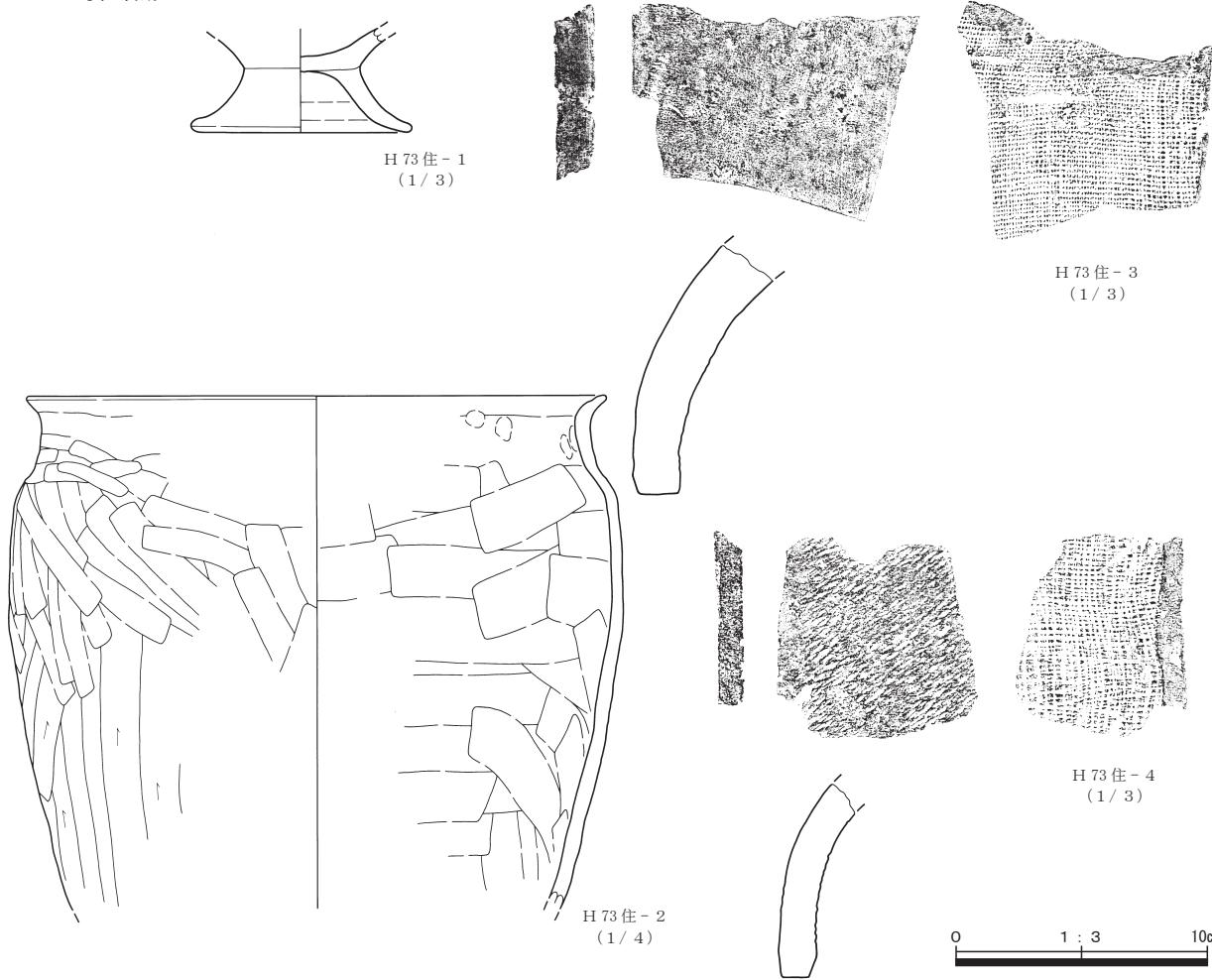
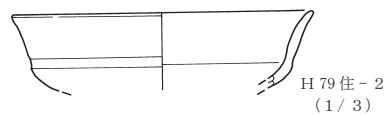
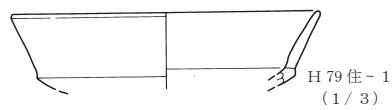
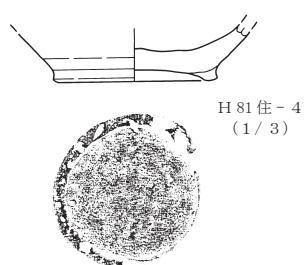
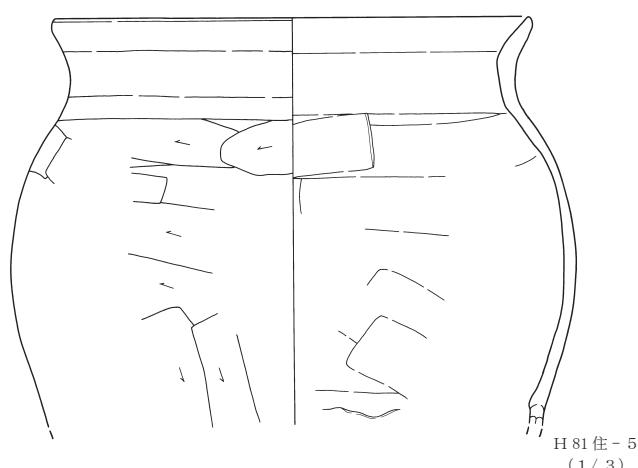
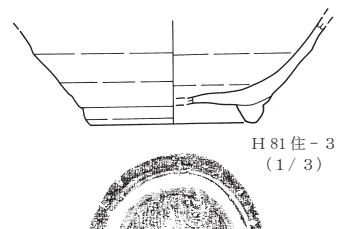
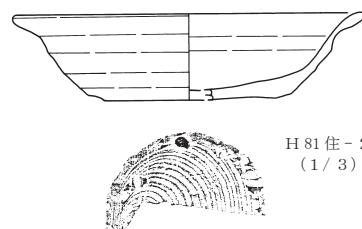
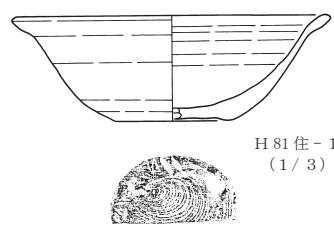


Fig. 69 遺物実測図 (20)

H - 79 号住居跡



H - 81 号住居跡



H 81 住 - 6  
(1 / 4)

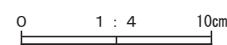
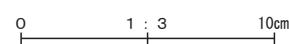
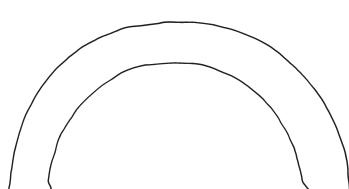
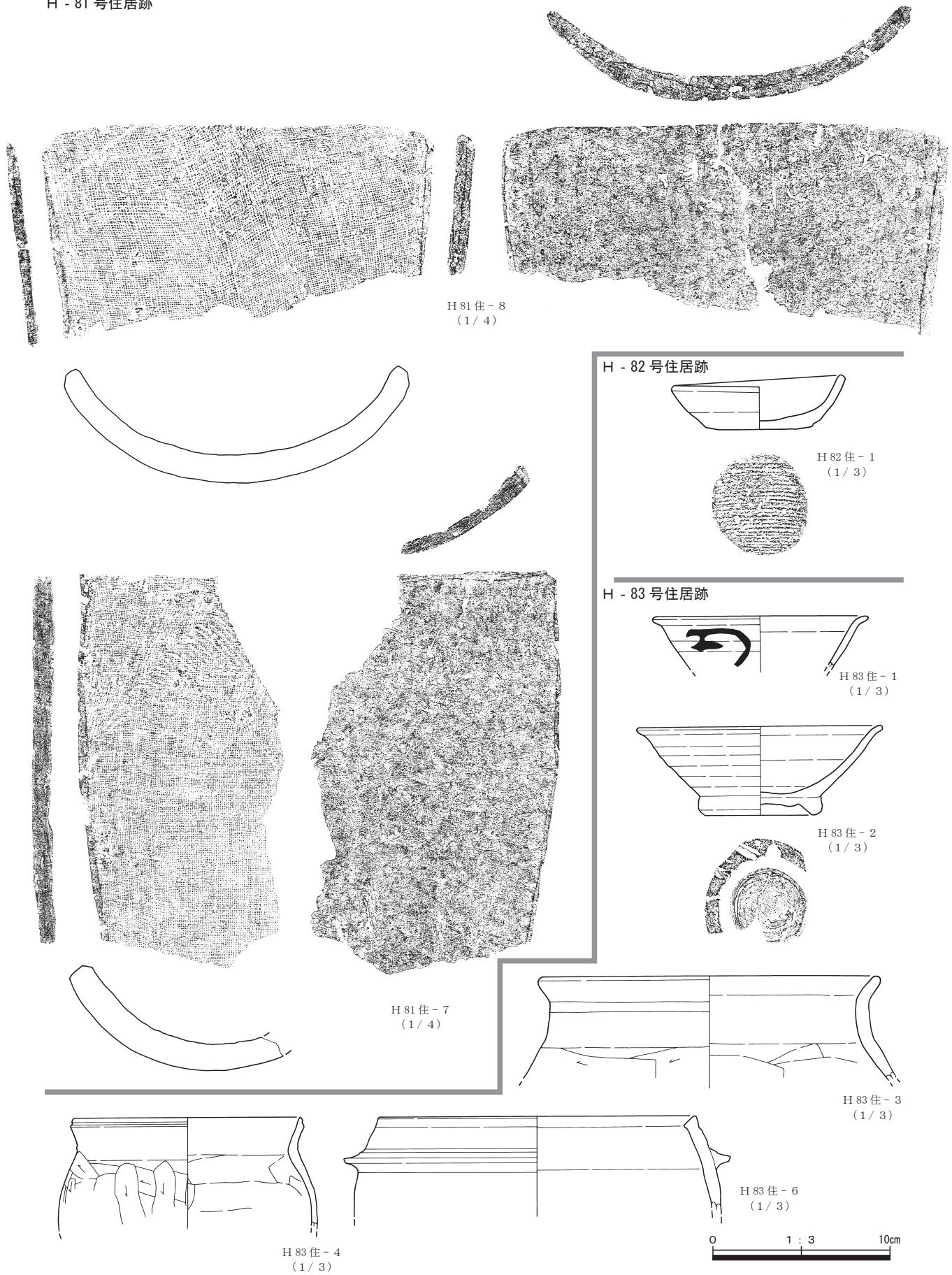
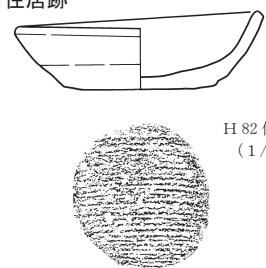


Fig. 70 遺物実測図 (21)

H - 81 号住居跡



H - 82 号住居跡



H - 83 号住居跡

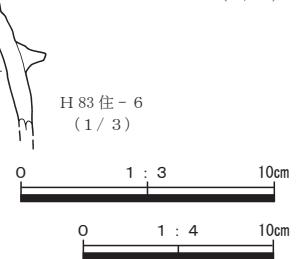
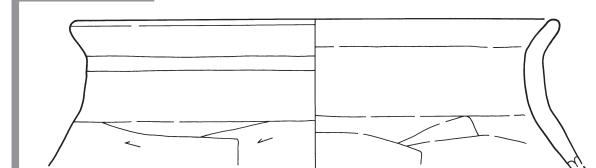
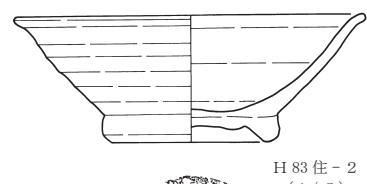
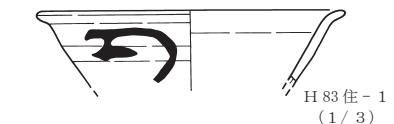
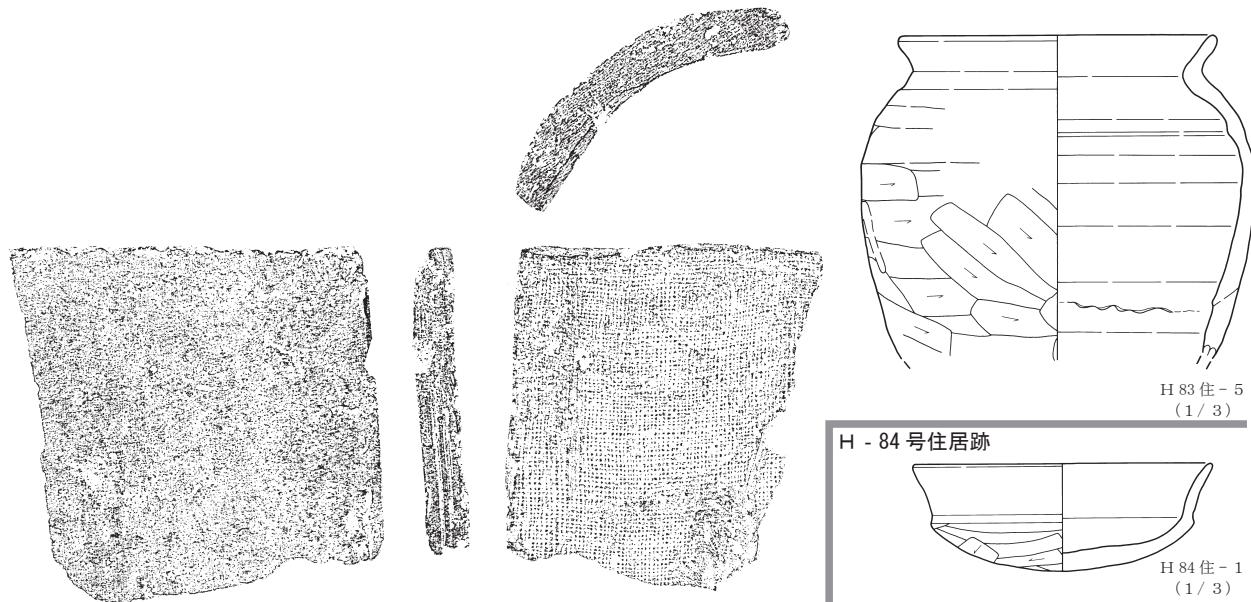
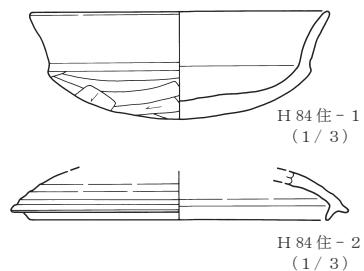


Fig. 71 遺物実測図 (22)

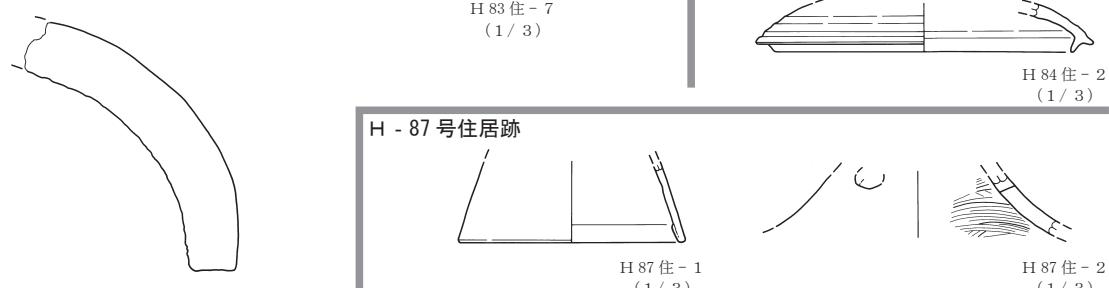
H - 83 号住居跡



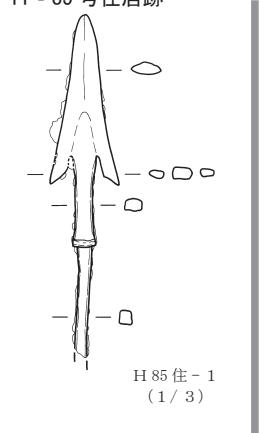
H - 84 号住居跡



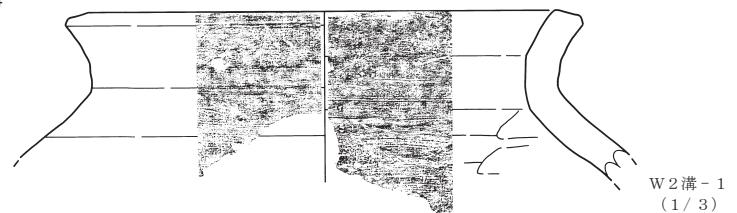
H - 87 号住居跡



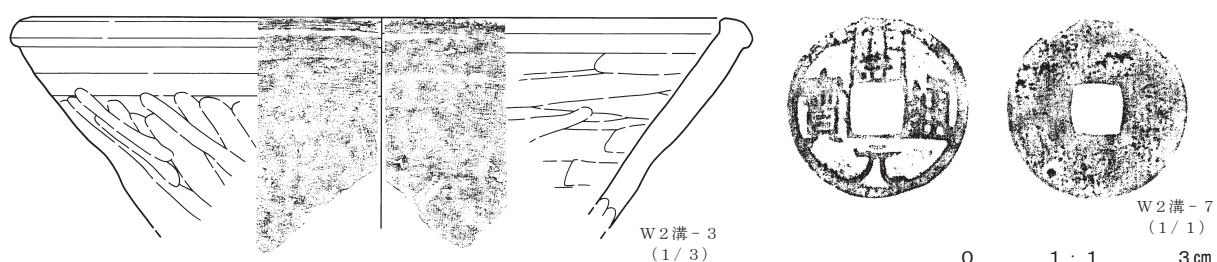
H - 85 号住居跡



W - 2 号溝



W 2 溝 - 2  
(1 / 3)



0 1 : 1 3 cm  
0 1 : 3 10 cm

Fig. 72 遺物実測図 (23)

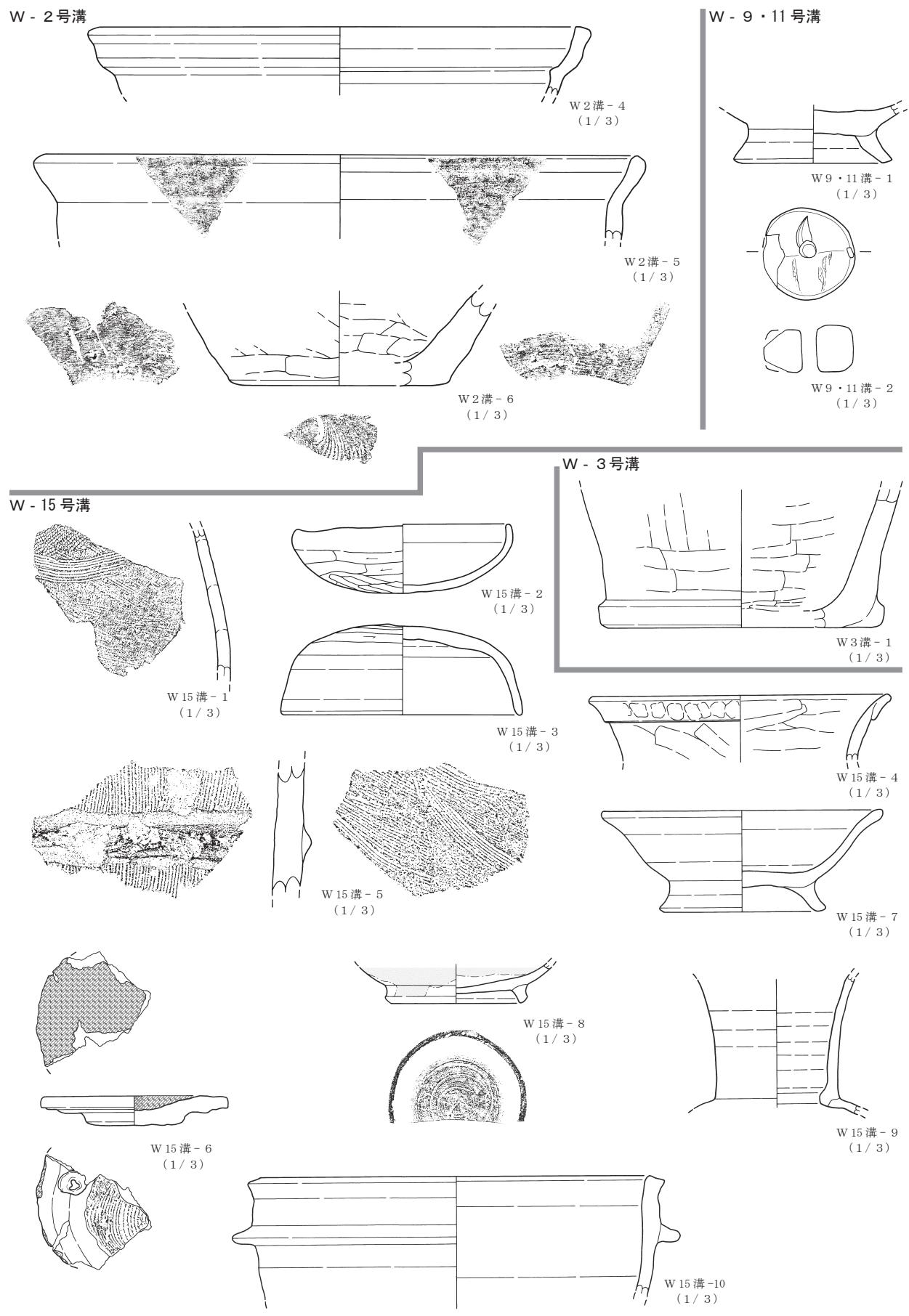


Fig. 73 遺物実測図 (24)

W - 17 号溝

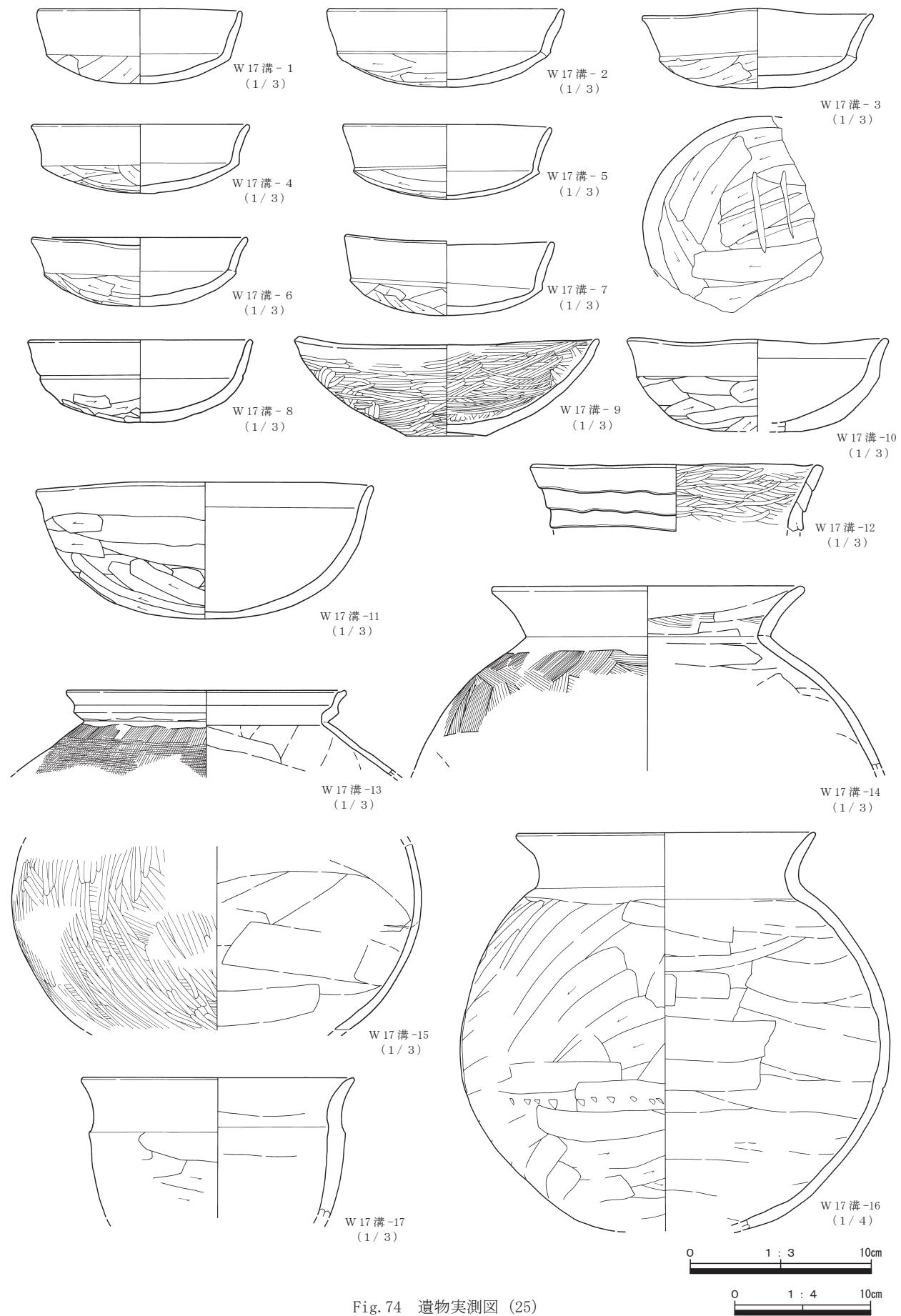


Fig. 74 遺物実測図 (25)

W - 17 号溝

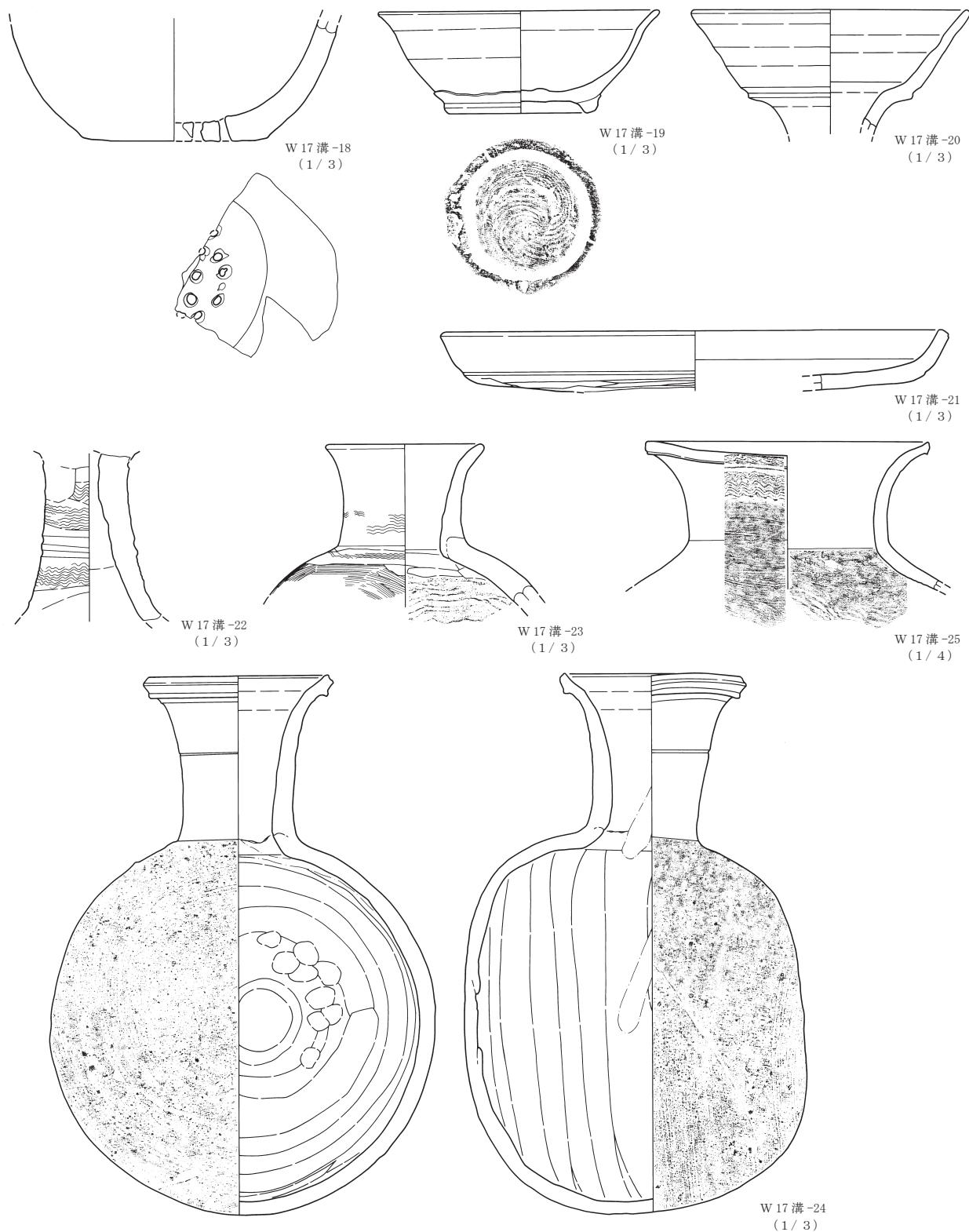
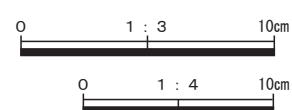


Fig. 75 遺物実測図 (26)



W - 17 号溝

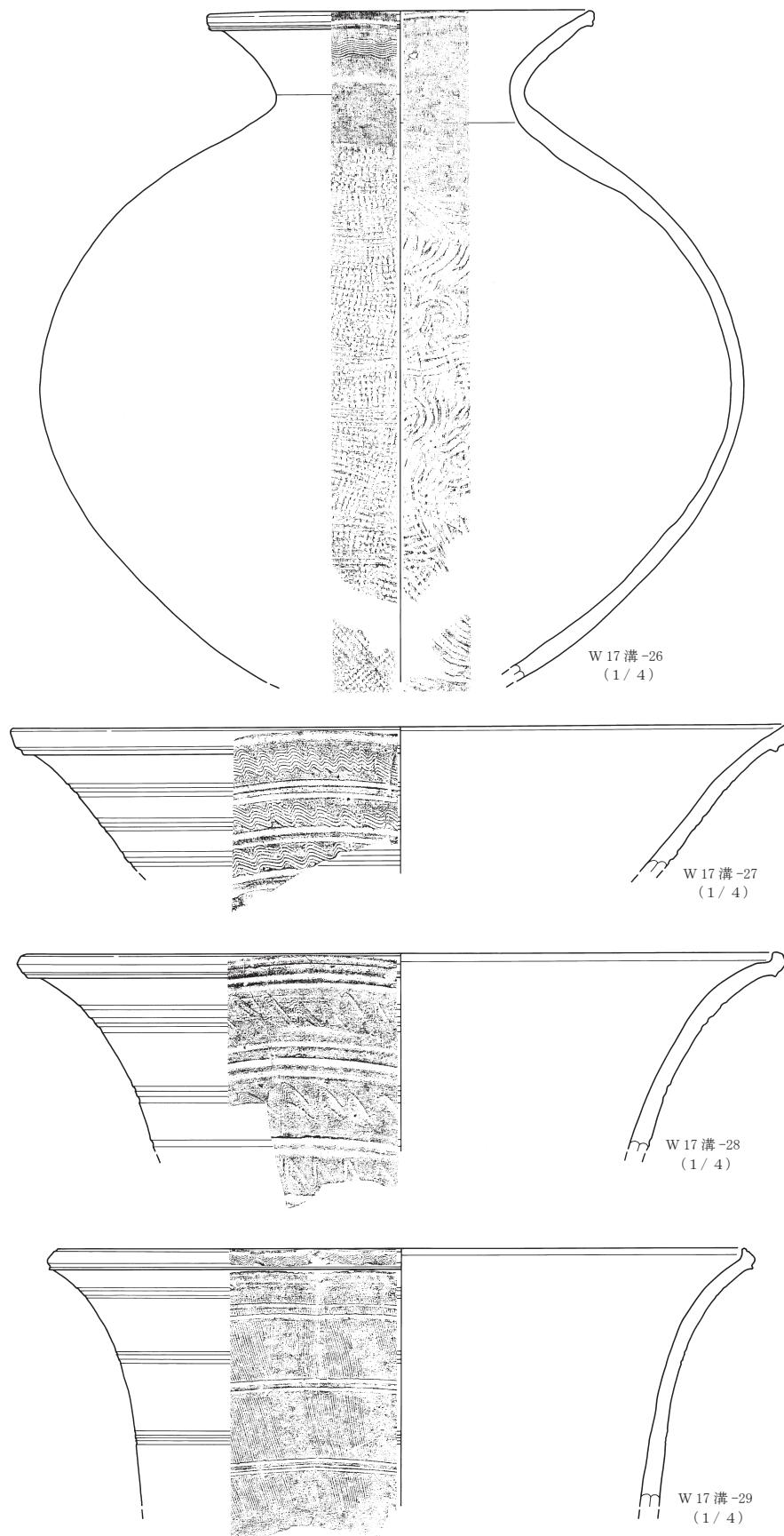
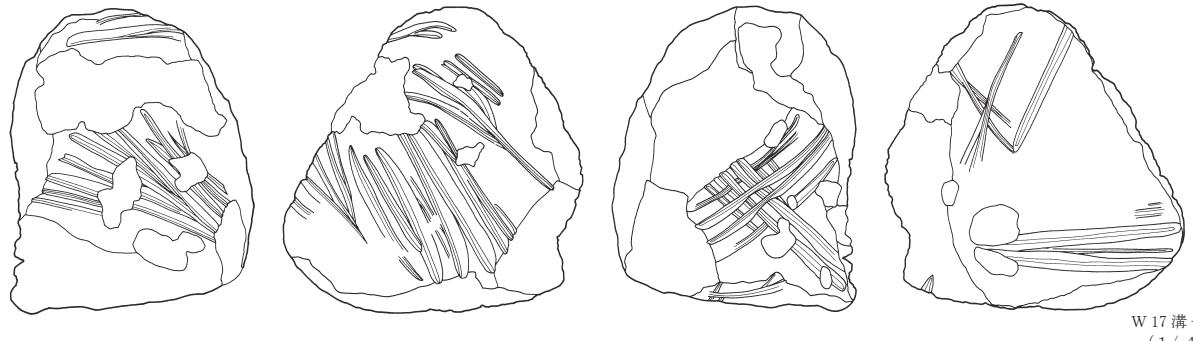


Fig. 76 遺物実測図 (27)

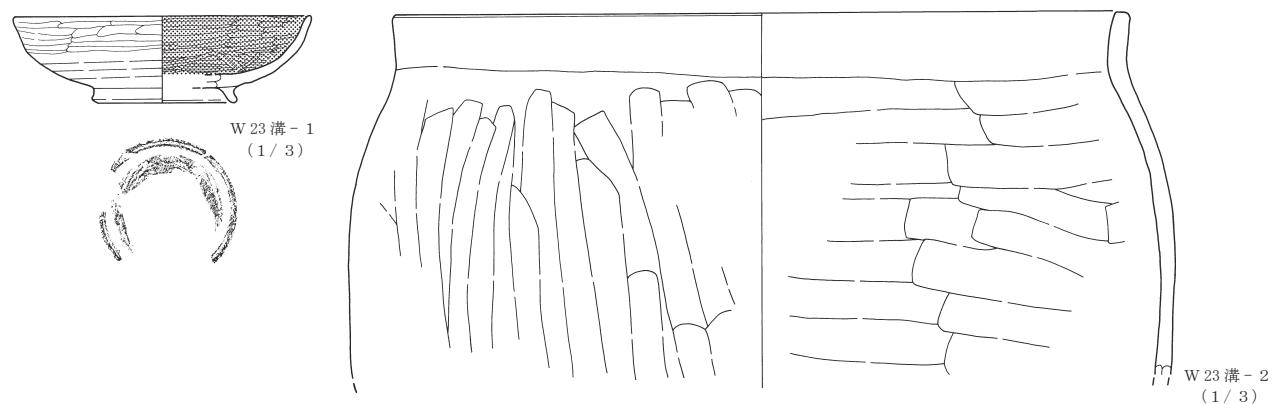
0 1 : 4 10cm

W - 17 号溝



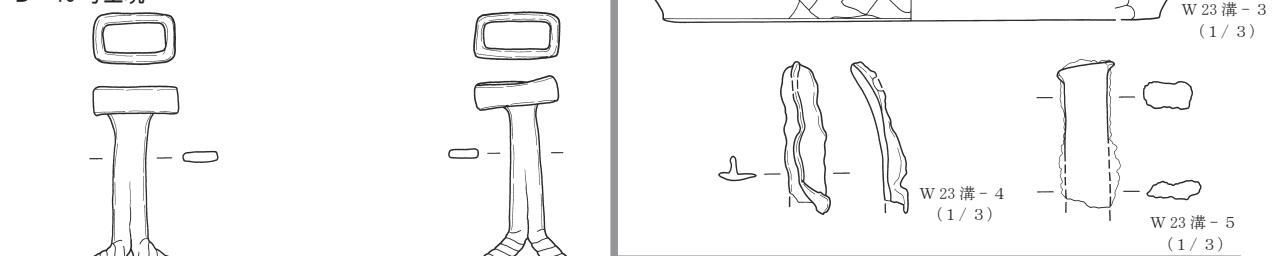
W 17 溝 -30  
(1 / 4)

W - 23 号溝

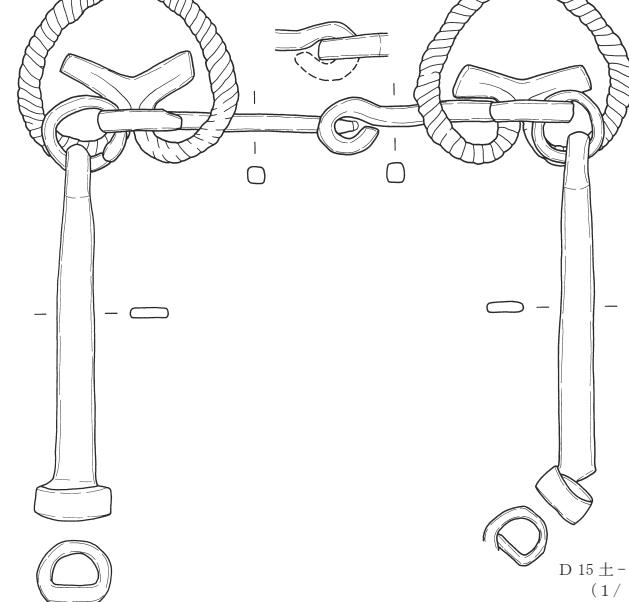


W 23 溝 - 2  
(1 / 3)

D - 15 号土坑



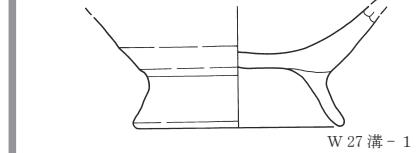
W 23 溝 - 5  
(1 / 3)



D 15 土 - 1 · 2  
(1 / 3)

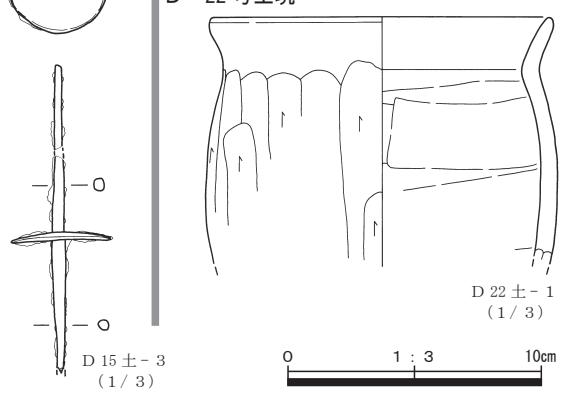
D 15 土 - 3  
(1 / 3)

W - 27 号溝



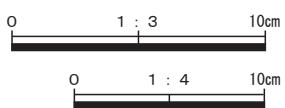
W 27 溝 - 1  
(1 / 3)

D - 22 号土坑

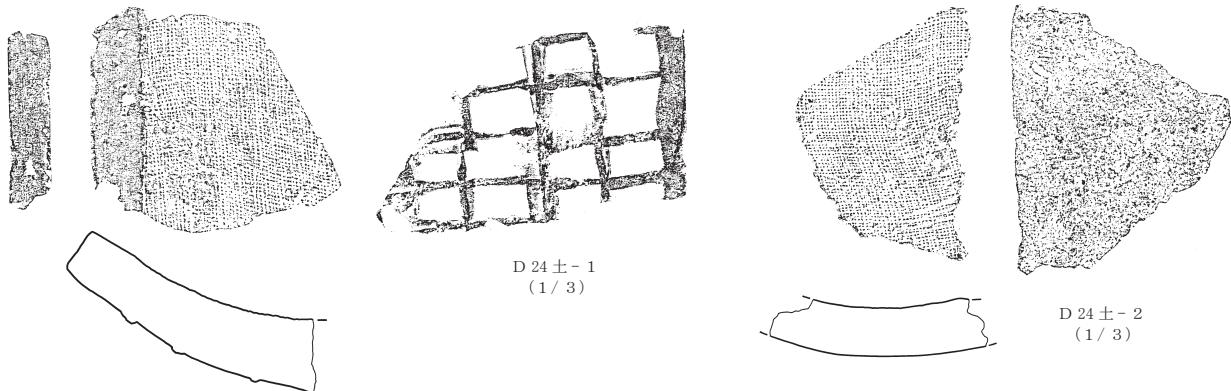


D 22 土 - 1  
(1 / 3)

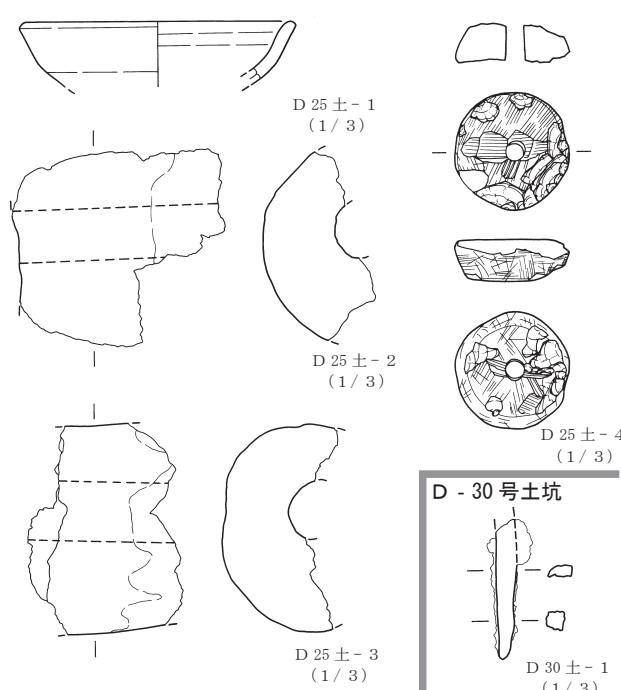
Fig. 77 遺物実測図 (28)



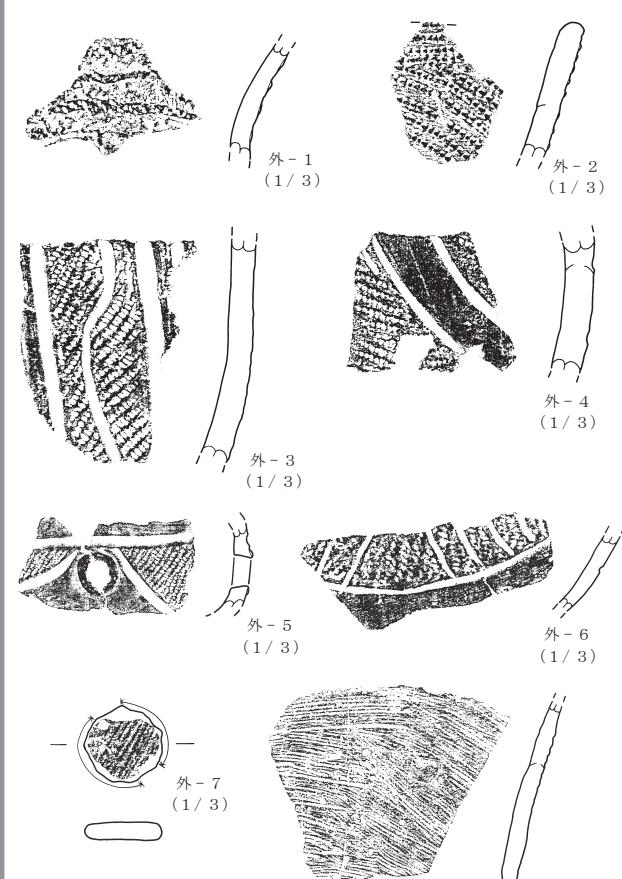
D - 24号土坑



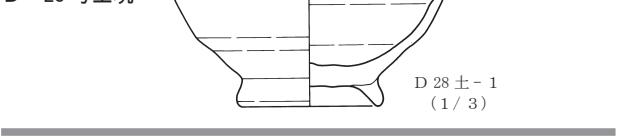
D - 25号土坑



遺構外出土遺物



D - 28号土坑



T - 5号竪穴状遺構

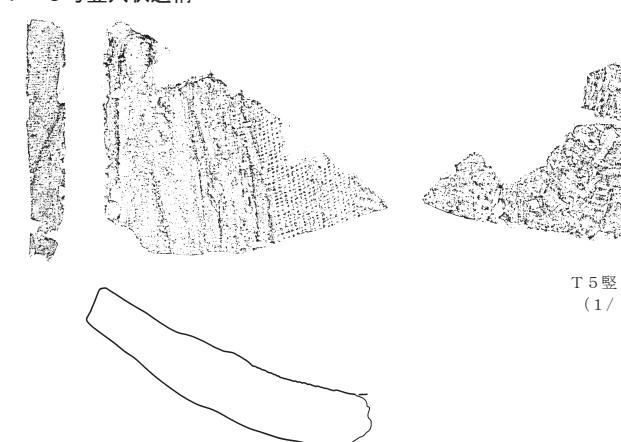


Fig. 78 遺物実測図 (29)



遺構外出土遺物

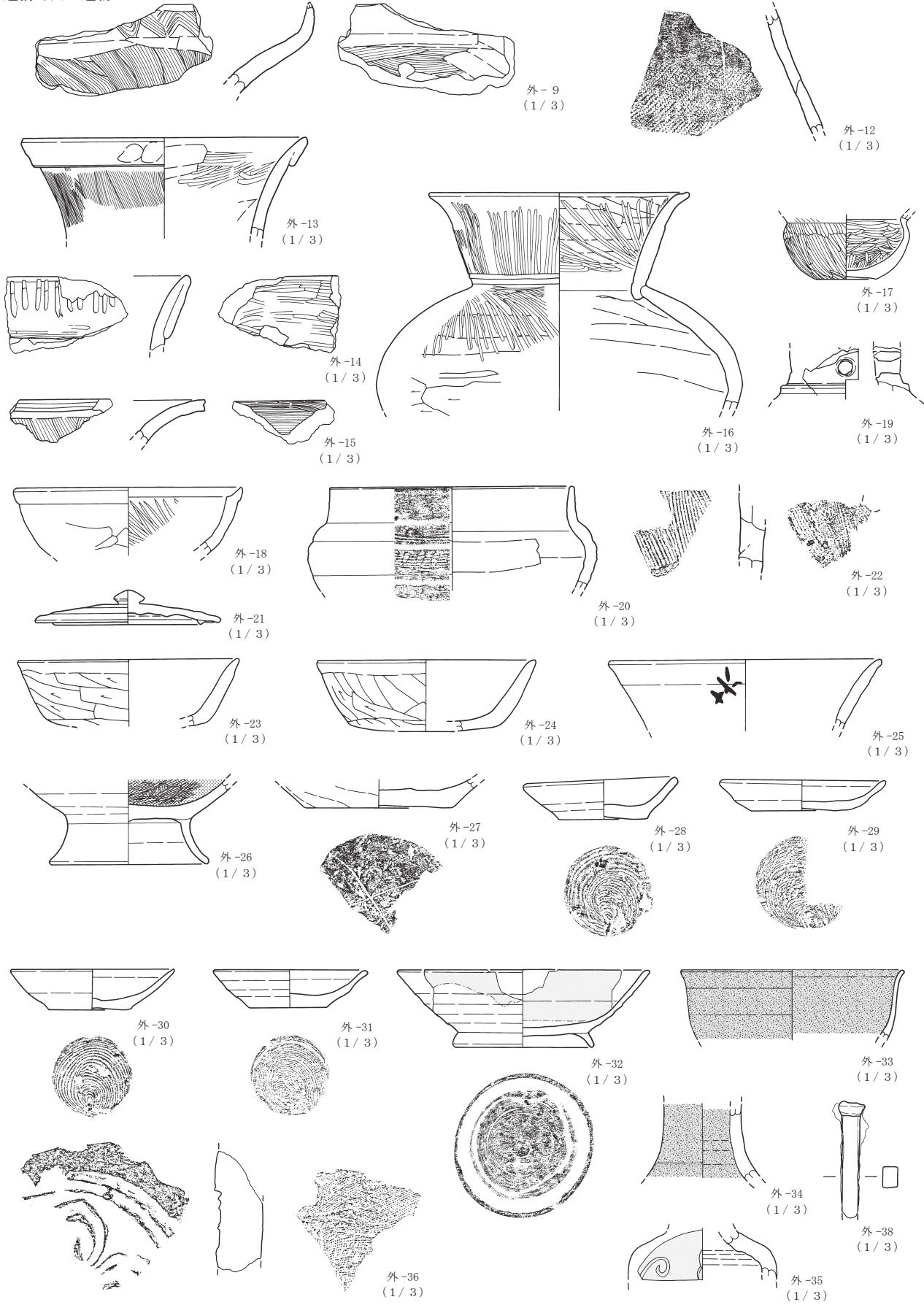


Fig. 79 遺物実測図 (30)

A horizontal number line starting at 0 and ending at 10 cm. There are four major tick marks, including the endpoints. The first tick mark is labeled '1 : 3' above the line.

遺構外出土遺物

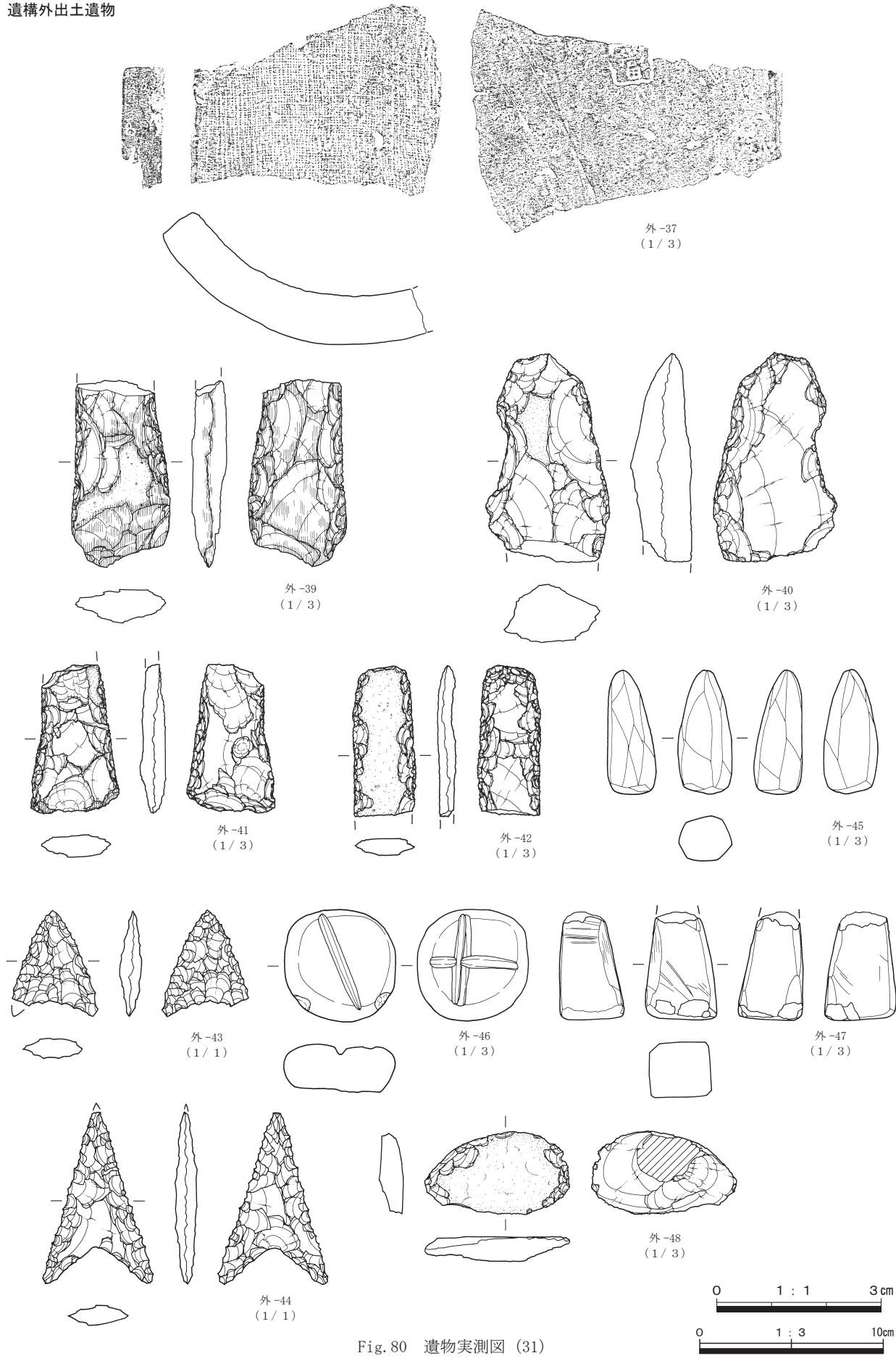


Fig. 80 遺物実測図 (31)

遺構外出土遺物

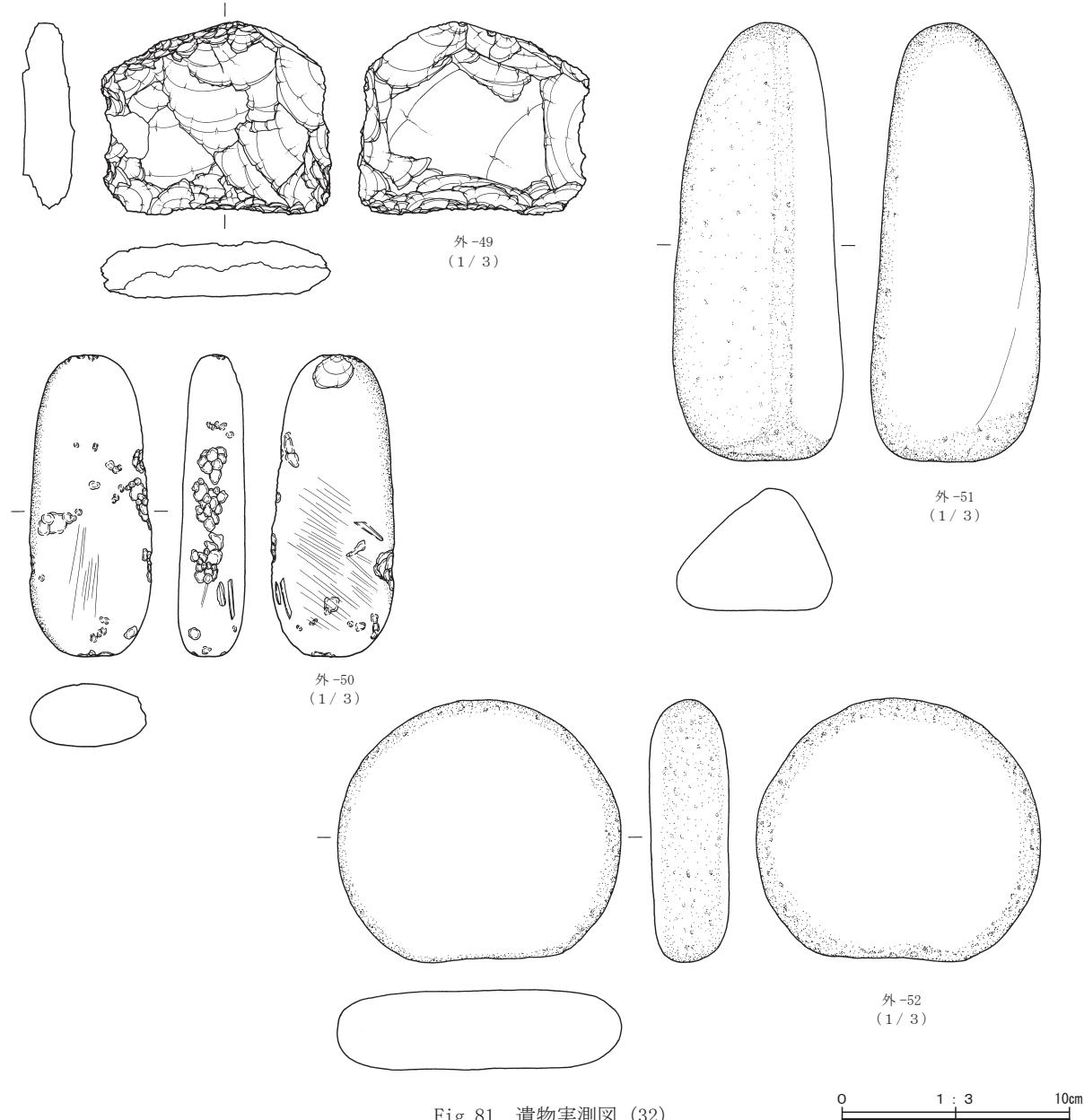


Fig. 81 遺物実測図 (32)

0 1 : 3 10cm

Tab. 3 出土遺物観察表 (1)

H-31号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土製品 支脚	器高(6.7)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒・赤色粒 ④両端部欠	外面：縦位窓ナデ。 棒状の工具に粘土を貼り付けて成形したものと想定され、内面形状は端部に丸みをもつ円錐状を呈する。	
2	土師器 甕	口径(16.0)	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・石英・チャート ④口縁～体部上位1/6	外面：口縁部横ナデ。体部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位窓ナデ。	
3	土師器 甕	口径(22.3)	①酸化焰 ②浅黄 ③透明粒・角閃石 ④口縁～体部下半2/3	外面：口縁部横ナデ。体部縦位窓ケズリ。体部中位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体部窓ナデ。	
4	土師器 甕	口径(20.5)	①酸化焰 ②浅黄 ③チャート・角閃石 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体部縦位窓ケズリ。体部下位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体部窓ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
5	石製品	石皿(多孔石)	長さ〈10.7〉 幅〈10.6〉 厚さ〈5.2〉 重さ729.1 表面は磨耗により平滑。裏面は漏斗状の凹み穴が16穴。安山岩製。		

Tab. 4 出土遺物観察表 (2)

## H-32号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 台付甕	口径(15.4)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒・角閃石 ④口縁～底部2/3、台部欠損	外面：口縁部横ナデ。体部ナデ後斜位刷毛目。指頭痕が見られる。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
2	土師器 台付甕	口径 19.4 底径 10.5 器高 31.4	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート・角閃石 ④口縁～台部3/4	外面：口縁部横ナデ。体部斜位刷毛目後一部ナデ。脚部斜位刷毛目後ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。脚部ナデ。	

## H-34号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径(10.6)	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④口縁部片	外面：輶軸整形。 内面：輶軸整形。	

## H-35号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 12.6 器高 4.5	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・赤色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径 13.2 器高 4.8	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・赤色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～底部横ナデ。	
3	土師器 甕	口径 15.0 底径 6.3 器高 12.8	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体部縦位箇ケズリ後横位ナデ。底部箇ナデ。 内面：口縁部世お撫で。体～底部箇ナデ。	

## H-36号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径(10.0) 底径(4.6) 器高 2.5	①還元焰気味 ②灰黄 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/6	外面：輶軸整形。底部右回転糸切り。 内面：輶軸整形。	
2	須恵器 壺	口径(10.1) 底径(5.1) 器高 2.8	①還元焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部3/4	外面：輶軸整形。底部左回転糸切り。口縁端部に油煙付着。 内面：輶軸整形。口縁端部に油煙付着。	灯明皿。
3	須恵器 壺	口径 9.0 底径 5.4 器高 2.5	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色鉱物・チャート ④ほぼ完形	外面：輶軸整形。底部右回転糸切り。口縁端部に油煙付着。 内面：輶軸整形。口縁端部に油煙付着。	灯明皿。
4	須恵器 碗	口径(11.8) 底径(6.0) 器高 4.8	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/3	外面：輶軸整形。底部回転横ナデ。高台貼付。 内面：輶軸整形。	
5	須恵器 碗	口径(15.0)	①酸化焰 ②暗灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/4、高台剥落	外面：輶軸整形。底部回転横ナデ。高台貼付。 内面：輶軸整形。	
6	須恵器 碗	口径(17.6)	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③白色粒・チャート ④口縁～底部1/6、高台剥落	外面：輶軸整形。底部回転横ナデ。高台貼付。 内面：輶軸整形。	
7	須恵器 碗	—	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・黒色鉱物・チャート ④体部上位～底部1/5、高台剥落	外面：輶軸整形。底部回転横ナデ。高台貼付。 内面：輶軸整形。	二次焼成痕が認められる。
8	須恵器 碗	口径(17.0)	①還元焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・赤色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/3	外面：輶軸整形。高台貼付。高台端部は欠損しているものの、磨滅させて再利用しているものと想定される。 内面：輶軸整形。	
9	須恵器 皿	口径(16.0)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③細砂粒・白色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/4	外面：輶軸整形。底部回転横ナデ。高台貼付。 内面：輶軸整形。	
10	灰釉陶器 碗	底径(8.4)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④体部下位～底部片	外面：輶軸整形。底面回転横ナデ。 内面：輶軸整形。	
11	灰釉陶器 碗	底径(5.2)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④体部下位～底部片	外面：輶軸整形。高台貼付。 内面：輶軸整形。	
12	灰釉陶器 碗	底径(7.0)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④底部1/3	外面：輶軸整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：輶軸整形。見込み部に重ね焼き痕。	
13	綠釉陶器 碗	底径(9.0)	①堅緻 ②にぶい黄橙 釉：暗オリーブ灰 ③白色粒 ④体部下位～底部1/4	外面：輶軸整形。恥部回転横ナデ。 内面：輶軸整形。	
14	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①酸化焰気味 ②灰黄 ③粗砂粒・白色粒 ④右広端部片	凹面：布目压痕。凸面：繩叩き。 側面：箇ナデ。広端部：箇ナデ。	
15	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①還元焰気味 ②黄灰 ③粗砂粒・白色粒 ④中央部片	凹面：布目压痕。 凸面：繩叩き。	二次焼成痕が認められる。

Tab. 5 出土遺物観察表 (3)

## H-37号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(12.4)	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・角閃石 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径(11.4) 器高 4.2	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・石英 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 壺	口径 13.3 器高 4.4	①酸化焰 ②橙 ③チャート・角閃石 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 壺	口径 11.4 器高 3.6	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・石英・チャート ④完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
5	土師器 壺	口径 11.6 器高 4.6	①酸化焰 ②橙 ③石英・チャート ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：黒色処理。口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
6	土師器 壺	口径(11.5) 器高 3.6	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
7	土師器 壺	口径(11.2) 器高(3.5)	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・石英 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
8	須恵器 蓋	—	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁～天井部2/3	外面：輻轆整形。天井部回転箇ケズリ。 内面：輻轆整形。	
9	須恵器 高壺	—	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・石英・チャート ④体部下半～脚部上位片	外面：輻轆整形。脚部に長方形を呈する透孔3箇所。 内面：輻轆整形。	
10	土師器 高壺	底径 14.8	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・チャート・黒色鉱物 ④脚部	外面：縦位ミガキ。脚部端部横ナデ。 内面：底部ミガキ。箇及び指ナデ。脚部端部横ナデ。	
11	土師器 小型壺	口径(10.4)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・石英・チャート ④口縁～体部上位片	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ後ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
12	土師器 鉢	口径(14.9)	①酸化焰 ②褐 ③粗砂粒・片岩 ④口縁～体部上半片	外面：口縁部横ナデ。体部斜位箇ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
13	土師器 甕	口径(21.6)	①酸化焰 ②明赤褐 ③粗砂粒・片岩 ④口縁～体部1/3	外面：口縁部横ナデ。体部上位縦位箇ケズリ。体部下位斜位箇ケズリ。体部下位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
14	土師器 甕	—	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③粗砂粒・黒色鉱物 ④体部1/3	外面：箇ケズリ後一部箇ナデ。 内面：箇ナデ。	
15	土師器 甕	底径 5.8	① ②にぶい黄橙 ③ ④体部上位～底部	外面：体部上位箇ナデ。体部下位箇ケズリ。底部箇ナデ。体部上位に粘土付着。 内面：体～底部箇ナデ。	体部別造り。
16	土師器 甕	口径 18.8	①酸化焰 ②にぶい褐 ③粗砂粒・石英・チャート・片岩 ④口縁～体部下半5/6	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ後一部箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	体部別造り。
17	土師器 甕	口径 22.4	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・チャート ④口縁～体部5/6	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
18	石製品	紡錘車	長さ 3.7 幅 3.6 厚さ 2.5 孔径 0.7～0.8 重さ 45.10	両面穿孔。削り調整による成形後、研磨による仕上げ。	

## H-38号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(13.1) 器高 4.1	①酸化焰 ②明赤褐 ③透明粒・赤色粒 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：横ナデ後放射状のミガキ。体～底部ナデ後粗いミガキ。	
2	土師器 壺	口径 13.2	①酸化焰 ②明赤褐 ③赤色粒・角閃石 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 小型壺	口径 10.6 底径 4.0 器高 8.6	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・石英・チャート ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。	
4	土師器 甕	口径(13.9)	①酸化焰 ②明赤褐 ③細砂粒・白色粒・チャート ④口縁～体部下位1/2	外面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
5	土師器 甕	口径 15.6 器高 20.6	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ後斜縦位箇ナデ。体～底部箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。	
6	土師器 甕	口径(20.7) 底径(7.0) 器高 32.8	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・透明粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。体部下位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。	
7	土師器 甕	口径 17.2 底径 3.8 器高 39.5	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒・角閃石 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横ナデ。体部縦位箇ケズリ。底部器面荒れる。体部中位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体～底部箇ナデ。	
8	土師器 甕	底径 8.2	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・白色粒・赤褐色粒 ④体部下半～底部1/2	外面：体～底部箇ケズリ後ミガキ。 内面：体～底部ミガキ。	

Tab. 6 出土遺物観察表 (4)

## H-38号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
9	土師器手捏	口径(5.2) 器高 4.0	①酸化焰 ②にぶい赤褐 ③細砂粒・白色粒・赤褐色粒 ④口縁～底部2/3	外面：口縁～体部籠ナデ。底部籠ケズリ。 内面：口縁～底部籠及び指によるナデ。	

## H-40号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器壺	口径(12.4) 器高(4.0)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器壺	口径 12.2 器高 4.4	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・角閃石 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位籠ナデ。底部器面荒れる。	
3	土師器壺	口径 13.5 器高 5.1	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	須恵器蓋	—	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・チャート ④口縁～天井部1/2	外面：輶轆整形。天井部籠ナデ。 内面：輶轆整形。	
5	土師器甕	口径(14.3)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・赤色粒・チャート・角閃石 ④口縁～体部下半1/3	外面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。体部粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。	
6	土師器甕	口径 25.8 底径 9.7 器高 25.4	①酸化焰 ②明赤褐 ③粗砂粒・赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。体部下端籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。	

## H-41号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器手捏	口径 10.2 底径 7.1 器高 3.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③黒色鉱物・赤色粒・角閃石 ④ほぼ完形	外面：口縁～体部ナデ。底部ナデ後ミガキ後先端角状工具による線刻。 内面：口縁～体部ミガキ。底部ミガキ後先端角状工具による線刻。	
2	土師器壺	口径(13.6)	①酸化焰 ②灰オリーブ ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
3	土師器壺	口径(13.6)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
4	土師器壺	口径 14.1 器高 4.4	①酸化焰 ②灰 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部3/5	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。体部ナデ。	
5	土師器壺	口径 12.2	①酸化焰 ②灰 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。体部ナデ。	
6	須恵器蓋	口径(14.5)	①還元焰 ②灰 ③細砂粒・白色粒・チャート ④口縁～天井部1/3	外面：輶轆整形。天井部回転籠ケズリ。 内面：輶轆整形。	
7	土師器甕	口径(19.4) 器高 37.1	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒・角閃石 ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。底部籠ナデ。体部上位～中位にかけて粘土の付着が顕著。 内面：口縁部横ナデ。体～底部籠ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
8	鉄製品 鋤先	厚さ 0.3	重さ 113.00		

## H-42号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器壺	底径 5.0	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・白色粒 ④底部	外面：輶轆整形。底部左回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
2	須恵器碗	口径(14.0) 底径(8.4) 器高 6.0	①酸化焰 ②暗灰黃 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～底部1/4	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：輶轆整形。	
3	羽釜	口径(26.0)	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～体部上位片	外面：輶轆整形。鈔貼付。 内面：輶轆整形。体部ナデ。	
4	羽釜	口径(24.8)	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部片	外面：輶轆整形。体部縦位籠ケズリ。鈔貼付。 内面：輶轆整形。体部斜位籠ナデ。	
5	瓦 丸瓦	厚さ 2.1	①還元焰 ②暗灰黃 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④狭端部左側	凸面：縦位籠ナデ。端部面取り。凹面：布目压痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。狭端部：籠ナデ。	
6	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①酸化焰 ②明褐 ③白色粒・透明粒・角閃石 ④側面左側	凹面：布目压痕後縦位籠ナデ。端部面取り。 凸面：繩叩き後斜位籠ナデ。側面：籠ナデ。	
7	瓦 平瓦	厚さ 2.3	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④広端部左側	凹面：布目压痕後縦・斜位籠ナデ。端部面取り。 凸面：縦位籠ナデ。 側面：籠ナデ。広端部：籠ナデ。	
8	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①還元気味 ②黄褐 ③白色粒・チャート ④広端部右側	凹面：布目压痕。端部面取り。凸面：縦・横位籠ナデ。 側面：籠ナデ。広端部：籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。

Tab. 7 出土遺物観察表 (5)

## H-43号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径 11.9 器高 4.6	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・ チャート ④完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 坏	口径 12.9 器高 4.7	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・ チャート ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体～底部籠ナデ。	
3	土師器 坏	口径 13.8	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・ 赤色粒 ④口縁～体部下位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
4	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.6	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部籠ナデ。	
5	土師器 坏	口径 (12.7) 器高 4.4	①酸化焰 ②橙 ③石英・片岩・チャート ④口縁～体部 1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
6	須恵器 蓋	口径 13.7 摘み 3.5 器高 4.5	①還元焰 ②灰 ③粗砂粒・白色粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。天井部回転籠ケズリ。 内面：轆轤整形。	
7	土師器 高坏	—	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・赤色粒 ④脚部	外面：縦位籠ナデ。 内面：籠及び指によるナデ。	
8	土師器 甕	口径 (20.8)	①酸化焰 ②黄橙 ③粗砂粒・赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部 1/2	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。	
9	土師器 甕	底径 4.6	①酸化焰 ②灰黄 ③細砂粒・ 黒色鉱物・チャート ④体部下半～底部片	外面：体部籠ケズリ。底部籠ナデ。体部に粘土付着。 内面：体～底部籠ナデ。	
10	土師器 甕	口径 17.9 底径 (5.5) 器高 29.5	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・赤色粒・片岩 ④口縁～底部 3/4	外面：口縁部横ナデ。体部上～中位籠ケズリ後籠ナデ。体部下位 籠ケズリ。底部籠ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体～底部籠ナデ。	

## H-44号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 (14.5) 底径 7.5 器高 5.4	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③黒色鉱物・チャート ④口縁～底部 1/8	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。高台に棒状圧痕。 内面：轆轤整形。	
2	須恵器 碗	口径 (18.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・雲母 ④口縁～体部下位 1/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	
3	土師器 甕	口径 (18.2)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部上位片	外面：口縁～頸部横ナデ。体部横位籠ケズリ。 内面：口縁～頸部横ナデ。体部斜位ナデ。	
4	土師器 甕	口径 (16.6)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・ 黒色粒 ④口縁～体部上位片	外面：口縁～頸部横ナデ。体部斜位籠ケズリ。 内面：横ナデ。	
5	土師器 甕	口径 (17.8)	①酸化焰 ②にぶい赤褐 ③白色粒 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁～頸部横ナデ。体部斜位・縦位籠ケズリ。 内面：横ナデ。	
6	瓦 丸瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・ チャート ④中央部片	凸面：繩叩き後籠ナデ。 凹面：布目圧痕。布合わせ目。	二次焼成痕が 認められる。
7	瓦 玉縁付 丸瓦	厚さ 1.8	①還元焰 ②灰 ③粗砂粒・ 白色粒 ④狭端部	凸面：繩叩き後籠ナデ。端部面取り。 凹面：布目圧痕後一部籠ナデ。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	二次焼成痕が 認められる。

## H-45号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径 (10.6) 底径 (7.4) 器高 1.8	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・赤色粒・片岩 ④口縁～底部 1/3	外面：轆轤整形。体部下位ナデ。底部静止糸切り。 内面：轆轤整形。 ※最初に轆轤整形、底部回転糸切りの坏を製作した後、口縁部～ 底端部まで粘土を加え、轆轤により再整形している。	
2	須恵器 坏	口径 (9.3) 底径 5.2 器高 1.9	①酸化焰 ②褐 ③白色粒・黒色粒・雲母 ④口縁～底部 1/3	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
3	須恵器 坏	底径 (6.4)	①還元焰気味 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・黒色粒・チャート ④底部 1/3	外面：轆轤整形。底部静止糸切り。 内面：轆轤整形。	
4	須恵器 碗	底径 7.8	①酸化焰 ②褐 ③細砂粒・白色粒・チャート ④体部下位～底部	外面：轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
5	羽釜	口径 (19.6)	①酸化焰気味 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・白色粒・チャート ④口縁～体部上位片	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が 認められる。
6	瓦 丸瓦	厚さ 1.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ 透明粒 ④両端部欠	凸面：繩叩き後縦位籠ナデ。 四面：布目圧痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。	

Tab. 8 出土遺物観察表 (6)

## H-45号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
7	瓦 平瓦	厚さ 2.1	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒・黒色鉱物 ④狭端部右側	凹面：布目圧痕。端部面取り。 凸面：粗大斜格子叩き。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	
8	瓦 平瓦	厚さ 2.1	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ 黒色粒 ④広端部右側	凹面：布目圧痕。端部面取り。 凸面：縦位縄叩き。広端部付近のみ横位縄叩き。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	
9	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①還元 ②褐灰 ③白色粒・ 黒色粒 ④広端部左側	凹面：布目圧痕。糸切り痕。側面付近のみ縦位籠ナデ。 凸面：縦位縄叩き。広端部付近のみ横位縄叩き。縄叩き後縦位籠ナデ。端部籠ナデ。 側面：籠ナデ。 広端部籠ナデ。	
10	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①還元 ②褐灰 ③白色粒・ 黒色粒 ④狭端部	凹面：布目圧痕。糸切り痕。側面付近のみ縦位籠ナデ。 凸面：縄叩き。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	

## H-46号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径(10.2) 底径(6.5) 器高 2.4	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部 1/4	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
2	須恵器 壺	口径 9.6 底径 4.8 器高 1.9	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・チャート ④ほぞ完形(口縁一部欠)	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
3	羽釜	口径(25.1)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④口縁 1/8	外面：輶轆成形。口縁部横ナデ。体部横ナデ後縦・斜位ナデ。鍔貼付。 内面：輶轆成形。口縁部横ナデ。体部回転横ナデ。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 1.8	①還元焰 ②灰 ③黒色粒 ④広端部右側	凸面：縄叩き後縦・横位籠ナデ。端部面取り。 凹面：布目圧痕。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	
5	瓦 丸瓦	厚さ 1.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ 黒色粒 ④狭端部	凸面：縄叩き後横位籠ナデ。端部面取り。 凹面：布目圧痕。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	
6	瓦 丸瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ 片岩 ④狭端部左側	凸面：横位籠ナデ。端部面取り。刻書が施される。 凹面：布目圧痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	
7	瓦 丸瓦	厚さ 1.8	①還元焰 ②灰白 ③細砂粒 ④広端部右側	凸面：縦・横位籠ナデ。端部面取り。 凹面：布目圧痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	
8	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①酸化焰気味 ②橙 ③赤色粒・チャート ④広端部右側	凹面：布目圧痕。端部面取り。 凸面：縄叩き後斜位籠ナデ。端部面取り。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	

## H-47号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	底径 8.3	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④体部下位～底部	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。高台貼付。体部に粘土付着。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
2	土師器 甕	口径(18.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・雲母 ④口縁～体部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部上位横位籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部上位籠ナデ。	
3	須恵器 土釜	口径(19.4)	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部縦位籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
4	須恵器 土釜	口径(24.8)	①酸化焰気味 ②灰黄褐 ③白色粒・チャート・片岩 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ後縦・横位ナデ。体部下位に粘土付着。 内面：口縁部横ナデ。体部横位籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
5	瓦 丸瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒・チャート ④狭端部左側	凸面：横位籠ナデ。 凹面：布目圧痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
6	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰オリーブ ③白色粒・黒色粒 ④両端部欠	凹面：布目圧痕。 凸面：縄叩き。	
7	瓦 平瓦	厚さ 2.2	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ チャート ④狭端部右側	凹面：布目圧痕・糸切り痕後縦位籠ナデ。端部面取り。 凸面：縄叩き後縦位籠ナデ。籠ナデ後に多量の砂粒が表面に付着。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	
8	瓦 平瓦	厚さ 1.9	①還元焰 ②浅黄 ③白色粒・石英・チャート ④狭端部右側	凹面：布目圧痕・糸切り痕。端部面取り。刻書。 凸面：籠ナデ。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。 紐状圧痕。	

## H-48号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高壺	口径 17.1	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・ 角閃石 ④口縁～体部 3/4	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：横ナデ。	

Tab. 9 出土遺物観察表 (7)

## H-48号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	土師器 高壺	口径 19.9	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色鉱物・チャート ④口縁～脚部 3/4	外面：口縁～脚部ミガキ。脚部に円形の透孔。 内面：口縁～底部ミガキ。脚部窓ナデ。	
3	土師器 甕	口径 (16.0)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・海綿骨針・黒色粒 ④口縁～肩部片	外面：口縁部横ナデ。肩部刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。肩部窓ナデ。	
4	土師器 壺	口径 (16.0)	①酸化焰 ②灰黄褐 ③細砂粒・黒色粒 ④口縁～頸部 1/4	外面：折返し口縁。口縁部横ナデ。頸部縦位窓ナデ。 内面口縁～頸部横位ミガキ。	
5	土師器 壺	口径 15.2	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・チャート ④口縁～頸部	外面：折返し口縁。口縁部横ナデ後ミガキ。頸部刷毛目後ミガキ。 内面：口縁～頸部窓ナデ後ミガキ。	
6	土師器 壺	口径 (12.6)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部上位 1/3	外面：折返し口縁。口縁部横ナデ。頸～体部窓ナデ後ミガキ。 内面：口縁部横ナデ。体部窓ナデ。	
7	土師器 壺	-	①酸化焰 ②灰黄 ③白色粒・チャート ④口縁～頸部片	外面：口縁部斜位ミガキ。頸部刷毛目。 内面：口縁～頸部刷毛目後ミガキ。	
8	土師器 埴	底径 3.5	①酸化焰 ②黒褐 ③細砂粒・赤色粒 ④体～底部 3/4	外面：体～底部窓ナデ。 内面体～底部ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
9	石製品	砥石	長さ 11.5 幅 7.9 厚さ 1.6 重さ 135.30 流紋岩製。欠損品。打製石斧の転用品。表面中央に縦位の線状磨耗痕。		

## H-49号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 (16.3)	①酸化焰 ②褐灰 ③チャート・赤褐色粒・黒色粒 ④口縁 1/6	外面：口縁部横ナデ。体部刷毛目後一部ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ。	
2	土師器 甕	口径 (16.6)	①酸化焰 ②灰褐 ③角閃石・チャート・赤褐色粒 ④口縁 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ。	
3	土師器 壺カ	-	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③黒色鉱物・白色石 ④口縁部片	外面：口縁部横ナデ。口縁部に鋸歯状の刻みを施す。 内面：口縁部横ナデ後赤色塗彩。	

## H-50号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 12.2 底径 5.2 器高 3.7	①還元焰気味 ②灰黄 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 2/3	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
2	須恵器 壺	口径 12.7 底径 6.7 器高 3.5	①還元 ②灰 ③白色粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
3	須恵器 碗	口径 (16.4) 底径 6.4 器高 7.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 1/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
4	須恵器 皿	口径 (12.6) 底径 ( 6.6) 器高 3.1	①酸化焰 ②灰黄褐 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④口縁～底部 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後回転ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
5	土師器 甕	口径 (16.0)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部横位窓ケズリ後体部中位から下位に向かってナデ。 内面：横ナデ。	
6	灰釉陶器 碗	底径 7.0	①堅緻 ②褐灰 ③白色粒 ④体部～底部 1/4	外面：轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
7	瓦 丸瓦	厚さ 1.3	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④狭端部	凸面：繩叩き後縦位窓ナデ。 四面：布目压痕。 狭端部：窓ナデ。	
8	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①還元 ②灰 ③白色粒・黒褐色 ④両端部欠、左側	四面：布目压痕後横位窓ナデ。 端部面取り。 凸面：斜格子叩き後縦位窓ナデ。 側面：窓ナデ。	

## H-51号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 12.0 器高 3.8	①酸化焰 ②にぶい褐 ③赤褐色粒・細砂粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部は器面が荒れ、剥落。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 甕	-	①酸化焰 ②褐 ③角閃石・細砂粒 ④口縁部片	外面：口縁部横ナデ。頸部刷毛目後横ナデ。 内面：口縁～頸部横ナデ。	

Tab. 10 出土遺物観察表 (8)

## H-52号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(9.6) 底径 5.4 高さ 4.1	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・細砂粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径(12.1) 底径 5.4 高さ 3.9	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・細砂粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 壺	口径(12.4) 底径 5.4 高さ 4.0	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・細砂粒 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 壺	口径(12.0)	①酸化焰 ②橙 ③角閃石・赤褐色粒 ④口縁～体部1/4	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
5	土師器 壺	口径 12.0 底径 4.0	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・細砂粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体部～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
6	須恵器 蓋	口径 8.6 高さ 5.3	①還元焰 ②灰 ③チャート・白色石 ④口縁～天井部1/2	外面：輶轆整形。口縁部回転籠ナデ。天井部籠ケズリ。 内面：輶轆整形。口縁部回転籠ナデ。	

## H-53号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 9.6 底径 5.4 高さ 2.6	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・角閃石・チャート ④口縁～底部1/2	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
2	須恵器 壺	底径 5.6	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④体～底部2/3	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
3	須恵器 壺	口径 9.9 底径 4.8 高さ 3.3	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・チャート ④ほぼ完形	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。口縁端部に油煙付着。 内面：輶轆整形。見込み中央は籠状工具により抉られている。口縁端部に油煙付着。	灯明具。
4	灰釉陶器 碗	底径(6.0)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④底部1/3	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	釉漬け掛け。
5	灰釉陶器 碗	底径(6.7)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④底部1/6	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。	
6	灰釉陶器 碗	底径(7.7)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④体～底部1/2	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	釉漬け掛け。
7	灰釉陶器 皿	口径(13.0)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～体部1/8	外面：輶轆整形。 内面：輶轆整形。	
8	瓦 丸瓦	厚さ 1.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④両端部欠、右側	凸面：斜位籠ナデ。凹面：布目压痕。 側面：籠ナデ。	

## H-54号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	—	①酸化焰気味 ②浅黄橙 ③チャート・白色石 ④口辺～体部片	外面：輶轆整形。体部籠ナデ。 内面：輶轆整形。	
2	土師器 壺	口径(12.2)	①酸化焰 ②橙 ③黒色粒・白色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
3	土師器 壺	口径(21.9)	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・チャート・白色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
4	土師器 壺	口径(18.8)	①酸化焰 ②橙 ③石英・赤褐色粒・白色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
5	朝顔形 円筒埴輪	厚さ 1.4	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③黒色鉱物・白色粒・細砂粒 ④肩部片	外面：縦刷毛目。突帯貼付。刷毛本数2cm 11～13本。 内面：斜位刷毛目後ナデ。刷毛本数2cm 9～14本。	

## H-55号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径(15.0) 底径(7.4) 高さ 3.3	①酸化焰気味 ②浅黄 ③黒色粒・チャート ④口縁～底部1/3	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
2	須恵器 壺	口径(15.7) 底径(7.0) 高さ 3.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/3	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
3	須恵器 壺	口径(14.5) 底径(7.8) 高さ 4.1	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/2	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
4	須恵器 壺	口径(15.6) 底径(7.0) 高さ 4.1	①還元焰気味 ②灰黄 ③細砂粒・黒色粒 ④口縁～底部2/3	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。

Tab. 11 出土遺物観察表 (9)

## H-55号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
5	須恵器 碗	底径 12.6	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・赤色粒・黒色粒 ④底部	外面：轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。台部に不明墨書？ 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
6	須恵器 坏	口径 8.9 底径 4.6 器高 2.5	①酸化焰 ②にぶい黄 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～底部 4/5	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
7	瓦 平瓦	厚さ 1.7	①酸化焰気味 ②にぶい黄 ③白色粒・チャート ④両端部欠、左側	凹面：布目压痕。 凸面：繩叩き後横位籠ナデ。 側面：籠ナデ。	

## H-56号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 土釜	—	①酸化焰 ②褐 ③白色粒・赤色粒・黒色鉱物 ④体部片	外面：頸部横ナデ。体部縦位籠ナデ後斜位籠ナデ。 内面：頸部横ナデ。体部斜位籠ナデ。	
2	瓦 丸瓦	厚さ 1.7	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④両端部欠、左側	凸面：縦位籠ナデ。 凹面：布目压痕。 側面：籠ナデ。	

## H-57号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	—	①酸化焰 ②にぶい黄 ③石英・チャート・黒色粒 ④体部片	外面：刷毛目 内面：刷毛ナデ。	

## H-60号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 14.5 底径 7.0 器高 4.7	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～体部 2/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
2	須恵器 碗	口径 13.3 底径 6.5 器高 5.6	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 3/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
3	須恵器 碗	口径 13.3 底径 7.0 器高 5.2	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒・角閃石 ④口縁～底部 3/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
4	須恵器 碗	口径 13.3 底径 7.8 器高 5.5	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 4/5	外面：轆轤整形。底部2度の回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
5	須恵器 碗	口径 15.9	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～底部 2/3、高台剥落	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
6	羽釜	口径 (18.9)	①酸化焰 ②暗灰黄 ③白色粒・チャート ④口縁～体部 1/4	外面：轆轤整形。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
7	羽釜	口径 (15.8)	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～体部下位 1/3	外面：轆轤整形。体部下位縦位籠ナデ。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
8	羽釜	口径 19.3 底径 (7.6) 器高 29.3	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 2/3	外面：轆轤整形。体部下位籠ナデ。底部籠ナデ。鍔貼付。 内面：轆轤整形。	
9	瓦 平瓦	厚さ 2.1	①酸化焰気味 ②にぶい黄 ③白色粒・チャート ④両端部欠、左側	凹面：布目压痕後縦・横位籠ナデ。端部面取り。 凸面：繩叩き後横位籠ナデ。 側面：籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
10	鉄製品	刀子	長さ (11.8) 幅 (1.7) 厚さ 0.4 重さ 217.50 両刃。		
11	鉄製品	鉄鎌	長さ (10.3) 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 15.03		

## H-63号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径 (9.4) 底径 (5.8) 器高 2.0	①酸化焰 ②灰黄褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/6	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
2	須恵器 坏	口径 (9.6) 底径 (5.0) 器高 1.7	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部 1/4	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	

Tab. 12 出土遺物観察表 (10)

## H-63号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	須恵器 壺	口径 9.2 底径 5.4 器高 1.9	①還元焰気味 ②黄灰 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部 3/4	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
4	須恵器 壺	口径 9.8 底径 5.6 器高 2.1	①酸化焰 ②灰褐 ③雲母・チャート・片岩 ④完形	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
5	須恵器 碗	口径 (15.3) 底径 ( 6.9) 器高 6.2	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・赤色粒・チャート・角閃石 ④口縁～底部 1/3	外面：輶轆整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：輶轆整形。	
6	灰釉陶器 碗	底径 ( 6.8)	①堅緻 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部 1/4	外面：輶轆整形。底部ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	釉漬け掛け。
7	灰釉陶器 壺	—	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④肩～体部 1/5	外面：輶轆整形。 内面：輶轆整形。	
8	灰釉陶器 壺	底径 16.0	①堅緻 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④底部 1/2	外面：輶轆整形。底部ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	
9	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④広端部左側	凹面：布目压痕。端部面取り。 凸面：縋叩き。 側面：範ナデ 広端部：範ナデ。	二次焼成痕が認められる。
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
10	鉄製品 紡錘車	長さ 5.4 幅 5.1 厚さ 0.2 重さ 22.74			
11	鉄製品 紡錘車	長さ 6.1 幅 6.0 厚さ 0.2 重さ 22.52			
12	鉄製品 錐？	長さ <4.0> 幅 <2.9> 厚さ 0.2 重さ 6.22			
13	鉄製品 釘？	長さ <5.6> 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 8.83	断面長方形。		

## H-64号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 (15.6)	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/5	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。高台端部は欠損しているものの、磨滅させて再利用しているものと想定される。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
2	須恵器 土釜	口径 (28.2)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～体部上位 1/6	外面：口縁部横ナデ。体部上端横位範ナデ。体部上位縦位範ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位範ナデ。	
3	須恵器 土釜	—	①酸化焰気味 ②にぶい橙 ③白色粒 ④体部下位 1/2	外面：体部縦位範ナデ。体部下端のみ横位範ナデ。 内面：斜位範ナデ。	二次焼成痕が認められる。
4	瓦 平瓦	厚さ 2.3	①酸化焰気味 ②灰黄褐 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④広端部左側	凹面：布目压痕一部縦位範ナデ。 凸面：縋・斜位範ナデ。「武足」の刻書。 側面：範ナデ。 広端部：範ナデ。	

## H-65号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 12.2 器高 ( 4.6)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部 3/4	外面：口縁～底部範ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部範ナデ。	
2	須恵器 壺	口径 (14.1) 器高 ( 4.0)	①還元焰 ②暗灰 ③白色粒・石英 ④口縁～底部 1/8	外面：輶轆整形。自然釉付着。 内面：輶轆整形。	
3	土師器 壺	口径 13.8 器高 3.8	①酸化焰 ②明赤褐 ③細砂粒・白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 3/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部範ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 高壺	底径 (11.9)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③粗砂粒・黒色粒・チャート・角閃石 ④脚部	外面：底～脚部ナデ後粗いミガキ。脚部端部横ナデ。 内面：底部ミガキ。脚部範ケズリ。脚部端部横ナデ。	
5	土師器 高壺	口径 (19.2)	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・赤色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	外面：口縁部横ナデ。体部範ナデ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
6	土師器 高壺	底径 (14.2)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④脚部 1/2	外面：横位範ナデ。 内面：横位範ナデ。	
7	土師器 甌	口径 (14.4) 底径 ( 3.5) 器高 10.0	①酸化焰 ②浅黄 ③白色粒・赤色粒・チャート・黒色鉱物 ④口縁～底部 2/3	外面：口縁～体部範ケズリ後範ナデ。底部範ナデ。 内面：口縁端部横ナデ。口縁～底部範ナデ。	
8	土師器 甌	口径 (16.4)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒・チャート・片岩 ④口縁～体部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部範ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部範ナデ。	
9	土師器 甌	—	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・角閃石 ④口縁～体部下位 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部範ケズリ後範ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部範ナデ。	

## H-67号住居跡①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径 (14.9)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒 ④口縁～体部 1/8	外面：輶轆整形。体部下位に粘土付着。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。

Tab. 13 出土遺物観察表 (11)

## H-67号住居跡②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	須恵器 壺	口径 10.2 底径 5.3 器高 2.8	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・赤色粒・黒色粒 ④口縁～底部 3/4	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
3	須恵器 碗	底径 6.9	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・黒色粒 ④体部下半～底部 2/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。	二次焼成痕が認められる。
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		
4	鉄製品	刀子？	長さ 4.2 厚さ 0.6 重さ 8.15		

## H-69号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 小型鉢	口径 7.2 底径 3.3 器高 5.1	①酸化焰 ②にぶい黄 ③細砂粒・白色粒 ④口縁部一部欠	外面：口縁～底部ナデ。 内面：口縁～底部ナデ。	
2	土師器 小型鉢	口径 10.1 底径 3.4 器高 5.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色鉱物 ④完形	外面：口縁端部に連続する指頭痕。体部刷毛目後ナデ。 内面：口縁～底部箇ナデ。	
3	土師器 壺	口径 15.4 底径 3.3 器高 8.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～底部 3/4	外面：口縁～体部刷毛目後ミガキ。底部ナデ。 内面：口縁端部横ナデ。口縁～底部ミガキ。	
4	土師器 壺	—	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・赤色粒・黒色鉱物・ チャート ④頸部	外面：箇ナデ。 内面：箇ナデ。	
5	土師器 甕	口径 (14.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色鉱物・チャート ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部横ナデ。肩部刷毛目後箇ナデ。体部箇ケズリ後箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
6	土師器 台付甕	口径 11.1	①酸化焰 ②にぶい褐 ③赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部下半 3/4	外面：口縁部横ナデ。体部刷毛目後一部指頭痕。 内面：口縁部横ナデ後爪状の列点を横位に巡らせる。体部箇ナデ。	
7	土師器 甕	口径 (16.0)	①酸化焰 ②暗灰黄 ③赤色粒・黒色粒・チャート ④口縁～肩部 1/3	外面：口縁部横ナデ。肩部縦位刷毛目後一部横位刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。肩部箇ナデ。	
8	土師器 甕	口径 (14.7)	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・赤色粒・黒色粒・ チャート ④口縁～肩部 1/3	外面：口縁部横ナデ。肩部斜位刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。肩部箇ナデ。	
9	土師器 甕	口径 (15.6)	①酸化焰 ②灰黄褐 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～体部下半 1/4	外面：口縁部横ナデ。肩部上位斜位刷毛目後横位箇ナデ。肩～体部斜位刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。肩～体部箇ナデ。	
10	土師器 台付甕	口径 15.8 底径 9.8 器高 28.5	①酸化焰 ②明黄褐 ③黒色鉱物・チャート・片岩 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。肩～体部箇ケズリ後斜位刷毛目。台部上位 ナデ後刷毛目。台部下位ナデ。 内面：口縁部横ナデ。肩～底部箇ナデ。台部箇ナデ。	

## H-73号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	底径 8.8 器高 <4.1>	①酸化焰ぎみ ②にぶい赤褐 ③白色粒・赤色粒・角閃石 ④高台 2/3	外面：轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：轆轤整形。	
2	土師器 土釜	口径 (31.0) 器高 <27.4>	①酸化焰ぎみ ②にぶい赤褐 ③白色粒・赤色粒・チャート・ 角閃石 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部下半縦位箇ケズリ後上半斜位箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。指頭圧痕。体部横位・斜位・縦位箇ナデ。	カマド内で使 用か。
3	瓦 丸瓦	厚さ 2.2	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒・チャート ④側部	凸面：縦位箇ナデ。凹面：布目圧痕後、一部指ナデ。 側部：箇ケズリ。	
4	瓦 丸瓦	厚さ 1.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・透明粒・チャート ④側部	凸面：繩叩き。凹面：布目圧痕。 側部：箇ケズリ。	

## H-79号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径 (12.2)	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
2	土師器 壺	口径 (12.0)	①酸化焰 ②橙 ③石英・赤褐色粒・白色粒 ④口縁～体部片	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	

Tab. 14 出土遺物観察表 (12)

## H-81号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径(12.6) 底径(4.6) 器高 4.1	①還元焰気味 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/5	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
2	須恵器 壺	口径(14.0) 底径(6.8) 器高 3.4	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 1/3	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。 内面：輶轆整形。	
3	須恵器 碗	底径(6.5)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・ チャート・雲母 ④体部～底部 1/3	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	
4	須恵器 碗	底径 6.4	①酸化焰気味 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒 ④体部下位～底部	外面：輶轆整形。底部回転糸切り後回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	二次焼成痕が認められる。
5	土師器 壺	口径(18.8)	①酸化焰 ②褐 ③白色粒・ 黒色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁横ナデ。体部上位横位籠ケズリ。体部中～下位縦位籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
6	瓦 丸瓦	厚さ 2.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ 黒色粒 ④狭端部	凸面：横位ナデ。 凹面：布目压痕・糸切り痕。端部面取り。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
7	瓦 平瓦	厚さ 2.2	①還元焰 ②灰 ③白色粒・ チャート ④広端部左側	凹面：布目压痕。端部面取り。 凸面：縦・横斜位籠ナデ。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	二次焼成痕が認められる。
8	瓦 平瓦	厚さ	①還元焰 ②暗灰 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④広端部	凹面：布目压痕。端部面取り。 凸面：縦位籠ナデ。端部面取り。 側面：籠ナデ。 広端部：籠ナデ。	

## H-82号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 9.9 底径 6.1 器高 3.1	①還元焰 ②灰白 ③細砂粒・ チャート・角閃石 ④完形	外面：輶轆整形。底部静止糸切り。 内面：輶轆整形。	

## H-83号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径(12.2)	①還元焰 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～体部片	外面：輶轆整形。不明墨書。 内面：輶轆整形。	
2	須恵器 碗	口径(13.9) 底径(7.0) 器高 5.0	①酸化焰気味 ②にぶい黄褐 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 1/8	外面：輶轆整形。底部回転糸切り後高台貼付。製作段階で、底部の器厚が薄かったため、高台貼付時に底部に粘土を追加。 内面：輶轆整形。	
3	土師器 壺	口径(19.3)	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。体部横位籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部籠ナデ。	
4	土師器 壺	口径(13.2)	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～体部上位 1/2	外面：口縁部横ナデ。体部横位籠ケズリ後縦位籠ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位籠ナデ。	
5	須恵器 壺	口径(12.7)	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～体部 1/8	外面：輶轆成形。口縁横ナデ。体部上位横位籠ナデ。体部中～下位横・斜位籠ケズリ。 内面：輶轆整形。	
6	羽釜	口径(18.0)	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・チャート・ 雲母 ④口縁～体部上位 1/8	外面：輶轆整形。鍔貼付。 内面：輶轆整形。	
7	瓦 丸瓦	厚さ 2.3	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・ チャート ④狭端部右側	凸面：縦・斜位籠ナデ。 凹面：布目压痕後一部ナデ。 側面：籠ナデ。 狹端部：籠ナデ。	

## H-84号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(11.8) 器高 4.2	①酸化焰 ②橙 ③赤褐色粒・白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部籠ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ後、一部籠ナデ。底部ナデ。	
2	須恵器 蓋	口径(11.8)	①還元焰 ②黒褐 ③白色粒 ④口縁～体部片	外面：輶轆整形。灰かぶり。 内面：輶轆整形。	外面に鉄分が付着。

## H-85号住居跡

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品 鉄鎌	全長 13.5 鎌身長 6.7 幅 2.8 厚さ 0.5 重さ 21.77	

Tab. 15 出土遺物観察表 (13)

## H-87号居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器台付甕	底径(8.8)	①酸化焰 ②浅黄 ③細砂粒・黑色粒・チャート ④脚部片	外面:ナデ。内面:横ナデ。	
2	土師器壺	-	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・黑色鉱物・チャート・雲母 ④脚部片	外面:箇ナデ。円形の孔。内面:刷毛目。	

## W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	軟質陶器甕	口径(20.4)	①普通 ②褐灰 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～体部上位片	外面:轆轤整形。内面:口縁部横ナデ。体部横位箇ナデ。	
2	陶器大甕	口径(26.2)	①堅緘 ②灰褐 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～体部上位片	外面:轆轤整形。内面:轆轤整形。	常滑。
3	軟質陶器鉢	口径(29.3)	①普通 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位片	外面:轆轤整形。体部斜位ナデ。内面:口縁部横ナデ。体部横位箇ナデ。	
4	陶器鉢	口径(27.4)	①堅緘 ②淡黄 ③白色粒 ④口縁部片	外面:轆轤整形。全面に鉄釉。内面:轆轤整形。全面に鉄釉。	
5	軟質陶器内耳鍋	口径(233.2)	①普通 ②灰黄 ③白色粒・チャート ④口縁部片	外面:轆轤整形。内面:轆轤整形。	
6	軟質陶器鉢	底径(12.0)	①普通 ②灰黄褐 ③白色粒・チャート ④体部下位～底部1/4	外面:体部下位斜位箇ナデ。体部下端横位箇ナデ。底部糸切り。内面:体部下位横位箇ナデ。	
番号	器種		法量(cm)、成・整形技法の特徴		備考
7	銅製品	古錢	直径2.4 孔幅0.7 厚さ0.1 重さ2.75 開元通宝。唐621年。		

## W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器鉢?	底径(15.2)	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④体部下位～底部1/8	外面:体部縦位箇(木口状工具)ナデ(ミガキ)。体部下端横位箇(木口状工具)ナデ(ミガキ)。内面:横位箇(木口状工具)ナデ(ミガキ)後黒色処理。	

## W-9・11号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器碗	底径(8.6)	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート・角閃石 ④体部下位～底部2/3	外面:轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。内面:轆轤整形。	
番号	器種		法量(cm)、成・整形技法の特徴		備考
2	石製品	臼玉	長さ1.7 幅1.7 厚さ0.8 重さ0.25 滑石製。一部欠損。削り・研磨による成形。		

## W-15号溝①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	弥生土器甕	-	①普通 ②橙 ③白色粒・チャート・片岩 ④体部片	外面:体部上位単節L R繩文施文後簾状文。体部下位箇ナデ。内面:ナデ。	後期。
2	土師器壺	口径11.5 器高3.8	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～底部4/5	外面:口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。内面:口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器蓋	口径(13.1) 器高4.9	①還元焰 ②灰 ③細砂粒・白色粒・チャート ④口縁～天井部1/3	外面:轆轤整形。天井部回転箇ケズリ。内面:轆轤整形。	
4	弥生～土師器甕	口径(16.4)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③黒色鉱物・チャート ④口縁部片	外面:折返し口縁。口縁部に連続する指頭痕。頸部斜位箇ナデ。内面:刷毛状工具によるナデ。	
5	埴輪円筒埴輪	厚さ2.2	①酸化焰 ②明赤褐 ③チャート・角閃石 ④体部片	外面:縦刷毛目。突帯端部横位ナデ。刷毛本数2cm 11本。内面:斜位刷毛目後一部ナデ。刷毛本数2cm 12本。	
6	須恵器壺	口径(10.2) 底径(5.4) 器高1.6	①還元焰 ②灰 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～底部1/6	外面:轆轤整形。底部回転糸切り。一部口縁端部に銅と推測される溶解物が付着。内面:轆轤整形。残存部分に限り、全体的に銅と推測される溶解物が付着。	取瓶として利用されたものと推測される。
7	須恵器碗	口径(15.2) 底径(9.0) 器高5.5	①酸化焰 ②明褐 ③白色粒・チャート・片岩 ④口縁～底部1/5	外面:轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付。内面:轆轤整形。	
8	灰釉陶器碗	底径(7.7)	①堅緘 ②灰白 ③白色粒 ④体部下位～底部2/3	外面:轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。内面:轆轤整形。見込み部重ね焼き痕。	
9	須恵器長頸壺	-	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒・チャート ④頸部2/3、口縁部欠	外面:轆轤整形。自然釉。内面:轆轤整形。頸部のみ自然釉。	

Tab. 16 出土遺物観察表 (14)

## W-15号溝②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
10	羽釜	口径(22.6)	①還元焰気味 ②灰 ③細砂粒・チャート・黒色鉱物 ④口縁～体部上位1/4	外面：輶轆整形。鍔貼付。 内面：輶轆整形。	

## W-17号溝①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径(11.4) 器高 4.2	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
2	土師器 壺	口径 13.2 器高 4.3	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	土師器 壺	口径(12.8) 器高 4.5	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～底部1/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。底部箇ケズリ後丸棒状工具による「井」の字を線刻。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
4	土師器 壺	口径 12.1 器高 3.9	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・角閃石 ④口縁～底部4/5	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
5	土師器 壺	口径 11.6 器高 4.1	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～底部5/6	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
6	土師器 壺	口径(12.0) 器高 3.8	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
7	土師器 壺	口径 11.6 器高 4.5	①酸化焰 ②橙 ③赤色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
8	土師器 壺	口径(12.4) 器高 4.6	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部横ナデ。体部上位箇ナデ。体部中位～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
9	土師器 鉢	口径(16.8) 底径 4.4 器高 5.5	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③白色粒・赤色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部2/3	外面：口縁部横ナデ。体～底部ミガキ。 内面：口縁～底部ミガキ。	
10	土師器 壺	口径(14.5) 器高( 5.2)	①酸化焰 ②にぶい黄 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
11	土師器 鉢	口径 18.7 器高 7.5	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・白色粒・黒色鉱物 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体～底部箇ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。体部下位～底部ナデ。	
12	弥生土器～土師器 甕	口径(16.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③粗砂粒・赤色粒・黒色鉱物・チャート ④口縁部1/2	外面：口縁部を輪積みにより段状に成形。口縁部横ナデ。 内面：横ナデ後ミガキ。	
13	土師器 甕	口径(15.5)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～肩部1/4	外面：口縁部横ナデ。肩部斜位刷毛目後一部横位刷毛目。 内面：口縁部横ナデ。肩部箇ナデ。	
14	土師器 甕	口径(17.3)	①酸化焰 ②にぶい黄 ③粗砂粒・石英・チャート ④口縁～体部中位1/4	外面：口縁～体部上端刷毛目後横ナデ。体部上位刷毛目。体部中位箇ナデ。 内面：口縁部刷毛目後箇ナデ。体部箇ナデ。	
15	土師器 壺	—	①酸化焰 ②橙 ③粗砂粒・白色粒・チャート ④体部1/3	外面：刷毛目後ミガキ。 内面：箇ナデ。	
16	土師器 甕	口径(22.2)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・石英・片岩 ④口縁～体部下位2/3	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ。体部中位に先端三角形の工具による連続する刺突。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
17	土師器 鉢	口径(15.1)	①酸化焰 ②暗灰黄 ③細砂粒・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部1/8	外面：口縁部横ナデ。体部箇ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部箇ナデ。	
18	土師器 甕	底径( 9.4)	①酸化焰 ②浅黄 ③細砂粒・黒色鉱物 ④体部下半～底部1/4	外面：体部～底部箇ナデ。底部の孔は円形状を呈する。 内面：体部～底部箇ナデ	
19	須恵器 碗	口径(14.2) 底径 7.7 器高 5.1	①酸化焰気味 ②暗灰黄 ③細砂粒・黒色鉱物・雲母 ④口縁～底部1/3	外面：輶轆整形。底部右回転糸切り。高台貼付。 内面：輶轆整形。	
20	須恵器 ハソウ	口径(14.0)	①還元焰 ②灰白 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～頸部1/3	外面：輶轆整形。 内面：輶轆整形。自然釉付着。	
21	須恵器 高盤？	口径(25.5) 底径(23.2) 器高( 3.0)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部1/8	外面：輶轆整形。底部箇ケズリ。 内面：輶轆整形。自然釉付着。	
22	須恵器 長頸壺	—	①還元焰 ②灰 ③白色粒・透明粒 ④頸部	外面：輶轆成形。横位箇ナデ後波状文・丸棒状工具による2条の横位沈線。 内面：輶轆成形。横位箇ナデ。	
23	須恵器 提瓶	口径 8.0	①勧化年 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位	外面：口縁部輶轆成形後横ナデ後波状文。体部搔き目後ナデ後波状文。 内面：口縁～体部上端ナデ。体部上位当具痕。	

Tab. 17 出土遺物観察表 (15)

## W- 17号溝②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
24	須恵器 提瓶	口径 9.5 器高 27.1	①還元焰 ②灰白 ③細砂粒・白色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部輶轆整形後中位に丸棒状工具による1条の横位沈線。体～底部輶轆成形後カキ目調整。体部上位に自然釉顯著。 内面：口縁～底部輶轆整形。正面閉塞後閉塞部に指頭痕。口縁部に自然釉顯著。	
25	須恵器 甕	口径 19.2	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④口縁～肩部 3/4	外面：口縁～頸部横ナデ後口縁端部に波状文。肩部範ナデ。 内面：口縁～頸部横ナデ。肩部当具痕後範ナデ。	
26	須恵器 甕	口径 (23.1)	①還元焰 ②灰オリーブ ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部下半 2/3	外面：口縁部横ナデ後波状文。体部格子目叩き。 内面：口縁部横ナデ。体部青海波の当具痕。	
27	須恵器 甕	口径 (46.3)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・チャート ④口縁部 1/6	外面：口縁部横ナデ後丸棒状工具による2本1組の横位沈線を多段に施文。多段の横位沈線間に波状文。 内面：口縁部横ナデ。自然釉付着。	
28	須恵器 甕	口径 (45.8)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④口縁部 1/7	外面：口縁部横ナデ後丸棒状工具による1～3本1組の横位沈線を多段に施文。多段の横位沈線間に波状文。自然釉付着。 内面：口縁部横ナデ。	
29	須恵器 甕	口径 (42.1)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④口縁部 1/3	外面：口唇部波状文。口縁部刷毛状工具の条線を縦位施文後一部縦方向の範ナデ後丸棒状工具による2本1組の横位沈線を多段に施文・口縁端部横ナデ。 内面：横ナデ。自然釉付着。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
31	石製品 砥石	長さ 16.0 幅 15.8 厚さ 12.9 重さ 1,598.1	角閃石安山岩製。砥ぎ面にはやや深い「V」字状の線刻が顯著。6面使用。部分的に新しい欠損(ガジリ)あり。		

## W- 23号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 黒色処理 碗	口径 (11.8) 底径 5.7 器高 3.4	①酸化焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④口縁～底部 1/2	外面：口縁部横位ミガキ。体部輶轆整形。高台貼付。 内面：ミガキ後黒色処理。	
2	須恵器 土釜	口径 (29.0)	①酸化焰 ②黄褐 ③白色粒・透明粒 ④口縁～体部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。体部縦位範ナデ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位範ナデ。	

## W- 27号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	底径 ( 8.4 )	①酸化焰気味 ②浅黄 ③白色粒・チャート・角閃石 ④体部下位～底部 1/7	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	

## D- 15号土坑

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品 杏葉轡	一部に木質が付着。重さ：左 257.7g 右 255.0g 計 512.7g 鏡板：逆ハート形。図左 縦 7.9 cm × 横 8.7 cm、図右 8.0 cm × 8.5 cm。鏡板全体に捩りが施される。立耳から鏡板まで1本の棒で鍛造される。轡との連結する部分は開いた「V」字状を呈し、2本を1本に接合する筋が確認できる。 立耳：図左 長さ 6.0 cm、図右 長さ 6.3 cm。棒状部は板状で、2本を1本に接合している筋が確認できる。立耳壺は隅丸長方形－図左 2.0 cm × 3.2 cm、図右 1.8 cm × 3.5 cm。 衡：2連の蕨手衡。長さ 18.8 cm。断面形は方形。左側一部欠損。 引手：図左 長さ 14.8 cm、図右 現存長（引手壺がずれている）15.5 cm。棒状部は板状で、引手壺は半円形－図左 縦 2.5 cm × 横 3.0 cm、図右 縦 2.0 cm × 2.3 cm 連結法：衡先環を鏡板の「V」字状部下側で連結し、衡先環には遊環（図左 3.0 cm × 3.3 cm、図右 2.9 cm × 2.9 cm）を連結して、さらに遊環に引手を連結する。（江田船山型）		
2	鉄製品 紡錘車	軸：長さ (12.1) 幅 0.6 厚さ 0.5 紡輪：長さ 3.8 幅 3.8 厚さ 0.3	総重量 21.2	

## D- 22号土坑

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
1	土師器 甕	口径 (13.6)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・黒色鉱物 ④口縁～体部 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部縦位範ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位範ナデ。	二次焼成痕が認められる。

## D- 24号土坑①

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
1	瓦 平瓦	厚さ 2.4	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④両端部欠、右側	凹面：布目圧痕後一部ナデ。端部面取り。 凸面：格子叩き後一部ナデ。端部面取り。 側面：範ナデ。	

Tab. 18 出土遺物観察表 (16)

## D-24号土坑②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①酸化焰気味 ②暗灰黄 ③白色粒・チャート ④両端部欠	凹面：布目压痕。 凸面：箇ナデ後多方向のナデ。	

## D-25号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径(10.9)	①還元焰気味 ②灰黄 ③白色粒・チャート ④口縁部片	外面：輶轆整形。 内面：輶轆整形。	
番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考		
2	土製品 羽口	厚さ 2.9 重さ 148.32	外面：ナデ。胎土に纖維混入。	D-25 土 3 と同一個体。	
3	土製品 羽口	厚さ 2.9 重さ 121.39	外面：ナデ。胎土に纖維混入。	D-25 土 2 と同一個体。	
4	石製品 紡錘車	長さ 4.6 幅 4.4 厚さ 1.6 重さ 49.87	蛇紋岩製。全体に欠損が多いが、欠損後の磨滅が顕著。 上・下面の中心部に削痕や溝状の磨耗痕。		

## D-28号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 碗	口径(10.7) 底径 5.8 器高 4.5	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 2/3	外面：輶轆整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：輶轆整形。	

## D-30号土坑

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品 鉄鎌？	長さ〈5.0〉 幅 0.8 厚さ 0.7 重さ 10.67	

## T-5号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 2.1	①還元焰気味 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート ④両端部欠、左側	凹面：布目压痕後端部縦位箇ナデ。 凸面：繩叩き後縦位箇ナデ。 側面：箇ナデ。	二次焼成痕が認められる。

## 遺構外出土遺物①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	-	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒・チャート・黒色鉱物 ④体部片	横位浮線文貼付後単節R L 縄文を横位に施文。	諸磯b式
2	縄文土器 深鉢	-	①良好 ②にぶい褐 ③チャート・片岩 ④口縁部片	波状口縁と想定される。口縁部文様帶に横位・弧状の結節浮線文が施される。	諸磯c式
3	縄文土器 深鉢	-	①良好 ②明褐 ③白色粒・チャート・黒色鉱物 ④体部片	体部文様帶にO段多条R L 縄文を縦位に施文後丸棒状工具による2本1組の縦位沈線・縦位蛇行沈線が施される。2本1組の沈線間には磨消縄文。	加曾利E III式
4	縄文土器 深鉢	-	①普通 ②橙 ③白色粒・黒色鉱物 ④体部片	体部文様帶に単節L R 縄文を縦位に施文後丸棒状工具による2本1組の弧状沈線が施される。2本1組の沈線間には磨消縄文。	加曾利E IV式
5	縄文土器 注口土器	-	①良好 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート ④体部片	体部文様帶に単節L R 縄文を横位に施文後丸棒状工具による横位・斜位沈線が施される。斜位沈線間には孔が穿たれる。	加曾利B 2式
6	縄文土器 鉢	-	①普通 ②にぶい黄橙 ③石英・チャート ④体部片	体部文様帶を丸棒状工具による横位沈線で区画。上位区画無文。下位区画には単節L R 縄文施文後丸棒状工具による2本1組の斜位沈線が施される。	加曾利B 2式
7	縄文土器 土製円盤	長径 3.0 短径 2.9 厚さ 0.7	①普通 ②灰黄 ③細砂粒・チャート ④完形	斜位条線が施される。	中期後半?
8	縄文～ 弥生土器 鉢	-	①良好 ②にぶい黄褐 ③白色粒・チャート ④体部下位片	外面：条痕文。 内面：横位箇ナデ。	縄文時代晚期末～弥生時代前期
9	弥生土器 壺	-	①普通 ②橙 ③細砂粒・黒色粒・雲母 ④口縁～頸部片	外面：口縁部櫛歯状工具による波状文。頸部縦・斜位刷毛目。口縁部と頸部間には横位箇ナデ。 内面：口縁部横ナデ。頸部横位刷毛目後一部箇ナデ。	後期
10	弥生土器 壺	-	①普通 ②にぶい黄橙 ③黒色鉱物・チャート ④肩部片	外面：箇状工具による山形文施文後箇状工具による多条の横線文。 横線文の最上位のみ丸棒状工具による施文。山形文内には無文。 内面：器面荒れる。	中期?

Tab. 19 出土遺物観察表 (17)

## 遺構外出土遺物②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
11	弥生土器壺	口径 8.3 底径 4.7 器高 10.6	①良好 ②橙、赤彩：赤 ③細砂粒・チャート ④完形	外面：口唇部に角棒状工具による連続する刻み。口縁～頸部横ナデ。体部箆ナデ後ミガキ。赤彩す。底部箆ナデ。 内面：口縁～頸部横位ミガキ・赤彩。体～底部箆ナデ。	後期。
12	弥生土器壺	—	①良好 ②暗灰黄 ③白色粒・黒色鉱物・片岩 ④頸～肩部片	外面：頸部横位箆ナデ。肩部単節L R繩文を横位施文後一部ナデ。 内面：横位箆ナデ。	後期。 吉ヶ谷式。
13	土師器壺	口径 (15.4)	①酸化焰 ②明赤褐 ③細砂粒・黒色粒・チャート ④口縁～頸部1/5	外面：折返し口縁。口縁部に連続する指頭痕。頸部縦位刷毛目。 内面：ミガキ後横位箆ナデ。	
14	土師器壺	—	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート ④口縁部片	外面：折返し口縁。口縁頂部より棒状工具による縦位沈線を連続して施す。口縁下端部横位ミガキ。 内面：横位ミガキ。	
15	土師器壺	—	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・透明粒 ④口縁部片	外面：縦位刷毛目。 内面：横位刷毛目。	有段口縁壺。
16	土師器直口壺	口径 (14.1)	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・白色粒・黒色粒 ④口縁～体部1/4	外面：口縁部横位箆ナデ後縦位ミガキ。肩部横位箆ナデ後斜位ミガキ。体部横位箆ケズリ。 内面：口縁部横・斜位箆ナデ後斜位ミガキ。肩～体部横・斜位箆ナデ。	
17	土師器壠	底径 3.2	①酸化焰 ②にぶい器橙 ③黒色鉱物・チャート ④口縁下端～底部	外面：口縁部斜位刷毛目。体部斜位ミガキ。底部ミガキ。 内面：口縁～底部ミガキ。	
18	土師器壠	口径 12.3	①酸化焰 ②にぶい赤褐 ③白色粒・赤色粒 ④口縁～体部1/8	外面：口縁部横ナデ。体部箆ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横ナデ後斜位ミガキ。	
19	須恵器高壠？	—	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④脚部片？	外面：轆轤整形。円形の透孔及び方形ないし三角形状の透孔が穿たれる。 内面：円形透孔付近のみナデ。その他は剥落。	
20	須恵器短頸壺	口径 (13.2)	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④口縁～体部1/6	外面：轆轤整形。体部上位に簾状文。肩部に自然釉。 内面：轆轤整形。体部に横位箆ナデ。	
21	須恵器蓋	口径 (10.0) 器高 1.9	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～天井部1/4	外面：宝珠摘み。天井部右回転箆ケズリ。口縁部回転横ナデ。 内面：轆轤整形。返り貼付。	
22	埴輪円筒埴輪	厚さ 1.3	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・チャート・角閃石 ④体部片	外面：縦刷毛目。突帯端部横位ナデ。刷毛本数2cm 11～13本。 内面：斜位刷毛目後一部ナデ。刷毛本数2cm 7～11本。	
23	土師器壠	口径 (12.0)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・チャート ④口縁～底部1/4	外面：口縁部横ナデ。体～底部箆ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
24	土師器壠	口径 (11.8) 器高 (3.8)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・チャート ④口縁～底部1/5	外面：口縁部横ナデ。体～底部箆ケズリ。 内面：口縁～底部横ナデ。	
25	須恵器壠	口径 (14.7)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部片	外面：轆轤整形。墨書「十六」。 内面：轆轤整形。	
26	須恵器黒色處理碗	底径 8.6	①還元焰気味 ②浅黄 ③細砂粒・黒色粒・チャート ④体部下位～底部	外面：轆轤整形。底部回転ナデ。高台貼付。 内面：ミガキ後黒色處理。	
27	須恵器甕	底径 (7.8)	①酸化焰気味 ②明黄褐 ③白色粒・チャート ④体部下位～手負い部1/4	外面：体部斜位箆ナデ。底部ナデ・箆状工具による「×」線刻。 内面：轆轤整形。	
28	須恵器壠	口径 8.3 底径 4.8 器高 2.3	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・チャート・雲母 ④口縁～底部1/2	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
29	須恵器壠	口径 9.0 底径 5.2 器高 1.7	①酸化焰 ②明赤褐 ③黒色粒・赤色粒・チャート・片岩 ④口縁～底部3/4	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
30	須恵器壠	口径 8.8 底径 4.4 器高 2.2	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
31	須恵器壠	口径 8.3 底径 4.1 器高 2.1	①酸化焰 ②橙 ③細砂粒・黒色粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
32	灰釉陶器碗	口径 (13.6) 底径 7.6 器高 4.2	①堅緻 ②黄灰 ③白色粒 ④口縁～底部1/6	外面：轆轤整形。底部回転箆切り。高台貼付。 内面：轆轤整形。重ね焼き痕。	
33	綠釉陶器碗	口径 (12.0)	①堅緻 ②にぶい褐 ③細砂粒 ④口縁～体部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	
34	綠釉陶器長頸壺	—	①堅緻 ②黄灰 ③細砂粒・白色粒 ④頸部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	
35	陶器壺	—	①堅緻 ②灰白 ③白色粒・黒色粒(灰釉陶器に胎土似) ④肩部片	外面：灰釉。陰刻による唐草文。貫入。 内面：轆轤整形。	古瀬戸。
36	瓦軒丸瓦	厚さ 2.4	①還元焰 ②灰 ③白色粒・チャート ④	单弁5葉蓮華文と想定される。外区重圈文。内面布目压痕。	笠懸。

Tab. 20 出土遺物観察表（18）

## 遺構外出土遺物③

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
37	瓦 平瓦	厚さ 2.7	①酸化焰気味 ②明褐 ③細砂粒・チャート ④両端部欠、左側	凹面：布目压痕・糸切り痕後一部ナデ。端部面取り。 凸面：縦位箇ナデ。「當」の刻印。 側面：箇ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
38	鉄製品	釘	長さ〈6.2〉 幅1.4 厚さ1.1 重さ38.33	角釘。	
39	石器	打製石斧	長さ〈10.1〉 幅5.4 厚さ1.9 重さ119.3	安山岩。短冊形。基部欠損。礫皮を持つ剥片を素材とし、周縁に直接打撃を施す。両面調整。全体に磨耗が認められ、刃部周辺が顕著。刃部周辺はリダクションしている。	
40	石器	打製石斧	長さ〈10.4〉 幅6.7 厚さ3.3 重さ258.7	ホルンフェルス製。撥形。刃部欠損。礫皮を持つ剥片を素材とし、周縁に直接打撃を施す。半両面調整。磨耗はほとんど認められない。	
41	石器	打製石斧	長さ(8.0) 幅4.8 厚さ1.4 重さ55.8	頁岩製。撥形。基部欠損。礫皮を持つ剥片を素材とし、周縁に直接打撃を施す。被熱により部分的に熱破碎が認められる。刃部周辺に磨耗が認められる。	
42	石器	打製石斧	長さ〈8.15〉 幅3.4 厚さ1.0 重さ35.8	安山岩製。短冊形。刃部欠損。礫皮を持つ薄型剥片を素材とし、周縁に直接打撃を施す。両面調整。磨耗はほとんど認められない。	
43	石器	石鏸	長さ〈1.9〉 幅〈1.6〉 厚さ0.5 重さ0.81	チャート製。凹基無茎。形足部欠損。	
44	石器	石鏸	長さ〈3.1〉 幅2.0 厚さ0.4 重さ1.42	頁岩製。凹基無茎。先端部欠損。	
45	石製品	不明品	長さ6.7 幅3.0 厚さ2.7 重さ27.5	角閃石安山岩。砥ぎ面と考えられる磨耗範囲が18面認められる。上部は角錐状にやや尖る。擦痕は認められない。	
46	石製品	砥石	長さ6.1 幅6.1 厚さ2.7 重さ62.6	角閃石安山岩製。不整円形に調整加工を施し、表・裏面に研磨痕・線刻が認められる。	
47	石製品	砥石	長さ〈5.9〉 幅3.9 厚さ3.5 重さ113.0	流紋岩製。上部欠損（下端部は新しい欠損）。砥ぎ面は8面使用。各砥ぎ面には、縦・横・斜位の線刻が認められる。	
48	石器	リタッヂドフレイク	長さ4.5 幅7.9 厚さ1.3 重さ54.2	頁岩。礫皮を持つ横長剥片を素材とし、両側縁部に直接打撃（片面加工）を施す。	
49	石器	スクレイパー	長さ8.5 幅10.1 厚さ2.5 重さ268.2	黒色安山岩製。剥片を素材とし、一側縁に小型剥離を施す。刃部周辺には磨耗痕が認められる（両面調整）。刃部にはリダクションが認められる。	
50	石器	敲石（磨）	長さ13.2 幅5.4 厚さ3.0 重さ300.0	砂岩製。楕円形の扁平礫を素材とし、敲打痕・磨耗痕が認められる。敲打痕は上・下端部・両側面部に集中する。磨耗痕は左側面部を除き認められる。磨耗範囲内には、縦・斜位の擦痕あり。裏面の磨耗範囲には黒い変色が認められる。	
51	石製品	砥石	長さ19.3 幅7.5 厚さ5.4 重さ1,200.0	閃綠岩製。長楕円形の層を素材とし、表・裏面の2箇所は顕著な磨耗により平滑。磨耗範囲は茶褐色に変色している（鉄分の沈着か？）。	
52	石器	磨石	長11.6さ 幅12.6 厚さ3.6 重さ892.0	安山岩製。円形の扁平礫を素材とし、表・裏面が磨耗により平滑。表面～右側面は黒色に変色している。	

## VI まとめ

本遺跡の調査では、堅穴住居跡・溝・土坑・ピット・堅穴状遺構など様々な遺構を確認することができた。このうち、堅穴住居跡の検出は47軒と突出している。また、隣接する元総社蒼海遺跡群（27）は、本遺跡の調査と並行して行われており、本遺跡の状況と同様となっている。ここでは、本遺跡で検出された堅穴住居跡に加え、元総社蒼海遺跡群（27）で調査した51軒の堅穴住居跡を概観し、本遺跡を中心とした各時期ごとの土地利用について考察を加えたいと思う。

## 1 弥生時代後期～古墳時代前期 (Fig. 82・83)

弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡は8軒確認されており、このうち1軒のみが弥生時代後期に帰属するものである。

今回の調査では、古くは縄文時代前期からの遺物が出土しているものの、遺構として捉えられる最古の時期は、弥生時代後期である。なお、周辺の遺跡を概観すると、縄文時代前期後半から弥生時代後期に至るまでの遺構は確認されているものの、いずれも単発的で連続性に欠けるものと言えよう。このため、本格的に本遺跡周辺で集落が形成され始めるのは弥生時代後期以降と考えられ、これを示すように、本遺跡の北に位置する元総社北川遺跡では古墳時代前期に大規模な水田・畠などの開発が行われている。

当該期における住居跡の様相は、大きく二分することができ、弥生時代の系統を踏襲する遺物を持つ住居跡、もう一方は古墳時代の様相と言える東海系（S字甕）を主体とした遺物を持つ住居跡に分けられる。なお、H-

48号住居跡は、弥生時代後期の住居跡で、H-24号住居跡が古墳時代前期になってからも弥生時代の様相を色濃く残す住居跡と言えるものである。一見、他系統の共存は考えにくいものであるが、弥生時代の系統を引く人々とS字甕を持つ所謂、新興的な人々は、いずれも古墳時代前期前半に帰属するもので、ほぼ同時期に生活を共にしていたものと想定される。

本遺跡内における弥生時代後期から古墳時代前期の土地利用に関しては、集落として利用されていたほか、畠も作られていた可能性が指摘される。本遺跡で確認された遺構のほとんどには、時期を問わずA s-Cが埋没土中に含まれ、これから推測すると、本遺跡地には相当量のA s-C軽石が降り注いだものと推測される。しかしながら、遺構の有無に関わらず、本遺跡内においてA s-Cの一次堆積層は確認されていない。これは、A s-C降下以降に度重なる耕作が行われていたことを示すものであり、弥生時代後期および古墳時代前期においても例外なく行われていたようである。ここで、調査により認められた弥生時代後期から古墳時代前期の住居埋没について考えてみたい。

弥生時代後期から古墳時代前期の埋没状態は概ね2種類あり、畠を耕作した土地に住居を構築するものと、まったく耕作を受けていない土地に住居構築するものが確認されている。なお、先述した通り弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡は8軒確認されているが、耕作が行われていない土地に住居を構築する例は

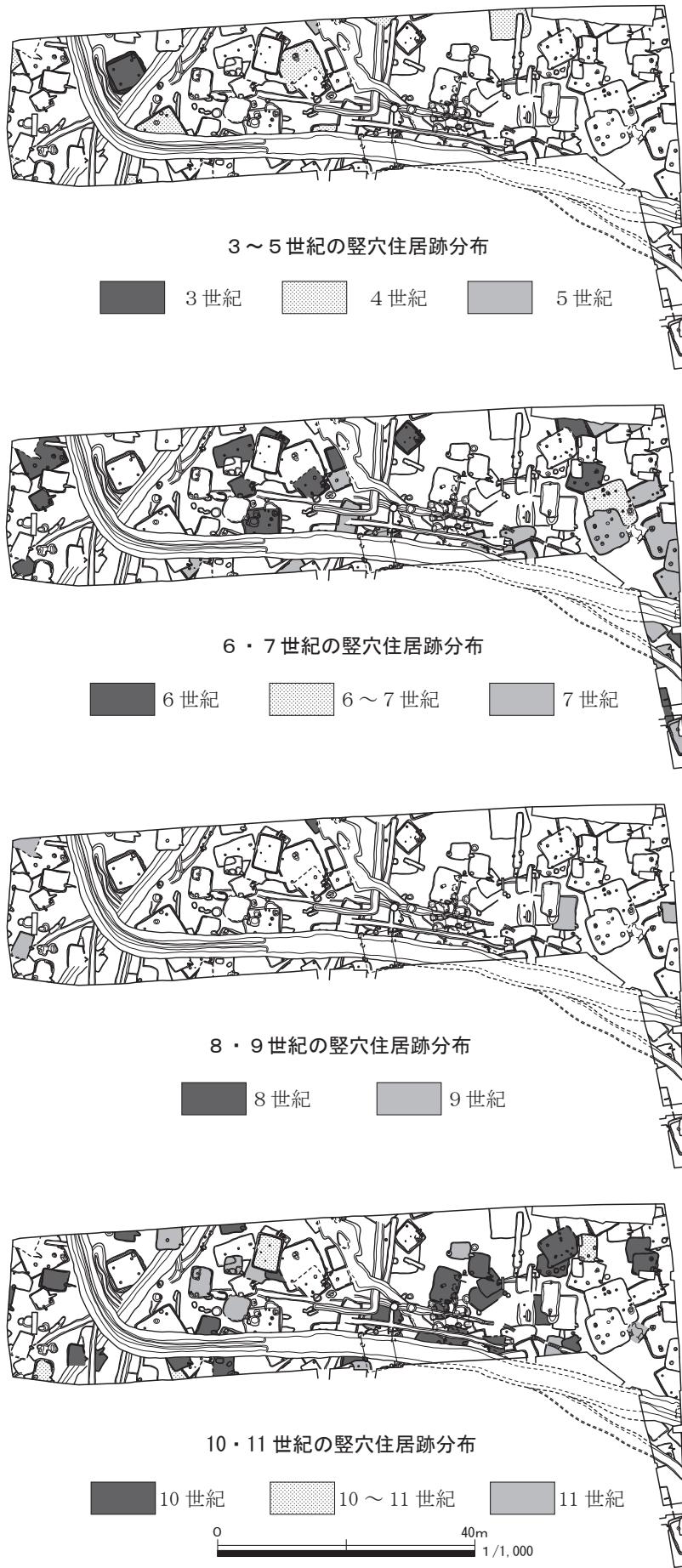


Fig. 82 時期別の住居跡分布

H-32号住居跡の1軒のみで、その他7軒の住居跡は畠であった土地に構築したものと考えられる。ここで注目したいのが、H-32号住居跡の埋没土内で確認された著しくA s-Cの一次堆積層に近い層（38層）である。同層は住居跡の壁面崩落により堆積したものと想定され、多少の黒褐色土が混入するものの、そのほとんどがA s-Cで占められている。さらに、A s-C自体に汚れが見られず、角を持つ状態（風化が見られない）であった。本遺跡内の遺構埋没土中で確認されるA s-Cの外面は、黒褐色土との混入により黒く汚れているものがほとんどで、さらに軽石の角は丸くなっている。軽石自体が黒く汚れ、角が丸くなる状態は、度重なる搅拌により起これうるものと言えよう。このため、H-32号住居跡のように住居跡の埋没土中に汚れていない軽石を持つものは、周堤帯下にA s-Cの一次堆積層が存在していた可能性が高い。一方、このような軽石が、埋没土中に層として見られない住居跡は、既に周堤帶の下は、搅拌された土であったと考えられよう。弥生時代後期から古墳時代前期において、A s-Cが搅拌される要因として考え易いのは、畠の耕作と想定するのが妥当であろう。なお、弥生時代後期と考えられるH-48号住居跡の埋没土中には汚れていないA s-Cが確認されていないことから、少なくとも弥生時代後期には、本遺跡地において畠の耕作が行われていたものと考えられる。

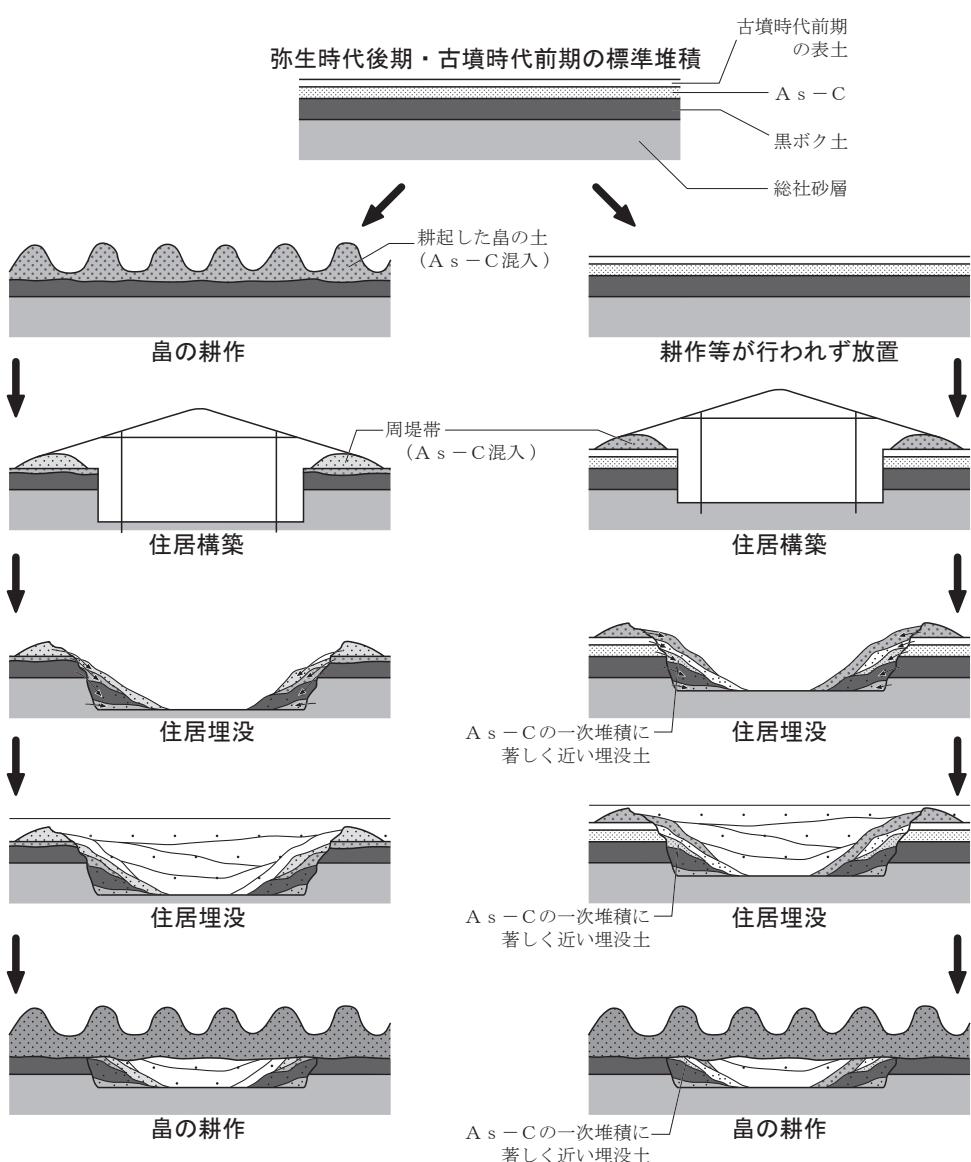


Fig. 83 弥生時代後期・古墳時代前期に見られる住居埋没パターン

## 2 古墳時代中期 (Fig. 82)

古墳時代中期の住居跡は、H - 34号住居跡の1軒のみとなっている。なお、本住居跡の詳細時期は5世紀後半と想定される。このため、本遺跡地には4世紀前半以降から5世紀後半に至るまでの間、集落は営まれないととなる。本遺跡周辺においても5世紀後半の住居跡は散見されるが、その数は他時期に比べると圧倒的に少ない。集落域の動向と比例して、生産域も減少傾向を辿るものと考えられる。

## 3 古墳時代後期 (Fig. 82)

古墳時代後期の住居跡は35軒を数える。このうち、6世紀前半の住居跡は2軒のみで古墳時代中期に引き続き少ない傾向にあると言える。このほか詳細な時期として、6世紀中葉の住居跡は7軒、6世紀後半が5軒、6世紀末～7世紀初頭が1軒、7世紀前半が11軒、7世紀中葉が5軒、7世紀後半が3軒となっている。このほか、古墳時代後期に属するものと想定されるが明確な時期が捉えられなかった住居跡が1軒認められている。このような状態から、本遺跡地における住居跡の分布状況は、6世紀中葉から増加の傾向を辿り、7世紀前半に最盛期を迎えると言えよう。そして、7世紀中葉から後半にかけて減少の傾向に向かうものと考えられる。

古墳時代後期の住居跡で特筆すべき点は、人為的に埋め戻されている住居跡が7世紀代に多い点が挙げられる。7世紀代における人為埋没の住居跡は11軒を数え、2軒に1軒は人為的に整地を目的として埋め戻されていることになる。また、焼失住居も3軒見られ、このうちの1軒（H - 98号住居跡）では、焼失による屋根の落盤後に埋め戻しを行っている状態が捉えられている。焼失住居も人為的な出火と考えると、約65%の住居跡が整地を目的として壊されたものと想定されよう。このように、人為的な埋没が目立つ状態は通常とは考え難いものである。本遺跡地において7世紀代という時期は、上野国府造営以前にはなるものの、何らかの国家的な権力が本遺跡周辺に及んでいた可能性が高いものと考えられよう。

生産域に関しては、明確な遺構を確認することはできなかつたが、弥生時代後期のH - 48号住居跡・古墳時代前期のH - 69号住居跡の埋没土上位で搅拌されたH r - F Aがブロック状に確認されている。このように、住居跡内にH r - F Aブロックが良好に残存する状態は、他の遺構からは確認されていない。さらに、H r - F Aの一次堆積は、残存するH r - F Aブロックから少なくとも10cm以上堆積していたものと想定されるが、本遺跡内では確認されていない。これは、A s - C降下後の搅拌と同様で、H r - F A降下後にも畠耕作による搅拌が連続と行われていたことを示すものと言える。また、住居跡内でH r - F Aブロックが良好な状態で確認される状態から、H r - F A降下時に住居跡は埋まりきっておらず、大きな窪みであったことが想像できる。窪み内に堆積したH r - F Aは、低い位置にあることから、後世の搅拌を何度も受けることがなかつたために残存したのであろう。なお、先述した通り、7世紀代に入ると本遺跡内では意図的な住居跡の埋め戻しが行われる。おそらく当時の地表面を畠の耕作とは別の理由で平坦にする必要があつたのであろう。このため、H - 48・69号住居跡内のH r - F Aの搅拌は地面を平坦な整地面として使用する7世紀以降に行われた可能性は低く、H r - F A降下後から7世紀に入る以前に行われた可能性が高いことから、6世紀代の搅拌と考えられよう。

## 4 奈良時代 (Fig. 82)

奈良時代の住居跡は、H - 34号住居跡の1軒のみで、8世紀前半にあたる。本住居跡構築後、9世紀第3四半期に至るまでの間は、堅穴住居跡の確認はなされておらず、一般的な集落としては空白の期間を迎えることと言える。本遺跡地の奈良時代を考えるにおいて、当該期の集落が見られない状況は、上野国府の開発範囲に含まれていた可能性を後押しするものである。

本遺跡内における国府関連と想定される遺構としては、B - 1・2号掘立柱建物跡が挙げられる。両遺構からの遺物出土は見られなかつたため、明確な時期を捉えるには至らなかつたが、B - 1号掘立柱建物跡は、7世紀

後後に比定されるH - 96号住居跡より新しく、10世紀後半のH - 95号住居跡より古いものである。また、B - 2号掘立柱建物跡は、10世紀前半のH - 77・92号住居跡よりも古いものである。これらの柱穴は、平面隅丸方形状を呈し、8世紀代の郡衙などで確認される柱穴形状に近似するものと言える。B - 1・2号掘立柱建物跡は重複する遺構との切り合い関係や柱穴が示す平面形状等から、断定こそできないものの国府関連の遺構である可能性が非常に高いものと考えられよう。推測からの上乗せとなるが、両掘立柱建物跡が国府関連遺構であれば、本遺跡地は当然国府の管轄内に入るため、一般的な人々の住処とされる竪穴住居跡が作られないのは当然であると言えよう。

## 5 平安時代 (Fig. 82)

平安時代の住居跡は35軒の確認となっている。これらの住居跡のほとんどは10世紀前半から11世紀前半に帰属するもので、この期間以外に該当する9世紀代・11世紀後半以降の住居跡は極めて少ない傾向にある。

竪穴住居跡の分布において、8世紀前半以降の空白期に終止符を打つのは9世紀第3四半期と想定されるH - 78号住居跡である。9世紀第3四半期の住居跡はH - 78号住居跡の1軒のみで、その他で確認されている9世紀代の住居跡は第4四半期（3軒確認されている）に比定されるものである。このような状況から、本遺跡地が再び一般的な集落の様相を示し始めるのは9世紀第3四半期からと考えられるが、やや疑問が残る。H - 78号住居跡の出土遺物を見ると、黒窯90号窯ないし光ヶ丘1号窯によるものと考えられる良質な灰釉陶器が存在する。また、その他の遺物は、焼成が良好な須恵器のみとなっており、一般的な竪穴住居跡より出土する遺物とは様相を異としているように思われる。これに対し、9世紀第4四半期の住居跡（H - 44・50号住居跡）からは、須恵器の壊のほかコの字甕（土師器甕）などの遺物の共伴が見られ、一般的な住居跡で見られるセット関係が確認されている。このように9世紀第3四半期と第4四半期の住居跡内に残された遺物の組成には隔たりが見られ、明確に本遺跡地が一般的な集落へと変容を遂げるのは9世紀第4四半期からと考えられよう。

9世紀第4四半期以降の本遺跡地は、竪穴住居跡の数は増加し10世紀後半に最盛期を迎える。11世紀前半からは竪穴住居跡の数は減少の傾向に向かい、12世紀代には完全に姿を消すこととなる。

生産域については本遺跡で捉えることはできなかったが、周辺遺跡である元総社北川遺跡では、A s - B降下以降の水田及び畠が確認されている。本遺跡は微高地上にあたるため、元総社北川遺跡と同様に畠の耕作が行われていたことが想像される。本遺跡と元総社北川遺跡との大きな違いとして、牛池川を挟んでいることが挙げられ、本遺跡が立地する牛池川右岸には中世の段階に蒼海城が構築されることとなる。このため、本遺跡は15世紀前半と考えられるW - 2号溝やT - 1号竪穴状遺構が示すとおり、平安時代以降に蒼海城の開発が進められる場所とも言える。畠のように地表面の浅い部分のみに痕跡が残る遺構は、蒼海城構築にあたる事業により壊されてしまった可能性も考えられよう。

## 6 おわりに

元総社周辺は、古くから上野国府が存在していた場所として周知の地域である。しかしながら、現在に至るまで明確な国府の痕跡を捉えられていないのが現状である。おそらく、後世の蒼海城が、国府の地割を利用して構築されたため、痕跡のほとんどを壊してしまったためと考えられる。

今回、本遺跡における竪穴住居跡の時期別分布を試みたところ、8・9世紀代の分布に空白が生じていることがわかった。このような状況は、本遺跡のみではなく、近隣の遺跡においても同様といえる。

国府の存在が蒼海城の開発により不明瞭である以上、国府の効力により生じる一般集落の空白分布を検証していくことで、国府中心域を捉えていけるものと考えられよう。

---

写 真 図 版

---



遺跡遠景（南西から）



遺跡全景（上が北）

P L. 2



H-31号住居跡全景（西から）



H-32号住居跡全景（南東から）



H-32号住居跡炉跡全景（南東から）



H-32号住居跡出入口施設検出状態（南東から）



H-34号住居跡全景（南西から）



H-35号住居跡全景（南西から）



H-35号住居跡カマド全景（南西から）



H-36号住居跡全景（南から）



H -37 号住居跡全景 (南西から)



H -37 号住居跡カマド全景 (南西から)



H -37 号住居跡カマド遺物出土状態 (南西から)



H -38 号住居跡全景 (南西から)



H -38 号住居跡カマド全景 (南西から)



H -38 号住居跡カマド遺物出土状態 (南西から)



H -39 号住居跡全景 (北から)



H -39 号住居跡カマド全景 (北西から)



H -40 号住居跡全景（西から）



H -40 号住居跡カマド全景（西から）



H -41 号住居跡全景（南西から）



H -41 号住居跡カマド全景（南西から）



H -41 号住居跡土葺き屋根焼失状態（北西から）



H -42 号住居跡全景（西から）



H -42 号住居跡カマド全景（西から）



H -42 号住居跡カマド遺物出土状態（西から）



H -43 号住居跡全景（南西から）



H -43 号住居跡カマド全景（南西から）



H -44 号住居跡全景（北西から）



H -44 号住居跡カマド全景（北西から）



H -45 号住居跡全景（西から）



H -45 号住居跡カマド全景（西から）



H -46 号住居跡全景（西から）



H -46 号住居跡カマド全景（北西から）

P L. 6



H -47 号住居跡全景（西から）



H -47 号住居跡カマド全景（北西から）



H -48 号住居跡全景（北西から）



H -49 号住居跡全景（北東から）



H -50 号住居跡カマド全景（西から）



H -50 号住居跡土層断面（北から）



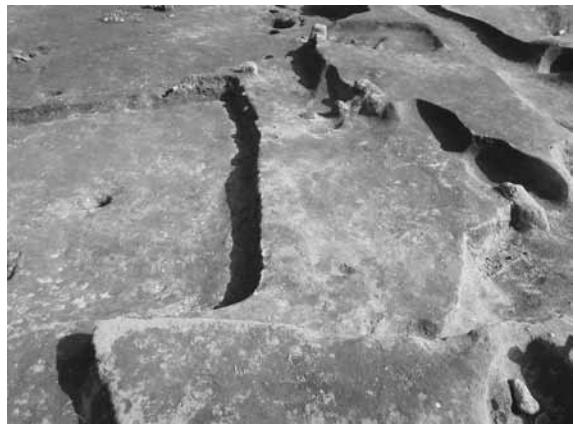
H -51 号住居跡全景（南西から）



H -52 号住居跡全景（南西から）



H-52号住居跡カマド全景（南西から）



H-53・67号住居跡全景（西から）



H-53号住居跡カマド全景（西から）



H-54号住居跡全景（南から）



H-55号住居跡全景（西から）



H-55号住居跡カマド全景（北西から）



H-56号住居跡全景（南西から）



H-56号住居跡カマド全景（南西から）



H -59 号住居跡全景（西から）



H -59 号住居跡カマド全景（北西から）



H -60 号住居跡全景（西から）



H -60 号住居跡カマド全景（西から）



H -61 号住居跡全景（南から）



H -62 号住居跡土層断面（北から）



H -63 号住居跡全景（西から）



H -63 号住居跡カマド全景（北西から）



H-64号住居跡全景（北西から）



H-64号住居跡カマド全景（北西から）



H-65号住居跡全景（南から）



H-65号住居跡カマド全景（南から）



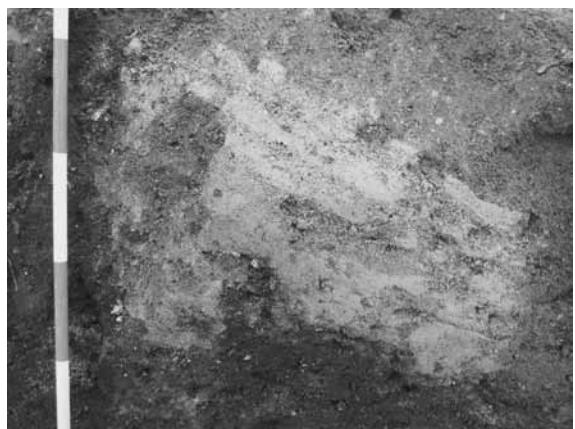
H-69号住居跡全景（南東から）



H-69号住居跡炉跡全景（南東から）



H-69号住居跡遺物出土状態（西から）



H-69号住居跡Hr-FAユニット確認状態近景（南から）



H-70号住居跡土層断面（北から）



H-73号住居跡全景（西から）



H-73号住居跡カマド全景（北西から）



H-79号住居跡全景（南東から）



H-80号住居跡全景（西から）



H-81号住居跡全景（西から）



H-81号住居跡カマド全景（西から）



H-82号住居跡全景（南東から）



H-83号住居跡全景（北西から）



H-83号住居跡カマド全景（北西から）



H-84号住居跡全景（北西から）



H-85号住居跡全景（北東から）



H-87号住居跡全景（南から）



W-2号溝検出状態（東から）



W-2号溝全景（南から）



W-2号溝土層断面（南から）



W-17号溝遺物出土状態（北東から）



W-17号溝検出状態（南西から）



W-17号溝土層断面（南西から）



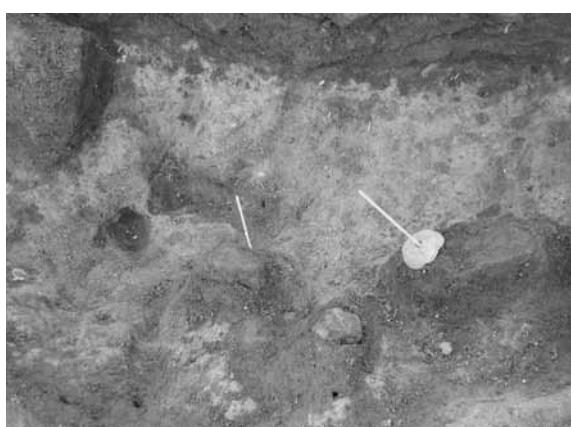
D-15号土坑遺物出土状態（北東から）



D-15号土坑遺物出土状態近景（北東から）



D-25号土坑土層断面（西から）



D-25号土坑遺物出土状態（西から）



D -28号土坑全景（北から）



T - 3号竪穴状遺構全景（西から）



T - 4号竪穴状遺構全景（南西から）



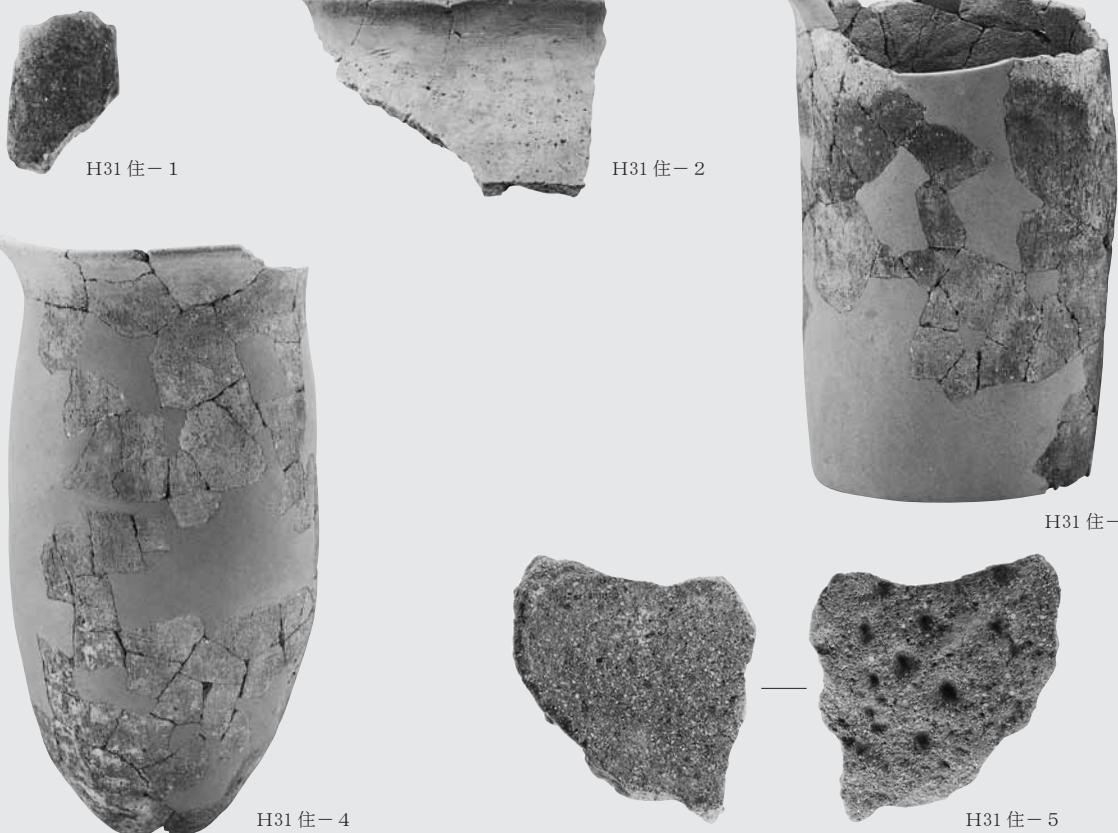
T - 5号竪穴状遺構全景（北西から）



遺跡全景（西から）

P L. 14

H-31号住居跡



H-32号住居跡



H-34号住居跡

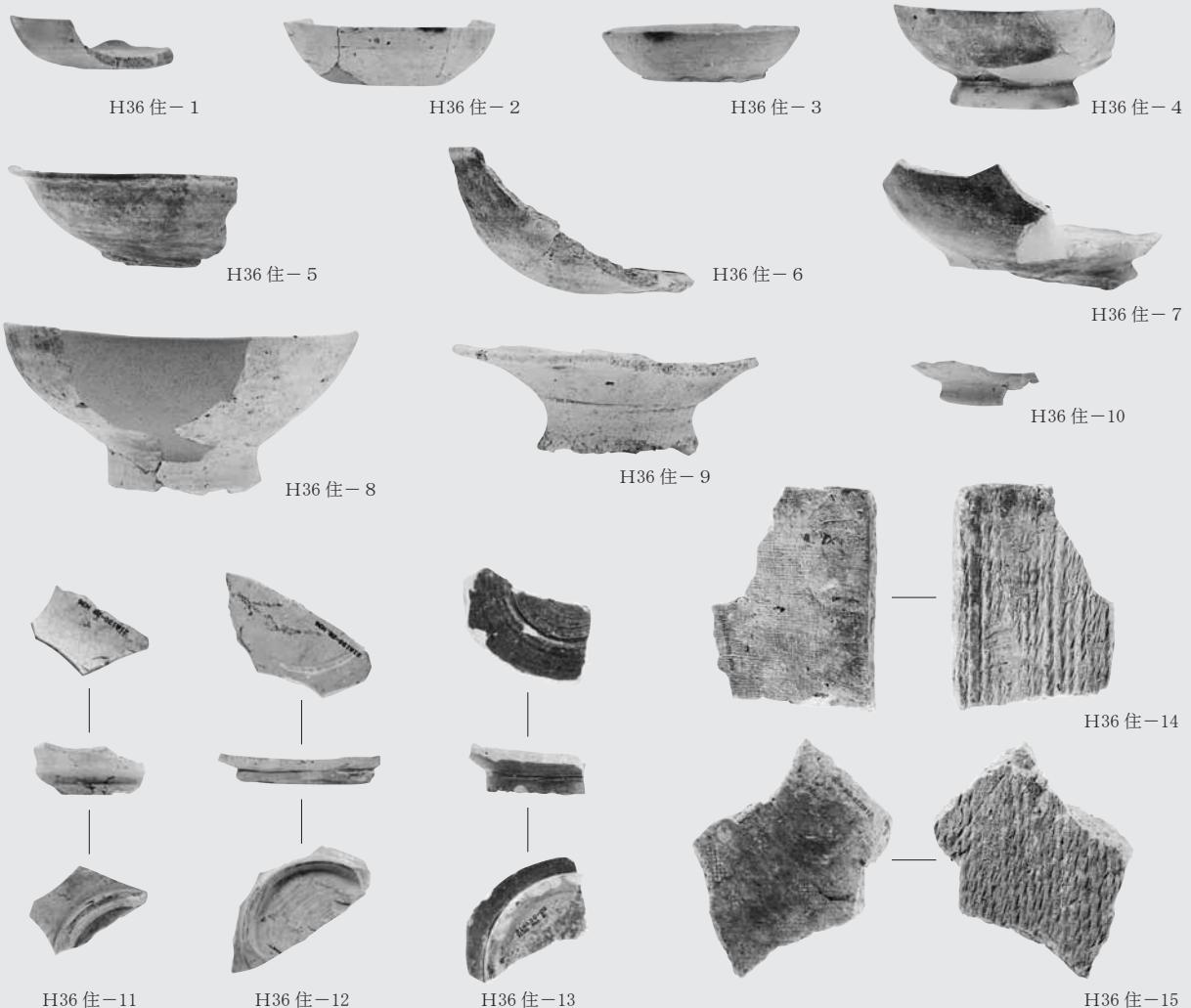


H-35号住居跡

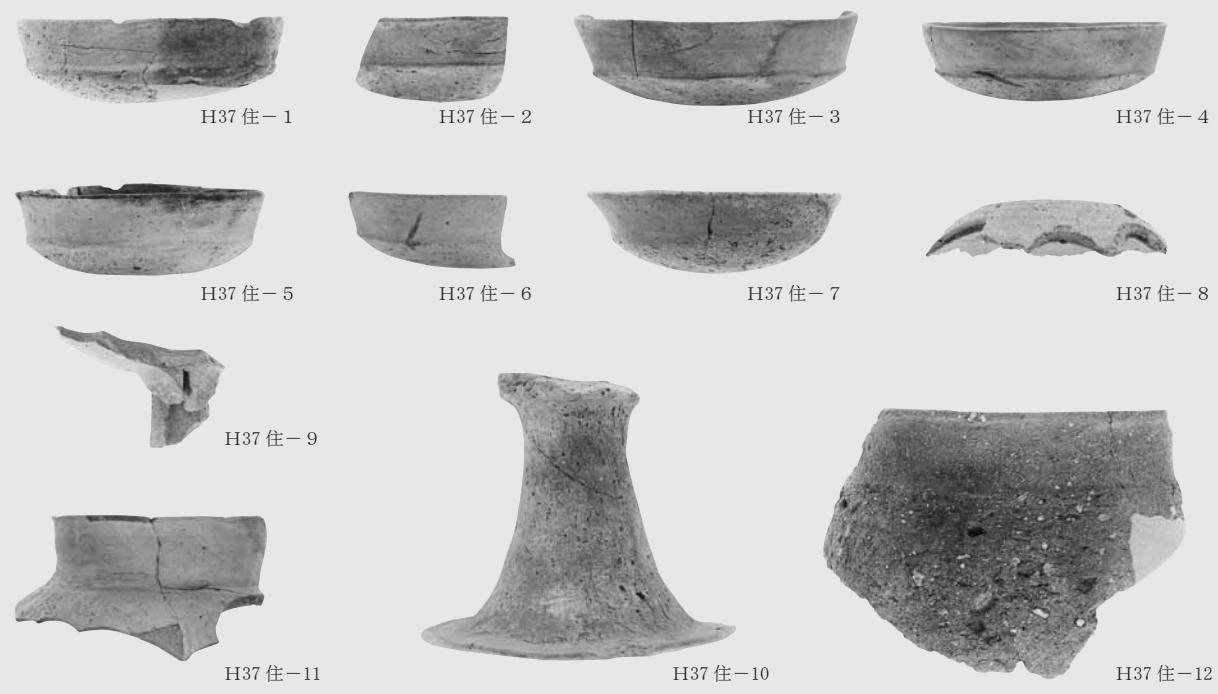


出土遺物①

## H-36号住居跡



## H-37号住居跡



出土遺物②

P L . 16

H-37 号住居跡



H37 住-13



H37 住-14



H37 住-15



H37 住-16



H37 住-17



H37 住-18

H-38 号住居跡



H38 住-1



H38 住-2



H38 住-3



H38 住-4



H38 住-6



H38 住-5



H38 住-8



H38 住-7



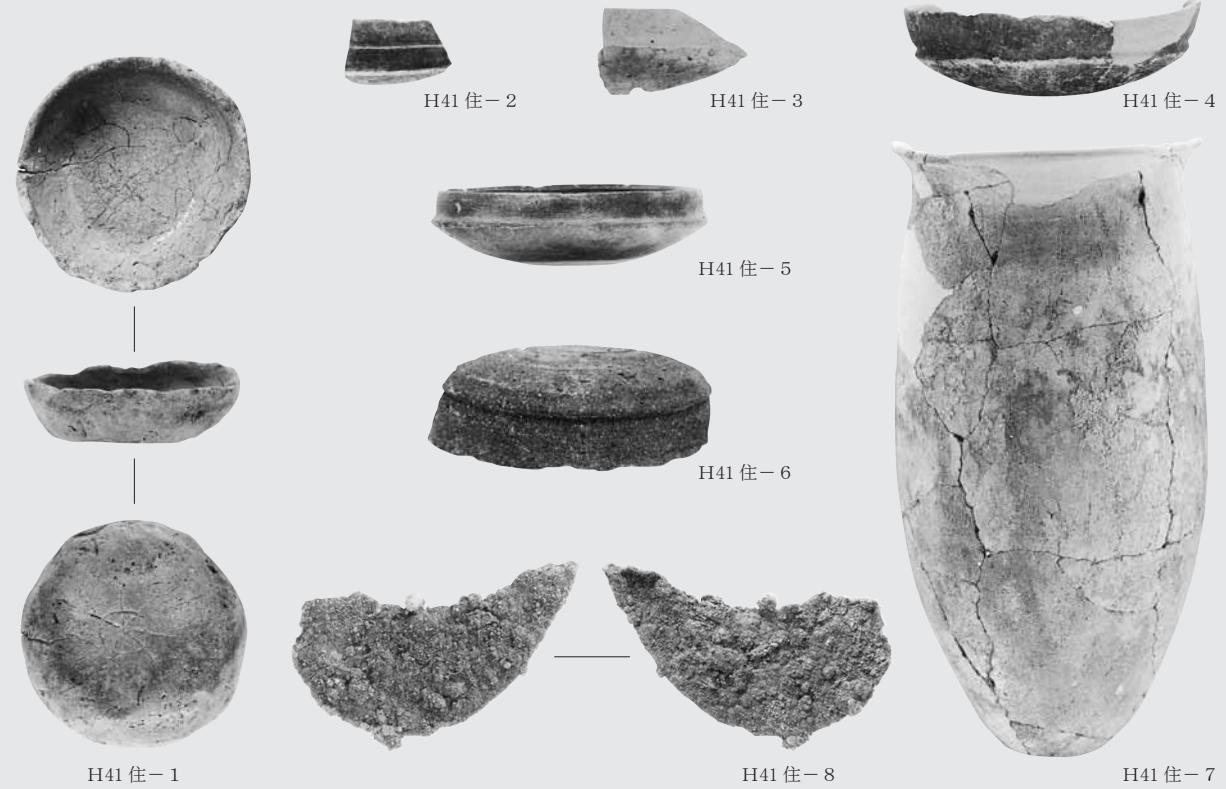
H38 住-9

出土遺物③

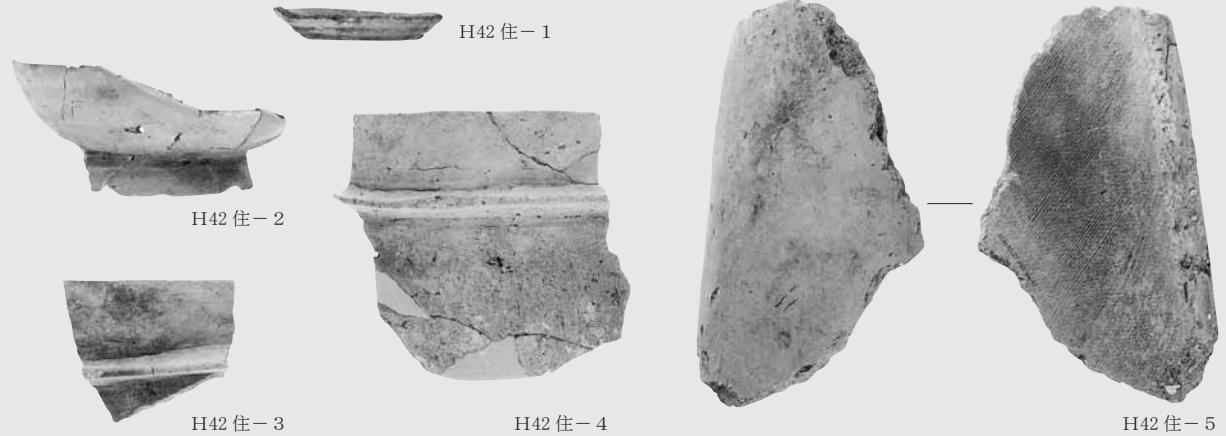
## H-40号住居跡



## H-41号住居跡

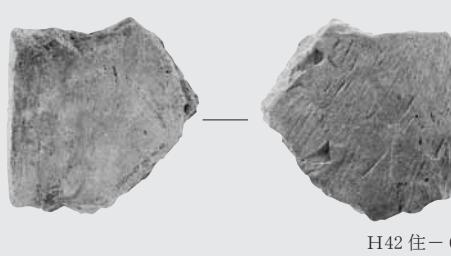


## H-42号住居跡

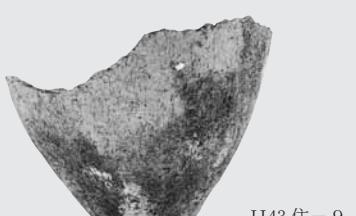


P L . 18

H-42 号住居跡



H-43 号住居跡

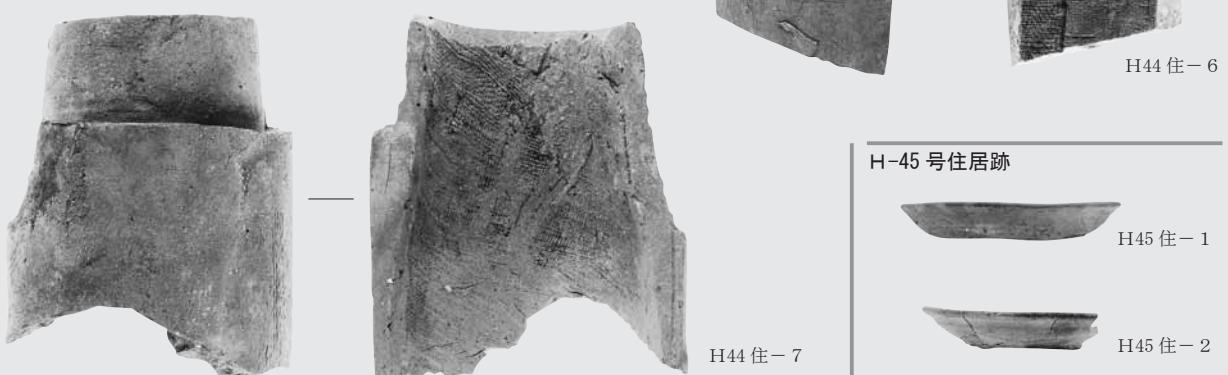


H-44 号住居跡

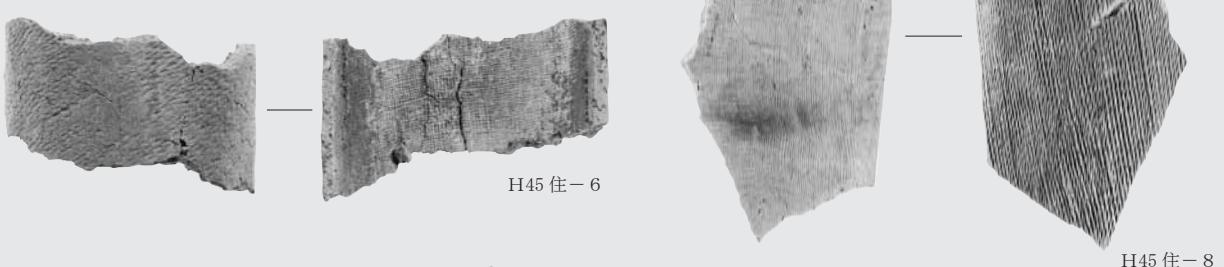


出土遺物⑤

H-44号住居跡



H-45号住居跡

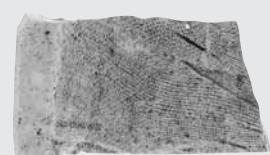


P L. 20

H-45号住居跡

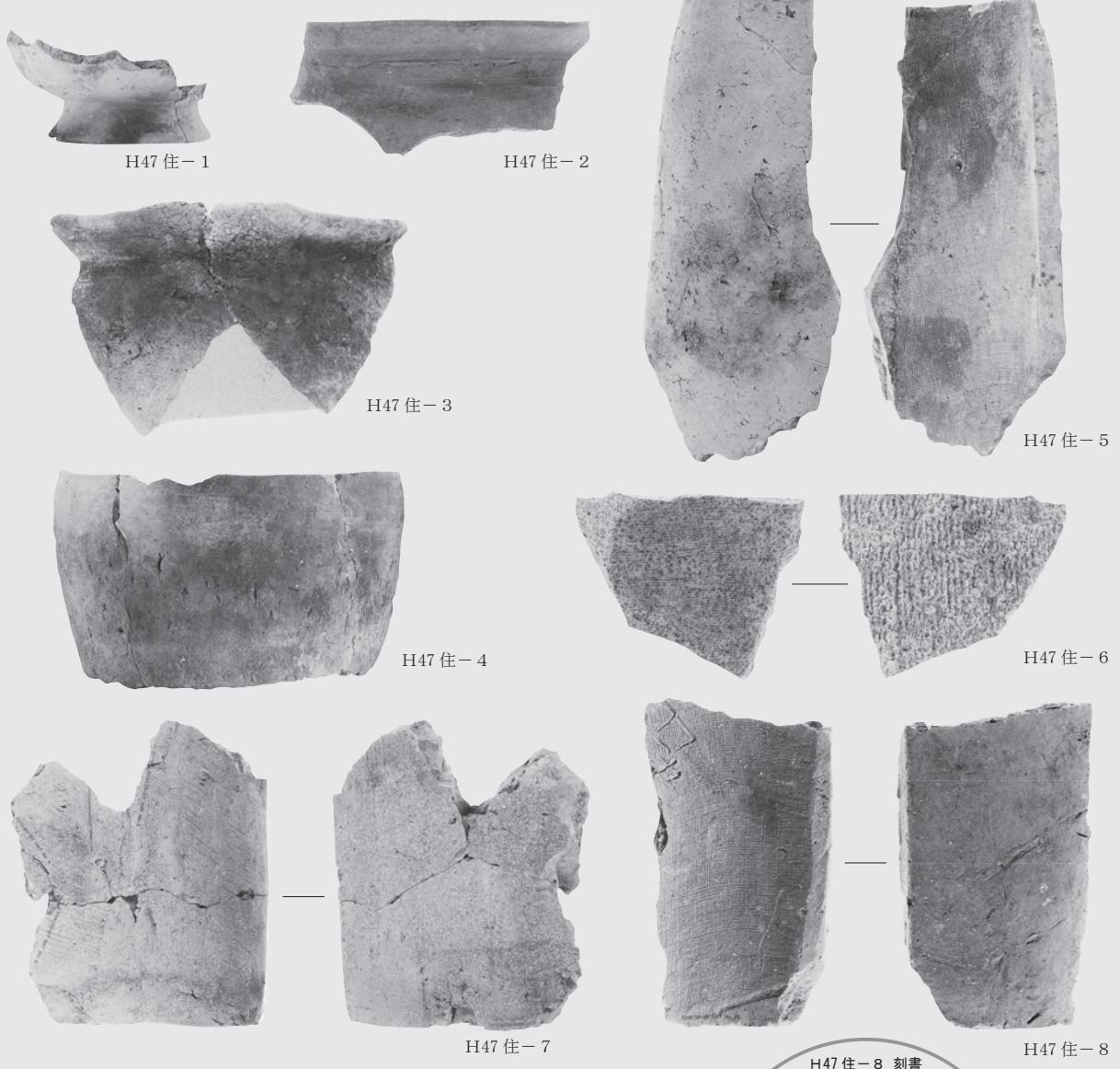


H-46号住居跡

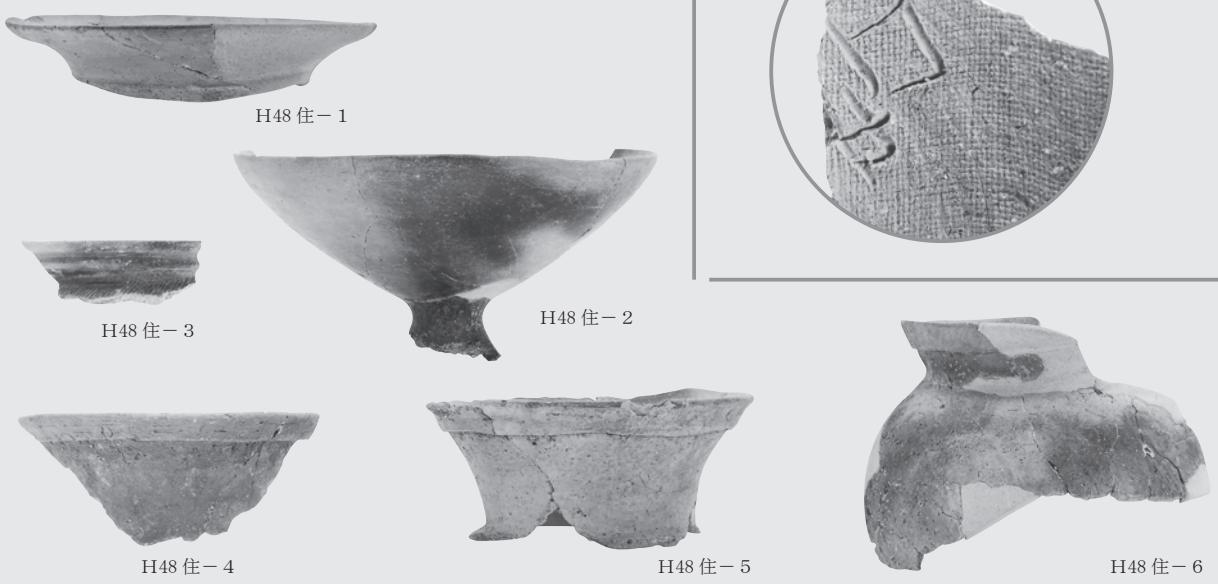


出土遺物⑦

## H-47号住居跡

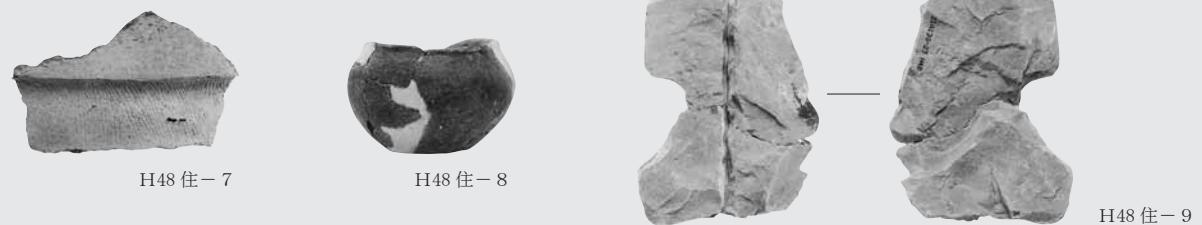


## H-48号住居跡



P L. 22

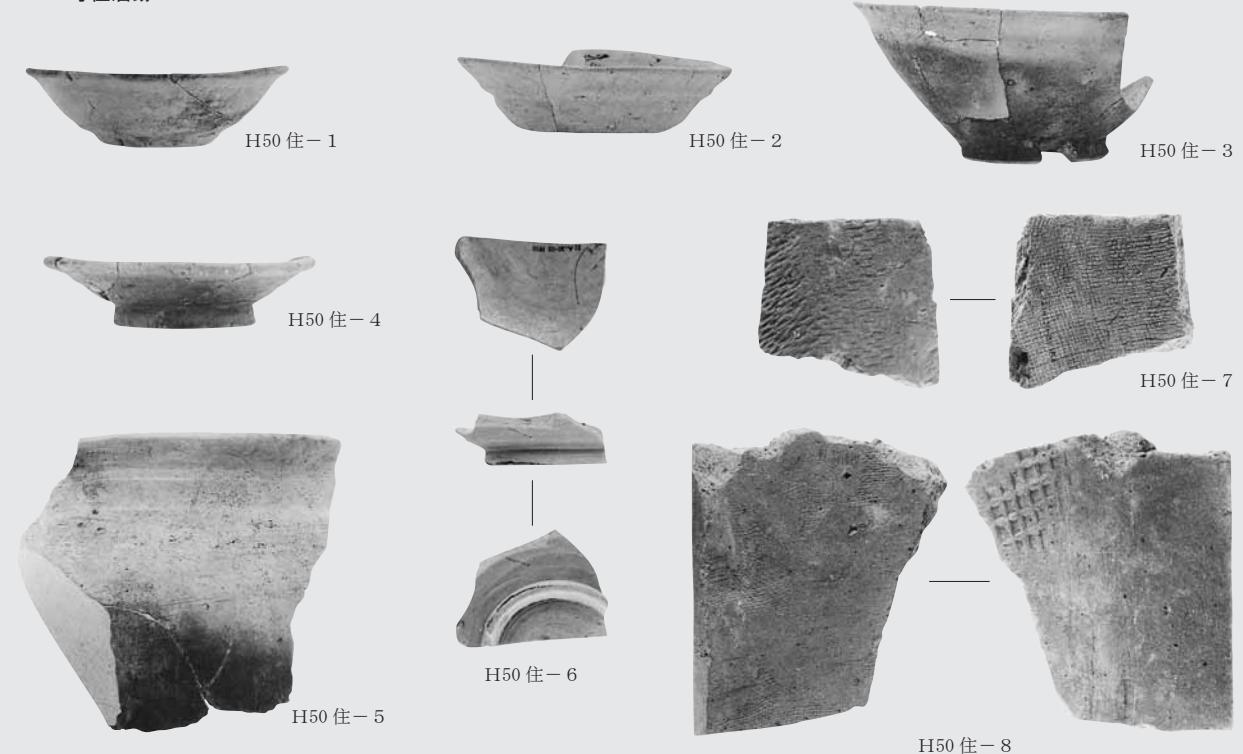
H-48号住居跡



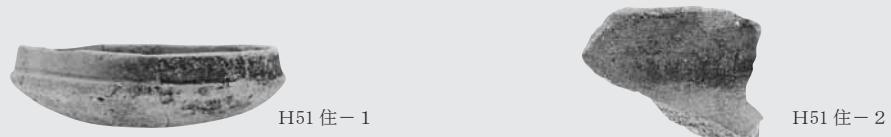
H-49号住居跡



H-50号住居跡



H-51号住居跡

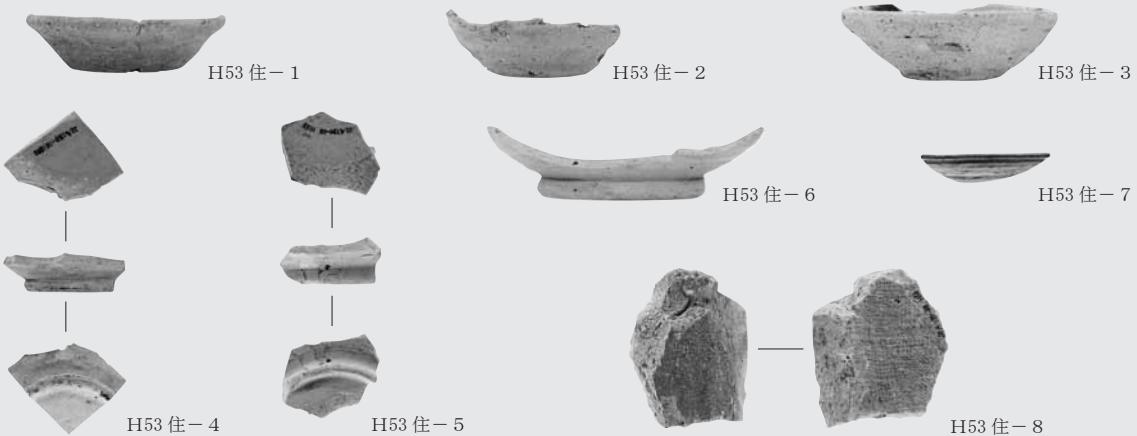


H-52号住居跡

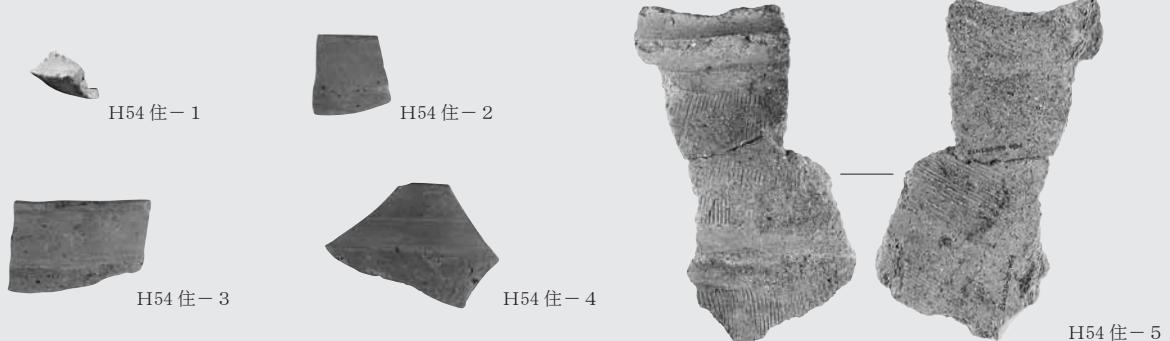


出土遺物⑨

## H-53号住居跡



## H-54号住居跡



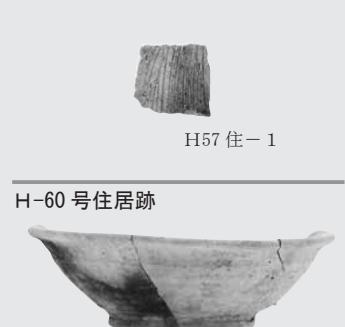
## H-55号住居跡



## H-56号住居跡



## H-57号住居跡



## H-60号住居跡



P L. 24

H-60号住居跡



H60 住 - 5



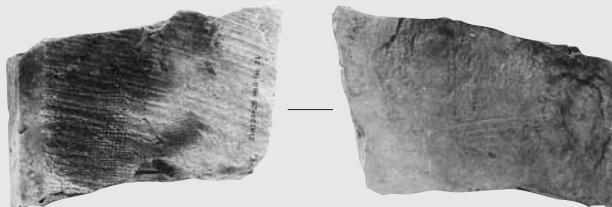
H60 住 - 6



H60 住 - 7



H60 住 - 8



H60 住 - 9

H-63号住居跡



H63 住 - 1



H63 住 - 2



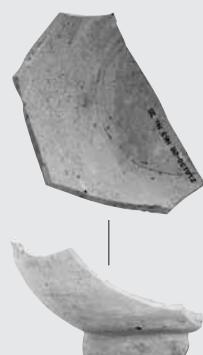
H63 住 - 3



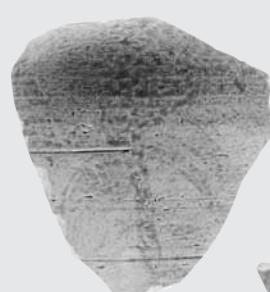
H63 住 - 4



H63 住 - 5



H63 住 - 6



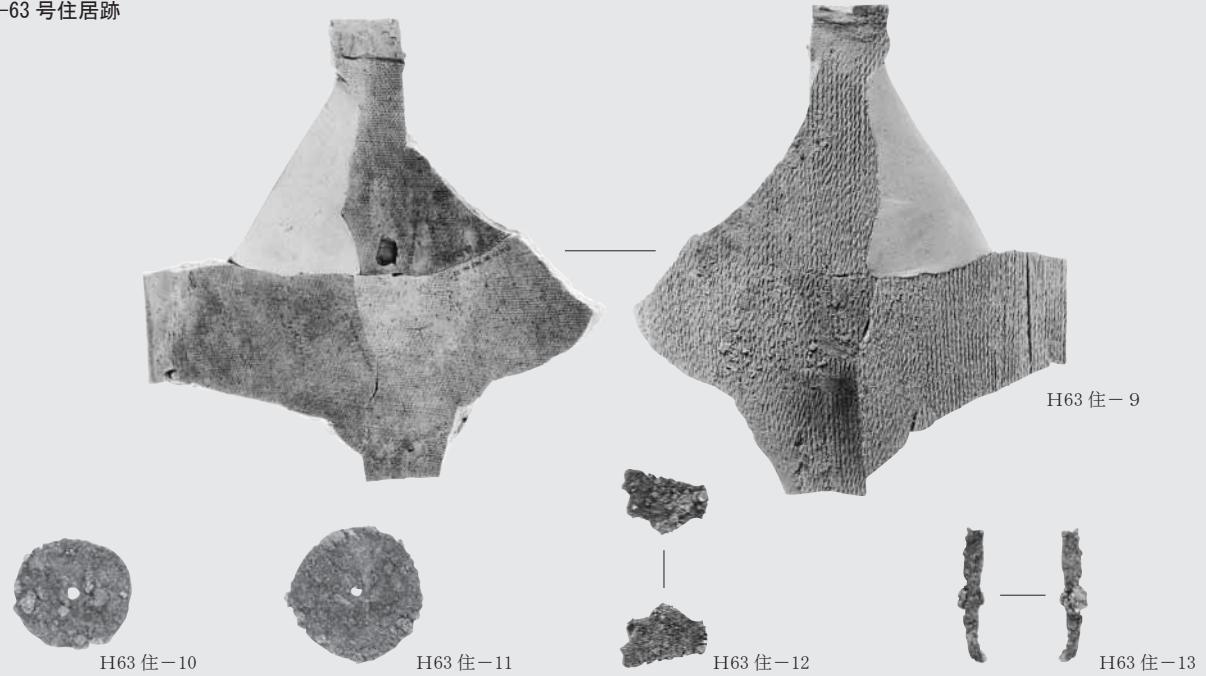
H63 住 - 7



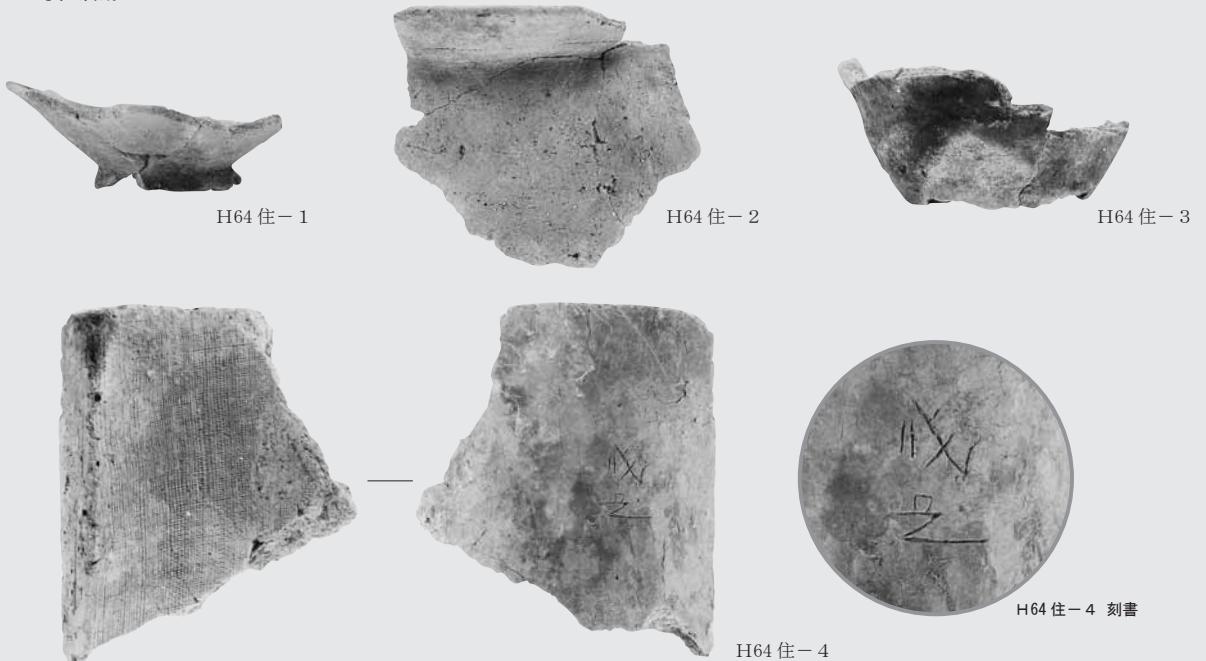
H63 住 - 8

出土遺物⑪

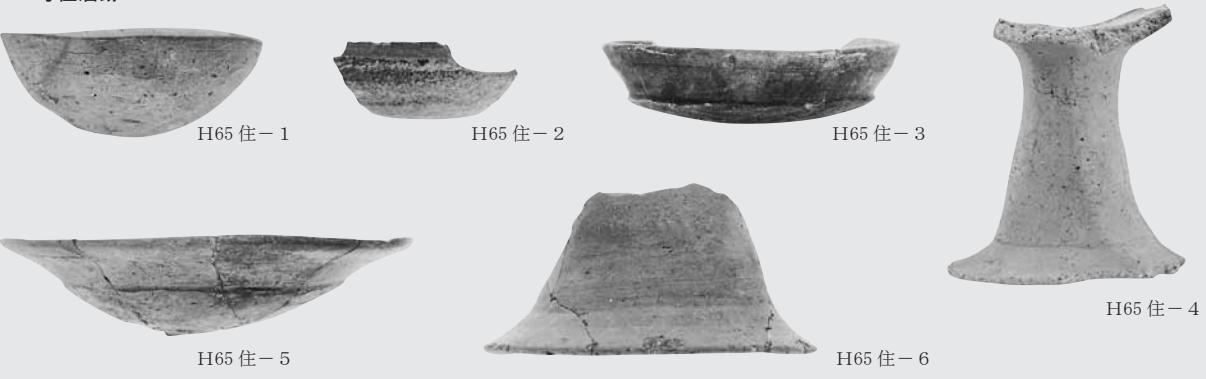
## H-63号住居跡



## H-64号住居跡



## H-65号住居跡



P L. 26

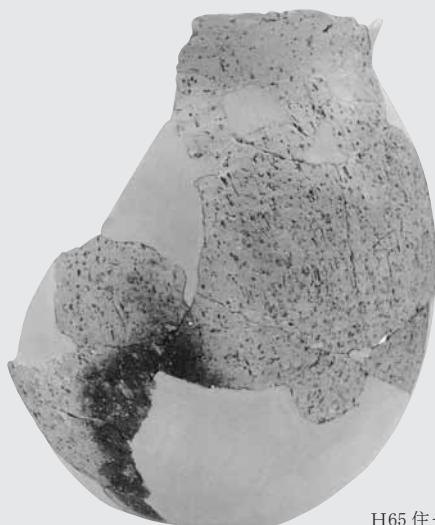
H-65号住居跡



H65 住 - 7



H65 住 - 8



H65 住 - 9

H-67号住居跡



H67 住 - 1



H67 住 - 2



H67 住 - 3



H67 住 - 4

H-69号住居跡



H69 住 - 1



H69 住 - 2



H69 住 - 3



H69 住 - 4



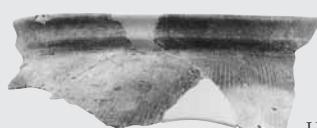
H69 住 - 5



H69 住 - 6



H69 住 - 7



H69 住 - 8



H69 住 - 9



H69 住 - 10

出土遺物⑬

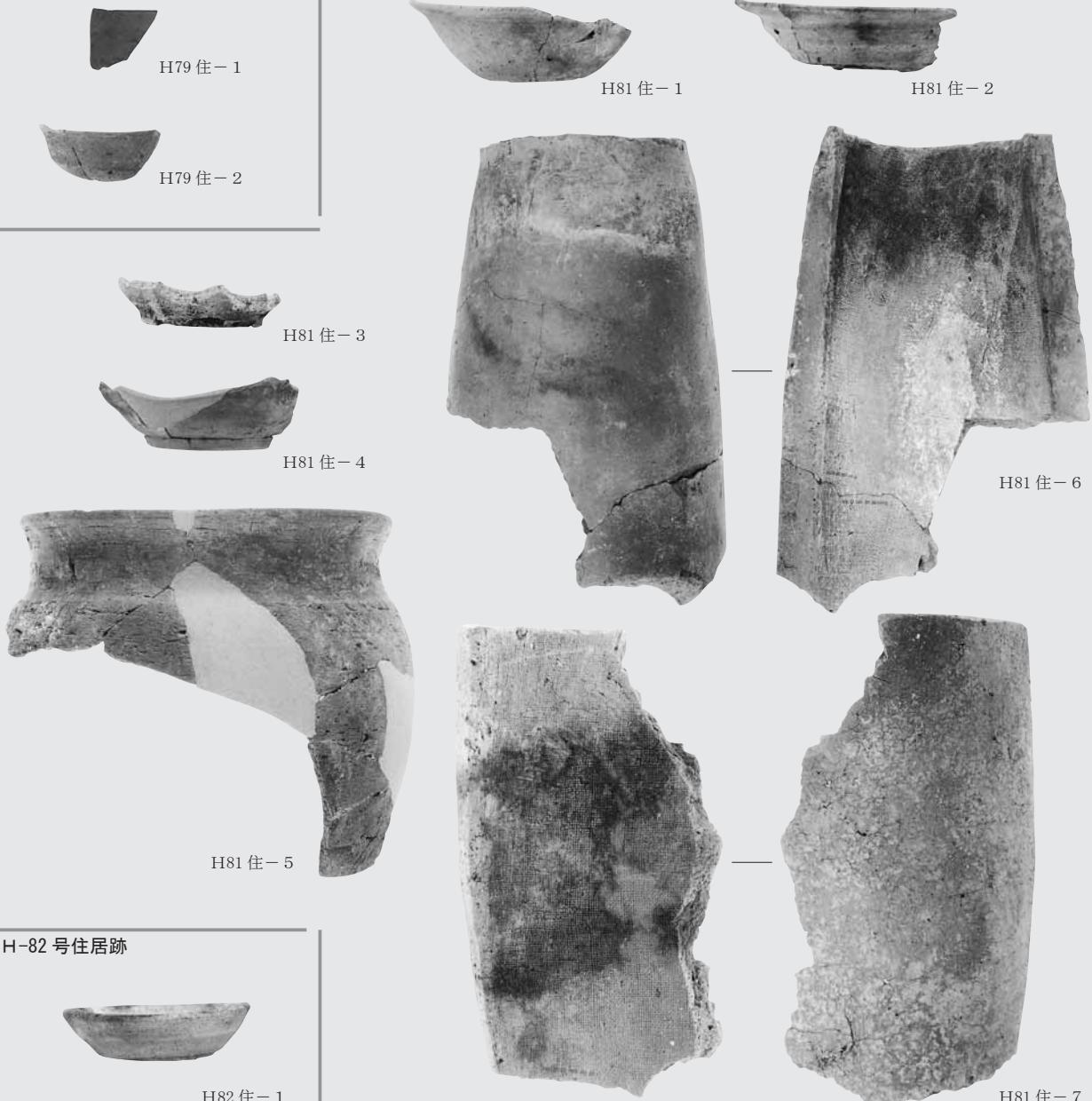
H-73号住居跡



H-79号住居跡

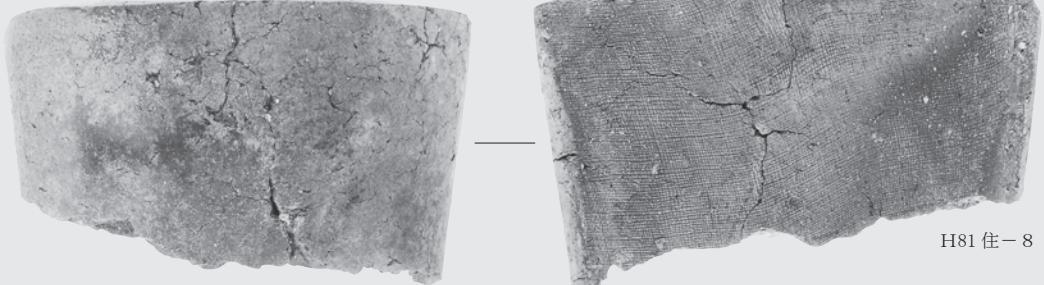


H-81号住居跡

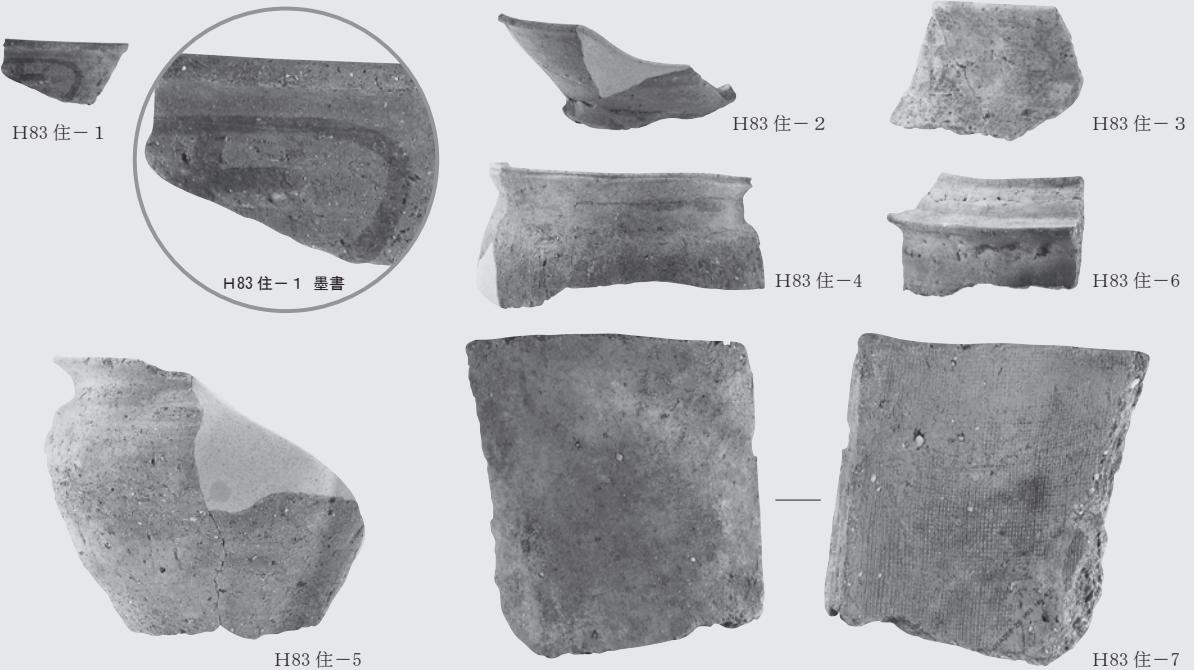


P L. 28

H-81号住居跡



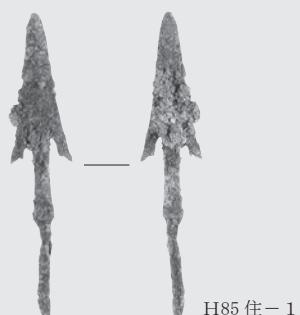
H-83号住居跡



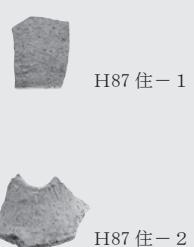
H-84号住居跡



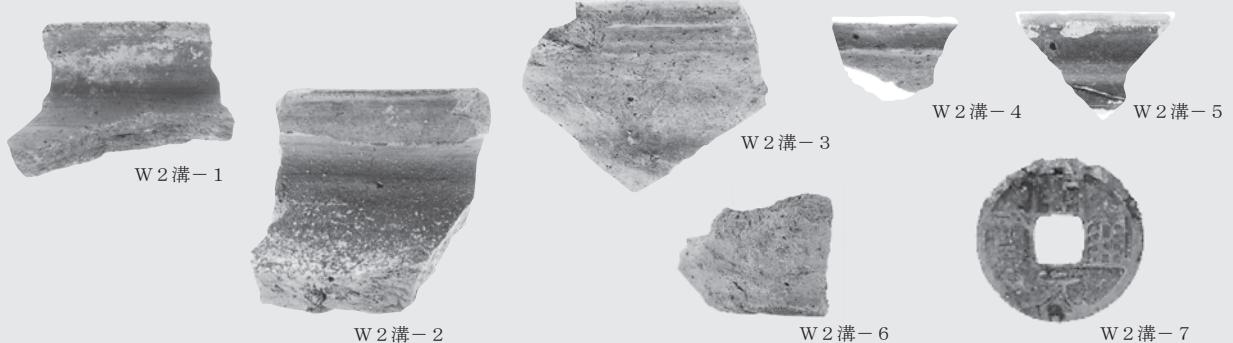
H-85号住居跡



H-87号住居跡



W-2号溝



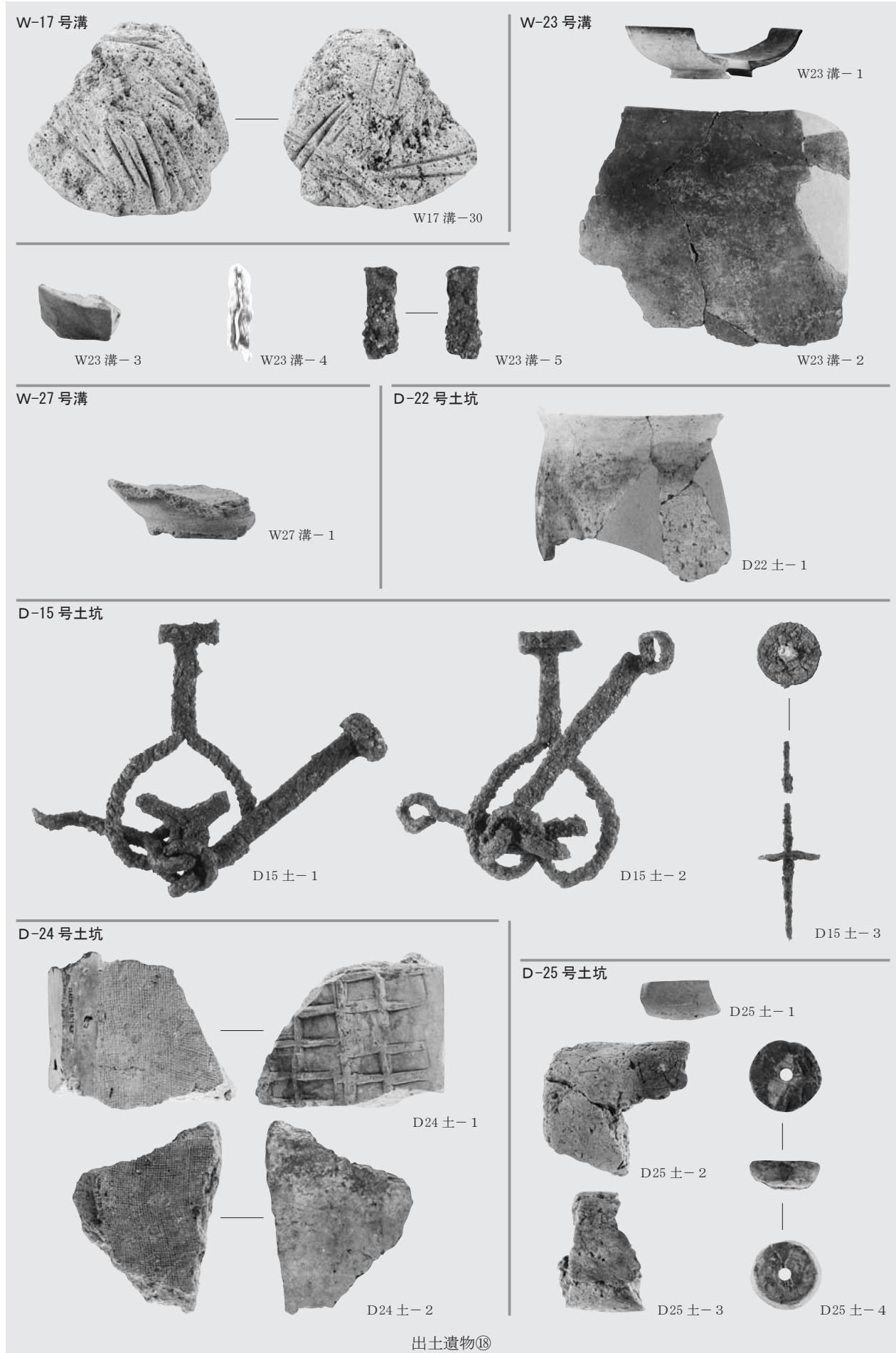
出土遺物⑯

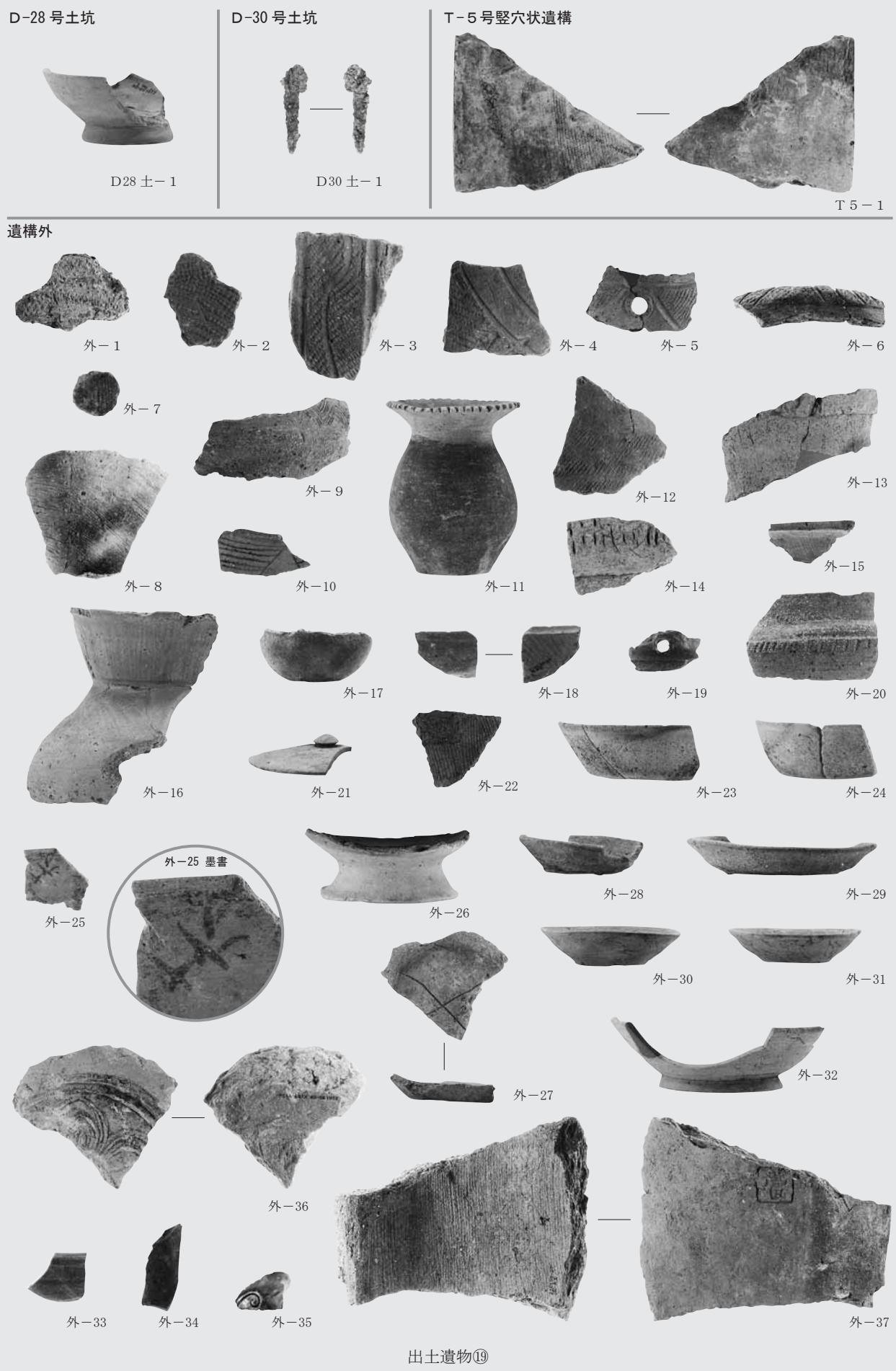


P L. 30

W-17 号溝



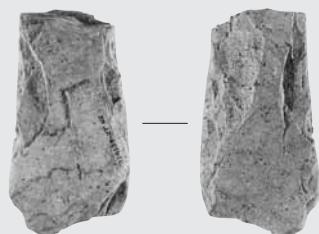




遺構外



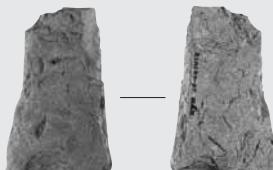
外-38



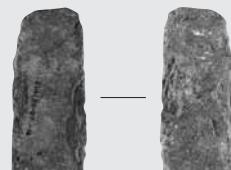
外-39



外-40



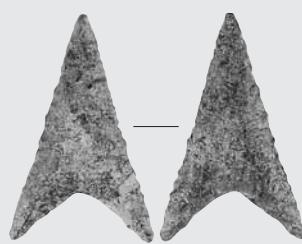
外-41



外-42



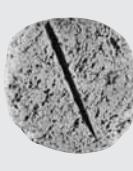
外-43



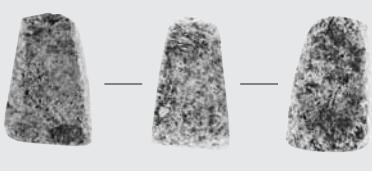
外-44



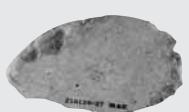
外-45



外-46



外-47



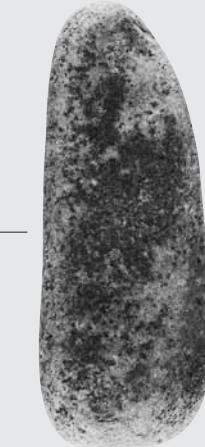
外-48



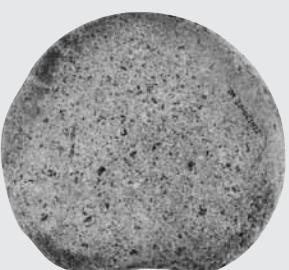
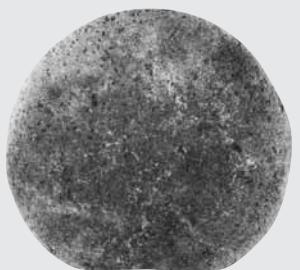
外-49



外-50



外-51



外-52

## 抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン 28
書名	元総社蒼海遺跡群 (28)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	神宮聰・小出拓磨・山本千春・柴田洋孝・日沖剛史
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2 Tel 027-231-9531
発行年月日	西暦 2010 年 3 月 12 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	(日本測地系)				
もとそうじゅおうみ 元総社蒼海 遺跡群 (28)	ぐんまけんまえばしし もとそう 群馬県前橋市元総 じやまち 社 町 1817- 1 番、 1814- 3 番、 1814- 4 番	10201	21 A 130-28	36° 23' 24"	139° 02' 08"	20091124 ～ 20100129	1,120	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
元総社蒼海 遺跡群 (28)	集落 蒼海城関連遺構	弥生 古墳 奈良 平安 中世	堅穴住居跡 溝 土坑 ピット 堅穴状遺構	47 軒 18 条 26 基 1 基 5 基	土師器 須恵器 灰釉陶器 綠釉陶器 鉄製品 石製模造品 常滑大甕 石製品 瓦	弥生時代後期 から平安時代の 集落を確認

### 元総社蒼海遺跡群 (28)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成 22 年 3 月 9 日印刷

平成 22 年 3 月 12 日発行

編 集／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

発 行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目 10-2

TEL 027-231-9531

印 刷／朝日印刷工業株式会社

---